

令和5年度
生活文化調査研究事業（香道）
報告書

文化庁 参事官（生活文化創造担当）

目 次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 序 本調査研究事業について | 1 |
| 1章 香道の歴史と現状について | 2 |
| 1節 日本における香道の歴史について | 2 |
| 1-1 香道の概要 | 2 |
| (1) 香道について | 2 |
| 香道とは | 2 |
| 供香、空薫、聞香 | 2 |
| 香席・香会の概要 | 3 |
| 香道における手前、稽古について | 5 |
| 担い手について | 5 |
| 1-2 香道の歴史 | 7 |
| (1) 香道前史 | 7 |
| 仏教と供香 | 7 |
| 薫物と空薫—奈良時代後期から平安時代 | 7 |
| 沈香受容の拡大—鎌倉時代から南北朝時代 | 7 |
| (2) 香道の黎明 | 8 |
| 中世史料に見る香の催し—室町時代 | 8 |
| 宮中での香会—組香の発展 | 9 |
| (3) 香道の形成 | 10 |
| 香木の分類判定基準の形成—安土桃山時代 | 10 |
| (4) 香道の発展 | 11 |
| 民衆への広がり—香道の展開 | 11 |
| 香道書・香道伝書の展開 | 12 |
| 教養書に見える香道に関する記述 | 12 |
| 明治時代以降の動き | 13 |
| 2節 香道の国内外における文化的、社会的位置付けや評価 | 14 |
| 2-1 現代社会における香道 | 14 |
| 香道の国内状況 | 14 |
| 香道関係者の評価 | 14 |
| 2-2 国民意識調査について | 15 |
| (1) 調査の概要 | 15 |
| ■調査設計 | 15 |
| ■調査結果を見る上での注意事項 | 16 |
| (2) 調査結果概要 | 17 |
| 1. 属性 | 17 |

| | |
|---------------------------------|-----|
| 2. 共通設問 | 20 |
| 3. 単純集計の結果について | 24 |
| (3) 調査結果に基づく分析と考察 | 48 |
| (4) 分析結果のまとめ | 72 |
| 2-3 海外からの評価と国際発信 | 74 |
| 海外から捉えた香道 | 74 |
| 香道の国際発信について | 74 |
| 2章 香道団体・香道教室の活動について | 76 |
| 1節 香道団体の活動について | 77 |
| 1-1 香道団体へのアンケート調査の実施概要 | 77 |
| 1-2 香道団体・流派へのアンケート調査の結果概要 | 78 |
| (1) 香道団体・流派の活動(直近3年)について | 78 |
| (2) 香道の継承について | 83 |
| (3) 新型コロナウイルス感染症の影響について | 91 |
| 1-3 まとめ | 93 |
| 団体の活動内容 | 93 |
| 香道の継承 | 93 |
| 新型コロナウイルス感染症の影響 | 95 |
| 2節 香道教室の活動について | 97 |
| 2-1 香道教室へのアンケート調査の実施概要 | 97 |
| 2-2 香道教室へのアンケート調査の結果概要 | 98 |
| (1) 教室の活動状況について | 98 |
| (2) 教室での指導について | 102 |
| (3) 教室の運営について | 105 |
| (4) 教室外との関わりについて | 107 |
| 2-3 まとめ | 109 |
| 教室の活動内容 | 109 |
| 教室の指導内容 | 109 |
| 教室の運営 | 110 |
| 結 本調査研究事業のまとめ | 111 |
| 参考資料 有識者(香道)及び有識者会議検討経過 | 117 |
| 参考資料 用具及び原材料の状況について | 120 |
| (1) 概要 | 120 |
| (2) 香道用具の流通 | 121 |
| (3) 香木の概要と流通 | 121 |
| (4) 課題 | 122 |
| 参考資料 国民意識調査調査票 | 125 |

| | |
|-----------------------------|-----|
| (1) 属性 | 125 |
| (2) フィルタリング・パート | 126 |
| (3) 分野設問 | 128 |
| (4) 共通設問 | 172 |
| 参考資料 香道団体・流派調査アンケート配布先..... | 176 |

序 本調査研究事業について

1. 本事業の目的

文化庁では、平成 27 年度以降、生活文化を把握するための調査研究事業等を継続的に実施している。令和元年度には、香道を含む生活分野に係る 8 分野について、各分野の全国的な団体に対するアンケート調査を実施し、活動状況及び各分野における課題等について把握を行った。翌令和 2 年度には、書道・茶道・華道の各分野について、分野ごとの歴史的変遷や社会的位置付け、各分野における無形の文化的所産に関する実態把握を目的とした調査を実施し、報告書を公表している。

本事業においては、香道をはじめとする 6 分野を対象として、令和 2 年度の調査内容に準ずる形で調査研究事業を実施し、各分野の詳細な実態把握を行うことを目的としている。

令和 3 年度には、歴史的変遷や社会的位置付けに関する学術論文等の調査を実施、翌令和 4 年度には、各分野に対する国民の興味関心等の意識を把握するインターネット調査を実施した。令和 5 年度の調査研究事業は、上述した令和 3 年度、4 年度の香道についての調査結果等を踏まえ、更に香道に関わる団体や教室のアンケート調査、香道の用具・原材料についての調査を行い、全体として取りまとめることで、生活文化の香道分野の保護・振興策の検討に資する基礎資料とすることを目的としている。

※文化芸術基本法（平成 13 年法律第 148 号）

第十二条 国は、生活文化（茶道，華道，書道，食文化その他の生活に係る文化をいう。）の振興を図るとともに、国民娯楽（囲碁，将棋その他の国民的娯楽をいう。）並びに出版物及びレコード等の普及を図るため、これらに関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

2. 本事業の概要

本事業は、香道がおかれている現状等について詳細な実態把握を行うため、

- ・香道の成立、変遷を把握するための文献調査
- ・香道への興味関心等に関する国民意識調査
- ・香道の団体・流派へのアンケート調査
- ・香道教室へのアンケート調査
- ・香道用具・原材料に関する製造業者等へのヒアリング調査

を行い、計 8 回の有識者会議を経て、受託事業者から提出された調査結果を元に、必要に応じて加筆・修正を加え報告書として取りまとめた。

なお、今回の調査では、香道用具・原材料に関する調査が十分に行えず、網羅的な調査にならなかったことから、これらの調査結果の分析については参考資料への掲載にとどめた。

1章 香道の歴史と現状について

1節 日本における香道の歴史について

1-1 香道の概要

(1) 香道について

香道とは

香道は、古典的な^{たきもの}薫や、^{じんこう}沈香・^{びやくだん}白檀などの香木¹を一定の作法に従って^た炷き、その香りを鑑賞する日本の伝統的な生活文化である。

仏前への供香が宮廷を中心とする上流貴族の生活にも浸透していき、平安時代には中国の調合香を和風化した薫が流行した。中世に入ると、香木そのものを焚くことが武家の間でも盛んになった。そして、室町時代中期以降、宮中及び公家文化と武家文化、町衆（庶民）文化の交流・融合の中で、香を觀賞する様式が次第に形成され、中国の禅林文化に加え、和歌や連歌など文芸の主題や形式（寄合の様式）にも影響を受けて発展した。

今日の香道は、数種類の香木を組み合わせる構成し、その香りの違いを聞き分ける「^{くみこう}組香」が中心となっている。組香では、香木を炷いて香りの相違を聞き分け、当たりはずれを競う一種の遊戯的な側面を伴いつつ、結果を競うことが目的ではなく、参加者が共に香りを^{しょうがん}賞翫し、香りによって表現された主題の鑑賞を深めることを主眼とする。

供香、空薫、聞香

香の用法は「^{そなえこう}供香」、「^{そらだき}空薫（「^{そらだきもの}空薫物」「^{くうこう}空香）」、「^{もんこう・ぶんこう}聞香（「^{がんこう}玩香」「^{がんこう}翫香）」に大別される。

香は日本に仏教とともに中国から伝来したと言われる。「供香」とは、仏前等に香を炷いて供えることを指す。現在でも、香道流派の家元等によって、仏前や神前において香を炷き、その香りが献じられる行事（^{けんこう}献香）が行われている。

「空薫」（「^{そらだきもの}空薫物」「^{くうこう}空香」）は、香木や数種の香料の粉末に^{あまづら}蜂蜜や甘葛などを煉り合わせて丸菓状にした^{ねりこう}煉香である^{たきもの}薫物（空薫物）を炷くことで、空間や衣類などに香りを移すことを指す。

「聞香」（「^{がんこう}玩香」「^{がんこう}翫香」）とは、香を炷きその香りを賞翫することを指す。香道では、香りを「嗅ぐ」とはいわず「聞く」という。数種類の香を一定の文学的主题を表現するように組み、香席に招かれた^{れんじゅう}連衆²（参加者）がその組み方や香を鑑賞するとともに、聞き当てた数を競い合う「^{くみこう}組香」や、一炷（一種）の香を聞き、その特質、持味を聞き定める「^{いっしゅう}一炷聞」³がある。純粋に香木の香味を賞翫する一炷聞に対し、組香は香と文学との融合であり、香の雅趣を楽しむと同時に遊戯性、競技性が加わる。これに礼儀作法や道具の取り扱い方などが備わることで、香道への発展を見

1 香道で用いられるのはほとんどが「沈香」である。これは、東南アジアやインドなどの熱帯林に生育するジンチョウゲ科の常緑喬木に、一定の自然条件のもとで樹脂が沈着したものであり、水に入ると沈む性質をもつことからその名が付けられた。※詳細は、p. 30 参考資料「香木について」参照

2 本来は連歌の用語で「レンジュ」と発音したことから「レンジュウ」となった。

3 「炷」の本来の発音は「シュ」であるが、江戸時代には既に「チュウ」と併存しており、大枝流芳の刊本のルビによる発音でも「十炷（しゅ）香」「一炷（ちゅう）開」の両方が現れている。

ることとなる。

香道において、香りを聞き分ける基準とされるのが「六国五味」である。全ての香木は現在、伽羅、羅国、真南蛮、真那賀、佐曾羅、寸門多羅の6種に分類され、香りの特色は5つの味覚である甘、酸、辛、苦、鹹（しおはゆい/塩辛い）で表現される。この分類法は江戸時代の17世紀初め頃までには定まるとされる。

香席・香会の概要

・香席、香会の概要

香席は一般的に座敷で行われる。香席で使う座敷は八畳ないし十畳、十二畳、床の間と床脇に袋棚（天袋）、違棚（地袋）があるのが正式とされている。

香席での床、棚飾りは、いずれも床に向かって下座寄りが香元の座となるように飾る。

掛物は神仏、聖賢の像は避け、花鳥山水あるいは香に縁のある語の詩歌などを掛ける。花は香気あるもの、とげのあるもの、はかないものを避ける。夜の席には花を置かず、代わりに盆石を用いることもある。

違棚には道具を飾る。違棚のない場合は志野棚又は便宜の棚（四季棚など）を用い、勝手のよいように道具を配置する。

香席では、香を炷きだす「香元（香本）」によって一定の手前に従って香が炷かれ、席に参加する連衆がその香を鑑賞する。香席に参加する場合の心得や作法があり、各流とも「香席法度」や「香道箇条目録」に示されている。流派に共通する心得は以下の事項である。

- ・香水など強い匂いのあるものは身につけず、皮革製品、衣服の防虫剤など匂いの付いた衣服や持ち物にも留意する。
- ・亭主による饗応は、山椒や柚子といった香気の強い飲食物を避ける。

また、香を聞く際の作法としては、以下のような事項がある。

- ・聞くときは、正座して背筋を伸ばし、香炉を右手で取り上げて左掌に載せる。時計の針と反対方向に香炉を回し、香炉上部を右掌で軽く覆い、傾けず水平のまま顔に近づけ、親指と人差し指との空間から息を吸い込んで香りを聞く。なお、香炉の正面が分かるよう、灰には「聞き筋」（形態は流派によって異なる）が付けられている。香炉の正面から聞くか、正面を向こうに回して聞くかは流派により違いがある。
- ・聞き様は三息（もしくは五息）が決まりで、長聞きしたり、逆に粗末に聞いたりしてはいけないとされる。香りは炷き出しから終わりまで同じではなく、衰える（すがれる）ため、三息を守るのが心遣いである。聞き終わったら迅速に次客に回す。

・香席の流れ—組香の例—

香席において広く行われている「組香」の場合、香を炷く「香元」、香席の記録を行う「執筆」、客である「連衆」が参加する。

組香は、香元が炷いた「^{こころみこう・ためしこう}試香」を聞き、連衆はその特徴を覚えておき、そして、試みに出た香と、^{きやくこう}客香という試みのない香が、「本香」として香元によって順不同に炷き出されるのを順次聞き当てていく方法で香の鑑賞が行われる。なお試香がなく、炷き出された香の何番目と何番目が同じであるか、香の同異を当てる形式もある。

香元が香席において香を炷く際、必要とされる手順や道具の扱い方、所作や作法等について流派ごとに一定の様式があり、それらは「手前」と総称されている。また、香席の記録を行う執筆も、記録の取り方などについて一定の作法や所作が定まっている。

香席において組香を行う場合の香元が行う手前は、おおよそ以下のような流れになる⁴。

- ・香元は、聞香炉の灰におこした^{たどん}炭団を埋め、^{はいおし}灰押や羽箒を使って灰を整え、中心に熱気を伝える火窓を作る。灰の頂点に^{ぎんよう}銀葉（隔火のための小板）を置き、その上に約3mm角の香木の小片を載せる。
- ・熱気が伝えられた香木が芳香を放ち出したことを確認すると、連衆へと上座から順に聞香炉を回していく。連衆に回した聞香炉が手元に戻ると、聞香炉の銀葉を新しくし、次の香木を炷き連衆へと回していく。なお、試香がある場合は、まず試香の分の香木を順に炷いていき、次に本香の分を炷っていく。
- ・連衆が全ての香りを聞き終え、香元の手元に聞香炉が戻ると、香元は聞香炉の銀葉と香木を外す。
- ・香元は、炭団を納める火取香炉を前に出し、聞香炉（通常は2つ）から炭団を取り出して火取香炉へと移し、整えていた灰を掻き揚げる。その後、香道具一式を^{みだればこ}乱箱に入れる。

以上が、香元が香を炷き終えるまでのおおよその流れである。一方、連衆の動きとしては、

- ・試香がある場合、連衆はその香りを聞き、その特徴等を覚えておく。
- ・回ってきた本香の聞香炉の香を聞き、銘々自分の判断を手元の回答用紙に記す（もしくは^{こうふだ}香札を投票する）。
- ・連衆の回答は、「執筆」が取りまとめて記録紙（香記、香記録。標準として料紙は両懐紙を用いる）に転記し正解を発表、その記録紙（香記）が当日の最高得点者に贈呈される。

以上のような形で、香席において香りの鑑賞が行われる。なお、香席で扱われる組香の種類や道具類の違い等によって、香を炷くための手前は異なっている。

4 香席における香元の手前の流れについては、香道文化研究会編『図解 香道の作法と組香』第五版（雄山 閣、令和2年）、三條西堯水監修『よくわかる香道 歴史から作法まで香りの世界を深める』（メイツ出版、令和4年）を参照した。

香道における手前、稽古について

・香道における手前

今日、香道を担う各流派においては、火道具や聞香炉をはじめとした香道具を使い、香を焼き、香席等において香木等の香りを鑑賞するために必要となる道具の扱い方や作法・所作があり、これらは「手前」と総称されている。

香道の流派における手前は、香を焼くために必要となる作法や所作、道具類の扱い方などが体系化されており、正式・略式の別があり用いる香道具が異なるほか、手順や作法も異なる。

また、聞香炉の灰の整える一連の作法や所作は「灰手前」と呼ばれている。灰につける筋（「箸目」）の付け方や数には真・行・草の別があり、香を焼く場面に応じてその様式も定まっている。以上のような手前は、流派によってその形式自体が異なっている。

なお、同一の手前であっても、香席でどのような種類の組香をするか、盤物と呼ばれる道具を用いるか、試香をするかどうか等でも手順の細かな異同があり、香席でどのような形で香を鑑賞するかによって、香元は手順等を適宜整えて手前を行っている。

・香道の稽古について

香道の各流派においては、香道を学びたい人のために稽古場あるいは教室を開き、香道を学ぶ場を設けている。また、香木や香道具などを取り扱う香舗においても、体験教室が開かれているほか、カルチャーセンター等でも講座が開かれている。

上記のような場所では、香席に客として招かれた際の作法を身に付けることをはじめとして、香を焼き香席を開くために必要とされる道具の扱い方や作法等の手前に加えて、組香の種類や席のしつらい方等の決まりや作法、古典文学に関する教養などもあわせて教授が行われる。

流派によっては手前等の習熟の度合い等に応じて免状を発行しており、手前を習熟した者の中には稽古場や教室、カルチャーセンターで講座を開き、香道の普及啓発を行う者もいる。こういった稽古場や教室等が、香道を学ぶ場と機会になっている。

担い手について

香道を担う者については、香道の流儀を継承している香道流派、また流派に関連する会、そして流派横断的な全国団体がある。そして、これら流派等に所属する者や個人として香道をたしなむ者などの香道を愛好する者が香道を担う者として考えられる。

・香道流派

香道では、家元と呼ばれる者が中心となって組織されている流派が存在し、流派ごとに香道の流儀を継承・保存し、香道の普及や振興に係る様々な取組を行っている。

家元を中心として組織された御家流、志野流（志野流香道松隠会）、安藤家御家流があり、流派に関連する団体として、御家流香道桂雪会、御家流香道公香会、御家流堯仙会、御家流霞月派などがある。そのほかに香道直心流、香道翠風流、香道泉山御流などの団体がある。教室を開くほか、

カルチャーセンターなどで講座を開催している。

・横断的な団体

香道の流派横断的な団体としては、公益財団法人お香の会がある。当該団体は、香りの文化保持・育成のために香道を普及させる目的で結成された組織で、東京の薬師寺別院、奈良本山で香道の教室を持つほか、毎年「国民文化祭」に参加するなど、講習会や体験教室を通じて全国的な普及活動を行っている。

・香舗

香木や香道具を扱う香舗、香木商があり、流派と協力、又は流派を支援し、教室の開講、情報発信などの普及啓発活動に努めており、これも担い手として考えられる。

・香道を愛好する者

流派や香舗が開催する体験講座をきっかけに香道を知り、流派の門人や会員となる者や、特定の団体に属さずに香道を愛好する者、また、高校・大学の香道研究会（香道部）など、課外活動として香道に親しむ学生等も担い手、愛好者と考えられる。

以上のような愛好する者が想定されるが、政府の統計調査や調査会社が行う調査などでは、香道を愛好する者の人数などの把握は行われていないので、正確な人数を把握することは困難な状況にある。

〈主要参考文献〉

- ・神保博行『香道の歴史事典』柏書房、平成 15 年
- ・松榮堂監修『コロナ・ブックス 日本の香り』平凡社、平成 17 年
- ・松原睦『香の文化史—日本における沈香需要の歴史—』雄山閣、平成 24 年
- ・香道文化研究会編『香と香道』第五版 雄山閣、平成 27 年
- ・香道文化研究会編『図解 香道の作法と組香』第五版 雄山閣、令和 2 年（初版は蜂谷宗由監修・長ゆき編で、昭和 53 年に雄山閣より刊行）
- ・本間洋子『香道の文化史』吉川弘文館、令和 2 年
- ・三條西堯水監修『よくわかる香道 歴史から作法まで香りの世界を深める』メイツ出版、令和 4 年

1-2 香道の歴史

(1) 香道前史

仏教と供香

香木について記された最初の史料は『日本書紀』である。推古3年(595)卯月、淡路島に大きな流木が漂着し、島の人は沈香と知らず竈かまどに薪としてくべたところ、芳香が遠くまで漂ったため、朝廷に献上されたことが記録されている。また、『日本書紀』には、蘇我大臣が香炉を手に香を焼き、雨乞いを行ったことや、内裏での仏像開眼供養の折には、天智天皇が袈裟や象牙のほか「沈水香(沈香)」、「栴檀香(白檀)」等を法興寺(飛鳥寺、元興寺の前身)に奉納したことが記録されており、香木が仏への供香のために用いられていたことが考えられる。

薫物と空薫—奈良時代後期から平安時代

香木が供香に用いられる一方、香木等の香料を粉末にして袋に収めた裏衣香えいこうや、香木や各種香料の粉末を、甘葛などの粘性物で練り合わせて丸薬状にした薫物が貴族社会において用いられていた。

裏衣香は、衣服等に香りを移すため等に用いられた匂袋の一種で、正倉院の宝物には神護景雲2年(768)の記銘のある裏衣香が納められている。一方、薫物は、天平時代には製法や材料とともに日本に伝えられていたと考えられており、この薫物を香炉で炷たきいて空間に香りを漂わせたり、衣服や髪に香りを移したりする空薫も、奈良時代後半には行われていたと考えられている。

平安時代の貴族社会においては薫物の流行が見られ、11世紀初めに成立した『源氏物語』では、様々な場面に薫物が登場しているほか、藤原道長が記した『御堂関白記』では、薫物や薫物を納める箱などの道具が慶事の贈答に用いられたことが見える。加えて、薫物の調合が宮中や各貴族の家でもそれぞれに工夫されていたことが、12世紀頃の編纂と伝わり、薫物を中心に裏衣香や裏衣香等の調合についてもまとめられた『薫集類抄』くんじゅうるいしょうからうかがい知ることができる。

また、貴族だけではなく、いろいろな階層の薫物の処方てんぼうりんを記した転法輪三条家の伝書『香之書』があることから、平安時代末期になると、経済力と教養を備えた上級武士もおり、薫物をたしなむようになっていた。

沈香受容の拡大—鎌倉時代から南北朝時代

建武2年(1335)の「二条河原落書」(『建武年間記』)には、「此比都ニハヤル物(中略)茶香十炷ノ寄合モ 鎌倉釣ニ有鹿ト 都ハイト>倍増ス(後略)」と見え、この史料から鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて京都において茶の寄合とともに香の寄合が流行していたらしいことが分かる⁵⁾。

中国との貿易によってもたらされる様々な「唐物」のうち沈香や麝香、丁香などの香薬類は貴族の間で珍重されており、藤原明衡ふじわらのあきひらの随筆『新猿楽記』しんざるがくきでは唐物の第一として沈香が挙げられている。

5 森田都紀編『伝統文化 史料編』京都芸術大学東北芸術工科大学出版局藝術学舎、令和3年 p.110-113

貴族の唐物趣味は武家にも影響を与え、香木をはじめとした香薬の使用は次第に武士階級にも広まっていった。貴族、そして武家の中に薫物や等の香木や香薬が珍重される中、禅宗においては沈香単体を炷くことも行われていた⁶。このような沈香の用い方の変化には、中国との直接交易や倭寇、また琉球の中継貿易により、沈香の輸入量が増加したことも背景の一つとして考えられる。

延文から応安年間（1356～1375）に成立したとされる『異制庭訓往来』^{いせいいていきんおうらい}には、「伽藍木」「妬伽羅」や「白檀」と言った香木、「龍涎」「薰陸」といった香料の名称が見えるほか、「宇治」「鳥羽」「山陰」のような名香が記されている。康暦2年（1380）、時宗の僧、素眼^{そがん}が著した往来物『新札往来』^{しんさつおうらい}や、一条兼良著とされる『尺素往来』^{せきそおうらい}にも「宇治」や「山陰」の名が見られるほか、「蘭奢待（蘭麝待）」「東大寺」の名が見え、香木それぞれに独自の「銘」が付けられており、沈香単体の香りを味わい、特徴や差異を聞き分けていたことがうかがえる。

また、『太平記』中の婆娑羅大名、佐々木道誉^{ささきみちよ}は、貞治5年（1366）、室町御所での花見の宴の際、一斤という大量の名香を一度に炷きあげた。道誉は大量の香木を所持していた人物とされ、後世まで道誉所持の伝承を持つ名香が伝えられている。

（2）香道の黎明

中世史料に見る香の催し—室町時代

宮中及び周辺の公家社会では、15世紀前半より、現在の組香の原型となる「十炷（種）香」⁷の香会が行われた記録が見え始める。伏見宮貞成親王の『看聞日記』^{くわんもんにっき}に記載された10件の香会は全て十炷香で、懸物（賞品）^{かけもの}を参加者が持参し、最高得点者が優先的に籤^{くじ}を引き懸物を得、また敗者が酒を提供して勝者をもてなす例もあった。香会には親王の親族や近臣、近隣の寺庵衆以外に、地下衆も参加していたという。公卿・中山定親^{なかもりさだちか}の日記『薩戒記』^{さつかいき}にも、称光天皇期（在位1412～1428年）に内裏で十種香が開催されたことが記されている。香会の内容を伝える史料は、応仁の乱以前よりも乱後に集中しているが、それによれば、宮中での香会は主に陰暦の冬と春、和歌や連歌の会、曲舞や謡の鑑賞、楊弓^{ようきゅう}などの遊びに続いて夜に行われ、その後は酒宴となるが多かった。

三条西実隆^{さんじょうにしざねたか}の日記『実隆公記』^{さねたかこうき}には、自身が参加した22件の宮中での香会が記録されている。1例を除き十炷香で、香を聞き当てた高得点者が賞品を得る、競技性、遊戯性の高い香会の様子が記されている。一方、この『実隆公記』には、実隆が自邸で行った15件の香会が記録されているが、それは香木単体を炷く「一炷聞」や薫物の鑑賞、薫物による「十炷薫」などで、いずれも少人数で香りを鑑賞し、酒食や和歌・連句等を楽しむ、競技性のない香会であった。また15件のうち9件には、『新撰菟玖波集』^{しんせんつくばしゅう}編纂を通じて親交を深めた連歌師・宗祇^{そうぎ}が出席者、主催者として関わ

6 松原睦氏は、その始まりを宋代の禅林に求め、日本における禅宗の広まりとともに、中国の禅院における儀礼としての茶や沈香の用い方が禅僧によって伝えられ、沈香一木を炷く新たな香の世界が禅宗寺院やその信奉者たる武士の間に開かれていったと推察している。（松原睦『香の文化史—日本における沈香需要の歴史—』雄山閣、平成24年 p.54-55）

7 今日の香道では十炷香を「じっちゅうこう」と読むが、炷の読みは本来「しゅ」であり、「ちゅう」と読まれるのは室町時代末期以降だという。当時の記録に表記が混在する十炷香、十種香の読みはいずれも「じっしゅこう」又は「じゅっしゅこう」で、同一のものを指すと考えられる。なお、「二条河原落書」にも「茶香十炷」とあるが、現在の十炷香と同一のものではない可能性が指摘されている。

り、薫物などを届けることもあったという。

上記のような十炷香や一炷聞の香会のほか、当時の記録に見えるのが「名香合」である⁸。平安時代以来の「物合」の法式に倣い、左右に分かれて二種の香を聞き比べてその優劣を決め、その判定の基準には香銘も重視され、文学的素養をもとに判者の言葉が添えられた。この名香合の代表例として伝えられるのが、文亀元年（1501）に志野宗信邸で行われた名香合である。この名香合には武家、公家出身の連歌師、僧侶など 10 名の連衆が出香し十番勝負が行われ、佐々木道誉や正倉院から足利義政に伝わったとされる来歴の名香も出香された⁹。

のちにこの名香合の記録に三条西実隆が跋文を寄せ、「香木そのものの香りを競うことは古代にはなく、あまり遠くない昔から風流人が香合をするようになったのも興あることである」と述べている¹⁰。その記録は写本として、また香道伝書の中にも残されている。後世、三条西実隆は「御家流」、志野宗信は「志野流」の流祖として、御家流は公家へ、志野流は武家へ伝わったとされる¹¹。

宮中での香会—組香の発展

16 世紀前半においても、宮中での香会は十炷香が主流であったが、この頃から公家の自邸や宮邸、親王の御所や宮中での香会で、「源氏香」「系図香」といった新たな組香を行った記録が見え始める。

系図香とは、組香の回答に、縦線と横線を組み合わせた図（香図）を用いるもので、その形状が家系図に似ることから系図香と称された。4種の香木を使い、香木を入れた香包を1種につき4包用意し、計16包を打ち混ぜてから無作為に選んだ4包の香を順に炷き出せば、4つの香りが全て同じ場合・全て異なる場合を含め、同一の香りが炷かれた順番と回数の組合せは15通りとなる。回答にあたり、4包を示す4本の縦線を書き、同じ香りと判じた線同士を横線で結べば、15通りの図で答えられる。5種の香を用いると52通りの図となる。これらが「香図」と呼ばれる¹²。

8 上記の『名香合』以外の例としては、『五月雨日記』と称される伝書には、文明11年（1479）に足利義政が造営した東山殿の泉殿（東山泉殿）で催されたとされる香合の記録が残される。この記録は年紀、あるいは行われた場所の少なくともいずれかが事実とは異なると考えざるを得ないことは、東山殿の建設時期からも疑いが持たれているが、この記録も『名香合』と並び、香道史上において手本とすべき理想的な香合の記録として位置づけられている。（宮崎涼子「明治期の慈照寺弄清亭建設—伝説の香室・東山泉殿の再現」（井上治・森田都紀編『伝統文化 研究編』京都芸術大学東北芸術工科大学出版局芸術学舎、令和4年、p. 51-65）

9 矢野環氏の研究によって、複数の志野姓の人物が京都の酒屋土倉である「土蔵志乃」であったことが文献資料の精査によって指摘されている。さらに、当時の裁判資料に志野宗温と思われる人物が出ることも確認された。（「香道の古伝書—『習見聴診集』所収伝書など」『儀礼文化』23号 儀礼文化学会、平成8年）。加えて、本間洋子氏は、「名香合」に参加している志野宗信が、足利義政所有の「中河」や天皇家に縁のある「紅塵」を出香している点からも、同人が撰閑家や大臣家と交渉を持つ有力な酒屋土倉「土蔵志乃」であった可能性を補強している。（本間洋子『香道の文化史』吉川弘文館、令和2年 p. 98-123）これは後掲注11の菊池氏の論説により確立された、志野家名香合の信頼性の上に成り立つ議論である。

10 菊池佳奈子『香道古伝書『名香合』攷』私家版、平成15年 p. 28-33

11 本間洋子氏は、この宗信邸での名香合の記録と跋文が江戸時代の香道伝書に転載される際、実隆が香合の指導者的立場のように紹介されたことが、実隆と宗信の二人を香道の流祖とする通説の発端ではないかと推察している。（本間洋子『香道の文化史』吉川弘文館、令和2年 p. 98-123）

12 実隆が「ある種の香札」を記載したという記録もある（『実隆公記』文明十八年三月四日条。「十炷香簡十具書之」）。（櫻井秀「香道の成立とその発達について」『風俗史の研究』宝文館、昭和4年 p. 192-221）。なお、香の種類が増えると香図の数は単純な計算では求められないが、江戸時代の和算家は公式を見出していた。（矢野環「源氏香 有限集合の分割（1～2）」『数学セミナー』日本評論社、平成7年11月 p. 58-61、12月 p. 56-60）

転法輪三条公頼きんよりの日記『公頼公記』には、伏見宮貞敦親王さだあつと足利義晴じょうろうの上臈じょうろうとなった公頼の姉妹が里帰りした大永7年（1527）正月、「十種ノ系図香」が催されたことや、翌年に貞敦親王御所で「五種の系図香」が行われたことが記されている。このことから当時は、現在「系図香」と認識されているものだけではない、多種類の「系図香」が存在していたと考えられる。

永正13年（1516）、太政大臣近衛尚通このえひさみちの『後法成寺関白記』には、右京大夫細川高国の依頼を受け、香図に『源氏物語』から名を付けたという記録がある¹³。「源氏香」は現在まで伝えられた組香の中で最も名の知られたもので、その香図は工芸品や着物に多用される意匠となり、香道に親しくない人でも目にする機会が多いものである。「源氏香」の名称は尚通の父、近衛政家の日記中に既に登場（1501～1502）しているが¹⁴、その実態は不明であり、また尚通がこの時、『源氏物語』からどのような銘を図に付けたかも記録はない。従って、今日の源氏香と全く同じものが当時行われ始めたとは断言することはできないが、この時代、既に組香の回答としての香図が存在し、その図に『源氏物語』などの古典に因んだ名を付けることが行われていたといえる¹⁵。

（3）香道の形成

香木の分類判定基準の形成—安土桃山時代

香道において香木を分類判定する基準「六国五味きどころ」（木所ともいう）が定まるのは17世紀半ばとされるが、建部隆勝たけべたかかつが天正元年（1573）に著した香書『隆勝香之記』の記述により、こうした分類は16世紀初めには生じていたことが分かっている。建部隆勝は、香を志野宗信そうおんの子、宗温そうおんに学んだと伝わる。建部はこの書で、作法、手順や道具の扱い、香の故実などに続いて70種の名香を5つの「木所」（伽羅、新伽羅、羅国、真南蛮、真那賀）に分類している。

また、香道における「六十一種名香」は、足利義政の命により、三条西実隆と志野宗信が関わり、選定されたと通説に伝わるもので、法隆寺「太子」、東大寺「蘭奢待」に始まり、桃山時代以前に日本にもたらされた名香を厳選したものである。この六十一種の名が一同に記されたのは、志野宗信が記録したものを紹介するという形式の、宗温による名香録が現在も基準とされているが、『隆勝香之記』はそれに次ぐものであり、玄宗が含まれるなどの差異がある¹⁶。

堺の町衆で、千利休に学んだ茶人として知られる山上宗二やまのうえそうじ（1544～1590）の『山上宗二記』には、建部隆勝、千利休、津田宗及つだそうぎゅうと自分で名香の極めをしたと書かれている。津田宗及らの茶会記には、茶席でしばしば香を炷いた記録も見え、当時、茶人達が香をよくたしなんだことを示している。

13 櫻井秀「香道の成立とその発達について」（『風俗史の研究』宝文館、昭和4年 p.192-221）

14 石橋健太郎「『後法興院記』にみる香」（『広島県立美術館研究紀要』6号 広島県立美術館、平成14年 p.15-25）

15 本間洋子『香道の文化史』吉川弘文館、令和2年 p.20-29、59-78

16 矢野環氏により、『習見聴診集』の名香録や香道書の精査が行われ、十種名香は古くより安定していたが、そのほか微妙に異なるものが存在することが示された。（武井和人、矢野環「『習見聴診集』攷一その書誌と伝来」（『埼玉大学紀要 教養学部』38巻第1号 埼玉大学教育学部、平成14年 p.19-44）

天正2年（1574）、織田信長が東大寺に名香「蘭奢待」の拝見を申し入れ、^{せつこう}截香が行われた¹⁷。拝見には山上宗二ら堺の商人も同行し、また数日後に相国寺で開かれた茶会に招かれた利休と宗及は、二人が名物香炉を所持しているからとして、信長から蘭奢待一包をそれぞれ与えられた。

（4）香道の発展

民衆への広がり—香道の展開

前出の『山上宗二記』には、香道の流儀に関する記述が見られる。同書では、「公家にては三条殿、武家にては篠殿、此両家香炉并名香の事御家也」とあり名香を持つ家（「三条殿」「篠殿」）が挙げられているほか、「灰之押様之事」として、聞香炉の灰の押さえ方の違いが「三条殿流」「篠殿ノ流」で異なっていたことも記述されている¹⁸。同書が成立した16世紀末には、聞香炉の灰の押さえ方に流儀のようなものが生じていたことが確認できる。

そして、江戸時代になると、志野流、御家流、米川流といった香道流派がそれぞれの展開を見せていく。大名家を中心に香道を伝えた米川流は、江戸時代の一時期、香道の一大勢力でもあったとされ、幕末には膨大な伝書を残している。流祖とされる米川常白は、小紅屋三右衛門という禁裏御用達の紅染商人であり、後水尾天皇の中宮、東福門院（徳川二代将軍秀忠の娘）の香道指南をつとめたという。常白は建部隆勝、坂内宗拾の流れを汲む香人で、六国五味の完成者にも擬せられている。常白の筆になるものとされる『六国列香之弁』においては、「伽羅、真南賀、羅国、真南蛮、寸門多羅、佐曾羅この六品を六国の列といふ」とし、さらに「五味之弁」として香気を五味に分類識別することを述べている。

三条西実隆を祖とする御家流は、家元制度をとらず、完全相伝¹⁹で伝承されたという。現在伝承される系図では、実隆以来、堂上の公卿の間で相伝されてきたが、江戸時代前期に猿島帯刀家胤^{さしまたてわきいえたね}に至り、初めて地下や武家・庶民に伝えられたとされている。なお江戸時代、芸道は公家による官許が定められ（蹴鞠は飛鳥井家・難波家、琵琶は西園寺家等）、それぞれ世襲であったが、歌道と香道はどの家でもつとめなくてはならず、決まった御家はなかったという。

志野宗信から宗温、省巴^{しょうは}と三代続いた志野家は、建部隆勝の推輓^{すいばん}により、同門の蜂谷宗悟^{はちやそうご}が志野流四代を継いだ。享保年間（1716～1736）頃、八代宗栄にはじまる志野流の家元制は、九代宗先の時に完成されたという。宗先の晩年から『諸国香道門人帳』が書き留められ、享保時代から弘化時代までの諸国の門人が記録された。門人帳には職業も地域も幅広い層の弟子が名を連ね、宮中、公家、大名だけでなく、家元制度によって香道が伝承されることにより、香道をたしなむ者が一般にまで広がったことを示す。なお西山松之助の『家元の研究』によれば、志野流の門人帳には男性の記載が圧倒的に多く、女性は一割強にとどまるという²⁰。

17 蘭奢待については、織田信長のほかに、足利義政、明治天皇などが截香したとされる（正倉院 HP：<https://shosoin.kunaicho.go.jp/treasures?id=0000012162&index=0>を参照。最終確認日：令和6年2月15日）

18 森田都紀編『伝統文化 史料編』京都芸術大学 東北芸術工科大学出版局芸術学舎、令和3年 p.114-123

19 芸芸及び技芸を次の代に相伝する権利そのものを伝授することを指す。（西山松之助『家元の研究』（西山松之助著作集 第一巻）吉川弘文館 昭和57年）

20 西山松之助『家元の研究』（西山松之助著作集 第一巻）吉川弘文館 昭和57年 p.434-440

香道書・香道伝書の展開

香道に関する刊本は17世紀後半に登場しており、寛文9年（1669）に刊行された『香道秘伝書』は広く伝播し、二度の重版のみならず、大枝流芳により校正された『改正香道秘伝 附録奥乃志保里』も作られ刊行された。

一方、香道に関する伝書については、18世紀前半、享保から元文年間にかけて、著名な香人が現れ多くの書籍を残した。香道の全般の心得や作法を記した香道伝書の多くがこの頃に成立し、18世紀中頃には香道伝書の集大成が試みられた。

享保17年（1732）頃に成立した『香道蘭之園』^{こうどうらんのその きくおかせんりょう}（菊岡沾涼は元文4年（1739）に書写）は、香道全書ともいふべき香道伝書の集大成である。十巻からなり、一卷が総論、二巻から十巻には古来伝承された200余の組香を収録、付録として他書に見かける組香26を載せる。また、『香道蘭之園』の15年後に書かれたとされる『香道賤家梅』^{こうどうしずがやのうめ}は、『蘭之園』の改訂増補版である²¹。さらにその10年後の『香道籬の菊』はその後の『香道調度図』『源氏千種香』とともに、豪華な彩色が目を引き、18世紀半ばに香道が完成の域に達していることを物語る²²。

なお、香道伝書はわずかの例外を除いて全て筆写である。香道の皆伝に際して師の蔵書の披見と書写が許されるのが例であった。そうした中、天台宗の僧侶であった忍鎧^{にんがい}の著作『十種香暗部山』が享保14年（1729）に刊行されている。同書は差構絶版申し付けとなり発行部数が少なかったためか書写本が多く残っている刊本として著名である。また、前述の大枝流芳も多くの香道書を刊行している。

香道書の刊行は享保から元文年間を頂点とし、その後は減少していく。19世紀に入り幕末を迎えると、香銘の集録や組香集の編集、あるいは相伝式法の整備などが見られるにとどまった。

教養書に見える香道に関する記述

江戸時代初期から中期にかけて組香の遊戯的要素が高まり、盤物^{ばんもの}、又は盤立物^{ばんたてもの}という、聞き当てた香の結果を盤上の小道具（人形など）を使って表すものが盛んに行われた。最も大規模な盤物として、東京国立博物館所蔵「花笠香」がある²³。

江戸時代初期にはまた、木版技術の進歩と読書人口の増加を背景として、寺子屋の教科書や教養書等が刊行されるようになる。このうち、女性向けの教養書には、香炉の扱いや香の作法の簡単な紹介が見られるようになる。

例えば、貞享4年（1687）、江戸で出版された『女用訓蒙図彙』^{じょようきんもうずい}には、「香をきくこと」として、香の作法心得が書かれている。元禄5年（1692）の『女重宝記』^{おんなちようほうき}巻一では、「女中たしなみてよき芸」として、習字、和歌、連歌、俳諧、琴、茶の湯、立花などととも香を聞くことが挙げられて

21 神保博行『香道の歴史事典』柏書房、平成15年 p.337

22 矢野環、岩坪健、福田智子『竹幽文庫の香道伝書 香道調度図・香道籬の菊』淡交社、令和2年

23 矢野環「東京国立博物館保管吉田露香氏寄贈香道具「花笠香」盤立物—実は中御門院御製「四季合香」—」、(『MUSEUM』520 東京国立博物館、平成6年 p.20-34) なお、盤物については、福田智子・南里一郎・矢野環編著、森あかね・高橋美都・岩坪健著『香道籬の菊 盤物の雅び』（風間書房、令和5年）において詳しく解説されている。

いる。また、同書巻四では「香をきく事、付たり十種香」「掛香の名方」「伽羅の名、ならびに薫物の方」の項を挙げ、香の聞き方等を詳しく説明しているほか、巻五では「源氏香之図」を掲載している。このことから、香を聞くことが、武家や裕福な町方の女性がたしなむ芸の一つとして広まりを見せていたことがうかがい知れる。

浮世絵などの絵には、遊里の女性や町方の女性が香を聞く姿が描かれており、一例としては、享保8年（1723）に刊行された西川祐信の『百人女郎品定』^{ひやくにんじょうしなだめ}に、富裕な女性たちが集い、十種香の香会をしている様子が描かれている。

明治時代以降の動き

明治維新後、それまで香道の中心的担い手であった公家や武家は大きくその立場が変化し、欧化の波により伝統的な文化は顧みられなくなったと言われる。しかしこうした状況下でも、香道の伝統を守り、新たな継承の在り方も模索されていた。

志野流は、幕末の動乱期に京都から名古屋に移り、その後も蜂谷家によって現在まで傳承されている。

維新後の東京で、御家流の宗匠として後進を育成したのは、茶人でもある式守蝸牛庵^{しきもりかぎゅう}、都筑宗穆^{つづき}・幸哉父子^{そうぼく}、山本霞月^{かげつ}で、現在の御家流は全てそれらの門流である。御家流は、完全相伝制で家元を置くことがなかったが、昭和22年（1947）、一色梨郷と山本霞月等が中心となり、三條西家の三條西公正^{きんおさ}を宗家に推載し、現在に至っている。

〈主要参考文献〉

- ・神保博行『香道の歴史事典』柏書房、平成15年
- ・松原睦『香の文化史—日本における沈香需要の歴史—』雄山閣、平成24年
- ・香道文化研究会編『香と香道』第五版 雄山閣、平成27年
- ・香道文化研究会編『図解 香道の作法と組香』第五版 雄山閣、令和2年（初版は蜂谷宗由監修・長ゆき編で、昭和53年に雄山閣より刊行）
- ・本間洋子『香道の文化史』吉川弘文館、令和2年

2節 香道の国内外における文化的、社会的位置付けや評価

2-1 現代社会における香道

香道の国内状況

流派においては、流派で継承されてきた香道の伝承を主目的とした活動を行うほか、近年では広く香道を普及・振興する活動を行っている。また、流派横断的な活動を行っている香道の全国的な団体では、香道体験等の実施を通じて、香道の普及を目指している。

香道分野の流派及び団体に対して実施した調査²⁴では、現在の課題として香木の不足や指導者が少ないといったことが挙げられ、また、「会員の高齢化」(28.6%)、「情報発信不足」(28.6%)についても挙げられた。流派によっては免状を取得しても茶道のように教室を開くことができないため、新しい会員がなかなか定着しないという意見も見受けられた。

香道関係者の評価

香道に関する評価については、その普及・振興において功績があったとする人物が勲章・褒章や表彰を受けていることから見て取ることができる。

まず、昭和56年(1981)、御家流宗家で日本香道協会会長(当時)の三條西公正(号:三條西堯山)が勲三等瑞宝章を受けている。次に、「我が国の文化芸術の振興に多大な貢献をしている」などとして、志野流二十世家元の蜂谷宗玄が平成17年度(2005)に、公益財団法人お香の会常務理事・松栄堂代表取締役社長の畑正高が令和4年度に文化庁長官表彰を受けている。

24 『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和2年 p.25

2-2 国民意識調査について

(1) 調査の概要

生活文化に係る6分野（煎茶道、香道、和装、礼法、盆栽、錦鯉）に関して、インターネットを活用し2万人を対象としたウェブアンケート調査による国民の意識調査を実施することで、国民の生活文化に対する興味や関心などの実情について把握し、今後の生活文化等に関する政策立案の基礎資料の作成を行うことを目的として調査を実施した。

このウェブアンケート調査では、下記に示すとおり、香道の経験の有無を問う設問を設け、回答者の経験・体験の深度を図ると共に、経験・体験の程度ごとに設問群を設け、活動内容や興味関心について把握を行った。

■調査設計

| | | | | | | | |
|-------|--|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 調査方法 | インターネット調査（調査業者：株式会社クロス・マーケティング） | | | | | | |
| 調査地域 | 全国 | | | | | | |
| 調査対象者 | 18歳以上の男女 | | | | | | |
| サンプル数 | 2万サンプル | | | | | | |
| | | 18～20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
| | 男性 | 1,398 | 1,359 | 1,759 | 1,580 | 1,459 | 2,090 |
| | 女性 | 1,342 | 1,303 | 1,713 | 1,588 | 1,533 | 2,723 |
| | それ以外／ 答えたくない | 41 | 29 | 24 | 10 | 10 | 39 |
| | ※国勢調査（令和2年）に基づき、性・年齢・都道府県別の比率に2万サンプルを割付けている。 | | | | | | |
| 調査期間 | 令和4年10月14日（金）～10月20日（木） | | | | | | |
| 設問項目 | 【属性】 F 1：性別 F 2：年齢 F 3：居住地 F 4：職業 F 5：同居している人の状況 F 6：昨年度の世帯全体の年収 F 7：最終学歴 F 8：子供の頃の習い事 | | | | | | |
| | 【フィルタリング・パート】 F Q 2：香道の経験の有無 | | | | | | |
| | 【「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問】 B Q 1：香道を習い始めたきっかけ B Q 2：香道を始めた当初の習い方 B Q 2 補問：当初の習い方を選んだ理由 B Q 3：現在の継続状況 B Q 3 補問1：香道を続けている理由 B Q 3 補問2：香道から離れたきっかけや理由 B Q 4：香道を続けている（続けていた）年数 | | | | | | |

| | |
|--|---|
| | B Q 5 : 香道に関する活動内容 B Q 6 : 香道に関する活動頻度 B Q 7 : 香道に関する月額費用 B Q 8 : 香道に関する興味関心や魅力 |
| | 【「学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある」と回答した者への設問】 B Q 9 : 香道を体験したきっかけ B Q 10 : 香道を体験した場 B Q 11 : 香道を習いやすい状況 B Q 12 : 香道に支払える月額費用 B Q 13 : 香道を習っていない理由 B Q 14 : 香道に対する印象やイメージ B Q 15 : 香道に関する興味関心や魅力 |
| | 【「今まで経験したことはない」と回答した者への設問】 B Q 16 : 参加してみたい香道の体験内容 B Q 17 : 参加しやすい香道の体験条件 B Q 18 : 香道を体験したことがない理由 B Q 19 : 香道に対する印象やイメージ B Q 20 : 香道に関する興味関心や魅力 |
| | 【共通設問】 Q 1 : 趣味・余暇活動の参加状況 Q 2 : 1ヶ月に使える趣味・余暇費用 Q 3 : 1ヶ月に使える趣味・余暇時間 Q 4 : 趣味・余暇活動を行う時間帯 Q 5 : 消費行動に対する価値観 Q 6 : 接触メディア |

■調査結果を見る上での注意事項

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・集計表では、各回答の回答比率を示しているほか、属性（性別、年齢など）や設問間でのクロス集計を行った数値を示している。各回答の全体平均を比較して、±5pt もしくは±10pt の開きがある場合は色付けをしており、凡例を付してある。なお、5pt 丁度、10pt 丁度の場合、色付けを行っていない。
- ・集計によっては、母数が少なく、結果の信頼性が担保できないものがあるため、母数が少ない集計結果については、留意のため、グレーで表示している。
- ・調査設問項目【属性】のF3居住地は、総務省「地域別表章に関するガイドライン」の「類型Ⅰ」に沿って、下記のとおり都道府県を分類している。

北海道：北海道

東北：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県

関東：茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県

北陸：新潟県・富山県・石川県・福井県

東海（中部）：岐阜県・静岡県・愛知県・三重県

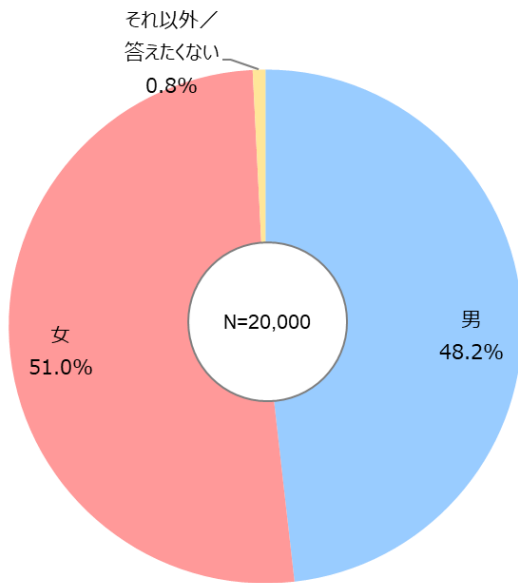
近畿：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県

中国：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
 四国：徳島県・香川県・愛媛県・高知県
 九州：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県
 沖縄：沖縄県

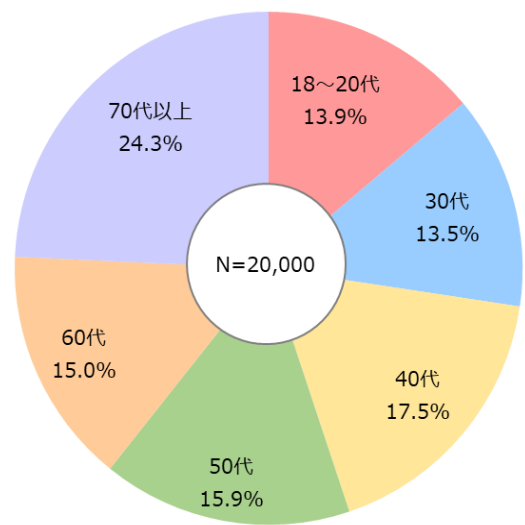
(2) 調査結果概要

1. 属性

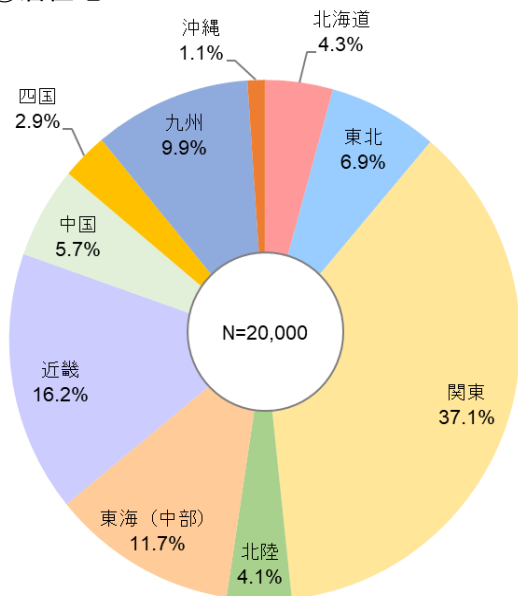
①性別



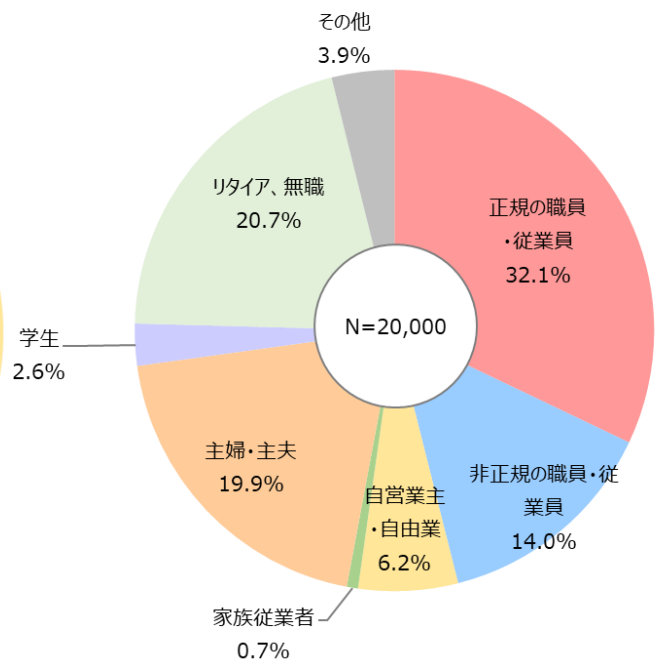
②年齢



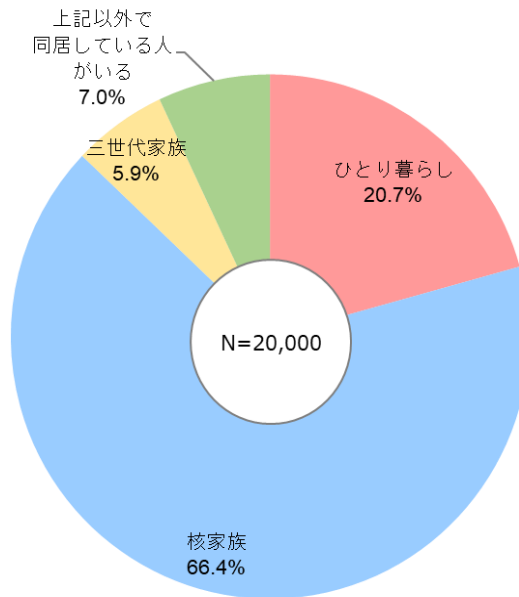
③居住地



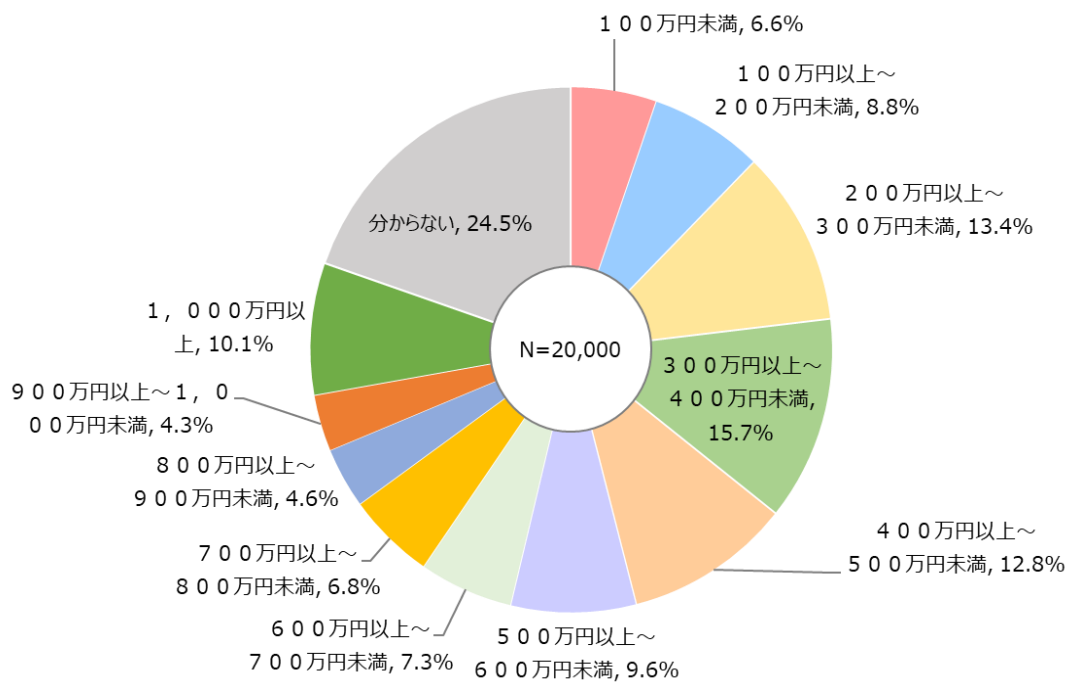
④職業



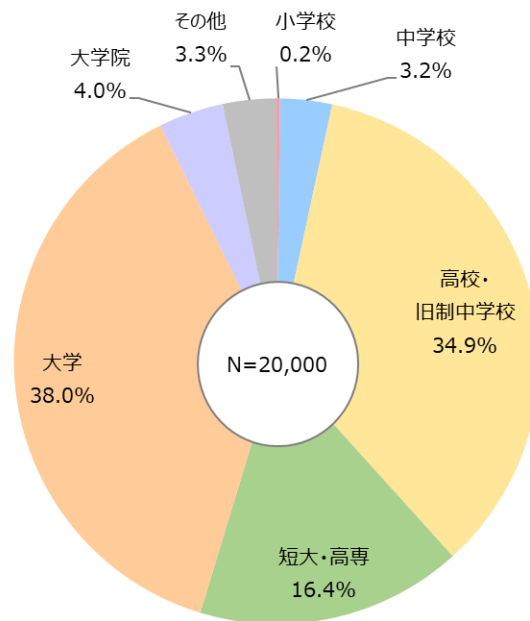
⑤同居している人の状況



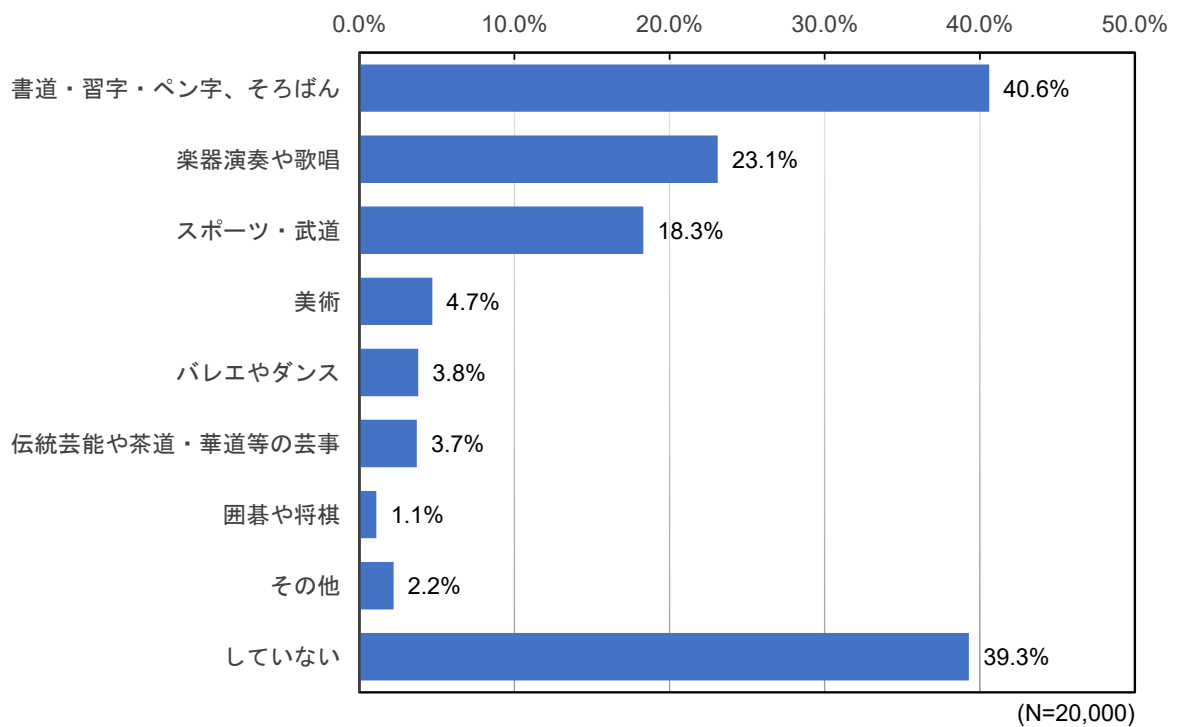
⑥昨年度の世帯全体の年収



⑦最終学歴



⑧子供の頃の習い事（複数回答）



(その他の内容) 英会話教室、学習塾、ボーイスカウト

2. 共通設問

共通1 あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。(複数回答)

【スポーツ (観戦除く)】

| | | | | | | | | | | | | (件・%) | |
|--------|--------|-----------------|--------|---------------|----------|-------------|-----------|------------------|----------------|-------|------------------|--------------------|--|
| 全体 | ウォーキング | ジョギング・マラソン | トレーニング | 体操(器具を使わないもの) | ゴルフ(コース) | ゴルフ(練習場) | 釣り | 水泳(プールでの) | サイクリング・サイクスポーツ | テニス | キャッチボール・野球 | スキー | |
| | 32.1 | 7.8 | 7.0 | 6.3 | 5.1 | 4.0 | 3.6 | 3.4 | 2.9 | 2.8 | 2.3 | 2.3 | |
| | 卓球 | エアロビクス、ジャズダンス | ボウリング | サッカー | バトミントン | スノーボード | バレーボール | 柔道・剣道・空手などの武道 | バスケットボール | フットサル | スキューバダイビング・グライダー | パークゴルフ・フンドなどの簡易ゴルフ | |
| | 2.1 | 2.0 | 1.8 | 1.8 | 1.6 | 1.2 | 1.1 | 1.1 | 1.0 | 0.9 | 0.8 | 0.7 | |
| | ソフトボール | サーフィン・ウインドサーフィン | 乗馬 | アイススケート | ゲートボール | ヨット・モーターボート | カヌー・ラフティン | パラグライダー・ハンググライダー | | | | | |
| 20,000 | 0.7 | 0.5 | 0.4 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | | | | | |

【趣味・創作】

| | | | | | | | | | | | | (件・%) | |
|--------|-----------------------|--------------------------|------------|------------------|------------|-------------|------------------|--------------|-----------------|----------|------------|-------|--|
| 全体 | 音楽鑑賞(配信、CD、レコード、FMなど) | 読書(仕事、勉強などを除く娯楽として) | 映画(テレビは除く) | 動画鑑賞(レンタル、配信を含む) | 園芸、庭いじり | 音楽会、コンサートなど | スポーツ観戦(テレビは除く) | 美術鑑賞(テレビは除く) | ファッション(楽しみとしての) | 編物、織物、手芸 | 観劇(テレビは除く) | 洋楽の演奏 | |
| | 17.3 | 16.1 | 14.5 | 13.6 | 12.8 | 10.8 | 7.4 | 6.7 | 5.9 | 5.9 | 4.9 | 4.7 | |
| | 日曜大工 | 料理(日常的なものを除く) | 写真の制作 | 学習・調べもの | 絵を描く、彫刻をする | 洋裁、和裁 | 詩文の創作(小説、歌、俳句など) | 動画の制作・編集 | 演芸鑑賞(テレビは除く) | お花 | 模型づくり | 書道 | |
| | 4.6 | 4.3 | 3.9 | 3.7 | 3.0 | 2.9 | 2.3 | 2.1 | 2.0 | 1.8 | 1.8 | 1.7 | |
| | お茶 | 趣味工芸(組ひも、ペーパークラフト、革細工など) | 邦楽、民謡 | コーラス | 陶芸 | 洋舞、社交ダンス | おどり(日舞など) | | | | | | |
| 20,000 | 1.6 | 1.5 | 1.5 | 1.1 | 1.0 | 0.8 | 0.4 | | | | | | |

【娯楽】

| | | (件・%) | | | | | | | | | | |
|--------|-----------------|-----------|-------------------------|--------------|---------------|---------------------|------------|--------|-------|--------|-----------|------|
| 全体 | テレビゲーム(家庭) | カラオケ | 温泉施設(健康ランド、クアハウス、スパ銭湯等) | 宝くじ | 外食(日常的なものを除く) | ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム | 中央競馬 | バーベキュー | 麻雀 | パチンコ | 将棋 | サウナ |
| | | 7.9 | 6.9 | 6.8 | 5.8 | 5.5 | 5.3 | 4.7 | 3.8 | 3.7 | 2.8 | 2.7 |
| | ゲームセンター、ゲームコーナー | カラオケ、花札など | 地方競馬 | サッカーくじ(toto) | バー、飲み屋 | 囲碁 | ボートレース(競艇) | 競輪 | ビリヤード | オートレース | クラブ、キャバレー | ディスコ |
| 20,000 | 2.5 | 2.3 | 1.9 | 1.8 | 1.7 | 1.2 | 1.2 | 1.0 | 0.9 | 0.5 | 0.5 | 0.3 |

【観光・行楽】

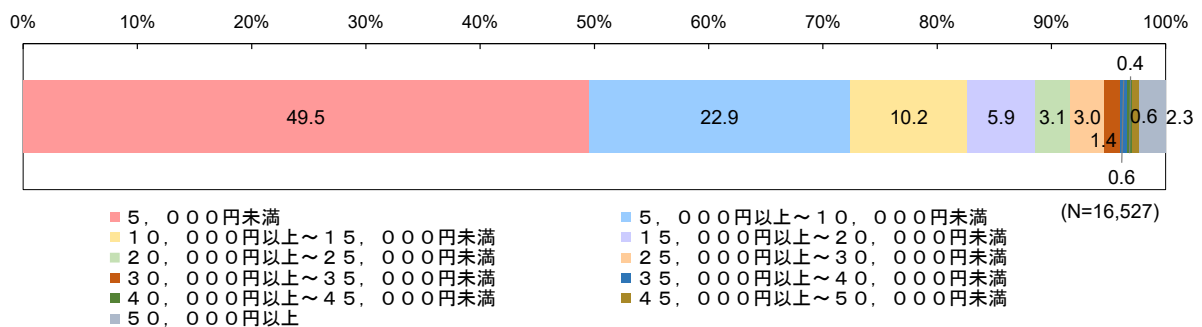
| | | (件・%) | | | | | | | | | | | |
|----|--------------------|-------|-------------|------|------------------|-----|------|---------|-----|-----|---------|-------------|-----|
| 全体 | 国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など) | ドライブ | 動物園、博物館、水族館 | 海外旅行 | ピクニック・ハイキング・野外散歩 | 遊園地 | 帰省旅行 | 催し物、博覧会 | 登山 | 海水浴 | オートキャンプ | フィールドアスレチック | |
| | | 30.7 | 17.9 | 12.4 | 9.2 | 6.9 | 6.4 | 6.4 | 5.4 | 4.0 | 2.1 | 2.0 | 0.6 |
| | 20,000 | 30.7 | 17.9 | 12.4 | 9.2 | 6.9 | 6.4 | 6.4 | 5.4 | 4.0 | 2.1 | 2.0 | 0.6 |

【その他・特に何もしていない】

| | | (件・%) | | | | | | | | | | |
|----|-------------|-------------|---------------|---------------------------|----------|----------|------------|----------------|---------------|------|-----------|------|
| 全体 | 複合ショッピングモール | ウインドウショッピング | ペット(遊ぶ、世話をする) | SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション | ヨガ、ピラティス | ボランティア活動 | 農園(市民農園など) | エステティック、ホームエステ | クルージング(客船による) | 自由記述 | 特に何もしていない | |
| | | 15.7 | 11.2 | 8.7 | 6.2 | 3.3 | 2.9 | 2.1 | 1.6 | 1.1 | 0.8 | 17.4 |
| | 20,000 | 15.7 | 11.2 | 8.7 | 6.2 | 3.3 | 2.9 | 2.1 | 1.6 | 1.1 | 0.8 | 17.4 |

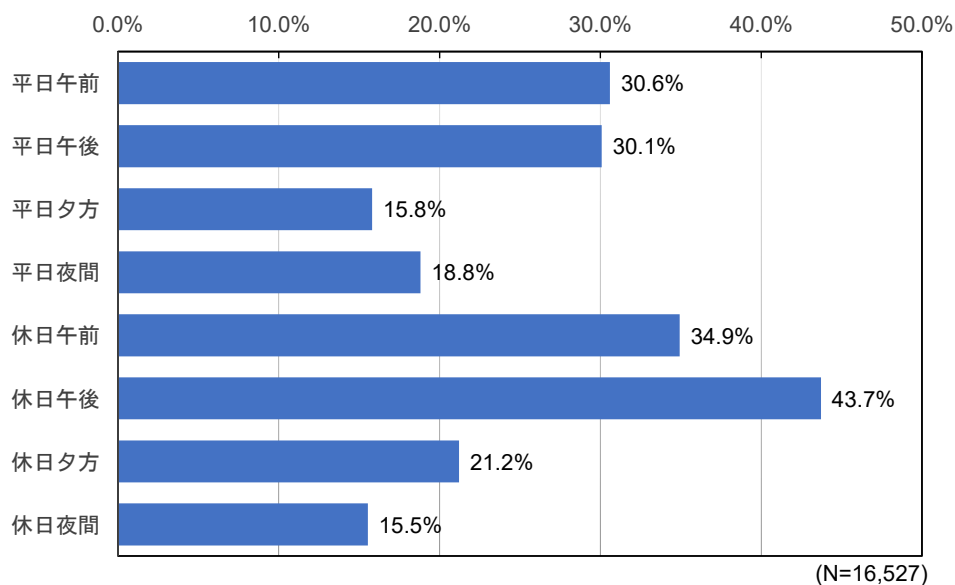
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通2 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。



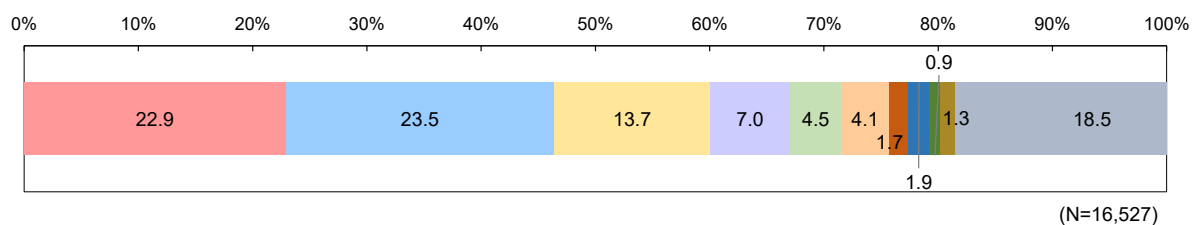
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通3 あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。(複数回答)



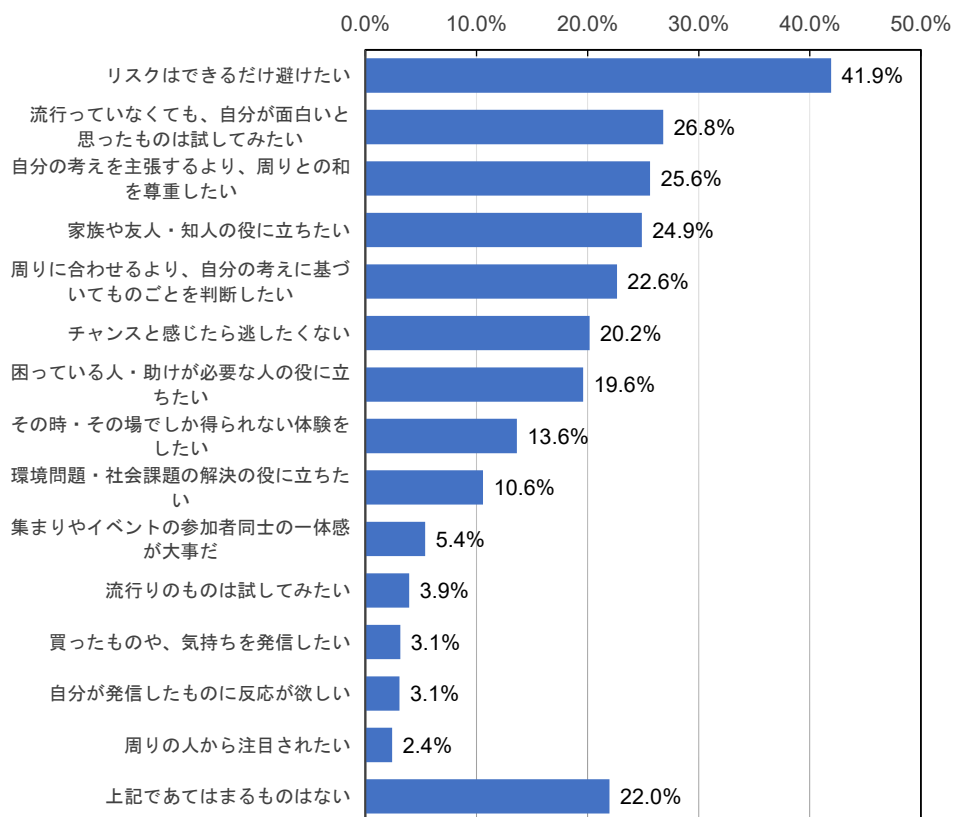
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通4 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。



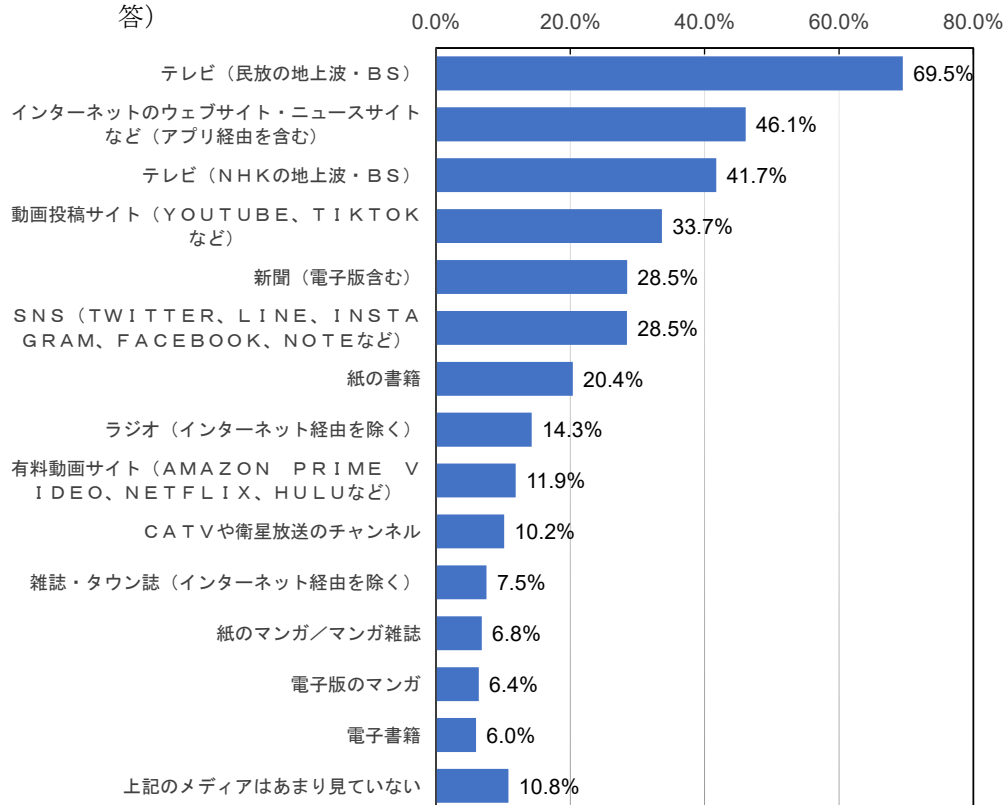
- 1時間未満
- 1時間以上～2時間未満
- 2時間以上～3時間未満
- 3時間以上～4時間未満
- 4時間以上～5時間未満
- 5時間以上～6時間未満
- 6時間以上～7時間未満
- 7時間以上～8時間未満
- 8時間以上～9時間未満
- 9時間以上～10時間未満
- 10時間以上

共通5 下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。(複数回答)



(N=20,000)

共通6 下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(複数回答)



(N=20,000)

3. 単純集計の結果について

■全調査対象者への設問（FQ2：香道の経験・体験の有無）

香道を経験した者、あるいは全く触れたことがない者がどの程度いるのかは、統計調査等では明らかとなっていない。加えて、香道の「経験」にも深度があり、いわゆる稽古場や教室等で習った経験がある者や、稽古場や教室等で教える立場にいる者、あるいは、イベント等で香道の体験をしたことがある者等がいると想定される。経験の有無を大別するならば、教室等で習ったあるいは教える立場にいる者、イベント等で体験をした者、そして経験をしたことがない者に分けることができると考えられる。

本設問では、上記の想定に基づき、香道の経験の有無とあわせて、経験の深度を図る選択肢を設けて、実態の把握を行った。

FQ2 香道の経験の有無

経験率を見ると、「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」（以下、「経験あり」）回答比率は 2.0%（391 人）、「学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある」（以下、「参加体験あり」）6.1%（1,227 人）、「今まで経験したことはない」（以下「未経験」）91.9%（18,382 人）となった。

「経験あり」「参加体験あり」の回答比率とも、男女で大きな差はない。

年齢別では、「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者共に 18～20 代が最も多く、年齢が高くなるに連れて減少し、60 代から逆に増加するという傾向となっており、現役世代の「経験あり」、「参加体験あり」の回答比率が低い結果となった。

| | | n= | (%) | | |
|----|-------------|--------|----------------------------|-----------------------------------|--------------|
| | | | 習っている(いた)、あるいは教える立場にいる(いた) | 学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある | 今まで経験したことはない |
| 全体 | | 20,000 | 2.0 | 6.1 | 91.9 |
| 性別 | 男 | 9,645 | 1.8 | 5.5 | 92.7 |
| | 女 | 10,202 | 2.1 | 6.8 | 91.1 |
| | それ以外/答えたくない | 153 | 0.7 | 4.6 | 94.8 |
| 年齢 | 18～20代 | 2,781 | 3.2 | 8.5 | 88.3 |
| | 30代 | 2,691 | 2.7 | 7.2 | 90.1 |
| | 40代 | 3,496 | 1.6 | 5.1 | 93.3 |
| | 50代 | 3,178 | 1.0 | 4.7 | 94.3 |
| | 60代 | 3,002 | 1.6 | 5.1 | 93.3 |
| | 70代以上 | 4,852 | 1.9 | 6.5 | 91.6 |

図1 FQ2：香道の経験の有無

■香道を「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問（BQ1～BQ8：経験者の実態把握）

本設問群では、香道を経験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会香道を習うようになったのか、興味関心を持っているのか等、経験の実態を把握するためのアンケートを実施した。

BQ1 香道を習い始めたきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」の31.2%で、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」25.3%、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」22.3%、「趣味や教養として、香道に興味関心があった」21.5%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（31.4%）の回答が全体平均より高く、女性は「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（19.1%）の回答比率が高い。

次に、年齢別で見ると、10～30代で「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」、「学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」の回答比率が全体平均よりも高い。

経験年数別で見ると、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」、「趣味や教養として、香道に興味関心があった」については、経験年数が長いほど回答比率が高くなっている。

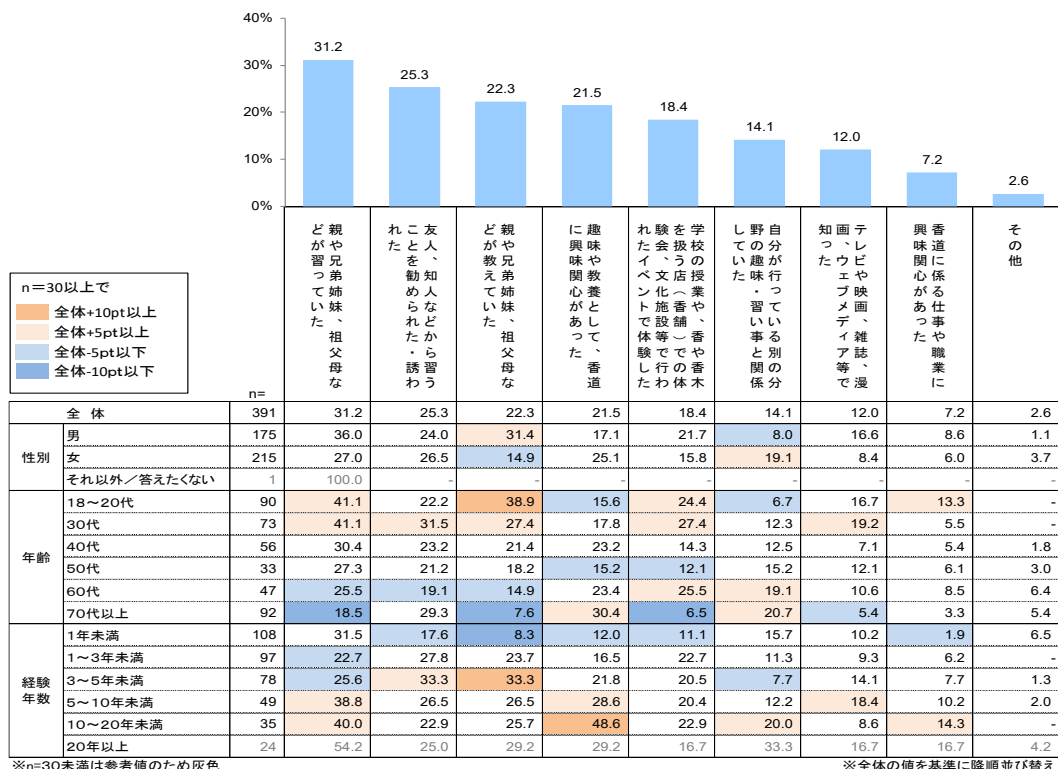


図2 BQ1：香道を習い始めたきっかけ

（その他の内容）茶道の一環として習った

BQ2 香道を始めた当初の習い方

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や知人等、身近な人に習っていた」の41.2%で、次いで「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」30.2%、「カルチャーセンターの講座で習っていた」27.1%、「稽古場や教室で習っていた」21.2%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」(43.4%)が全体平均より高く、女性では(19.5%)と低い。逆に「稽古場や教室で習っていた」では、男性(14.9%)が低く、女性(26.5%)が高い。

次に年齢別では、10~30代で「カルチャーセンターの講座で習っていた」の回答比率が高く、10~40代で「稽古場や教室で習っていた」の回答比率が低い傾向が見られる。

また、経験年数別で見た場合、3~10年未満の者は、「カルチャーセンターの講座で習っていた」傾向が高く、10年以上の者は「稽古場や教室で習っていた」傾向が高い。

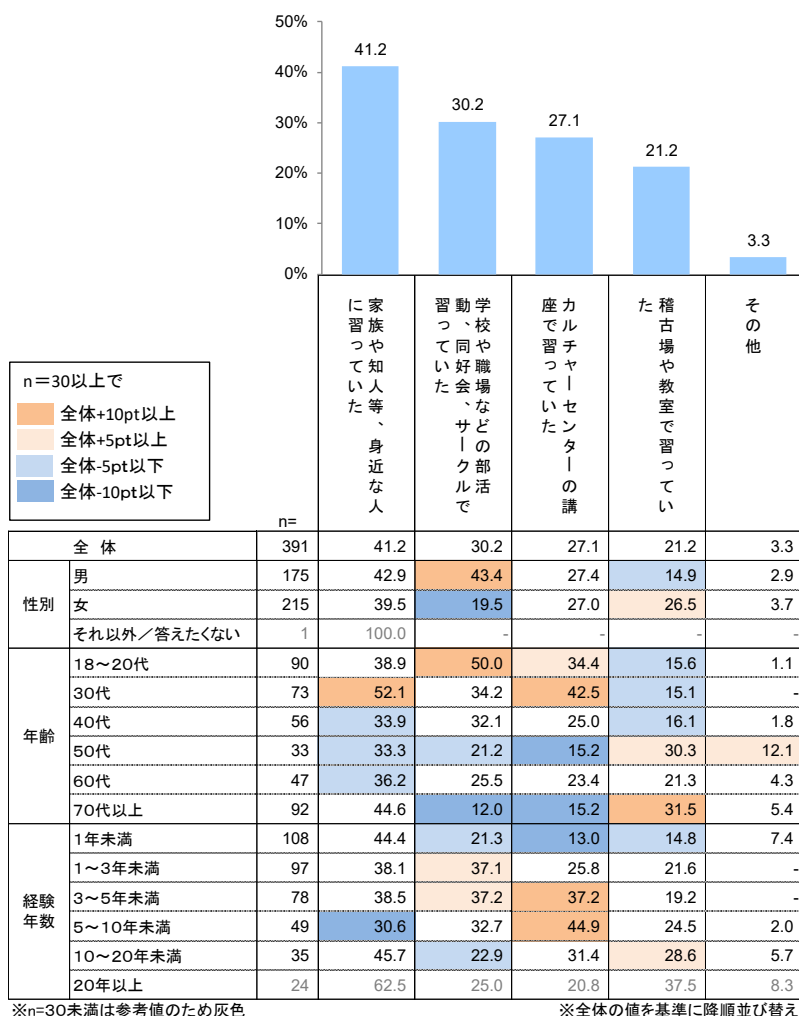


図3 BQ2：香道を始めた当初の習い方

(その他の内容) 販売の仕事をしていた、お茶会の中でやっていた

B Q 2 補問 当初の習い方を選んだ理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所だった」の36.3%で、次いで「家族や友人等と一緒に良かった」33.2%、「費用が手頃だった」21.7%、「通いやすい時間帯だった」16.6%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「手軽に習って見たかった」(8.0%)の回答比率が低い。

次に、年齢別で見ると、10~30代で「道具等が借りられた」の回答比率が高い傾向がある。また、「手軽に習って見たかった」については、10~30代の回答比率が全体平均より低く、50代以上で高い。

経験年数別では、経験年数10年以上で「家族や友人等と一緒に良かった」、「道具等が借りられた」、「手軽に習って見たかった」、「本格的に習って見たかった」など多くの選択肢の回答比率が全体平均より高い一方、1年未満では「特に理由はない、わからない」を除く全てにおいて全体平均より低い。

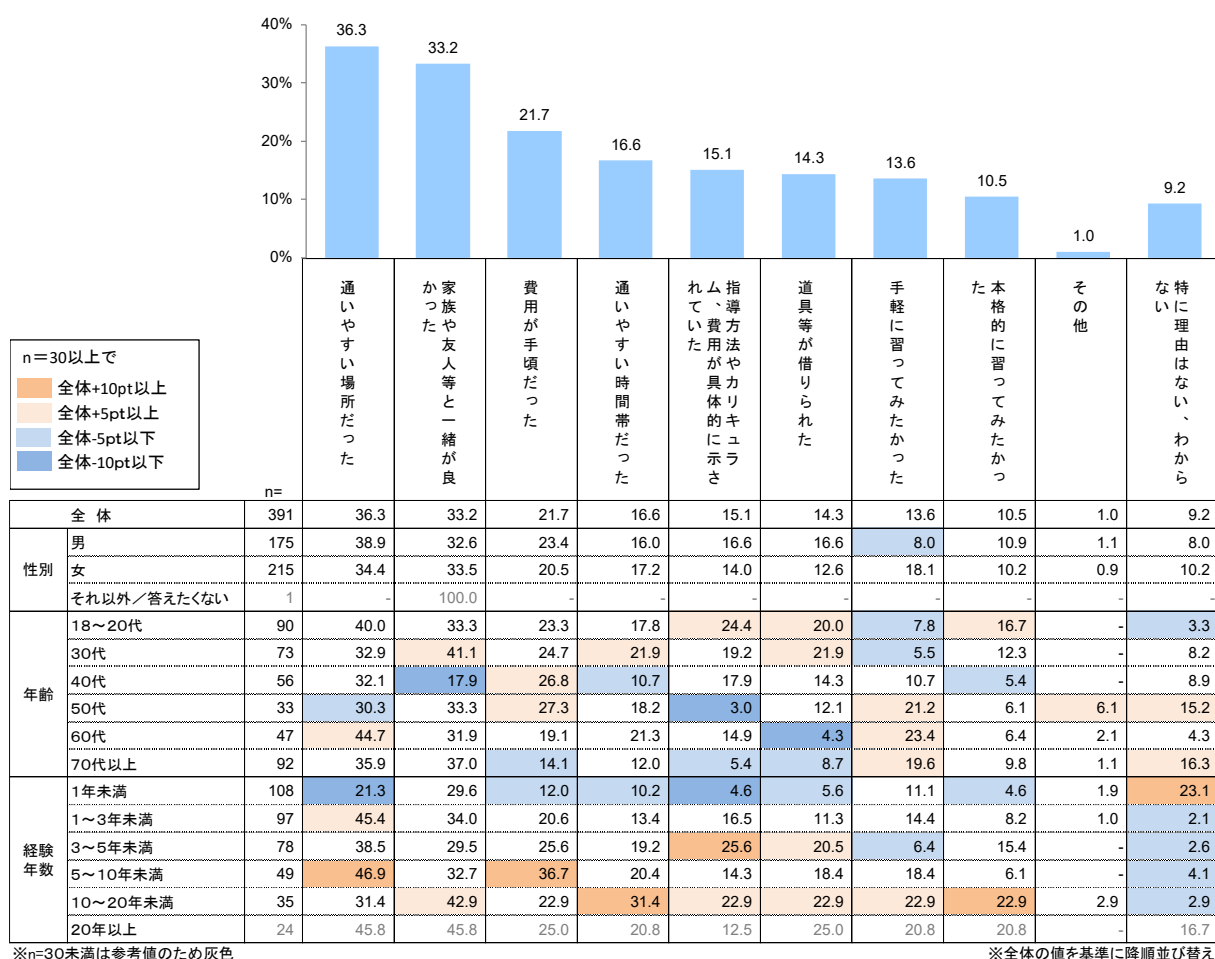


図4 B Q 2 補問：当初の習い方を選んだ理由

(その他の内容) 販売の仕事をしていた、茶道の中で

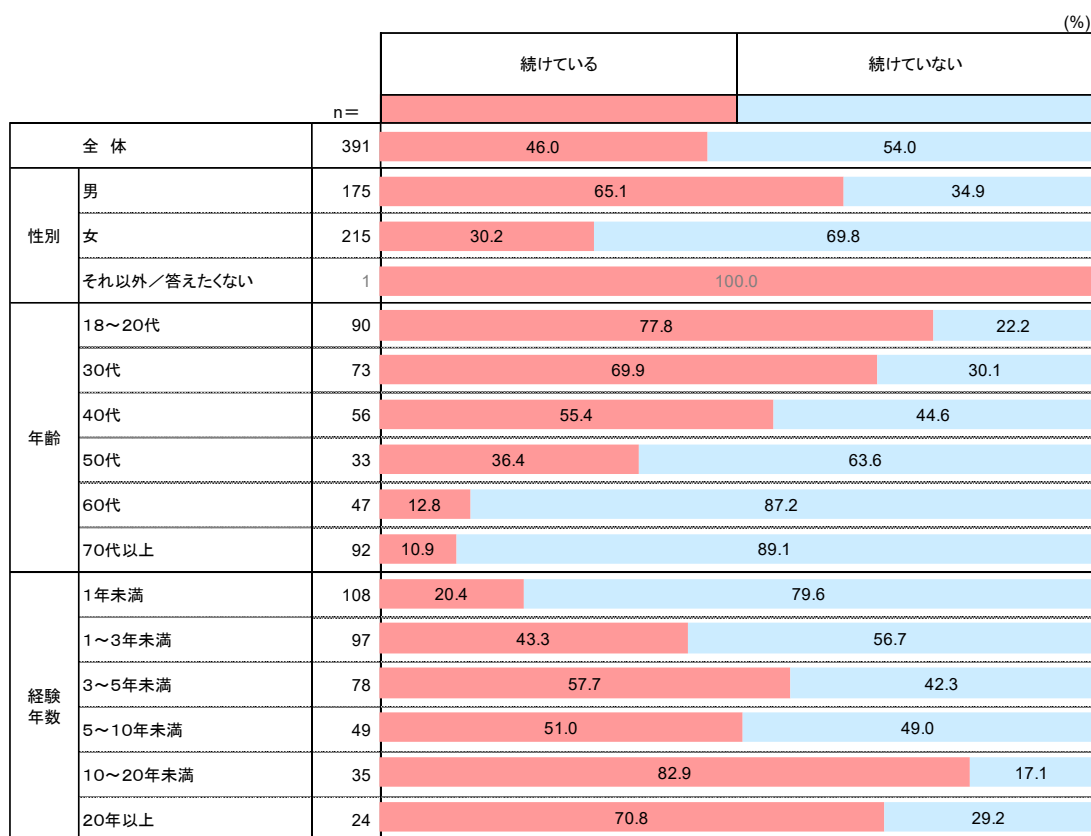
BQ3 現在の継続状況

継続状況については、「続けている」46.0%（180人）、「続けない」54.0%（211人）と、続けないとの回答比率が高い。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「続けない」が34.9%と低く、女性で69.8%と高い。

次に、年齢別で見ると、年代が上がっていくに従って、継続率が下がっていく傾向が見られる。

経験年数別は3年以上で「続けている」という回答が半数を上回り、10年以上では7割以上が継続していることが分かる。



※n=30未満は参考値のため灰色

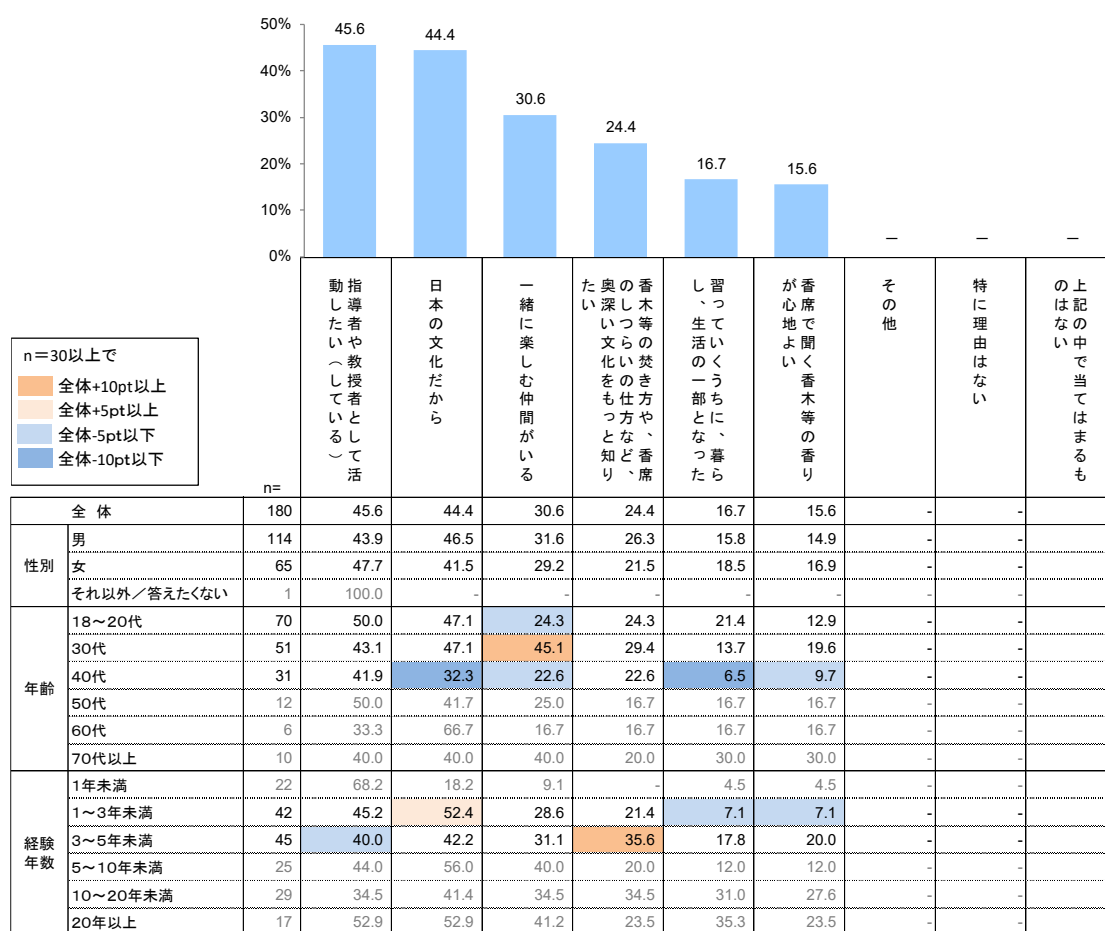
図5 BQ3：現在の継続状況

BQ3補問1 香道を続けている理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「指導者や教授者として活動したい（している）」の45.6%で、次いで「日本の文化だから」44.4%、「一緒に楽しむ仲間がいる」30.6%、「香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」24.4%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、年齢別では、30代で「一緒に楽しむ仲間がいる」（45.1%）の回答比率が全体平均より高い一方、40代では「日本の文化だから」（32.3%）をはじめ、複数の項目で回答比率が全体平均より低い。

また、経験年数別では、1～3年未満の者は、「日本の文化だから」（52.4%）の回答比率が高い一方、「習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった」、「香席で聞く香木等の香りが心地よい」（共に7.1%）と低い。また、3～5年未満の者は、「香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」（35.6%）の回答比率が高い一方、「指導者や教授者として活動したい（している）」（40.0%）の回答比率が低く、経験年数によって、継続理由が異なる傾向がうかがえる。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図6 BQ3補問1：香道を続けている理由

BQ3補問2 香道から離れたきっかけや理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「時間がなくなった」の36.0%で、次いで「近くに習う場所がなくなった」25.6%、「興味を失った」17.1%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「時間がなくなった」(29.5%)、「近くに習う場所がなくなった」(19.7%)の回答比率が低い。

年齢別で見ると、60代で「当初目標としていたことが達成できた」(17.1%)、70代以上で「一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった」(15.9%)の回答比率が高い。

また、経験年数別では、5年未満の者は「当初目標としていたことが達成できた」の回答比率が高い傾向にある。また、3～5年未満の者の場合は、「経済的に続けるのが難しくなった」(18.2%)の回答比率も高いが、「時間がなくなった」(24.2%)の回答比率は低い。

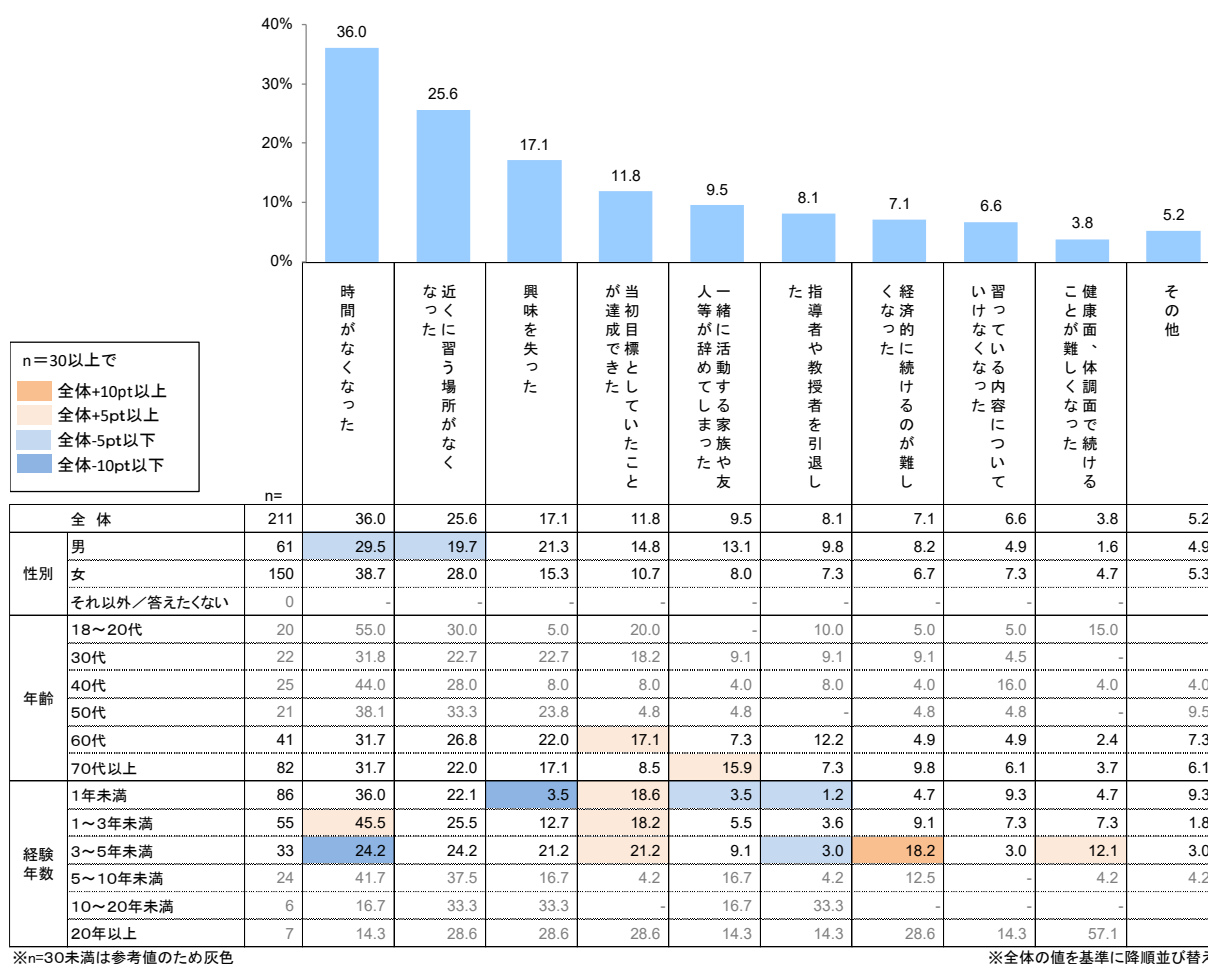


図7 BQ3補問2：香道から離れたきっかけや理由

(その他の内容) 転居が多かった、退部した、お茶をやめた

BQ4 香道を続けている（続けていた）年数

全体平均で最も回答比率が高いのは「1年未満」の27.6%で、次いで「1～3年未満」24.8%、「3～5年未満」19.9%となっている。全体平均で3年以上続けている（いた）人の回答比率は47.6%となっている。

男女別では、3年以上継続している者は、男性で50.9%（175人中89人）、女性で44.7%（215人中96人）となっており、男性の方が長く続けている（いた）人の割合が高いことが分かる。

| | | n= | 1年未満 | 1～3年未満 | 3～5年未満 | 5～10年未満 | 10～20年未満 | 20年以上 | 3年以上 |
|----|-------------|-----|-------|--------|--------|---------|----------|-------|-------|
| 全体 | | 391 | 27.6 | 24.8 | 19.9 | 12.5 | 9.0 | 6.1 | 47.6 |
| 性別 | 男 | 175 | 25.1 | 24.0 | 20.0 | 13.1 | 13.1 | 4.6 | 50.9 |
| | 女 | 215 | 29.8 | 25.6 | 20.0 | 12.1 | 5.1 | 7.4 | 44.7 |
| | それ以外／答えたくない | 1 | 100.0 | | | | | | 100.0 |
| 年齢 | 18～20代 | 90 | 22.2 | 24.4 | 28.9 | 13.3 | 6.7 | 4.4 | 53.3 |
| | 30代 | 73 | 26.0 | 30.1 | 20.5 | 9.6 | 8.2 | 5.5 | 43.8 |
| | 40代 | 56 | 23.2 | 12.5 | 25.0 | 16.1 | 17.9 | 5.4 | 64.3 |
| | 50代 | 33 | 33.3 | 15.2 | 15.2 | 21.2 | 15.2 | | 51.5 |
| | 60代 | 47 | 29.8 | 38.3 | 6.4 | 8.5 | 6.4 | 10.6 | 31.9 |
| | 70代以上 | 92 | 33.7 | 25.0 | 16.3 | 10.9 | 5.4 | 8.7 | 41.3 |

※n=30未満は参考値のため灰色

図8 BQ4：香道を続けている（続けていた）年数

BQ5 香道に関する活動内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「教室や稽古場で習っている（いた）」の50.1%で、次いで「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」30.2%、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」27.9%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」(36.0%)、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」(33.1%)の回答比率が高い。

次に年齢別では、10～30代で「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」の回答比率が高い一方で、60代以上では低くなっている。また、10～30代では「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」や「指導者や教授者として教えている（いた）」の回答比率が高い。

経験年数別では、3～5年未満及び10年～20年以上で「指導者や教授者として教えている（いた）」という回答比率が高くなっている。

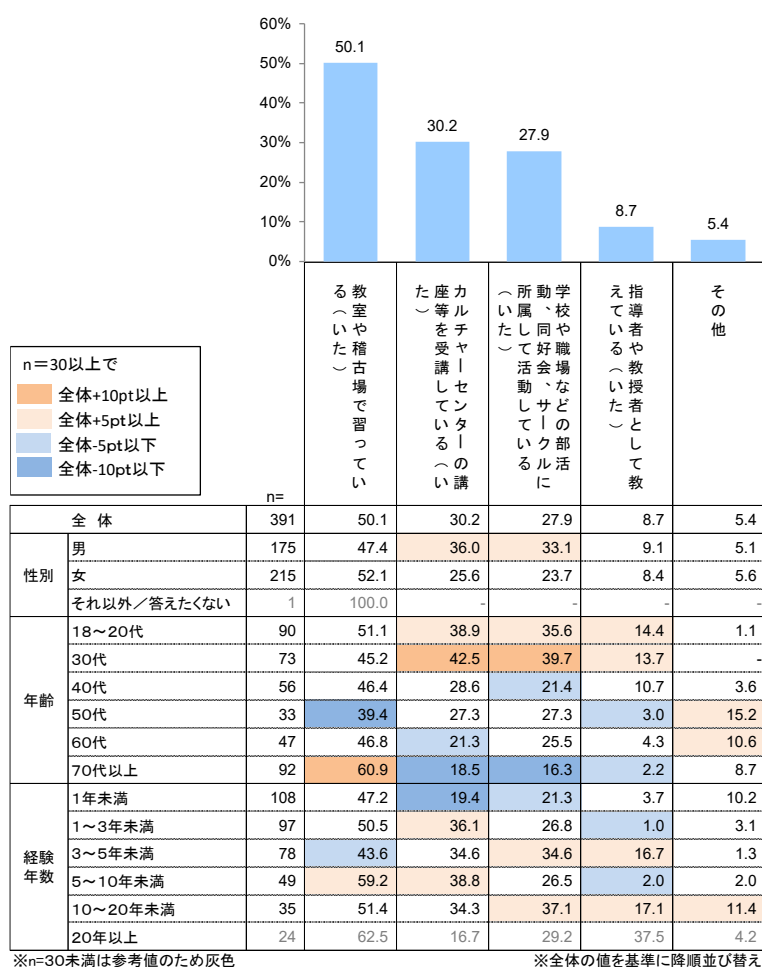


図9 BQ5：香道に関する活動内容

(その他の内容) 日常的に楽しんでいる、販売の仕事をしている、独学

BQ6 香道に関する活動頻度

全体平均で最も回答比率が高いのは「週1回程度」の23.3%で、次いで「月数回程度」17.4%、「月1回程度」14.1%と続く。週1回以上活動している（いた）回答比率は50.9%（391人中199人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で週1回以上活動している（いた）回答比率が58.9%（175人中103人）、女性で44.2%（215人中95人）となっている。

年齢別で見ると、10～30代で、週1回以上活動している（いた）回答比率が全体平均を上回っている。

また、経験年数別では、経験年数が1～10年未満の者で「週1回程度」の回答比率が高い。

| | | n= | ほぼ毎日 | 週に2～3回 | 週1回程度 | 月数回程度 | 月1回程度 | 年数回程度 | 年1回程度 | (%) |
|------|-------------|-----|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全体 | | 391 | 13.8 | 13.8 | 23.3 | 17.4 | 14.1 | 6.4 | 11.3 | 50.9 |
| 性別 | 男 | 175 | 18.3 | 17.7 | 22.9 | 14.9 | 11.4 | 5.7 | 9.1 | 58.9 |
| | 女 | 215 | 9.8 | 10.7 | 23.7 | 19.5 | 16.3 | 7.0 | 13.0 | 44.2 |
| | それ以外/答えたくない | 1 | 100.0 | | | | | | | 100.0 |
| 年齢 | 18～20代 | 90 | 27.8 | 24.4 | 25.6 | 11.1 | 6.7 | 1.1 | 3.3 | 77.8 |
| | 30代 | 73 | 15.1 | 19.2 | 21.9 | 15.1 | 13.7 | 6.8 | 8.2 | 56.2 |
| | 40代 | 56 | 17.9 | 12.5 | 16.1 | 23.2 | 14.3 | 5.4 | 10.7 | 46.4 |
| | 50代 | 33 | 6.1 | 15.2 | 9.1 | 15.2 | 18.2 | 12.1 | 24.2 | 30.3 |
| | 60代 | 47 | 4.3 | 4.3 | 38.3 | 17.0 | 12.8 | 6.4 | 17.0 | 46.8 |
| | 70代以上 | 92 | 4.3 | 4.3 | 23.9 | 22.8 | 20.7 | 9.8 | 14.1 | 32.6 |
| 経験年数 | 1年未満 | 108 | 13.9 | 5.6 | 11.1 | 13.0 | 18.5 | 7.4 | 30.6 | 30.6 |
| | 1～3年未満 | 97 | 7.2 | 22.7 | 32.0 | 16.5 | 10.3 | 8.2 | 3.1 | 61.9 |
| | 3～5年未満 | 78 | 9.0 | 20.5 | 32.1 | 16.7 | 11.5 | 6.4 | 3.8 | 61.5 |
| | 5～10年未満 | 49 | 10.2 | 6.1 | 34.7 | 26.5 | 18.4 | 2.0 | 2.0 | 51.0 |
| | 10～20年未満 | 35 | 20.0 | 20.0 | 11.4 | 25.7 | 11.4 | 8.6 | 2.9 | 51.4 |
| | 20年以上 | 24 | 54.2 | | | | 8.3 | 12.5 | 12.5 | 12.5 |

※n=30未満は参考値のため灰色

図10 BQ6：香道に関する活動頻度

BQ7 香道に関する月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは月額「5,000円未満」の42.5%で、次いで「5,000円以上～10,000円未満」18.4%、「10,000円以上～15,000円未満」14.3%と続く。なお、月額1万円以上支出している（いた）と回答した比率は39.1%（391人中153人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、月額1万円以上支出の割合は、男性50.3%（175人中88人）、女性30.2%（215人中65人）と男女差が見られる。

次に、年齢別で見ると、年齢が低いほど、月額1万円以上支出している（いた）割合が高いことが分かる。

経験年数別では、経験年数1年未満の者は月額「5,000円未満」（77.8%）の回答比率が高い一方、経験年数が1年以上の者は月額5,000円以上支出している（いた）割合が高い。

| | | n= | 5,000円未満 | 5,000円以上～10,000円未満 | 10,000円以上～15,000円未満 | 15,000円以上～20,000円未満 | 20,000円以上～25,000円未満 | 25,000円以上～30,000円未満 | 30,000円以上～35,000円未満 | 35,000円以上～40,000円未満 | 40,000円以上～45,000円未満 | 45,000円以上～50,000円未満 | 50,000円以上 | 合計 |
|------|-------------|-----|----------|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-----------|------|
| 全体 | | 391 | 42.5 | 18.4 | 14.3 | 7.2 | 5.4 | 3.8 | 2.3 | 1.0 | 1.0 | 0.8 | 3.3 | 39.1 |
| 性別 | 男 | 175 | 34.3 | 15.4 | 18.3 | 10.3 | 6.3 | 3.4 | 4.0 | 0.6 | 1.7 | 1.1 | 4.6 | 50.3 |
| | 女 | 215 | 48.8 | 20.9 | 11.2 | 4.7 | 4.7 | 4.2 | 0.9 | 1.4 | 0.5 | 0.5 | 2.3 | 30.2 |
| | それ以外／答えたくない | 1 | 100.0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 年齢 | 18～20代 | 90 | 24.4 | 17.8 | 15.6 | 14.4 | 13.3 | 3.3 | 4.4 | - | 2.2 | 2.2 | 2.2 | 57.8 |
| | 30代 | 73 | 32.9 | 13.7 | 17.8 | 13.7 | 5.5 | 4.1 | 4.1 | - | - | - | 4.1 | 53.4 |
| | 40代 | 56 | 35.7 | 19.6 | 10.7 | 5.4 | 3.6 | 10.7 | 3.6 | 1.8 | 1.8 | - | 7.1 | 44.6 |
| | 50代 | 33 | 51.5 | 18.2 | 21.2 | - | - | - | - | - | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 30.3 |
| | 60代 | 47 | 44.7 | 31.9 | 17.0 | 2.1 | - | - | - | - | - | - | 4.3 | 23.4 |
| | 70代以上 | 92 | 67.4 | 15.2 | 8.7 | 1.1 | 3.3 | 3.3 | - | - | - | - | 1.1 | 17.4 |
| 経験年数 | 1年未満 | 108 | 77.8 | 13.9 | 4.6 | 1.9 | 0.9 | - | - | - | 0.9 | - | - | 8.3 |
| | 1～3年未満 | 97 | 37.1 | 25.8 | 19.6 | 7.2 | 3.1 | 3.1 | 3.1 | 1.0 | - | - | - | 37.1 |
| | 3～5年未満 | 78 | 24.4 | 23.1 | 16.7 | 11.5 | 11.5 | 3.8 | 5.1 | 2.6 | 1.3 | - | - | 52.6 |
| | 5～10年未満 | 49 | 26.5 | 16.3 | 16.3 | 10.2 | 6.1 | 12.2 | 4.1 | - | 4.1 | 4.1 | - | 57.1 |
| | 10～20年未満 | 35 | 22.9 | 11.4 | 22.9 | 5.7 | 11.4 | 5.7 | - | 2.9 | - | 2.9 | 14.3 | 65.7 |
| | 20年以上 | 24 | 25.0 | 8.3 | 12.5 | 12.5 | 4.2 | 4.2 | - | - | - | - | 33.3 | 66.7 |

※n=30未満は参考値のため灰色

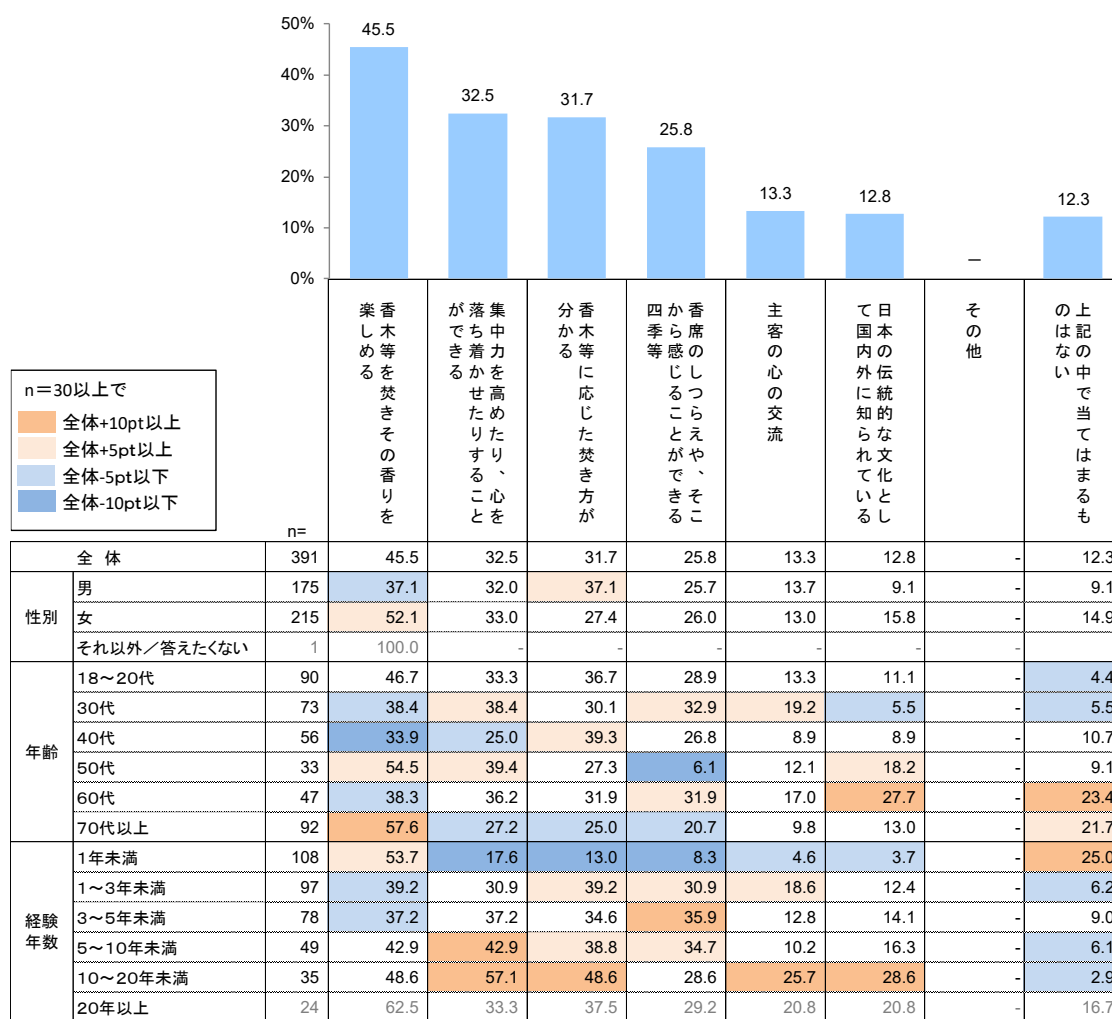
図11 BQ7：香道に関する月額費用

BQ8 香道に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「香木等を焚きその香りを楽しめる」の45.5%で、次いで「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」32.5%、「香木等に応じた焚き方が分かる」31.7%、「香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」25.8%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、「香木等を焚きその香りを楽しめる」の全体平均45.5%に対し、男性の回答比率が37.1%と低い一方で、女性は52.1%と高い。また、「香木等に応じた焚き方が分かる」では男性（37.1%）の回答比率が高い。

経験年数別では、経験年数10年以上で「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」の回答比率が高い。また、経験年数10～20年未満の者は、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」（57.1%）をはじめ、複数の項目で回答比率が全体平均より高く、経験年数が長いほど、関心や魅力も広がる傾向がうかがえる。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図12 BQ8：香道に関する興味関心や魅力

■香道を「学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある」と回答した者への設問（BQ9～BQ15：参加体験者の実態把握）

本設問では、香道をイベント等で体験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会香道を体験したのか、また、どの程度香道に興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

BQ9 香道を体験したきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校や、香や香木を扱う店（香舗）、文化施設等で体験イベントが行われていた」の36.2%で、次いで「友人、知人などから勧められた・誘われた」23.0%、「趣味や教養として、香道に興味関心があった」16.5%、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」13.6%、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」12.8%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、10～30代で「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」の回答比率が高く、対照的に60代以上では回答比率が低い傾向にある。

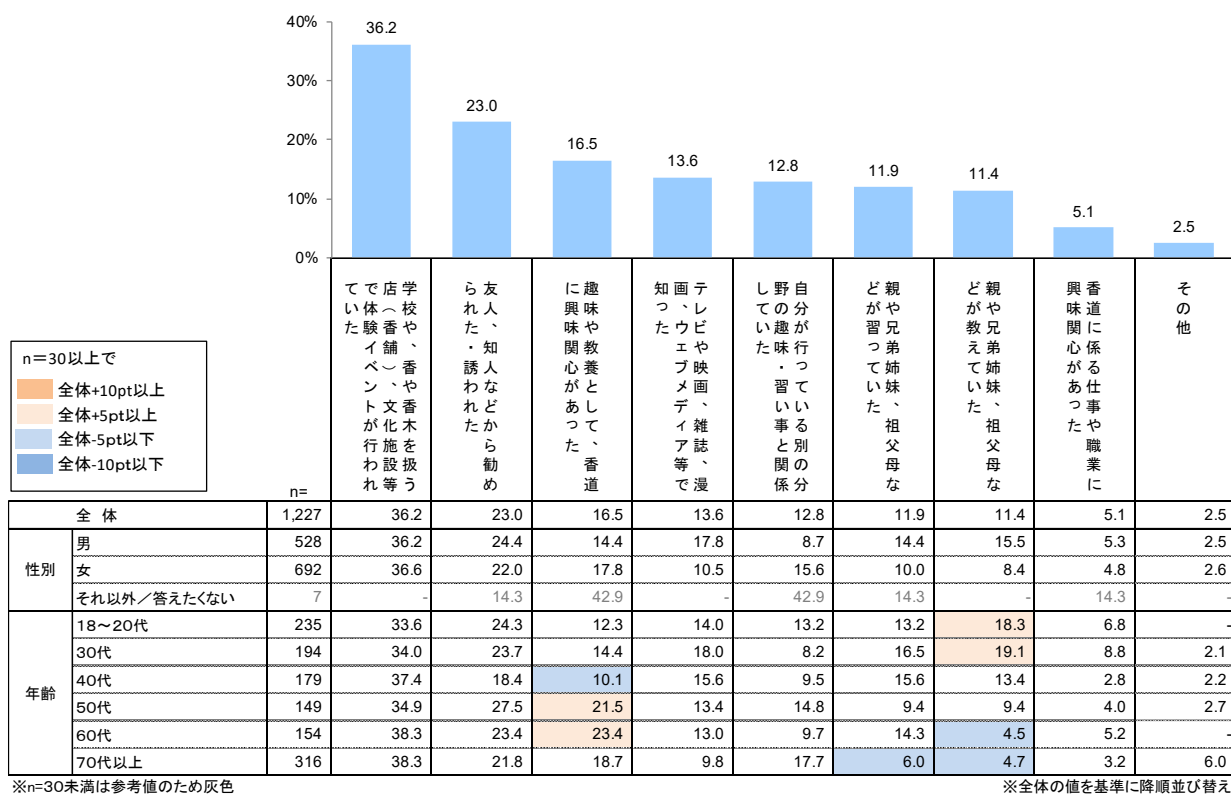


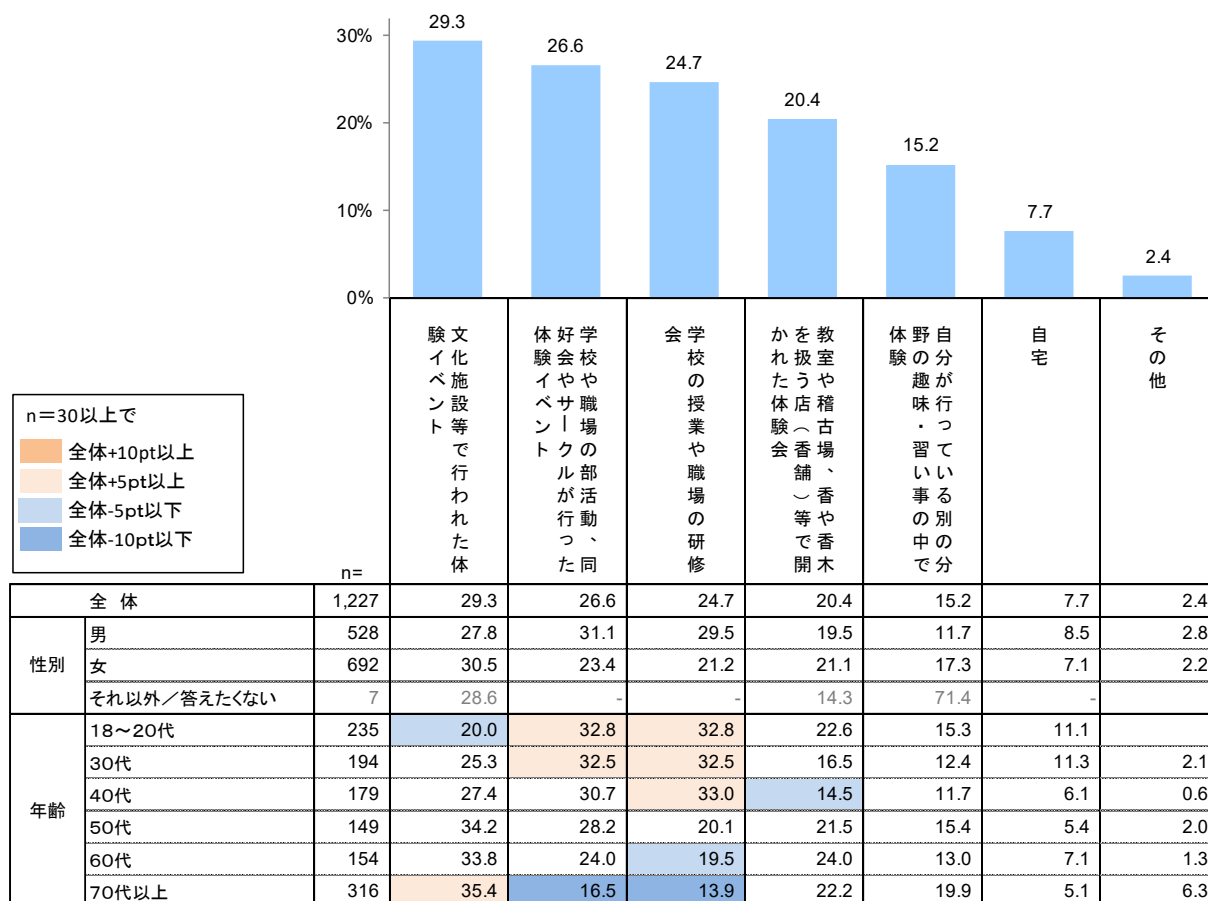
図13 BQ9：香道を体験したきっかけ

（その他の内容）大学の授業、職場での研修の一環

BQ10 香道を体験した場

全体平均で最も回答比率が高いのは「文化施設等で行われた体験イベント」の29.3%で、次いで「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」26.6%、「学校の授業や職場の研修会」24.7%、「教室や稽古場、香や香木を扱う店（香舗）等で開かれた体験会」20.4%となる。

全体平均と年齢別の回答比率とを比較すると、若年者ほど「学校の授業や職場の研修会」、「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」の回答比率が高い。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

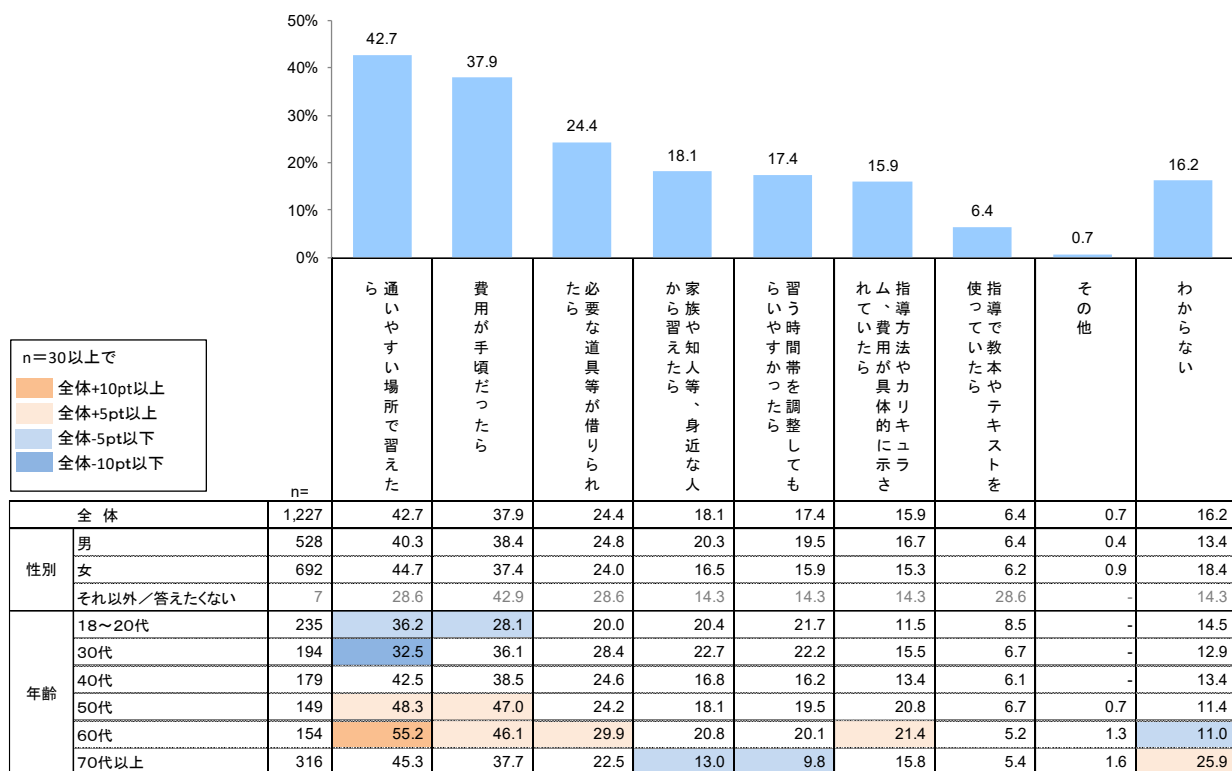
図14 BQ10：香道を体験した場

(その他の内容) 友人の家、仕事

BQ11 香道を習いやすい状況

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所で習えたら」の42.7%で、次いで「費用が手頃だったら」37.9%、「必要な道具等が借りられたら」24.4%、少し離れて「家族や知人等、身近な人から習えたら」18.1%、「習う時間帯を調整してもらいやすかったら」17.4%と並ぶ。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較した場合、10～30代で「通いやすい場所で習えたら」の回答比率がやや低い一方、50～60代でやや高い。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図 15 BQ11：香道を習いやすい状況

(その他の内容) 茶会、香炉や炭が有るから自宅で楽しんでいる

BQ12 香道に支払える月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは「5,000円未満」の55.1%で、次いで「5,000円以上～10,000円未満」23.1%、「10,000円以上～15,000円未満」8.5%となった。月額1万円以上支払ってもよいとした回答比率は21.8%（1,227人中268人）である。

次に男女別を見ると、男性で月額1万円以上支払ってもよいという回答比率が31.4%（528人中166人）あったのに対し、女性は14.5%（692人中100人）にとどまる。

また、年齢別では、年齢が若いほど月額1万円以上支払ってもよいという回答が増える傾向がある。

| | | n= | 5,000円未満 | 5,000円以上～10,000円未満 | 10,000円以上～15,000円未満 | 15,000円以上～20,000円未満 | 20,000円以上～25,000円未満 | 25,000円以上～30,000円未満 | 30,000円以上～35,000円未満 | 35,000円以上～40,000円未満 | 40,000円以上～45,000円未満 | 45,000円以上～50,000円未満 | 50,000円以上 | 合計 | (%) |
|----|-------------|-------|----------|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-----------|------|-----|
| 性別 | 全体 | 1,227 | 55.1 | 23.1 | 8.5 | 5.3 | 2.9 | 1.6 | 1.1 | 0.7 | 0.3 | 0.2 | 1.1 | 21.8 | |
| | 男 | 528 | 44.7 | 23.9 | 12.5 | 7.6 | 4.2 | 2.5 | 1.1 | 1.1 | 0.4 | 0.2 | 1.9 | 31.4 | |
| | 女 | 692 | 63.2 | 22.4 | 5.5 | 3.6 | 1.9 | 0.9 | 1.2 | 0.4 | 0.3 | 0.1 | 0.6 | 14.5 | |
| | それ以外／答えたくない | 7 | 42.9 | 28.6 | - | - | - | 14.3 | - | - | - | 14.3 | - | 28.6 | |
| 年齢 | 18～20代 | 235 | 37.0 | 26.8 | 11.5 | 9.4 | 4.3 | 3.4 | 2.1 | 1.3 | 0.4 | 1.3 | 2.6 | 36.2 | |
| | 30代 | 194 | 49.5 | 19.6 | 12.4 | 6.7 | 4.1 | 2.6 | 2.6 | 1.5 | - | - | 1.0 | 30.9 | |
| | 40代 | 179 | 49.7 | 23.5 | 10.1 | 7.8 | 4.5 | 1.1 | 1.1 | 1.1 | - | - | 1.1 | 26.8 | |
| | 50代 | 149 | 53.7 | 24.8 | 8.7 | 5.4 | 2.7 | 0.7 | 0.7 | - | 1.3 | - | 2.0 | 21.5 | |
| | 60代 | 154 | 61.0 | 27.9 | 7.8 | 1.3 | 0.6 | 0.6 | - | 0.6 | - | - | - | 11.0 | |
| | 70代以上 | 316 | 72.8 | 19.0 | 3.2 | 1.9 | 1.3 | 0.9 | 0.3 | - | 0.3 | - | 0.3 | 8.2 | |

※n=30未満は参考値のため灰色

図 16 BQ12：香道に支払える月額費用

BQ13 香道を習っていない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」の34.3%で、次いで「興味がなかった」27.5%、「習うための十分な時間が取れなかった」18.4%、「他の趣味や娯楽の方に 관심이向いている」17.1%となった。

年齢別では、若年者で「習うための授業料等の費用が確保できなかった」の回答比率が高い一方、50～60代では「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」の回答比率が高く、年代によって習っていない理由に異なる傾向が見られる。

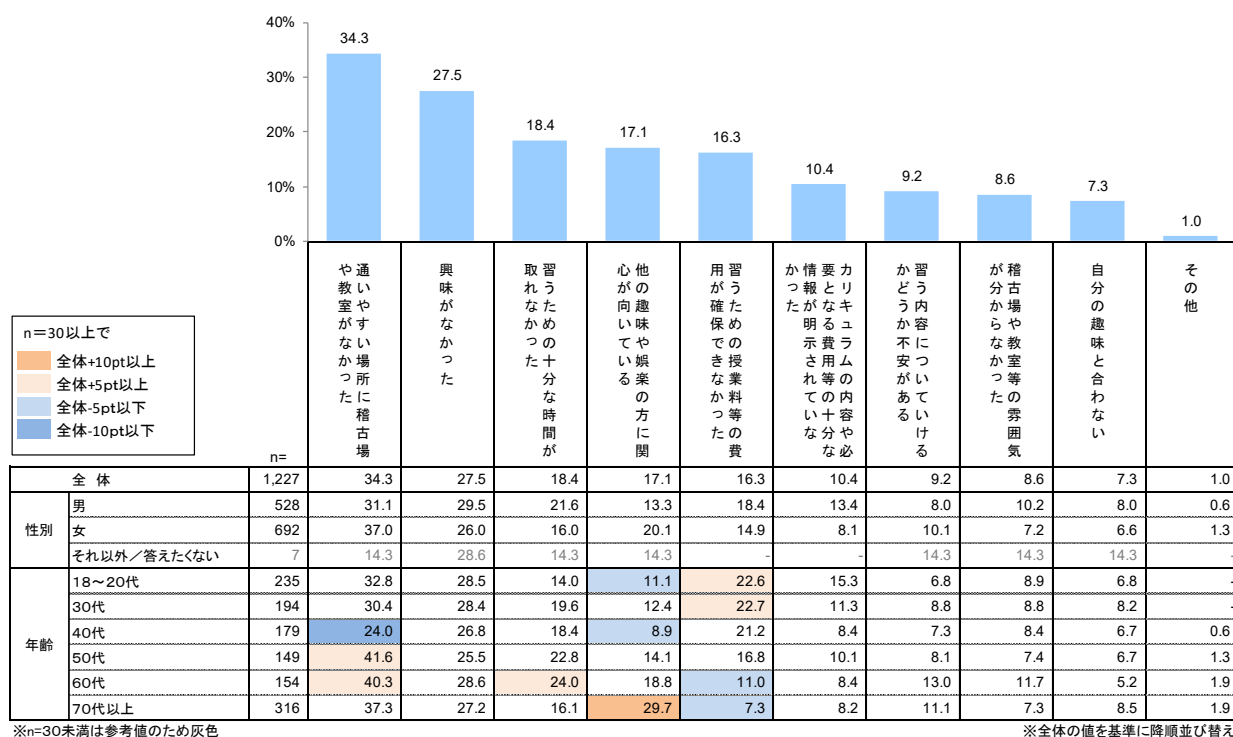


図17 BQ13：香道を習っていない理由

(その他の内容) 香料アレルギー、喘息だから、お金がかかる

BQ14 香道に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「香木等の香りが楽しめる」の43.5%で、次いで「日本の伝統文化への理解を深められる」40.1%、「暮らし、生活を豊かにしてくれる」30.9%、「作法、しきたりなどが複雑」24.1%、「月謝や道具等にお金がかかる」20.9%となっている。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、「香木等の香りが楽しめる」が男性で35.2%と低い一方、女性で49.7%と高い。

また、年齢別では、50代以上で「香木等の香りが楽しめる」、「日本の伝統文化への理解を深められる」の回答比率が全体平均よりも高い結果となっており、年代が高いほど肯定的なイメージを持っている傾向がある。

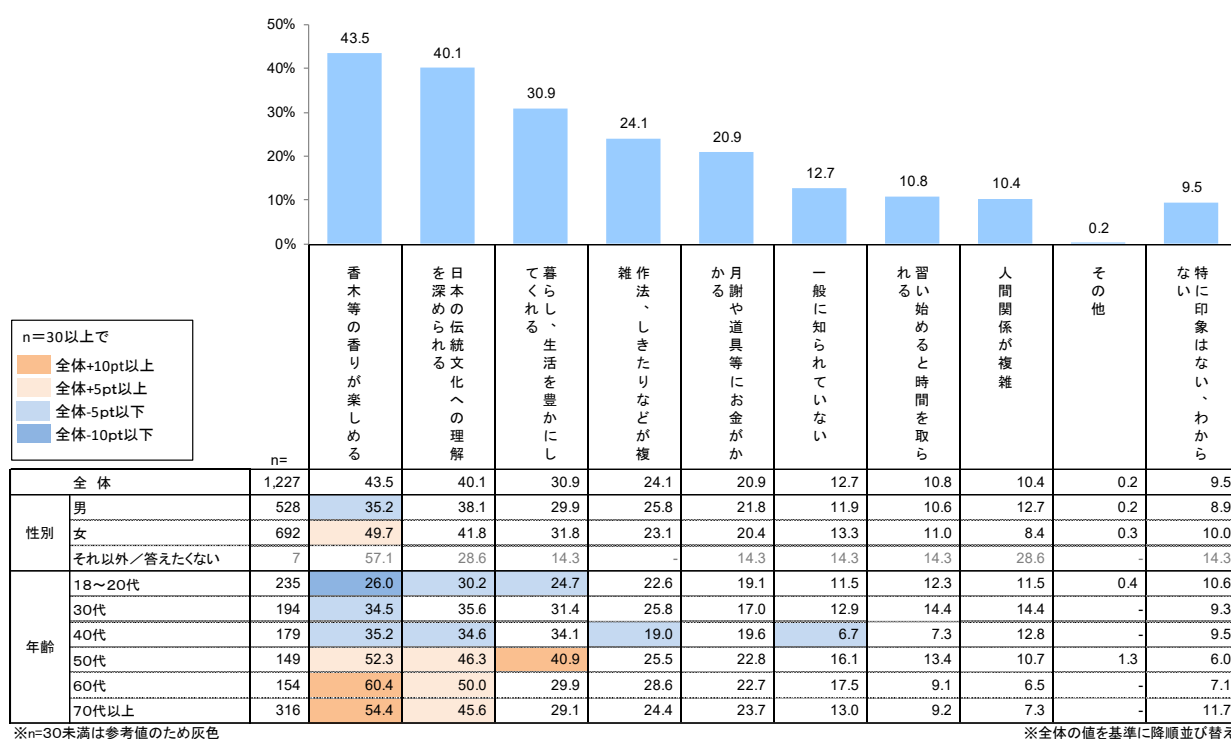


図 18 BQ14: 香道に対する印象やイメージ

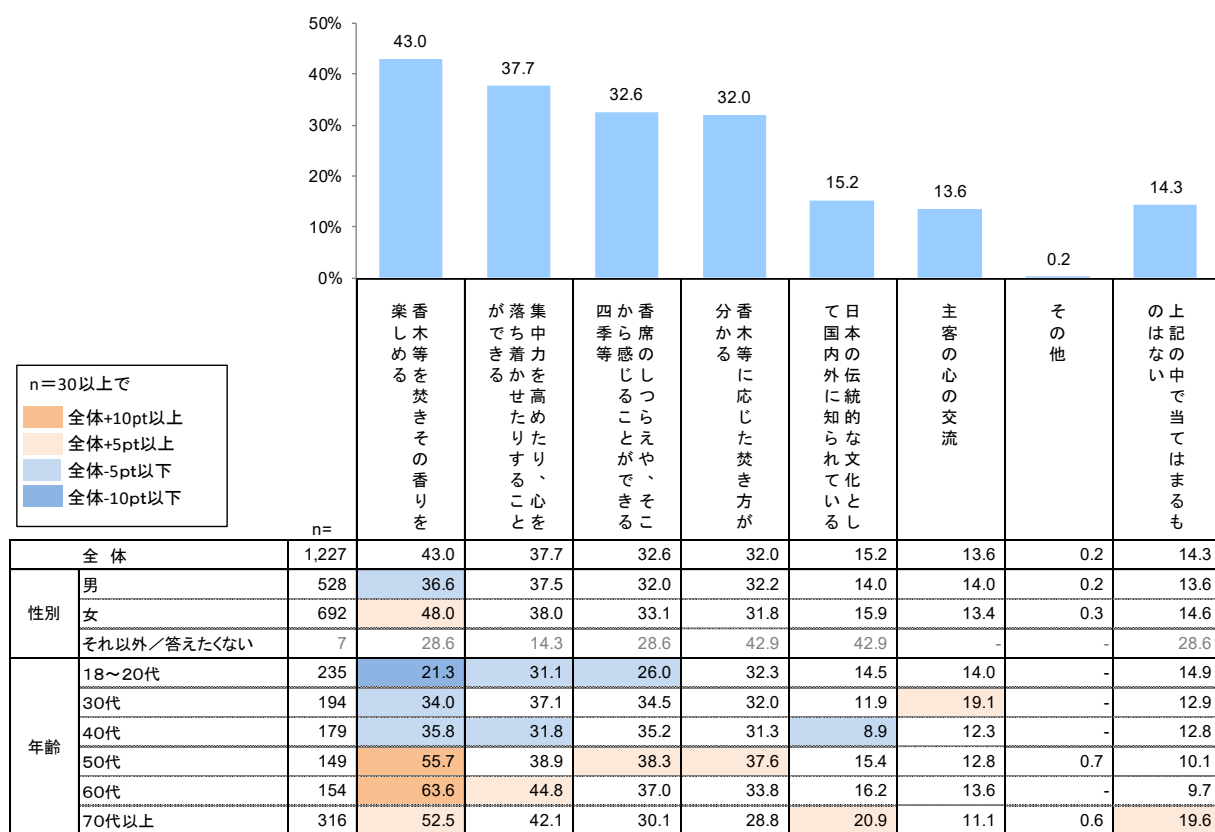
(その他の内容) 心が落ち着きそう、指導者がいない、教室がない

BQ15 香道に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「香木等を焚きその香りを楽しめる」の43.0%で、次いで「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」37.7%、「香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」32.6%、「香木等に応じた焚き方が分かる」32.0%、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」15.2%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、「香木等を焚きその香りを楽しめる」の回答比率が男性で36.6%、女性で48.0%となっており、回答比率に大きな差が見られる。

また、年齢別では、50代以上で「香木等を焚きその香りを楽しめる」の回答比率が全体平均よりも高い一方、10~40代は低い結果となっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図 19 BQ15：香道に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 生活が豊かになる、フレグランスとは違う日本中国独特の香り

■香道を「今まで経験したことはない」と回答した者への設問（BQ16～BQ20：未経験者の実態把握）

本設問では、香道を経験したことがないと回答した者が、香道を体験するなら、どのような内容や機会なら参加したいか、また、香道に対してどの程度、興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

BQ16 参加してみたい香道の体験内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の59.0%で、次いで「普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる」23.7%、「香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる」19.6%、「香道の歴史や意義を教えてくれる」12.8%、「香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる」11.3%となった。

男女別では、「上記の中で当てはまるものはない」の回答比率が男性で67.5%と高く、女性で50.5%と低い一方、「普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる」の回答比率は、男性が16.1%と低く、女性が31.3%と高い。

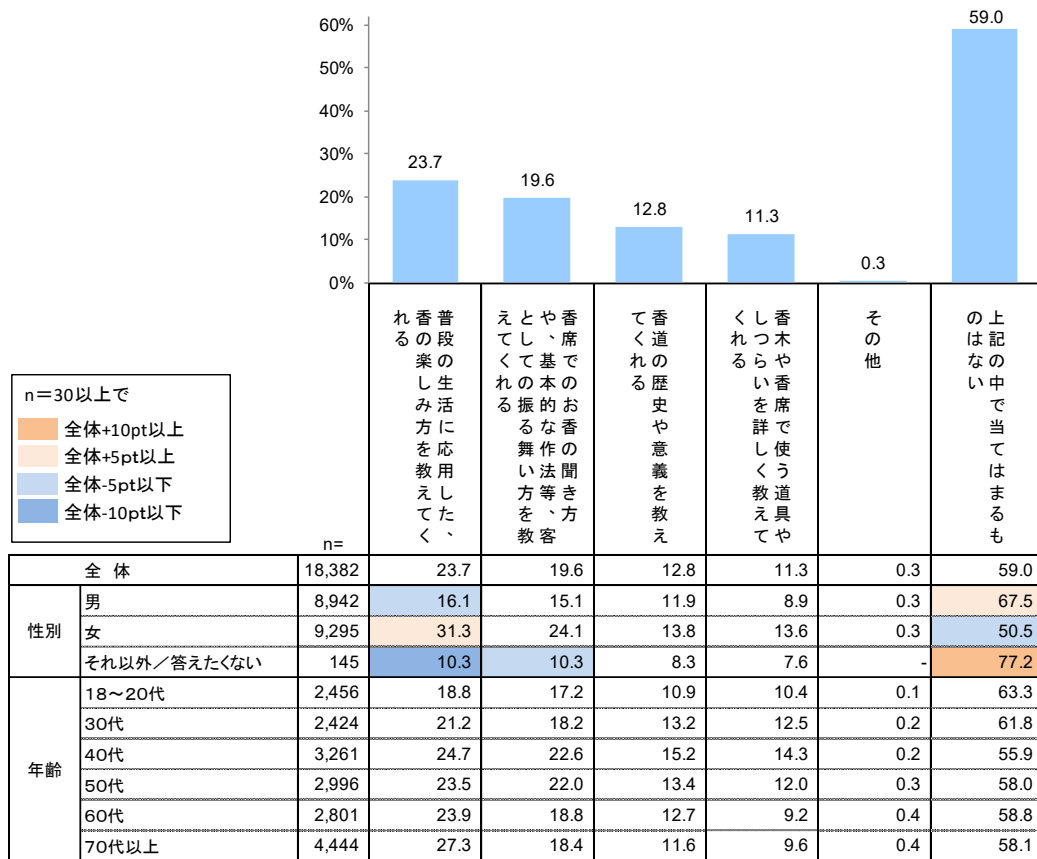


図 20 BQ16：参加してみたい香道の体験内容

(その他の内容) 正座をしなくてもいいなら、今の時代にあった香の楽しみ方で教えてくれる

B Q17 参加しやすい香道の体験条件

全体平均で最も回答比率が高いのは「わからない」の51.8%で、次いで「行きやすい場所で体験できたら」27.4%、「手ごろな参加費で参加できたら」26.7%、「家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら」17.3%、「初心者だけが参加できるような機会があれば」16.3%となる。

男女別で見ると、「行きやすい場所で体験できたら」の回答比率が女性で34.1%と高く、男性で20.8%と低い。また「手ごろな参加費で参加できたら」での回答比率も、女性で33.4%、男性で20.0%と女性の方が高い。

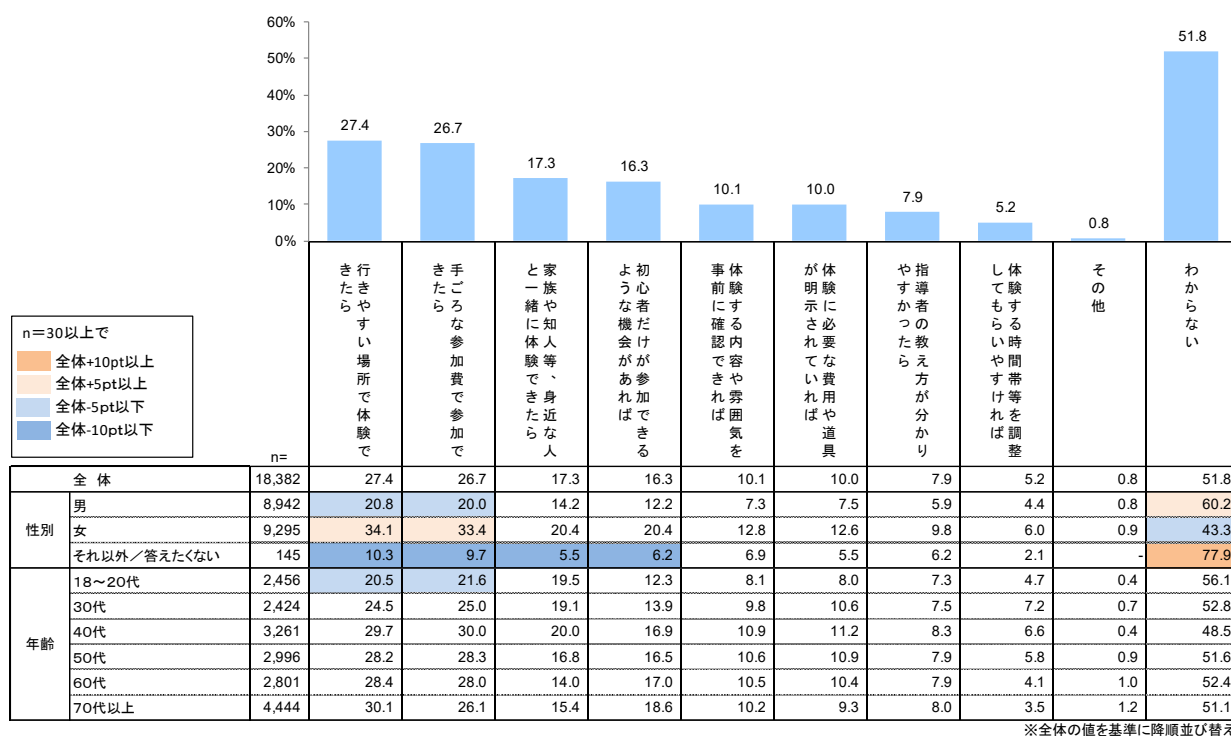


図 21 B Q17: 参加しやすい香道の体験条件

(その他の内容) 参加費が無料、格式ばらないで気軽に参加できたら、正座をしなくてよいなら

B Q18 香道を体験したことがない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「そもそも知らなかった」の30.8%で、次いで「自分の趣味と合わない」26.1%、「興味がない」22.9%、「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」15.7%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較した場合、男女別では、「自分の趣味と合わない」の回答比率が男性で32.0%と高く、女性で20.0%と低い。

また、年齢別では、10～40代で「そもそも知らなかった」という回答比率が高い。

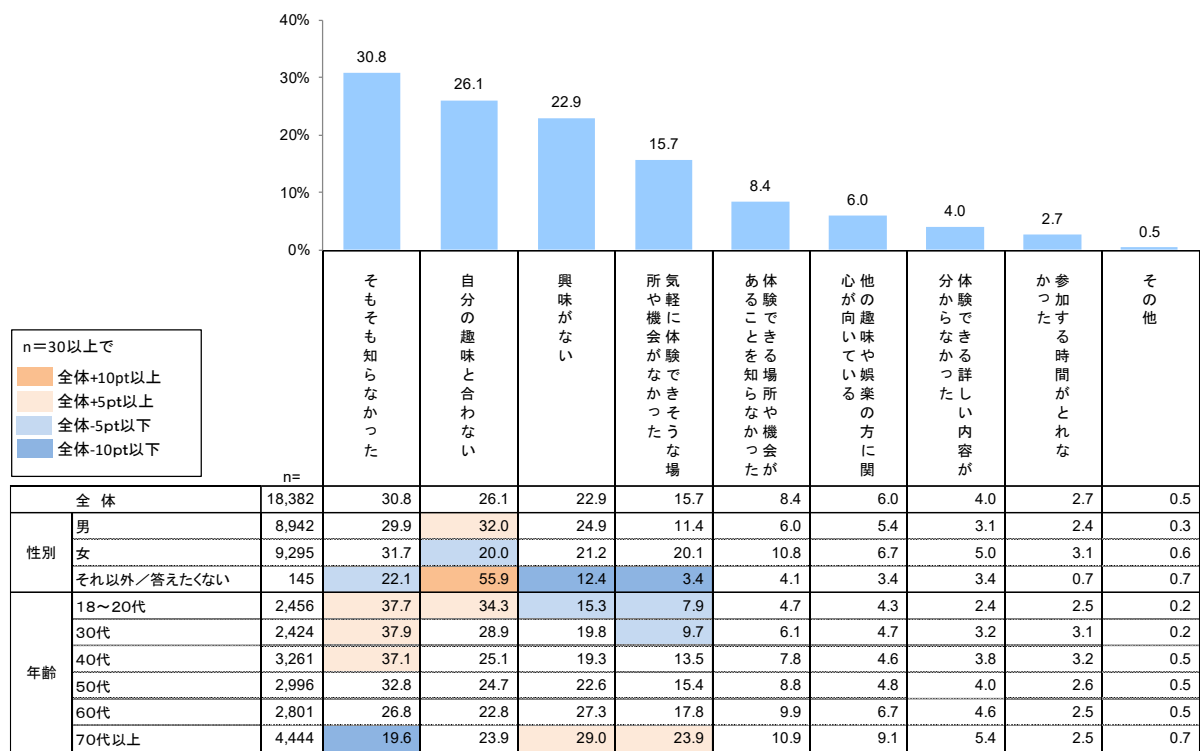


図 22 B Q18 : 香道を体験したことがない理由

(その他の内容) 香りが苦手、香りアレルギー、正座ができない

BQ19 香道に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「特に印象はない、わからない」の47.5%で、次いで「香木等の香りが楽しめる」26.3%、「日本の伝統文化への理解を深められる」16.2%、「一般に知られていない」13.6%、「月謝や道具等にお金がかかる」12.8%、「作法、しきたりなどが複雑」12.3%となっている。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、「特に印象はない、わからない」の回答比率が男性で56.4%と高く、女性で38.5%と低い。一方で、「香木等の香りが楽しめる」の回答比率は男性が19.8%と低く、女性で32.7%と高い。

また、年齢別では、18～20代で「特に印象はない、わからない」(55.3%)の回答比率が高い一方、「香木等の香りが楽しめる」(19.6%)、「月謝や道具等にお金がかかる」(7.1%)の回答比率は低い。

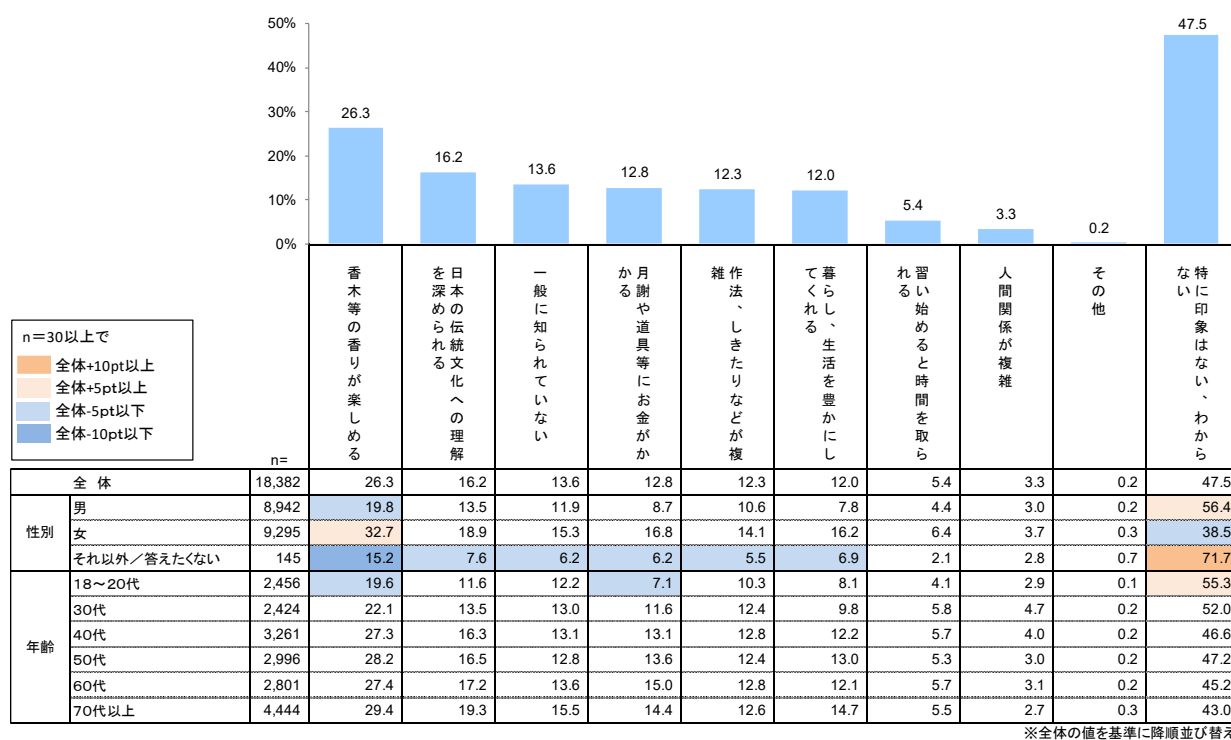


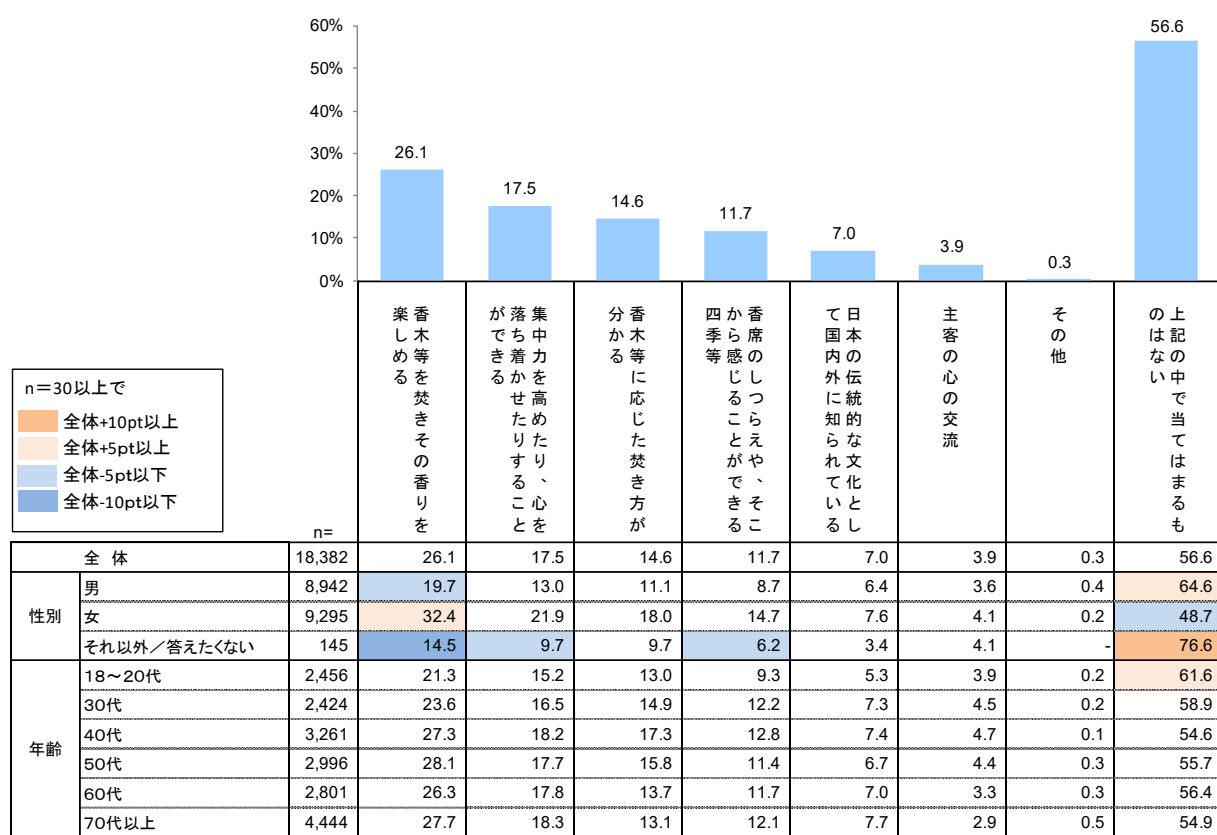
図 23 BQ19: 香道に対する印象やイメージ

(その他の内容) 敷居が高い、香りを愛でる喜びゆしみ、お金持ちがするイメージ

BQ20 香道に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 56.6%で、次いで「香木等を焚きその香りを楽しめる」の 26.1%、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」17.5%、「香木等に応じた焚き方が分かる」14.6%、「香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」11.7%と続く。

男女別で見ると、男性では「香木等を焚きその香りを楽しめる」(19.7%)の回答比率が低く、「上記の中で当てはまるものはない」(64.6%)の回答比率が高いことから、男性よりも女性の方が香道に対して興味関心や魅力を感じている傾向がうかがえる。



※全体の値を基準に降順並び替え

図 24 BQ20 : 香道に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 香の調合体験ができる、日常生活で使える

(3) 調査結果に基づく分析と考察

本節では、香道の振興施策の検討を主眼として、前掲の集計結果に加えてクロス集計等も行い、これらの結果について分析を行う。

香道に関して「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」それぞれの回答者にどのような特徴が見られるのかを分析するため、「居住地」、「職業」、「同居家族」、「世帯年収」、「子供の頃の習い事」等の設問とのクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

回答者の特性や傾向について

■居住地、職業、同居家族、世帯年収とのクロス集計結果

属性については、性年齢以外に、居住地域、職業、同居家族、世帯年収についての設問をもうけている。職業では、家族従業者に「参加体験あり」と回答した者がやや多い。世帯年収については、「1,000万円以上」で「経験あり」の回答比率がやや高いが、それでも3.5%にとどまっており、居住地域、世帯年収とのクロス集計の結果からは、際立った傾向は見られない。

集計表1 居住地・職業・同居家族×香道の経験の有無

| | | n= | FQ フィルタリング・パート (%) | | |
|------|-----------------|--------|--------------------|-----------|--------|
| | | | 「経験あり」層 | 「参加体験あり」層 | 「未経験」層 |
| 全体 | | 20,000 | 2.0 | 6.1 | 91.9 |
| 居住地 | 北海道 | 852 | 2.0 | 4.7 | 93.3 |
| | 東北 | 1,385 | 2.1 | 5.9 | 92.0 |
| | 関東 | 7,422 | 2.1 | 6.6 | 91.3 |
| | 北陸 | 816 | 2.1 | 4.8 | 93.1 |
| | 東海(中部) | 2,349 | 2.0 | 6.0 | 92.0 |
| | 近畿 | 3,247 | 2.0 | 6.7 | 91.3 |
| | 中国 | 1,140 | 2.3 | 5.5 | 92.2 |
| | 四国 | 584 | 0.9 | 5.7 | 93.5 |
| | 九州 | 1,987 | 1.4 | 5.6 | 93.0 |
| | 沖縄 | 218 | 0.5 | 2.8 | 96.8 |
| 職業 | 正規の職員・従業員 | 6,411 | 2.9 | 7.5 | 89.6 |
| | 非正規の職員・従業員 | 2,803 | 1.6 | 6.1 | 92.3 |
| | 自営業主・自由業 | 1,239 | 1.5 | 6.0 | 92.5 |
| | 家族従業者 | 135 | 0.7 | 11.1 | 88.1 |
| | 主婦・主夫 | 3,987 | 2.2 | 6.5 | 91.3 |
| | 学生 | 512 | 2.1 | 8.0 | 89.8 |
| | リタイア、無職 | 4,141 | 0.9 | 3.9 | 95.2 |
| | その他 | 772 | 0.6 | 3.4 | 96.0 |
| 同居家族 | ひとり暮らし | 4,145 | 2.5 | 6.4 | 91.1 |
| | 核家族 | 13,277 | 1.8 | 6.1 | 92.2 |
| | 三世代家族 | 1,179 | 3.3 | 7.5 | 89.1 |
| | 上記以外で同居している人がいる | 1,399 | 1.2 | 4.5 | 94.3 |

集計表2 昨年度の世帯年収×香道の経験の有無

(%)

n=30以上で

- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

| | | n= | FQ フィルタリング・パート | | |
|----------|-------------------|--------|----------------|-----------|--------|
| | | | 「経験あり」層 | 「参加体験あり」層 | 「未経験」層 |
| 全体 | | 20,000 | 2.0 | 6.1 | 91.9 |
| 昨年度の世帯年収 | 100万円未満 | 991 | 2.7 | 5.2 | 92.0 |
| | 100万円以上～200万円未満 | 1,325 | 2.1 | 5.5 | 92.4 |
| | 200万円以上～300万円未満 | 2,030 | 1.8 | 6.3 | 92.0 |
| | 300万円以上～400万円未満 | 2,367 | 1.8 | 6.1 | 92.1 |
| | 400万円以上～500万円未満 | 1,937 | 2.0 | 6.2 | 91.8 |
| | 500万円以上～600万円未満 | 1,457 | 1.8 | 6.3 | 91.9 |
| | 600万円以上～700万円未満 | 1,096 | 2.5 | 7.9 | 89.6 |
| | 700万円以上～800万円未満 | 1,024 | 2.0 | 6.3 | 91.8 |
| | 800万円以上～900万円未満 | 702 | 3.3 | 9.8 | 86.9 |
| | 900万円以上～1,000万円未満 | 653 | 2.0 | 7.5 | 90.5 |
| | 1,000万円以上 | 1,525 | 3.5 | 9.0 | 87.5 |
| 分からない | | 4,893 | 1.2 | 4.3 | 94.5 |

■子供の頃の習い事とのクロス集計結果

次に、香道の経験・体験の有無についての回答と、「子供の頃の習い事」に関する設問への回答とのクロス集計の結果を示す。

クロス集計を行った結果、「経験あり」と回答した者の全体平均（2.0%）と比較すると、「囲碁や将棋」（18.6%）がとりわけ回答比率が高く、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」（11.0%）、「バレエやダンス」（10.5%）、「美術」（8.5%）も高い回答比率を示している。同様の傾向は「参加体験あり」と回答した者にも見られる。

集計表3 子供の頃の習い事×香道の経験の有無

(%)

n=30以上で

- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

| | | n= | FQ フィルタリング・パート | | |
|-----------------------------------|--|--------|----------------|-----------|--------|
| | | | 「経験あり」層 | 「参加体験あり」層 | 「未経験」層 |
| 全体 | | 20,000 | 2.0 | 6.1 | 91.9 |
| 楽器演奏(ピアノやバイオリンなど)や歌唱(コーラスや声楽など) | | 4,615 | 3.9 | 8.8 | 87.3 |
| バレエやダンス(バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど) | | 755 | 10.5 | 19.3 | 70.2 |
| 美術(絵画や版画、彫刻、工芸など) | | 939 | 8.5 | 16.4 | 75.1 |
| 伝統芸能や茶道・華道等の芸事 | | 743 | 11.0 | 17.0 | 72.0 |
| 囲碁や将棋 | | 221 | 18.6 | 24.0 | 57.5 |
| 書道・習字・ペン字、そろばん | | 8,121 | 2.5 | 7.4 | 90.1 |
| スポーツ・武道 | | 3,661 | 2.5 | 9.6 | 87.8 |
| その他 | | 449 | 1.1 | 8.2 | 90.6 |
| していない | | 7,852 | 0.5 | 2.7 | 96.8 |

■スポーツや趣味、娯楽等の活動とのクロス集計結果

次に、スポーツや趣味、娯楽等（以下、趣味・娯楽等）の活動の内容や、これらの活動に費やす時間やお金に関する回答結果とのクロス集計結果と、そこから見る特徴や傾向を示す。

香道について「経験あり」と回答した者が行っている趣味・娯楽等の活動を見ると、趣味・娯楽等の活動を「特に何もしていない」人が、「未経験」では 18.5%いる一方、「経験あり」（3.1%）「参加体験あり」（5.1%）と、経験あり・参加体験ありの回答者共に、趣味・娯楽等と積極的な関わりを持っていることがうかがえる。

趣味・娯楽等の活動について項目別に見ると、全体平均を下回っている項目は、「動画鑑賞」、「（メディアでの）音楽鑑賞」、「読書」、「国内観光旅行」、「複合ショッピングセンター、アウトレットモール」に限られており、他の趣味・娯楽等の活動では全て参加率が全体平均を上回る。また、日本の伝統的な文化に関しては、「経験あり」と回答した者は、「お茶」（15.3%）、「お花」（11.8%）、「書道」（11.5%）、「邦楽、民謡」（5.4%）、「おどり（日舞など）」（3.8%）と全体平均を上回る参加率であり、「参加体験あり」と回答した者と比較しても回答比率が高い。一方、「参加体験あり」と回答した者では、「特に何もしていない」が 5.1%と全体平均を下回っているのを除き、全ての種目で、平均以上か平均並の回答比率となっており、分野に関わらず趣味・娯楽等活動を幅広く行っていることが推察できる。

次に、1ヶ月に使える趣味・娯楽等にかかる費用や活動する時間帯、活動に費やす時間とのクロス集計結果を示す。

まず、趣味・娯楽等にかかる費用については、「経験あり」と回答した者で平均月 2 万円以上支出している割合が 26.6%と、「参加体験あり」（18.9%）、「未経験」（10.5%）を上回っている。

趣味・娯楽等の活動を行う時間帯を見ると、「平日夕方」（24.0%）の回答比率が高い。対照的に休日の活動率は全体平均を下回っている。

趣味・娯楽等に費やす月平均の時間を見ると、「1 時間未満」の回答比率が、全体平均 22.9%に対し、「経験あり」（16.1%）、「参加体験あり」（16.8%）と下回っている一方、「2 時間以上～3 時間未満」の回答比率が全体平均 13.7%に対し、「経験あり」（20.1%）で上回っている。

また、「経験あり」層の場合、「1 時間未満」と「10 時間以上」を除く全て項目で全体平均を上回っていることから、経験がある方が余暇時間に費やす時間が長く、活動そのものを積極的に行う傾向が見られる。

集計表4 香道の経験の有無×趣味・娯楽等の活動状況

(%)

| | n= | 共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況 | | | | | | | | | | |
|-----------|--------|-----------------------------------|-----------|---|------|------|------|-------------------|---|-----------------------------------|-------------------------------|-------------------|
| | | 信 動 画 鑑 賞 (レ ン タ ル 、 配 信 を 含 む) | 邦 楽 、 民 謡 | 音 楽 鑑 賞 (配 信 、 C D 、 レ コ ー ド 、 テ ー プ 、 F M 、 等) | 書 道 | お 茶 | お 花 | お ど り (日 舞 な ど) | 読 書 (仕 事 、 勉 強 な ど を 除 く 娯 楽 と し て の) | 寒 国 内 観 光 旅 行 (避 暑 、 避 温 泉 な ど) | ル タ 複 合 シ ョ ッ プ ト レ ン グ セ ン ー | 特 に 何 も し て い な い |
| 全 体 | 20,000 | 13.6 | 1.5 | 17.3 | 1.7 | 1.6 | 1.8 | 0.4 | 16.1 | 30.7 | 15.7 | 17.4 |
| 「経験あり」層 | 391 | 13.0 | 5.4 | 12.5 | 11.5 | 15.3 | 11.8 | 3.8 | 12.0 | 27.9 | 13.8 | 3.1 |
| 「参加体験あり」層 | 1,227 | 15.2 | 3.7 | 17.4 | 5.6 | 7.5 | 5.7 | 1.1 | 17.5 | 36.3 | 21.5 | 5.1 |
| 「未経験」層 | 18,382 | 13.5 | 1.3 | 17.3 | 1.2 | 0.9 | 1.3 | 0.2 | 16.1 | 30.4 | 15.4 | 18.5 |

※共通設問1は、分析で取り上げた選択肢のみ抜粋して掲載している。(以下同様)

集計表5 香道の経験の有無×趣味・娯楽等に1ヶ月に使える費用

(%)

| | n= | 共通設問2 1ヶ月に使える趣味・余暇費用 | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------|
| | | 5 0 0 0 円 未 満 | 1 5 0 0 円 未 満 | 1 1 5 0 円 未 満 | 2 1 0 0 円 未 満 | 2 2 5 0 円 未 満 | 3 2 0 0 円 未 満 | 3 3 5 0 円 未 満 | 4 3 0 0 円 未 満 | 4 4 5 0 円 未 満 | 5 4 0 0 円 未 満 | 5 5 0 0 円 未 満 | 合 計 |
| 全 体 | 16,527 | 49.5 | 22.9 | 10.2 | 5.9 | 3.1 | 3.0 | 1.4 | 0.6 | 0.4 | 0.6 | 2.3 | 11.4 |
| 「経験あり」層 | 379 | 26.1 | 18.2 | 17.4 | 11.6 | 6.6 | 6.9 | 2.9 | 2.6 | 1.1 | 1.1 | 5.5 | 26.6 |
| 「参加体験あり」層 | 1,164 | 30.4 | 26.1 | 14.2 | 10.4 | 5.8 | 4.2 | 3.6 | 0.9 | 0.7 | 0.7 | 3.0 | 18.9 |
| 「未経験」層 | 14,984 | 51.6 | 22.8 | 9.7 | 5.5 | 2.8 | 2.8 | 1.1 | 0.6 | 0.4 | 0.6 | 2.2 | 10.5 |

集計表6 香道の経験の有無×趣味・娯楽等を行う時間帯

(%)

| | n= | 共通設問3 1ヶ月に使える趣味・余暇時間帯 | | | | | | | |
|-----------|--------|-----------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 平 日 午 前 | 平 日 午 後 | 平 日 夕 方 | 平 日 夜 間 | 休 日 午 前 | 休 日 午 後 | 休 日 夕 方 | 休 日 夜 間 |
| 全 体 | 16,527 | 30.6 | 30.1 | 15.8 | 18.8 | 34.9 | 43.7 | 21.2 | 15.5 |
| 「経験あり」層 | 379 | 34.3 | 31.1 | 24.0 | 19.0 | 29.0 | 30.6 | 15.8 | 7.7 |
| 「参加体験あり」層 | 1,164 | 29.3 | 28.6 | 20.3 | 16.5 | 34.6 | 35.3 | 21.0 | 11.7 |
| 「未経験」層 | 14,984 | 30.6 | 30.2 | 15.3 | 19.0 | 35.1 | 44.7 | 21.4 | 16.0 |

集計表7 香道の経験の有無×趣味・娯楽等に費やす時間

(%)

| | n= | 共通設問4 趣味・余暇活動を行う時間 | | | | | | | | | | |
|-----------|--------|--------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | 1 時 間 未 満 | 2 1 時 間 未 満 | 3 2 時 間 未 満 | 4 3 時 間 未 満 | 5 4 時 間 未 満 | 6 5 時 間 未 満 | 7 6 時 間 未 満 | 8 7 時 間 未 満 | 9 8 時 間 未 満 | 1 0 時 間 未 満 | 1 0 時 間 以 上 |
| 全 体 | 16,527 | 22.9 | 23.5 | 13.7 | 7.0 | 4.5 | 4.1 | 1.7 | 1.9 | 0.9 | 1.3 | 18.5 |
| 「経験あり」層 | 379 | 16.1 | 22.7 | 20.1 | 9.8 | 6.9 | 4.7 | 3.2 | 3.4 | 2.1 | 1.3 | 9.8 |
| 「参加体験あり」層 | 1,164 | 16.8 | 25.4 | 18.2 | 9.3 | 5.1 | 5.3 | 3.0 | 1.9 | 0.7 | 1.5 | 12.9 |
| 「未経験」層 | 14,984 | 23.6 | 23.3 | 13.1 | 6.7 | 4.4 | 4.0 | 1.6 | 1.8 | 0.9 | 1.3 | 19.1 |

■消費行動に関する意識や価値観に関するクロス集計結果

消費行動についての様々な意見への同意率を見てみると、「経験あり」と回答した者は、「リスクはできるだけ避けたい」、「家族や友人・知人の役に立ちたい」、「流行っていないなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい」、「困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい」、「その時・その場でしか得られない体験をしたい」、「上記であてはまるものはない」を除いた意見で回答比率が平均を上回っている。また、「自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい」(38.4%)は、全体平均を大幅に上回る回答比率となっており「参加体験あり」と回答した者の回答比率も大きく上回っている。

一方、「参加体験あり」と回答した者は、「リスクはできるだけ避けたい」と「上記であてはまるものはない」を除いた全ての意見で回答比率が平均を上回ると共に、「周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい」(32.4%)や「家族や友人・知人の役に立ちたい」(31.0%)、「困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい」(27.9%)、「その時・その場でしか得られない体験をしたい」(21.6%)で全体平均を上回る回答比率となっている。

「未経験」と回答した者は、「上記であてはまるものはない」(23.4%)以外の全項目で回答比率が最も低い。

集計表 8 香道の経験の有無×消費行動に対する価値観

| | | 共通設問5 消費行動に対する価値観 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------|-----------------------|--------------|----------------------|------------|---------------|---------------|-------------|----------------|------------|----------------|---------------|---------------|----------|----------------|--------------|--------------|--------------|
| | | たり、自分周りの考えを尊重しよ | ご自分の考えを判断したい | 周りに合わせるより、自分の考えに基づいて | た、チャレンジしたい | た、リスクはできるだけ避け | 立、家族や友人・知人の役に | 決、環境問題に立ちたい | 要、困っている人・助けが必要 | い、周りに注目された | 者、業同士のイベントが大事だ | ら、その時・その場でしか得 | た、流行りのものは試してみ | は、試してみたい | 分、分が面白いと思っても、自 | 発、発したものの、気持ち | 応、自分が欲しいものに反 | な、上記であてはまるもの |
| n= | 20,000 | 25.6 | 22.6 | 20.2 | 41.9 | 24.9 | 10.6 | 19.6 | 2.4 | 5.4 | 13.6 | 3.9 | 26.8 | 3.1 | 3.1 | 22.0 | | |
| 「経験あり」層 | 391 | 38.4 | 25.6 | 30.4 | 27.1 | 22.3 | 17.4 | 18.2 | 5.4 | 11.0 | 12.3 | 6.9 | 16.4 | 8.2 | 3.8 | 4.9 | | |
| 「参加体験あり」層 | 1,227 | 29.4 | 32.4 | 29.1 | 38.5 | 31.0 | 17.8 | 27.9 | 4.6 | 11.0 | 21.6 | 7.9 | 28.8 | 6.8 | 5.5 | 6.2 | | |
| 「未経験」層 | 18,382 | 25.1 | 21.9 | 19.4 | 42.5 | 24.5 | 10.0 | 19.1 | 2.2 | 4.9 | 13.1 | 3.6 | 26.9 | 2.8 | 2.9 | 23.4 | | |

■普段接するメディアとのクロス集計結果

回答者が普段接するメディアと香道の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者の場合、「CATV や衛星放送のチャンネル」、「ラジオ」、「雑誌・タウン誌」で回答比率が全体平均を5%以上上回っている一方、「テレビ(民放)」と「インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど」、「動画投稿サイト」、「SNS」への接触は全体平均を下回っており、CATV や衛星放送、雑誌などに普段から接触している傾向が見られる。一方、「参加体験あり」と回答した者は、「テレビ(民放)」、「インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど」で全体平均を下回っており、「動画投稿サイト」で全体平均並みとなっていることを除くと平均よりメディア接触が多い。

なお、「未経験」と回答した者の場合は、逆に、多くのメディアにおいて回答比率が低く、「テレビ(民放)」(70.1%)、「インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど」(46.5%)、「動画投稿サイト」(33.9%)、「上記のメディアはあまり見ていない」(11.4%)のみで全体平均の回答比率を上回る結果になった。

集計表 9 香道の経験の有無×接触メディア

| | | 共通設問6 接触メディア (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----------|------------------|-----------|----------------|-----------------|-------------|---------------|---------------|-----------------|-------------|------------|-----------------|---------|---------|-----------------------|---------------|-----------------|------------------------------------|---------------------------|
| | | B S (地上波) | 波 (NHK地上) | C A T V (衛星放送) | ラ ジ オ (インターネット) | 新 聞 (電子版含む) | 雑 誌 (インターネット) | む な (インターネット) | サ イ ト (インターネット) | 動 画 (投稿サイト) | o a r (FM) | S N S (Twitter) | 紙 の 書 籍 | 電 子 書 籍 | 紙 の マ ン ガ / マ ン ガ 雑 誌 | 電 子 版 の マ ン ガ | x i z (有料動画サイト) | 有 料 動 画 サ イ ト (Amazon Prime Video) | 見 て い な い メ デ ィ ア は あ ま り |
| 全体 | n=20,000 | 69.5 | 41.7 | 10.2 | 14.3 | 28.5 | 7.5 | 46.1 | 33.7 | 28.5 | 20.4 | 6.0 | 6.8 | 6.4 | 11.9 | 10.8 | | | |
| 「経験あり」層 | 391 | 60.1 | 45.5 | 20.7 | 22.3 | 33.2 | 16.9 | 32.5 | 22.5 | 22.5 | 23.5 | 10.0 | 8.7 | 7.4 | 13.0 | 3.1 | | | |
| 「参加体験あり」層 | 1,227 | 63.8 | 48.2 | 17.3 | 19.9 | 36.2 | 16.0 | 44.7 | 33.7 | 30.0 | 25.8 | 10.0 | 9.5 | 7.7 | 13.7 | 3.9 | | | |
| 「未経験」層 | 18,382 | 70.1 | 41.2 | 9.5 | 13.7 | 27.8 | 6.8 | 46.5 | 33.9 | 28.5 | 19.9 | 5.6 | 6.6 | 6.3 | 11.7 | 11.4 | | | |

以上のクロス集計結果と、「①単純集計の結果について」で示した回答者の年齢・性別とのクロス集計の結果も踏まえ、香道の「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者の特徴や傾向は以下のとおりになる。

1) 香道を経験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも経験者の総数がやや多く、年齢別で見た場合、18～20代が最も多く、次いで30代、70代以上と続いている。

次に経験者は、子供の頃の習い事として伝統的な文化に係る分野を習っていたと回答している者が多く、また、趣味・娯楽等の活動に積極性があり尚かつ伝統的な文化に係る趣味への嗜好性の高さがうかがえる。消費行動への意識については、チャンスと感じたら逃したくないという意識が強くあり、周りとの協調や一体感を大事にする価値観を持っている者が全体平均と比べると多い傾向が見える。普段のメディア接触についてはCATVやラジオ、雑誌のメディア媒体への接触率が高い傾向にあるといえる。

2) 香道を参加体験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも参加体験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。また、年齢別で見た場合、70代以上が最も多く、次いで18～20代、30代と続く。

次に、子供の頃の習い事の経験があるとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して積極的な傾向にあるが、伝統的な文化への関わりは香道の経験者と比べると薄い傾向がうかがえる。

消費行動への意識については、チャンスと感じたら逃したくないという嗜好性は香道の経験者と同じ傾向にある一方で、自分の考えに基づき物事を判断したいと考え、家族や知人、困っている人の役に立ちたいという傾向が参加体験者にはうかがえる。また、普段のメディア接触については、NHKの地上波放送やBS放送、新聞や雑誌、紙の書籍等、普段から幅広くメディアに接触している傾向にある。

3) 香道を未経験と回答した者の傾向

男女別、年齢別等では顕著な特徴は見られなかった。

子供の頃の習い事の経験については、全体平均の回答比率よりも低い傾向にあり、経験者や参加体験者と比べると低調といえる。また、趣味・娯楽等の活動に対して、特に何もしていないという回答比率が全体平均をやや上回っており、趣味・娯楽等の活動に対して積極的な傾向があるとは言い難い。

消費行動への意識については、当てはまるものはないという回答比率が全体平均をやや上回っているが、特徴的な傾向は見られない。また、メディア接触については、いずれのメディアとも接触率があまり高い傾向にあるとはいえない。

未経験者の傾向と特徴

次に、上記の属性分析を踏まえ、「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者ごとに設けた設問の回答結果についてクロス集計を行い、回答者の特徴について更なる分析を行う。

はじめに、「未経験」と回答している者について分析を行う。上述の回答者属性に関する分析結果からは、「未経験」と回答した者については際立った特徴や傾向は見いだせなかった。加えて、今後の振興施策を考える上で、「未経験」と回答した者が、香道をなぜ経験してこなかったのか、また、香道を体験することに対してどのような意識を持っているのか、どのような体験方法や周知の実施をすれば参加体験等に繋げていく可能性を見いだすことができるのか、その検討のために分析を行う必要がある。

■未経験層の体験機会への参加意向

未経験と回答した者のうち、香道を体験してみたいという意向を持つ回答者、体験意向がない回答者にはどのような特徴があるのか。趣味・娯楽等の活動内容、消費意識、メディア接触の設問とBQ16「参加してみたい香道の体験内容」とのクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。BQ16では、体験内容として設定した選択肢には当てはまるものはないと59.0%が回答しており、残りの41.0%は、体験内容によっては香道の体験に参加してみたいという意向を持っていると推察される。

まず、香道の体験に参加してみたいとの意向を示した回答者について、クロス集計結果からその特徴を確認する。趣味・娯楽等の活動とのクロス集計結果からは、「上記の中で当てはまるものはない」を除き、ほとんどの項目で全体平均と同じ程度の回答比率を示していることから、これらの活動に対して決して消極的ではないと推察される。

消費行動に対する価値観とのクロス集計結果を見ると、ほとんどの項目で、全体平均を上回る回答比率を示しており、明確な意見や嗜好性があることがうかがえる。この傾向は「参加体験あり」と回答した者の消費行動に対する価値観と近似している部分があり、家族や知人、困っている人の役に立ちたい、面白いものと思ったものは試してみたい、といった項目が合致している。

普段からのメディア接触とのクロス集計結果を見ると、消費行動に対する価値観と同じく、「参加体験あり」と回答した者と近似した傾向、つまり、普段から幅広くメディアに接触している傾向が見て取れる。

次に、香道の参加体験の意向がない者について、その特徴を確認する。BQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者は、趣味・娯楽等の活動について「特に何もしていない」（27.4%）と回答しており、消費行動に関する設問でも、メディア接触についても、当てはまらない、特にしていないという選択肢を選ぶ割合が高い。このように、香道の参加体験の意向がない者の特徴として、趣味・娯楽活動やメディアへの接触に必ずしも積極的とはいえず、消費についての意識・意見をあまり明確に持っていない傾向が確認できる。

集計表 10 参加してみたい香道の体験内容×趣味・娯楽等の活動状況

| | n= | 共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況 (%) | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--------|---|-----------------------|---|--------|--------|--------|---|--|---|--|--|
| | | 信 動 画 鑑 賞 (レ ン タ ル 、 配 信 を 含 む) | 邦 楽 、 民 謡 | 音 楽 鑑 賞 (レ コ ー ド 、 テ ー プ 、 F M 、 等) | 書 道 | お 茶 | お 花 | お ど り (日 舞 な ど) | 除 読 書 (仕 事 、 勉 強 な ど を し て の 余 暇) | 寒 内 観 光 旅 行 (避 暑 、 避 寒) | ル タ ー 、 ア ウ ト レ ッ ト モ ー ト リ ン グ セ ン タ ー | 複 合 シ ョ ッ ピ ン グ セ ン タ ー |
| 全 体 | 18,382 | 13.5 | 1.3 | 17.3 | 1.2 | 0.9 | 1.3 | 0.2 | 16.1 | 30.4 | 15.4 | 18.5 |
| 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる | 3,604 | 20.0 | 2.3 | 26.2 | 2.1 | 2.0 | 2.6 | 0.5 | 26.6 | 42.2 | 26.7 | 5.2 |
| 香道の歴史や意義を教えてくれる | 2,359 | 21.2 | 2.6 | 25.5 | 2.2 | 1.9 | 2.6 | 0.4 | 29.5 | 42.9 | 24.9 | 4.1 |
| 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる | 2,072 | 21.5 | 3.0 | 29.2 | 2.6 | 2.8 | 3.1 | 0.5 | 29.6 | 42.9 | 27.3 | 4.4 |
| 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる | 4,364 | 19.5 | 2.0 | 25.8 | 2.1 | 1.8 | 2.8 | 0.5 | 26.1 | 43.4 | 26.3 | 5.0 |
| その他 | 50 | 22.0 | 2.0 | 26.0 | 4.0 | 2.0 | 2.0 | - | 34.0 | 38.0 | 12.0 | 2.0 |
| 上記の中で当てはまるものはない | 10,842 | 10.4 | 0.8 | 13.5 | 0.8 | 0.4 | 0.6 | 0.1 | 11.1 | 23.7 | 9.8 | 27.4 |

集計表 11 参加してみたい香道の体験内容×消費行動に対する価値観

| | n= | 共通設問5 消費行動に対する価値観 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--------|--|--|--|---|---|--|---------------------------------|---|--|---|---|--|---|--|---|---|---|-----------------------|-----------------------|--------------------------------------|
| | | た り 自 分 の 考 え と の 和 を 専 断 し よ う | ご 分 の 考 え を 主 張 す る よ う | 周 り の 考 え に 合 わ せ る よ う | た く さ ん と 感 じ た ら 逃 げ た い | た い り ス ク は で き る だ け 避 け た い | 立 ち 回 り の 人 と 知 人 の 役 に な ら な い | 決 断 に 立 ち た い | 環 境 問 題 ・ 社 会 課 題 の 解 決 に た ま に た ま に | 要 ら な い 役 に た ま に た ま に | 困 り の 人 に た ま に た ま に | 周 り の 人 に た ま に た ま に | 同 士 の 一 体 感 が 大 事 だ と 考 え て い る | そ の 時 に そ の 場 を し た い | た い り の 人 に た ま に た ま に | 流 行 の 試 み を し た い | 流 行 の 試 み を し た い | 流 行 の 試 み を し た い | 発 信 し た い | 発 信 し た い | 自 分 が 発 信 し た い |
| 全 体 | 18,382 | 25.1 | 21.9 | 19.4 | 42.5 | 24.5 | 10.0 | 19.1 | 2.2 | 4.9 | 13.1 | 3.6 | 26.9 | 2.8 | 2.9 | 23.4 | | | | | |
| 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる | 3,604 | 36.3 | 31.8 | 32.2 | 56.4 | 39.7 | 18.6 | 33.4 | 3.3 | 8.7 | 25.7 | 6.5 | 44.9 | 5.0 | 4.5 | 4.5 | | | | | |
| 香道の歴史や意義を教えてくれる | 2,359 | 34.7 | 35.1 | 35.4 | 54.5 | 39.2 | 22.8 | 35.2 | 4.1 | 9.2 | 27.2 | 7.5 | 43.6 | 5.8 | 5.3 | 4.5 | | | | | |
| 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる | 2,072 | 33.5 | 36.0 | 37.4 | 58.1 | 41.8 | 22.4 | 36.6 | 4.8 | 10.6 | 30.0 | 7.5 | 49.7 | 6.5 | 6.0 | 3.7 | | | | | |
| 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる | 4,364 | 33.9 | 30.7 | 29.0 | 57.4 | 39.4 | 18.5 | 33.1 | 3.1 | 9.0 | 25.8 | 6.0 | 46.8 | 5.0 | 5.1 | 4.2 | | | | | |
| その他 | 50 | 28.0 | 44.0 | 28.0 | 74.0 | 30.0 | 24.0 | 20.0 | 4.0 | 12.0 | 18.0 | 6.0 | 46.0 | 4.0 | 6.0 | 4.0 | | | | | |
| 上記の中で当てはまるものはない | 10,842 | 19.1 | 17.1 | 13.4 | 35.3 | 17.2 | 5.8 | 12.1 | 1.6 | 3.0 | 7.1 | 2.3 | 18.3 | 1.7 | 2.0 | 36.0 | | | | | |

集計表 12 参加してみたい香道の体験内容×接触メディア

| | 共通設問6 接触メディア (%) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|------------------|-----------------------|-------------------------|---------------------------|------------|-------------------|-----------------------------|-----------------------|---------------------------|--------------------------------|-------------------------|---|----------|----------|-------------------------|-----------------|---|
| | Bテレビ (地上波) | 波テレビ (NHKの地上 波) | チャンネル 衛星放送の チャンネル | CATVや ケーブル放送 のチャンネル | 経路を 除く) | 新聞 (電子版 含む) | 雑誌・ タウン誌 (印刷 版を除く) | インターネット 経由を 除く) | サイト・ アプリ 経由を 含む) | 動画投稿 サイト (YouTube など) | ブログ (Facebook など) | SNS (Twitter、 LINE、 Instagram など) | 紙の 書籍 | 電子 書籍 | 紙の マンガ/ マンガ 雑誌 | 電子 版の マンガ | 有料 動画 サイト (Amazon Prime Video など) |
| 全体 | 18,382 | 70.1 | 41.2 | 9.5 | 13.7 | 27.8 | 6.8 | 46.5 | 33.9 | 28.5 | 19.9 | 5.6 | 6.6 | 6.3 | 11.7 | 11.4 | |
| 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる | 3,604 | 81.1 | 52.7 | 12.2 | 18.0 | 35.8 | 11.8 | 60.2 | 44.6 | 40.8 | 32.0 | 9.5 | 10.8 | 10.8 | 17.1 | 1.4 | |
| 香道の歴史や意義を教えてくれる | 2,359 | 78.1 | 54.5 | 13.3 | 19.4 | 37.1 | 13.2 | 60.9 | 44.7 | 39.9 | 35.1 | 11.6 | 11.3 | 10.3 | 17.6 | 1.1 | |
| 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる | 2,072 | 77.5 | 53.2 | 13.4 | 19.8 | 34.2 | 15.2 | 62.3 | 47.6 | 42.6 | 35.2 | 12.5 | 13.2 | 12.1 | 19.0 | 1.4 | |
| 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる | 4,364 | 79.6 | 52.5 | 11.9 | 19.2 | 36.0 | 12.0 | 59.7 | 43.9 | 39.2 | 31.8 | 8.5 | 9.6 | 10.0 | 16.4 | 1.3 | |
| その他 | 50 | 72.0 | 58.0 | 20.0 | 14.0 | 38.0 | 6.0 | 62.0 | 42.0 | 34.0 | 38.0 | 12.0 | 12.0 | 10.0 | 12.0 | - | |
| 上記の中で当てはまるものはない | 10,842 | 64.4 | 35.2 | 8.1 | 11.4 | 24.0 | 4.4 | 39.9 | 29.0 | 22.8 | 14.2 | 4.0 | 5.1 | 4.6 | 9.4 | 18.2 | |

■参加したい体験機会別に見た参加条件

BQ16「参加してみたい香道の体験内容」の各種の参加体験とBQ17の「参加しやすい香道の体験条件」の関係を見ると、BQ16「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者では「わからない」が83.5%とほとんどを占める一方、実際に希望する体験機会がある者では、「わからない」という回答は極めて少ない。

希望する体験機会がある者での各参加条件への回答比率は、全体的に平均より非常に高くなっている。特に「行きやすい場所で体験できたら」、「手ごろな参加費で参加できたら」の2つについては、どの体験を希望した者でも、回答比率が60%台から70%台となっており、最重要の条件となっていることが分かる。また、「香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる」体験機会を希望する者では、「わからない」を除く各条件における回答比率が、他の参加体験を希望する者に比して高くなっており、実際に香道を行う際に必要な具体的知識・技を求める者であるほど、細かな参加条件まで気にする傾向があることが分かる。

集計表 13 参加してみたい香道の体験内容×参加しやすい香道の体験条件

| | BQ17 参加しやすい香道体験の条件 (%) | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------|--|--|--|---|--|--|--|-------------|-----------------------|------|
| | と家族や 知人等 で、身 近な人 | 行き やすい 場所 で 体験 でき たら | 手 ごろ な 参加 費 で 参加 でき たら | が 体験 に 必要 な 費用 が 少 ない よう な 道具 | し て も ら い 時間 が 短 い よう な 調整 | よ う な 者 だ け が 参加 でき る | 事 前 に 確 認 でき る よう な 雰囲気 | や 指 導 者 の 教え 方が 分 かり | そ の 他 | わ か ら な い | |
| 全体 | 18,382 | 17.3 | 27.4 | 26.7 | 10.0 | 5.2 | 16.3 | 10.1 | 7.9 | 0.8 | 51.8 |
| 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる | 3,604 | 45.1 | 67.0 | 65.8 | 30.2 | 15.3 | 38.8 | 26.5 | 21.0 | 0.7 | 4.1 |
| 香道の歴史や意義を教えてくれる | 2,359 | 39.4 | 68.0 | 64.6 | 33.1 | 19.7 | 38.6 | 27.9 | 23.4 | 0.7 | 4.2 |
| 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる | 2,072 | 38.9 | 72.4 | 70.9 | 42.3 | 24.6 | 45.9 | 34.3 | 28.3 | 0.8 | 3.0 |
| 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる | 4,364 | 36.5 | 61.4 | 61.3 | 25.8 | 14.4 | 41.9 | 28.3 | 21.9 | 0.7 | 5.8 |
| その他 | 50 | 14.0 | 26.0 | 28.0 | 18.0 | 16.0 | 24.0 | 16.0 | 8.0 | 54.0 | 22.0 |
| 上記の中で当てはまるものはない | 10,842 | 4.7 | 6.8 | 6.5 | 1.8 | 0.9 | 4.1 | 2.5 | 2.2 | 0.8 | 83.5 |

■これまで香道を経験してこなかった理由と参加したい体験機会

BQ18「香道を体験したことがない理由」を見ると、30.8%が香道をこれまで体験してこなかった理由として「そもそも知らなかった」と回答しており、回答比率が最も高い。また、「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」という回答比率も15.7%ある。一方、「興味がない」は22.9%、「自分の趣味と合わない」は26.1%である。

これを、BQ16の香道の体験機会への参加意向との関係で見ると、BQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者では、「興味がない」(29.3%)と「自分の趣味と合わない」(40.2%)が、「そもそも知らなかった」(26.6%)を上回っている。逆に、何らかの体験を希望した者では、「そもそも知らなかった」が全体平均より高く、一方で「興味がない」が10%台、「自分の趣味と合わない」が一桁台と対照的な結果になっている。

集計表 14 参加してみたい香道の体験内容×香道を体験したことがない理由

| | | BQ18 香道を体験したことがない理由 (%) | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--------|-------------------------|-------|-----------|-------------|--------------|-------------|---------------|-------------|------------|-----|
| | | そもそも知らなかった | 興味がない | 所や機会がなかった | 気軽に体験できそうな場 | か参加する時間がとれない | 体験できる場所や機会が | 分かれてきたり詳しい内容が | 心他の興味や娯楽の方に | 自分の趣味と合わない | その他 |
| n=30以上で | | | | | | | | | | | |
| 全体+10pt以上 | | | | | | | | | | | |
| 全体+5pt以上 | | | | | | | | | | | |
| 全体-5pt以下 | | | | | | | | | | | |
| 全体-10pt以下 | | | | | | | | | | | |
| | n= | | | | | | | | | | |
| 全体 | 18,382 | 30.8 | 22.9 | 15.7 | 2.7 | 8.4 | 4.0 | 6.0 | 26.1 | 0.5 | |
| 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞いを教えてくれる | 3,604 | 37.7 | 12.2 | 39.4 | 6.2 | 21.8 | 9.5 | 9.5 | 4.1 | 0.4 | |
| 香道の歴史や意義を教えてくれる | 2,359 | 34.0 | 12.1 | 40.7 | 8.9 | 23.8 | 11.4 | 10.8 | 4.7 | 0.3 | |
| 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる | 2,072 | 32.4 | 10.3 | 42.9 | 9.9 | 27.6 | 14.1 | 11.3 | 4.3 | 0.6 | |
| 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる | 4,364 | 36.1 | 12.6 | 34.6 | 5.3 | 20.8 | 10.2 | 11.6 | 6.0 | 0.5 | |
| その他 | 50 | 16.0 | 30.0 | 30.0 | 4.0 | 14.0 | 4.0 | 10.0 | 22.0 | 14.0 | |
| 上記の中で当てはまるものはない | 10,842 | 26.6 | 29.3 | 3.9 | 0.7 | 1.7 | 1.2 | 3.6 | 40.2 | 0.5 | |

■「未経験」層と「参加体験あり」層の香道へのイメージの違い

香道を未経験と回答した者が持つ香道へのイメージについて、BQ19の結果では、「特に印象はない、わからない」(47.5%)、「香木等の香りが楽しめる」(26.3%)、「日本の伝統文化への理解を深められる」(16.2%)、「一般に知られていない」(13.6%)、「月謝や道具等にお金がかかる」(12.8%)、「作法、しきたりなどが複雑」(12.3%)となっており、そもそも具体的なイメージを持っていない者が多い。この要因は、回答者が香道の未経験者であることから、具体的な内容や体験を経た上での印象を持っていないためと考えられる。また、香りを楽しめる、日本の伝統文化への理解を深めることができるとの、プラスイメージが先行している傾向が見られ、香りを楽しむ伝統的な文化であることを一定数が認識しているものと推察される。

下のグラフは、香道の参加体験をしたことがある者のイメージ(BQ14)と未経験者のイメージ(BQ19)の回答結果を比較したものである。

未経験者で最も回答比率が高かった「特に印象はない、わからない」の回答比率は、参加体験を行うことで大幅に減っている。また、参加体験をしたの方が「香木等の香りが楽しめる」、「日本

の伝統文化への理解を深められる」の回答比率が高くなっているが、マイナスイメージの選択肢についても回答比率が高くなっていることが確認できる。

香道の参加体験をすることで、香道が持つ魅力はもちろんのこと、作法等の複雑さや時間や費用が掛かることも明確なイメージを描けるようになってきていることが分かる。

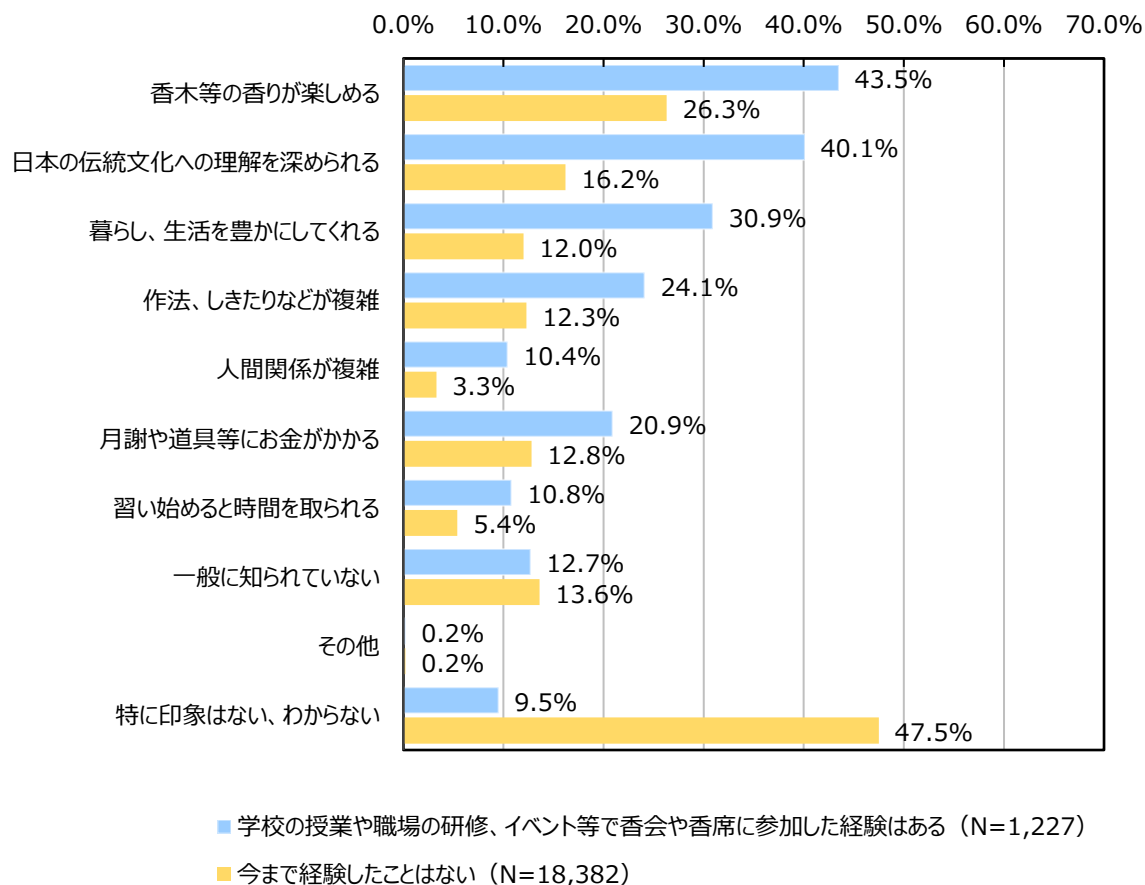


図 25 未経験者と参加体験者の香道に対する印象やイメージの違い

■「未経験」層と「参加体験あり」層、「経験あり」層の香道の魅力についての評価の違い

未経験者が香道に対する印象やイメージを具体的に描けないように、香道の魅力に対する設問（B Q 8、B Q 15、B Q 20）にも同様の傾向が見られる。

下のグラフを見ても分かるように、香道未経験者の回答者の半数が、「上記の中で当てはまるものはない」（56.6%）と回答し、経験者と参加体験者の場合の回答比率と比較しても大きな差がある。

このことは他の魅力についてもいえ、参加体験者と未経験者を比較すると「香木等に応じた焚き方が分かる」、「香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」の回答比率に大きな差が見られることから、イメージや印象と同じく実際に体験をすることの重要性がうかがえる。

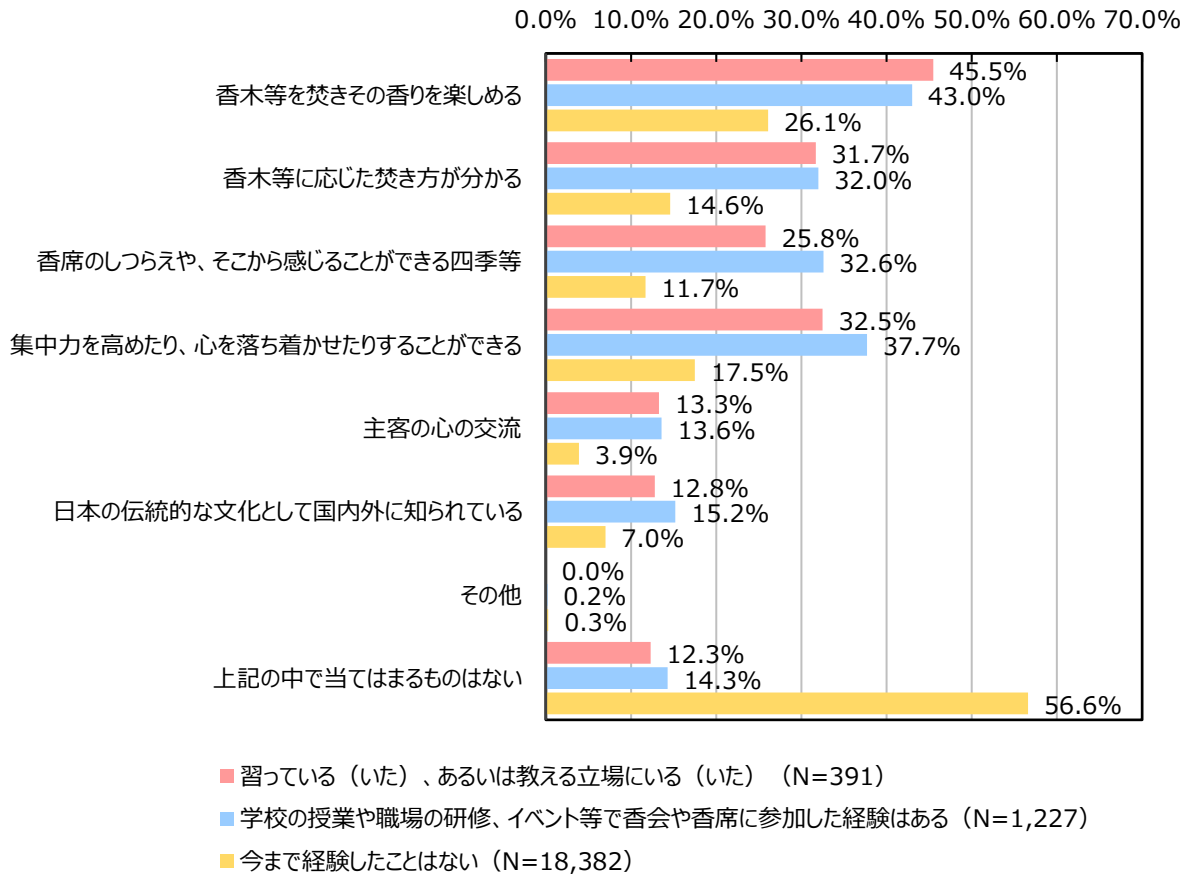


図 26 各回答者における香道に対する興味関心や魅力の違い

上記のクロス集計の結果から、香道を未経験と回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 香道に興味関心がある者の属性に関する傾向と特徴

香道を未経験であると回答した者のうち、参加体験の意向を示さない者が 59.0% いる一方、41.0% が体験内容に関する選択肢をいずれか選択しており、未経験者の中でも機会があれば参加したいという意向を持つ者がいる。

これら参加意向を示す者は、他の香道を未経験と回答した者と比べた場合、趣味・娯楽等の活動に対して消極的ではない者であり、消費行動への明確な意見を有し、普段から幅広いメディアに触れている傾向にある。ただし、香道の経験者と比べた場合、茶道や華道、邦楽などの日本の伝統的な文化への参加率はあまり高くないことから、趣味・娯楽の活動として伝統的な文化への接触はやや低い傾向にある。

2) 未経験者が考える参加しやすい体験の条件と内容についての傾向と特徴

BQ16、BQ17 のクロス集計の結果から、未経験者のうち、参加体験をしたいとの意向を示した者の 50~60% が、行きやすい場所と手頃な参加費用の 2 点を参加体験の条件としてとりわ

け重視している傾向が見えてくる。

また、B Q16 と B Q18 とのクロス集計の結果からは、体験できなかった事情・理由として「そもそも知らなかった」、「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」と回答し、参加体験の意向を持つ者の多くが、香道を知る機会や、体験する機会を得ることができなかったことが分かる。

3) 香道の印象や魅力に関する傾向と特徴

未経験者の場合、香道に対する印象や魅力について、未経験であるが故に、具体的なイメージや魅力は分からないという当然の結果が導かれた。その点を踏まえて、経験者や参加体験者との印象や魅力への回答の差を見ると、参加体験や経験を重ねることで、具体的な印象やイメージ、魅力を描くことができるようになること、また、経験を重ねた者ほど、香りを楽しむことや、心を落ち着かせる、香木の焚き方が分かるといった、香道の持つ意義などの具体的な行為や意味等と魅力が結びつけられるようになっている。

参加体験ありと回答した者の傾向と特徴

次に、参加体験ありと回答した者の回答傾向を分析する。参加体験をした者は、何らかのきっかけがあって香道を体験する機会を得ており、しかし、習うまでには至っていない者と捉えることができる。ではどのような状況で体験機会を得たのか、また、習うまでには至らない事情や理由等があるのかをクロス集計を用いてその傾向と特徴を分析する。

■参加体験者の体験のきっかけと機会

体験のきっかけ（B Q 9）を問う設問の結果から、学校や香舗、文化施設等で行われた体験イベントがきっかけであるという回答比率が 36.2%と最も高く、次に友人・知人から誘われたり勧められたりしたとの回答比率が 23.0%と続き、参加体験者の約 4 割は体験イベントをきっかけに香道の参加体験をしている傾向が見られる。また、体験の場（B Q10）については文化施設等で行われたイベントや、学校や職場のサークル活動、研修会と続き、学校や職場、文化施設等での体験機会が中心である。

体験したきっかけと体験機会の関係性の特徴や傾向を明らかにするため、B Q 9 と B Q10 のクロス集計の結果が下の表である。前述のとおり、体験したきっかけが学校や香舗、文化施設等での体験イベント（36.2%）と回答した者のうち、「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」（52.8%）、「学校の授業や職場の研修会」（47.2%）で体験を行ったとの回答比率が高い。他方、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（11.9%）「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（11.4%）を選択した者では、「自宅」で体験したとの回答比率が高く、「趣味や教養として、香道に興味関心があった」（16.5%）と回答した者は、「自宅」（33.0%）、「教室や稽古場、香や香木を扱う店（香舗）等で開かれた体験会」（23.6%）で体験を行っていたことが確認できる。

このような結果から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけに、その場で行われた体験イベントで体験をした回答者が比率として高い傾向にあり、現状においては、学校や職場でのイベント等での体験機会による参加体験の提供が、香道を見知る場として大きい位置を占めている傾向が見られる。

集計表 15 香道を体験した場×香道を体験したきっかけ

| | n= | BQ9香道を体験したきっかけ (%) | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|-------|--------------------|-------------|----------------|--------|-----------------|------|---------------|----------|----------|---------------|------------|----------------|
| | | どが親や兄姉、祖母など | どが親や兄姉、祖母など | 友人、知人などから勧められた | 店で体験した | 学校や香道イベント、文化施設等 | 知った | テレビや映画、雑誌、漫画等 | 趣味や教養として | 興味関心があった | 香道に関係する仕事や職業に | 野心的な趣味・習い事 | 自分が行っている別の関係分野 |
| 全体 | 1,227 | 11.9 | 11.4 | 23.0 | 36.2 | 13.6 | 16.5 | 5.1 | 12.8 | 2.5 | | | |
| 教室や稽古場、香や香木を扱う店(香舗)等で開かれた体験会 | 250 | 26.8 | 14.4 | 23.6 | 42.0 | 14.0 | 23.6 | 6.0 | 9.6 | 1.2 | | | |
| 学校の授業や職場の研修会 | 303 | 15.5 | 23.4 | 25.7 | 47.2 | 12.9 | 12.2 | 5.9 | 6.6 | 1.0 | | | |
| 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント | 326 | 9.8 | 16.0 | 32.5 | 52.8 | 18.4 | 18.4 | 6.4 | 4.6 | 0.6 | | | |
| 文化施設等で行われた体験イベント | 360 | 11.1 | 10.6 | 29.7 | 44.7 | 19.7 | 19.7 | 7.2 | 6.9 | 0.6 | | | |
| 自宅 | 94 | 31.9 | 23.4 | 21.3 | 18.1 | 19.1 | 33.0 | 13.8 | 18.1 | 2.1 | | | |
| 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験 | 187 | 5.9 | 8.0 | 16.0 | 15.0 | 8.0 | 19.3 | 6.4 | 52.4 | 3.2 | | | |
| その他 | 30 | 6.7 | 3.3 | 10.0 | 10.0 | 20.0 | 6.7 | - | 6.7 | 53.3 | | | |

■香道を習いやすい状況

香道を習いやすい状況（BQ11）に関する設問の結果では、通いやすい場所（42.7%）、費用の手頃さ（37.9%）の2つが重視されている条件となっている。一方、香道に支払える月額費用（BQ12）を見ると、「5,000円未満」（55.1%）、「5,000円以上～10,000円未満」（23.1%）と続き、回答者の78.2%が1万円未満の費用であれば習いやすいと回答している。

BQ11とBQ12のクロス集計の結果を見ると、「5,000円未満」を選択した者の中では、習いやすい状況として「わからない」を選択している者が全体平均55.1%を大きく上回っているほか、時間帯の調整や教本等の有無、カリキュラムの提示と言った回答項目は平均を下回っている。

一方、「5,000円以上～10,000円未満」（23.1%）と回答した者の場合、通いやすい場所（28.6%）が平均を上回っているほか、費用や時間帯、カリキュラムの提示の項目で平均を少し上回っていることが分かる。

集計表 16 香道を習いやすい状況×香道に支払える月額費用

| | n= | BQ12香道に支払える月額費用 (%) | | | | | | | | | | |
|----------------------------|-------|--------------------------------------|---------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--------------------------------------|
| | | 5 0 0 0 0 円 未 満 | 15 0 0 0 0 円 以 上 | 11 5 0 0 0 円 未 以 上 | 21 0 5 0 0 円 未 以 上 | 22 5 0 0 0 円 未 以 上 | 32 0 5 0 0 円 未 以 上 | 33 5 0 0 0 円 未 以 上 | 43 0 5 0 0 円 未 以 上 | 44 5 0 0 0 円 未 以 上 | 54 0 5 0 0 円 未 以 上 | 5 0 0 0 0 円 以 上 |
| 全体 | 1,227 | 55.1 | 23.1 | 8.5 | 5.3 | 2.9 | 1.6 | 1.1 | 0.7 | 0.3 | 0.2 | 1.1 |
| 家族や知人等、身近な人から習えたら | 222 | 59.9 | 22.1 | 6.8 | 5.0 | 2.7 | 2.7 | - | - | - | - | 0.9 |
| 通いやすい場所で習えたら | 524 | 51.7 | 28.6 | 8.8 | 5.3 | 2.5 | 1.9 | 0.6 | - | - | - | 0.6 |
| 費用が手頃だったら | 465 | 55.1 | 24.9 | 9.2 | 4.7 | 2.2 | 1.9 | 0.9 | 0.4 | 0.4 | - | 0.2 |
| 必要な道具等が借りられたら | 299 | 52.5 | 22.7 | 8.7 | 6.4 | 4.0 | 2.7 | 1.7 | 0.7 | - | - | 0.7 |
| 習う時間帯を調整してもらいやすかったら | 214 | 38.8 | 27.1 | 9.8 | 8.9 | 6.1 | 4.7 | 2.3 | 1.4 | 0.5 | - | 0.5 |
| 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら | 195 | 48.7 | 25.6 | 9.2 | 6.2 | 3.6 | 4.6 | 0.5 | - | 1.0 | 0.5 | - |
| 指導で教本やテキストを使っていたら | 79 | 41.8 | 17.7 | 13.9 | 2.5 | 5.1 | 5.1 | 2.5 | 5.1 | 1.3 | 2.5 | 2.5 |
| その他 | 8 | 75.0 | 25.0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| わからない | 199 | 80.4 | 14.1 | 0.5 | - | 0.5 | 0.5 | 1.0 | 0.5 | - | - | 2.5 |

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、香道をこれまで習っていない理由（BQ13）に関する設問の結果では、「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（34.3%）が最も多く、次いで「興味がなかった」（27.5%）、「習うための十分な時間が取れなかった」（18.4%）、「他の趣味や娯楽の方に関心が向いている」（17.1%）と続く。では、習いたいと考えている者は、どのような状況であれば習いやすいと考えている傾向が見られるのか。BQ11の習いやすい状況とのクロス集計を行い、参加体験者が習いやすい状況について分析を行う。

習いやすい状況について「わからない」（16.2%）と回答した者のうち、習わなかった理由で回答比率が高いものが、「興味がなかった」（34.3%）、「自分の趣味と合わない」（32.6%）の回答比率が高く、香道の体験をしても興味関心を持ってなかったことが分かる。

一方、参加しやすい状況として、「通いやすい場所で習えたら」（42.7%）と回答した者が習っていない理由として「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（66.7%）が最も多く、次いで「稽古場や教室の雰囲気が分からなかった」（64.8%）、「習うための十分な時間が取れなかった」（58.4%）と続き、身近な場所で習いたいと思う一方で、教室が近くになかったり、雰囲気が分からなかったり、時間の確保が難しかったり等の事情が見える。「費用が手頃だったら」（37.9%）と回答した者の場合は、「稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった」（60.0%）の回答比率が高く、次いで「カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった」（58.3%）、「習うための十分な時間が取れなかった」（57.5%）と続いている。

クロス集計の結果を見る限り、回答者にとって香道を習いやすい状況とは、香道を習わなかった事情や理由と密接な関係があり、通える場所や時間、習う内容や教室等の雰囲気といった部分が、習い始める時に参加体験者にとってのハードルになりやすくなっている傾向が見える。

集計表 17 香道を習っていない理由×香道を習いやすい状況

(%)

| | n= | BQ11香道を習いやすい状況 | | | | | | | | |
|-----------------------------------|-------|--------------------|---------------|-----------|--------------|--------------|------------------|---------------|------|-------|
| | | か家族や知人等、身近な人から習えたら | ら通いやすい場所です習えた | 費用が手頃だったら | た必要な道具等が借りられ | ら習う時間帯を調整しても | れ、指導方法やカリキュラムに示さ | 指で指導した本やテキストを | その他 | わからない |
| 全体 | 1,227 | 18.1 | 42.7 | 37.9 | 24.4 | 17.4 | 15.9 | 6.4 | 0.7 | 16.2 |
| 興味がなかった | 338 | 20.7 | 29.6 | 26.9 | 14.8 | 8.0 | 12.1 | 4.4 | 1.2 | 34.3 |
| 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった | 421 | 18.3 | 66.7 | 52.5 | 32.3 | 23.8 | 18.3 | 7.6 | 0.5 | 5.0 |
| 習うための授業料等の費用が確保できなかった | 200 | 18.0 | 46.5 | 55.5 | 39.0 | 30.0 | 19.0 | 7.5 | 0.5 | 4.0 |
| 習うための十分な時間が取れなかった | 226 | 23.0 | 58.4 | 57.5 | 40.3 | 36.7 | 25.2 | 8.8 | 0.4 | 2.7 |
| カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていない | 127 | 18.9 | 50.4 | 58.3 | 40.9 | 39.4 | 36.2 | 15.7 | - | 2.4 |
| 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった | 105 | 16.2 | 64.8 | 60.0 | 47.6 | 38.1 | 34.3 | 11.4 | - | 6.7 |
| 習う内容についていけるかどうか不安がある | 113 | 23.0 | 57.5 | 46.0 | 38.9 | 33.6 | 28.3 | 15.0 | - | 8.0 |
| 他の趣味や娯楽の方に心が向いている | 210 | 23.3 | 48.6 | 45.7 | 30.0 | 19.5 | 24.3 | 10.5 | 0.5 | 16.2 |
| 自分の趣味と合わない | 89 | 25.8 | 16.9 | 21.3 | 14.6 | 11.2 | 18.0 | 11.2 | 2.2 | 32.6 |
| その他 | 12 | 16.7 | 58.3 | 58.3 | 33.3 | 25.0 | 16.7 | 8.3 | 16.7 | 16.7 |

※n=30未満は参考値のため灰色

上記のクロス集計の結果から、香道の参加体験ありと回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 参加体験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

BQ9とBQ10のクロス集計結果の分析から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけとして香道を体験した者が多い傾向にある。他方、親族が香道を習ったり、教えていたりした場合や、興味関心があつて香道をした場合、自宅や稽古場・教室が体験機会の場になっており、体験のきっかけの違いによって、体験する機会や場が異なる傾向にあることが分かる。また、学校や職場等での体験イベントが香道を知り・体験する場としての位置は大きいことから、香道に関する担い手の活動の場ともなっていると推察される。

2) 参加体験者が考える習いやすい状況や内容についての傾向と特徴

参加体験者が香道を習いやすい状況や内容について、月に支払える費用と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、月額費用として5,000円以上を支払うと回答した者ほど、習いやすい具体的な状況について回答している傾向にあり、香道を習っても良いと考える者と捉えることができる。

習っていない理由と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、参加体験をしても香道に興味を持てなかった者が一定数いる一方で、興味関心があつても通える場所がない等の事情があることが分かる。加えて、習うための時間の確保や、習う場所の雰囲気が分からない等も回答として多く、参加体験者にとって、習う内容や機会に関する詳しい情報があつた方が、習い始めやすいと考えていることが、回答結果の分析からうかがえる。

経験ありと回答した者の傾向と特徴

経験ありと回答した者の回答傾向について分析を行う。経験者がどのような経緯や場所で香道を習い始め、どの程度の者が継続してきたのかを分析することで、参加体験者と未経験者との違いを明らかにする。

■始めたきっかけと継続性及び継続理由

香道を習い始めたきっかけ（BQ1）の結果では、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（31.2%）が最も高く、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（25.3%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（22.3%）、「趣味や教養として、香道に興味関心があった」（21.5%）と続いている。香道の経験ありと回答した者の身近には、香道に関わる者がいたり、香道に関する情報やイベントがあったりしたことで、香道を習い始めるきっかけが生み出される背景があったことが推察される。

次に、習い始めたきっかけ（BQ1）と現在の継続状況（BQ3）についてクロス集計を行い、始めたきっかけと継続率の関係を分析する。継続率の全体平均（46.0%）に対し、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（73.6%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（67.2%）の回答者の継続率は、全体平均を上回っている。反対に、非継続率の全体平均（54.0%）を比べると、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（78.2%）が平均を大きく上回っていることから、親族などが香道に関わっていることをきっかけとして習い始めた回答者の方が、継続率が高い傾向にある。反対に、自分の趣味との関わりの中で香道を習い始めた者は、何らかの理由で継続できていない傾向にあることが分かる。

集計表 18 香道を習い始めたきっかけ×現在の継続状況

| | n= | BQ3 活動の継続 (%) | |
|--|-----|---------------|------|
| | | 続けている | 続けない |
| 全体 | 391 | 46.0 | 54.0 |
| 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた | 122 | 67.2 | 32.8 |
| 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた | 87 | 73.6 | 26.4 |
| 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた | 99 | 49.5 | 50.5 |
| 学校の授業や、香や香木を扱う店(香舗)での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した | 72 | 55.6 | 44.4 |
| テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った | 47 | 55.3 | 44.7 |
| 趣味や教養として、香道に興味関心があった | 84 | 42.9 | 57.1 |
| 香道に係る仕事や職業に興味関心があった | 28 | 64.3 | 35.7 |
| 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた | 55 | 21.8 | 78.2 |
| その他 | 10 | 10.0 | 90.0 |

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、継続理由に関する設問（BQ3補問1）では、「指導者や教授者として活動したい（している）」（45.6%）の回答比率が最も高く、次いで「日本の文化だから」（44.4%）、「一緒に楽しむ仲間がいる」（30.6%）、「香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」（24.4%）と続いている。始めたきっかけ（BQ1）とのクロス集計を行い、継続する理由ときっかけの関係性について分析を行うと、まず継続理由として最も回答比率が高かった「指導者や教授者として活動したい（している）」と回答した者の中でも「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（69.5%）の回答比率が高い。

また、「日本の文化だから」と回答した者の場合は、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（73.4%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「友人・知人などからの習うことを勧められた・誘われた」（61.2%）、「学校の授業や、香や香木を扱う店（香店舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」（60.0%）、「趣味や教養として、香道に興味関心があった」（58.3%）も上回っている。

集計表 19 香道を習い始めたきっかけ×香道を続けている理由

| | | BQ3補問1 香道を続けている理由 (%) | | | | | | | | | |
|--|-------|---|--------------------------------------|---|--|---|---|---|-------------|---------------------------------|--|
| | | 動指 し導 した 者 い や 〜 授 て 者 い る 〜 活 | 日 本 の 文 化 だ か ら | 一 緒 に 楽 し む 仲 間 が い る | た 奥 い 深 い 文 化 の も と 知 り | 香 木 等 の 焚 き 方 や 、 香 席 | が 香 席 で よ い く 香 木 等 の 香 り | し 習 、 生 活 の 一 部 と な っ た ら | そ の 他 | 特 に 理 由 は な い | の 上 記 の 中 で 当 て は ま る も |
| 全体 | n=180 | 45.6 | 44.4 | 30.6 | 24.4 | 15.6 | 16.7 | - | - | - | - |
| 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた | 82 | 69.5 | 46.3 | 29.3 | 23.2 | 14.6 | 18.3 | - | - | - | - |
| 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた | 64 | 48.4 | 73.4 | 37.5 | 35.9 | 20.3 | 20.3 | - | - | - | - |
| 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた | 49 | 42.9 | 61.2 | 46.9 | 38.8 | 22.4 | 20.4 | - | - | - | - |
| 学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した | 40 | 42.5 | 60.0 | 65.0 | 52.5 | 22.5 | 30.0 | - | - | - | - |
| テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った | 26 | 46.2 | 69.2 | 69.2 | 61.5 | 42.3 | 46.2 | - | - | - | - |
| 趣味や教養として、香道に興味関心があった | 36 | 44.4 | 58.3 | 55.6 | 55.6 | 47.2 | 47.2 | - | - | - | - |
| 香道に係る仕事や職業に興味関心があった | 18 | 50.0 | 66.7 | 50.0 | 50.0 | 38.9 | 66.7 | - | - | - | - |
| 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた | 12 | 41.7 | 50.0 | 66.7 | 58.3 | 58.3 | 75.0 | - | - | - | - |
| その他 | 1 | - | - | - | - | - | 100.0 | - | - | - | - |

※n=30未満は参考値のため灰色

香道から離れたきっかけや理由（BQ3補問2）を見ると、「時間がなくなった」（36.0%）と「近くに習う場所がなくなった」（25.6%）が大きな理由となっている。

始めたきっかけ（BQ1）と離れたきっかけをクロス集計しその関係を分析すると、回答比率が最も高い「時間がなくなった」と回答した者の場合、始めたきっかけとして「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（55.0%）が最も回答比率が高く、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（46.0%）も全体平均を上回っている。また、「近くに習う場所がなくなった」と回答した者の場合は、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（38.0%）、「学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」

(37.5%) の2項目が全体平均を上回っている。

一方、「当初目標としていたことが達成できた」(11.8%)と回答した者のうち、「学校の授業や、香や香木を扱う店(香舗)での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」(25.0%)をきっかけとした回答比率が高い。

親族が香道と関わりを持っていたことをきっかけに習い始めた者の場合、習う場所等の確保はしやすい一方で、時間がなくなったりするほか、一緒に活動する者が辞めてしまったことも、香道から離れてしまう要因となっている。一緒に活動する者が辞めてしまったことで、継続できなくなったという理由は、友人・知人からの勧めで香道を習い始めた者も同じ傾向が見られるほか、習う場所がなくなってしまうことも継続できなくなった理由として回答比率が高いことが分かる。

集計表 20 香道を習い始めたきっかけ×香道から離れたきっかけや理由

| | | BQ3補問2 香道から離れたきっかけ (%) | | | | | | | | | | |
|----|--|----------------------------------|--|----------------------------|----------------------------|--|--|---|--|--|-------------|------|
| | | 時間 が な く な っ た | 近 く に 習 う 場 所 が な く | が 達 成 で き た | 興 味 を 失 っ た | く 経 済 的 に 続 け る の が 難 し | こ 健 康 面 、 体 調 面 で 続 け る | 人 一 緒 が 辞 め て し ま っ た 家 族 や 友 | い 習 っ て い る 内 容 に つ い て | た 指 導 者 や 教 授 者 を 引 退 し | そ の 他 | |
| n= | 全体 | 211 | 36.0 | 25.6 | 11.8 | 17.1 | 7.1 | 3.8 | 9.5 | 6.6 | 8.1 | 5.2 |
| | 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた | 40 | 55.0 | 17.5 | 7.5 | 15.0 | 7.5 | 2.5 | 15.0 | 5.0 | - | - |
| | 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた | 23 | 39.1 | 34.8 | 30.4 | 13.0 | 13.0 | 13.0 | 8.7 | - | 13.0 | - |
| | 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた | 50 | 46.0 | 38.0 | 14.0 | 20.0 | 6.0 | 8.0 | 16.0 | 2.0 | 10.0 | - |
| | 学校の授業や、香や香木を扱う店(香舗)での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した | 32 | 25.0 | 37.5 | 25.0 | 18.8 | 12.5 | - | 9.4 | 3.1 | 9.4 | 6.3 |
| | テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った | 21 | 23.8 | 28.6 | 14.3 | 28.6 | 4.8 | - | 4.8 | 4.8 | - | 14.3 |
| | 趣味や教養として、香道に興味関心があった | 48 | 31.3 | 29.2 | 16.7 | 14.6 | 6.3 | 4.2 | 14.6 | 10.4 | 4.2 | 4.2 |
| | 香道に係る仕事や職業に興味関心があった | 10 | 20.0 | - | 30.0 | 10.0 | - | 20.0 | 10.0 | 10.0 | 20.0 | - |
| | 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた | 43 | 37.2 | 25.6 | 9.3 | 14.0 | 2.3 | - | 14.0 | 9.3 | 11.6 | 7.0 |
| | その他 | 9 | 22.2 | 11.1 | - | - | 11.1 | - | - | 11.1 | 11.1 | 44.4 |

※n=30未満は参考値のため灰色

以上のようなクロス集計の結果からは、親族などが香道に関わっていることをきっかけとして香道を習い始めた者については、継続性が高い傾向にあり、とりわけ親族が習っていたことをきっかけに香道を習い始めた者の場合、自身が教授者として活動しているか、今後教授者として活動しようと考えている傾向が見られる。

一方、イベントでの体験やメディアを通じて、香道を習い始めた者については、継続性は決して低くはないが、継続できなかった者については、習う場所がなくなったり、時間がなくなったりと、継続できる環境が失われてしまったことが確認できる。

■活動内容

香道に関する活動内容(BQ5)の結果では、「教室や稽古場で習っている(いた)」(50.1%)が半分を占め、次いで「カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)」(30.2%)、「学校や

職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」(27.9%)と続く。

まず、活動内容（BQ5）と現在の継続状況（BQ3）についてクロス集計を行い、活動内容と継続率の関係を分析する。このうち継続していると回答した者（46.0%）の中で、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」(67.8%)が最も回答比率が高く、次いで「指導者や教授者として教えている（いた）」(58.8%)、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」(56.0%)と続く。

集計表 21 香道に関する活動内容×現在の継続状況

| | n= | BQ3 現在の継続状況 (%) | |
|-------------------------------------|-----|-----------------|------|
| | | 続けている | 続けない |
| 全体 | 391 | 46.0 | 54.0 |
| 教室や稽古場で習っている(いた) | 196 | 48.0 | 52.0 |
| カルチャーセンターの講座等を受講している(いた) | 118 | 67.8 | 32.2 |
| 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた) | 109 | 56.0 | 44.0 |
| 指導者や教授者として教えている(いた) | 34 | 58.8 | 41.2 |
| その他 | 21 | 14.3 | 85.7 |

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、活動内容（BQ5）と経験年数（BQ4）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。教室や稽古場、あるいはカルチャーセンターでの受講している者の場合、1年未満との回答比率は平均以下であるが、その他の回答比率は平均を少し上回る回答比率となっており、教室や稽古場では20年以上習い続けている者も確認できる。

また、経験年数が「20年以上」（6.1%）と回答した者のうち、「指導者や教授者として教えている（いた）」(26.5%)と全体平均を大きく上回っているほか、「3～5年未満」（19.9%）でも「指導者や教授者として教えている（いた）」(38.2%)が大きく上回る回答比率となっている。

集計表 22 香道に関する活動内容×香道を続けている年数

| | n= | BQ4 香道を続けている年数 (%) | | | | | | |
|-------------------------------------|-----|--------------------|--------|--------|---------|----------|-------|--------|
| | | 1年未満 | 1～3年未満 | 3～5年未満 | 5～10年未満 | 10～20年未満 | 20年以上 | 3年以上合計 |
| 全体 | 391 | 27.6 | 24.8 | 19.9 | 12.5 | 9.0 | 6.1 | 47.6 |
| 教室や稽古場で習っている(いた) | 196 | 26.0 | 25.0 | 17.3 | 14.8 | 9.2 | 7.7 | 49.0 |
| カルチャーセンターの講座等を受講している(いた) | 118 | 17.8 | 29.7 | 22.9 | 16.1 | 10.2 | 3.4 | 52.5 |
| 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた) | 109 | 21.1 | 23.9 | 24.8 | 11.9 | 11.9 | 6.4 | 55.0 |
| 指導者や教授者として教えている(いた) | 34 | 11.8 | 2.9 | 38.2 | 2.9 | 17.6 | 26.5 | 85.3 |
| その他 | 21 | 52.4 | 14.3 | 4.8 | 4.8 | 19.0 | 4.8 | 33.3 |

※n=30未満は参考値のため灰色

活動内容（BQ5）と活動頻度（BQ6）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。「ほぼ毎日」（13.8%）と回答した者のうち、「指導者や教授者として教えている（いた）」（26.5%）が全体平均を大きく上回っているほか、「教室や稽古場で習っている（いた）」（19.9%）と高い。一方、「週に2～3回」（13.8%）と回答した者では、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（23.7%）、「指導者や教授者として教えている（いた）」（20.6%）の項目への回答比率が高い。また、「週1回程度」（23.3%）と回答した者では、同好会やサークルでの活動（30.3%）、カルチャーセンターでの受講（28.8%）の回答比率が高いほか、指導者や教授者としての活動（8.8%）は著しく低い。

このように、指導者や教授者として活動している者の場合、ほぼ毎日か週に2～3日程度の活動頻度であり、教室や稽古場で習っている者もほぼ毎日の回答比率が高い傾向にあることから、稽古場や教室での活動状況の傾向がうかがえる。

集計表 23 香道に関する活動内容×香道に関する活動頻度

| | n= | BQ6 香道に関する活動頻度 (%) | | | | | | |
|-------------------------------------|-----|--------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | ほぼ毎日 | 週に2～3回 | 週1回程度 | 月数回程度 | 月1回程度 | 年数回程度 | 年1回程度 |
| 全体 | 391 | 13.8 | 13.8 | 23.3 | 17.4 | 14.1 | 6.4 | 11.3 |
| 教室や稽古場で習っている(いた) | 196 | 19.9 | 13.3 | 21.4 | 18.4 | 15.3 | 4.6 | 7.1 |
| カルチャーセンターの講座等を受講している(いた) | 118 | 11.9 | 23.7 | 28.8 | 16.1 | 9.3 | 6.8 | 3.4 |
| 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた) | 109 | 13.8 | 11.9 | 30.3 | 11.9 | 15.6 | 7.3 | 9.2 |
| 指導者や教授者として教えている(いた) | 34 | 26.5 | 20.6 | 8.8 | 20.6 | 8.8 | 2.9 | 11.8 |
| その他 | 21 | 9.5 | 4.8 | 9.5 | - | - | 14.3 | 61.9 |

※n=30未満は参考値のため灰色

活動内容（BQ5）と毎月使う費用（BQ7）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。

「5,000円未満」（42.5%）と回答した者のうち、「教室や稽古場で習っている（いた）」と回答した者以外の項目は、全体平均を下回っている。

次に5,000円以上の月額費用を払っている場合を見ると、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」は、「5,000円未満」「40,000円以上～45,000円未満」以外の費用で全体平均を上回っている。一方、「教室や稽古場で習っている（いた）」と回答している者の費用は「5,000円未満」（43.9%）、「5,000円以上～10,000円未満」（20.9%）、そのほかは35,000円以上50,000円未満の各項目で平均を少し上回っていることが確認できる。

集計表 24 香道に関する活動内容×香道に関する月額費用

| | n= | BQ7 香道に関する月額費用 (%) | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|-----|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------|--------|
| | | 5 0 0 0 円 未 満 | 1 5 0 0 円 未 満 | 1 1 5 0 円 未 満 | 2 1 0 5 円 未 満 | 2 2 5 0 円 未 満 | 3 2 0 5 円 未 満 | 3 3 5 0 円 未 満 | 4 3 0 5 円 未 満 | 4 4 5 0 円 未 満 | 5 4 0 5 円 未 満 | 5 0 0 円 未 満 | 合 計 |
| 全体 | 391 | 42.5 | 18.4 | 14.3 | 7.2 | 5.4 | 3.8 | 2.3 | 1.0 | 1.0 | 0.8 | 3.3 | 39.1 |
| 教室や稽古場で習っている(いた) | 196 | 43.9 | 20.9 | 11.7 | 6.6 | 4.6 | 2.0 | 2.6 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 3.1 | 35.2 |
| カルチャーセンターの講座等を受講している(いた) | 118 | 26.3 | 18.6 | 19.5 | 11.0 | 6.8 | 7.6 | 3.4 | 1.7 | - | 0.8 | 4.2 | 55.1 |
| 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた) | 109 | 33.9 | 11.9 | 16.5 | 10.1 | 9.2 | 5.5 | 3.7 | 1.8 | 1.8 | - | 5.5 | 54.1 |
| 指導者や教授者として教えている(いた) | 34 | 17.6 | 17.6 | 14.7 | 8.8 | 14.7 | - | 5.9 | - | - | - | 20.6 | 64.7 |
| その他 | 21 | 81.0 | 9.5 | 4.8 | - | - | - | - | - | - | - | 4.8 | 9.5 |

※n=30未満は参考値のため灰色

■経験年数

香道を続けている年数（BQ4）の結果では、「1年未満」（27.6%）の回答比率が最も高く、次いで「1～3年未満」（24.8%）、「3～5年未満」（19.9%）と続いている。

経験年数（BQ4）と習い始めたきっかけ（BQ1）のクロス集計を行い関係性について分析する。「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（22.3%）を回答した者のうち、「3～5年未満」（33.3%）が平均を大きく上回っているほか、「趣味や教養として、香道に興味関心があった」（21.5%）において「10～20年未満」（48.6%）も大きく全体平均を上回っている。

きっかけとして、親族が香道を習っていたり教えていたり、趣味や教養として興味関心があったと回答した者ほど、経験年数が長い傾向が見られる。

集計表 25 香道を続けている年数×香道を習い始めたきっかけ

| | n= | BQ1 香道を習い始めたきっかけ (%) | | | | | | | | | | | |
|----------|-----|--|--|---|--|--|---|---|---|--|--|---|-------------|
| | | ど が 習 つ て 姉 妹 、 祖 父 母 な | ど が 兄 弟 、 姉 妹 、 祖 父 母 な | れ こ と を 、 勤 め ら れ た か ら 誘 わ う | 友 人 、 知 人 、 な ら ば 誘 わ う | れ ん ご 会 、 イ ン テ ン シ ブ 、 文 化 施 設 、 香 道 の 体 験 、 香 道 の 体 験 | 学 校 の 授 業 、 香 道 の 体 験 | 知 画 、 レ ビ エ 、 映 画 、 雑 志 、 漫 画 | に 興 味 や 関 心 が あ っ た 、 香 道 | 興 味 や 関 心 が あ っ た 、 香 道 | し 野 心 、 職 業 に 関 心 が あ っ た 、 香 道 | 自 分 の 興 味 、 関 心 が あ っ た 、 香 道 | そ の 他 |
| 全体 | 391 | 31.2 | 22.3 | 25.3 | 18.4 | 12.0 | 21.5 | 7.2 | 14.1 | 2.6 | | | |
| 1年未満 | 108 | 31.5 | 8.3 | 17.6 | 11.1 | 10.2 | 12.0 | 1.9 | 15.7 | 6.5 | | | |
| 1～3年未満 | 97 | 22.7 | 23.7 | 27.8 | 22.7 | 9.3 | 16.5 | 6.2 | 11.3 | - | | | |
| 3～5年未満 | 78 | 25.6 | 33.3 | 33.3 | 20.5 | 14.1 | 21.8 | 7.7 | 7.7 | 1.3 | | | |
| 5～10年未満 | 49 | 38.8 | 26.5 | 26.5 | 20.4 | 18.4 | 28.6 | 10.2 | 12.2 | 2.0 | | | |
| 10～20年未満 | 35 | 40.0 | 25.7 | 22.9 | 22.9 | 8.6 | 48.6 | 14.3 | 20.0 | - | | | |
| 20年以上 | 24 | 54.2 | 29.2 | 25.0 | 16.7 | 16.7 | 29.2 | 16.7 | 33.3 | 4.2 | | | |

※n=30未満は参考値のため灰色

次に経験年数（BQ4）と習い始めた当初の習い方を選んだ理由（BQ2補問）のクロス集計を行い関係性について分析する。「特に理由はない、わからない」（9.2%）では、「1年未満」（23.1%）が大きく全体平均を上回り、その他の項目は全て全体平均を下回っていることから、選んだ理由が特になく傾向が見える。そのほか、「10～20年未満」では、「通いやすい場所だった」以外の項目で全体平均を上回っている。

集計表 26 香道を続けている年数×当初の習い方を選んだ理由

| | | BQ2補問 その方法を選んだ理由 (%) | | | | | | | | | | |
|----------|-----|----------------------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|---|
| | | か | 通 | 費 | 道 | 通 | た | 指 | 本 | 手 | そ | い |
| | | 家 | い | 用 | 具 | い | た | 導 | 格 | 軽 | 他 | 特 |
| | | 族 | や | が | 等 | や | 費 | が | 的 | に | に | に |
| | | や | す | 手 | が | す | 用 | 方 | に | 習 | 理 | 理 |
| | | 友 | い | 頃 | 借 | い | が | 法 | 習 | っ | 由 | 由 |
| | | 人 | い | だ | り | 時 | 方 | や | っ | て | は | は |
| | | 等 | い | っ | ら | 間 | 具 | カ | て | み | な | な |
| | | と | 場 | た | れ | 帯 | リ | リ | た | た | い | わ |
| | | 一 | 所 | っ | た | だ | キ | キ | か | か | 、 | か |
| | | 緒 | だ | た | っ | っ | ュ | ュ | か | か | わ | ら |
| | | が | っ | た | た | た | ラ | ラ | っ | っ | ら | な |
| | | 良 | っ | た | た | た | ム | ム | た | た | な | な |
| | | | た | た | た | た | い | い | た | た | な | な |
| n= | n= | | | | | | | | | | | |
| 全体 | 391 | 33.2 | 36.3 | 21.7 | 14.3 | 16.6 | 15.1 | 10.5 | 13.6 | 1.0 | 9.2 | |
| 1年未満 | 108 | 29.6 | 21.3 | 12.0 | 5.6 | 10.2 | 4.6 | 4.6 | 11.1 | 1.9 | 23.1 | |
| 1～3年未満 | 97 | 34.0 | 45.4 | 20.6 | 11.3 | 13.4 | 16.5 | 8.2 | 14.4 | 1.0 | 2.1 | |
| 3～5年未満 | 78 | 29.5 | 38.5 | 25.6 | 20.5 | 19.2 | 25.6 | 15.4 | 6.4 | - | 2.6 | |
| 5～10年未満 | 49 | 32.7 | 46.9 | 36.7 | 18.4 | 20.4 | 14.3 | 6.1 | 18.4 | - | 4.1 | |
| 10～20年未満 | 35 | 42.9 | 31.4 | 22.9 | 22.9 | 31.4 | 22.9 | 22.9 | 22.9 | 2.9 | 2.9 | |
| 20年以上 | 24 | 45.8 | 45.8 | 25.0 | 25.0 | 20.8 | 12.5 | 20.8 | 20.8 | - | 16.7 | |

※n=30未満は参考値のため灰色

経験年数（BQ4）と香道に関する興味関心や魅力（BQ8）のクロス集計を行い関係性について分析する。興味関心や魅力として最も回答比率が高かった「香木等を焚きその香りを楽しむ」（45.5%）を回答した者の中では、「1年未満」（53.7%）の経験年数の者が最も回答比率が高い。そのほか、「香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」（25.8%）では、「3～5年未満」（35.9%）、「香木等に応じた焚き方が分かる」（31.7%）では、「10年～20年未満」（48.6%）と平均を上回っている。

なお、回答比率があまり高くなかった「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」（12.8%）は、経験年数が長くなるにつれて回答比率が上がっている。経験年数に関わりなく、香木の香りを楽しむことが香道の魅力として捉えられている一方、経験年数が1年未満の者については、まだ魅力をとらえきれていないことが「上記の中で当てはまるものはない」（25.0%）の回答比率が全体平均より高いことからもうかがえる。

集計表 27 香道を続けている年数×香道に関する興味関心や魅力

(%)

| | | BQ8 香道に関する興味関心や魅力 | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----|-------------------|-------------|------|------|---------|---------|-------|-------|------|-------------|---------|-----------------|-----|---------------|
| | | 楽しめる | 香木等を焚きその香りを | 分香する | 香木等に | 応じた焚き方が | 四季感を感じる | ことえや、 | 席のじつこ | が落ちる | 集客力を高めたり、心を | 主客の心の交流 | て日本内外に伝統的な文化として | その他 | の上記の中で当てはまるもの |
| | n= | | | | | | | | | | | | | | |
| 全体 | 391 | 45.5 | 31.7 | 25.8 | 32.5 | 13.3 | 12.8 | - | 12.3 | | | | | | |
| 1年未満 | 108 | 53.7 | 13.0 | 8.3 | 17.6 | 4.6 | 3.7 | - | 25.0 | | | | | | |
| 1～3年未満 | 97 | 39.2 | 39.2 | 30.9 | 30.9 | 18.6 | 12.4 | - | 6.2 | | | | | | |
| 3～5年未満 | 78 | 37.2 | 34.6 | 35.9 | 37.2 | 12.8 | 14.1 | - | 9.0 | | | | | | |
| 5～10年未満 | 49 | 42.9 | 38.8 | 34.7 | 42.9 | 10.2 | 16.3 | - | 6.1 | | | | | | |
| 10～20年未満 | 35 | 48.6 | 48.6 | 28.6 | 57.1 | 25.7 | 28.6 | - | 2.9 | | | | | | |
| 20年以上 | 24 | 62.5 | 37.5 | 29.2 | 33.3 | 20.8 | 20.8 | - | 16.7 | | | | | | |

※n=30未満は参考値のため灰色

上記のクロス集計の結果から、香道の経験ありと回答した者の傾向や特徴をまとめると、以下のとおりである。

1) 習い始めたきっかけと継続率に見える傾向と特徴

親族が香道を教えていたり習っていたりしたことをきっかけとして、香道を習い始めた者の継続率が特に高い傾向にあり、イベントでの体験やメディアを通じて興味関心を持って香道を習い始めたと回答した者も継続率が高い。このうち、親族が香道と関わりを持っていたと回答した者は、自身が香道の指導者や教授者として活動している率が全体平均より高い傾向にある。

一方、習い始めたきっかけと辞めてしまった理由との関係を見ると、親族が香道を習っていた者の場合は時間が確保できずに辞めている傾向が強く、友人・知人から勧められた者やイベント体験を通じて習い始めた者の場合は、習う場所がなくなってしまったために辞めざるを得なかった傾向にある。また、親族や友人・知人との関係性の中で習い始めた者の中では、一緒に習う人が辞めてしまった場合、自分も辞めてしまう場合があることが集計結果からうかがえる。

2) 活動内容と継続している年数から見える傾向と特徴

カルチャーセンターで香道を受講している者や、指導者・教授者として活動している者の経験年数が高い傾向にあり、カルチャーセンターで受講している者は1年以上から10年未満、指導者・教授者は3～5年未満や、10年以上の回答比率が高い傾向にある。また、教室や稽古場で習っている者の継続率を見ると、経験年数5年以上で全体平均を少し上回っている。

活動頻度の傾向としては、カルチャーセンターで受講する者は週1回程度、もしくは週2～3回程度の頻度が多く、指導者・教授者の場合はほぼ毎日、もしくは週2～3回程度の回答比

率が高い傾向にあり、各活動内容による頻度の違いが見られる。また、月額費用についてはカルチャーセンターで受講している者の場合は 10,000～15,000 円未満、指導者・教授者として活動している者は 20,000～25,000 円未満の回答比率が高い傾向にある。

3) 経験年数と習い始めたきっかけや魅力から見える傾向と特徴

経験年数と習い始めたきっかけとの関係を見ると、親族等が香道を習っていたあるいは教えていた場合や、趣味や教養として興味があり香道を習い始めた者で経験年数が長い傾向が見られる。当初の習い方を選んだ理由については、経験年数 10～20 年未満の者で、通いやすい場所以外の項目で全体平均を上回っているほか、経験年数が 1 年未満の場合は、特に理由がないとの回答比率が高く、対照的な傾向が見られる。

経験年数と興味関心や魅力との関係を見た場合、香木を焚き香りを楽しむことについては、経験年数に関わりなく、魅力や興味関心として捉えられている。その一方で、主客の交流や伝統文化として国内外へ知られていること、香席のしつらいなどの項目は経験年数が長くなるほどに回答比率が高くなる傾向が見られ、逆に 1 年未満の場合は、当てはまるものがないとの回答比率が高く、経験を重ねていくことで、魅力や興味関心の捉え方が変化しているものと推察される。

(4) 分析結果のまとめ

香道の経験・体験の有無や、経験者や参加体験者、未経験者の香道への活動状況や興味関心の度合いを把握することを目的としてウェブアンケートを利用した調査を実施した。

調査結果からは、香道の未経験者が圧倒的に多いことが分かった。未経験者が多いことについては、設問群の回答結果からも見えるように、興味関心が持てなかった、関心が向かない者がいる一方で、そもそも香道を知らなかった者が多くいることに注目する必要がある。また、香道を知ってはいるが、気軽に体験できる場がなかった、あるいは体験できる場自体を知らなかったことで、参加体験には至らなかった者もいることが明らかになった。

一方で、経験者や参加体験者の場合は、香道について知る機会や体験をする場に接する機会があったことから、香道を経験することができたことが分かる。経験者の場合、親族が香道を習ったり教えたりしていた、あるいは、友人・知人から勧められたことが習い始めるきっかけとして大きな要因になっている。また、参加体験者の場合は、学校や香舗、文化施設等での体験イベントをきっかけとして体験をしたとの回答比率が高く、経験者・参加体験者・未経験者のそれぞれに、香道を知る機会、接することができる機会や環境に大きな開きがあることが、調査結果の分析から見えてくる。

経験者の活動状況等については、約 5 割は継続していない状況で、継続している者については若い世代ほどに継続率が高く、経験年数が長いほどに継続している傾向にある。一方で、継続していない者が続けられなかった事情からは、時間がなくなった、習う場所がなくなった等の事情

があることが傾向として見え、回答者の環境を整えば再開する可能性があることも推察される。

参加体験者の活動状況等については、参加体験をしたきっかけと体験した機会のクロス集計から、学校や香舗等で体験機会を得たという回答比率が高い傾向にあり、香道の指導者や教授者がこれらの場において、体験機会の醸成などを図っている事例もあることから、香道を参加体験する大きなきっかけとして作用していることが分かる。また、参加体験者がこれまで香道を習うに至らなかった理由や事情からは、参加体験をしても興味関心を持てなかった者もいる一方で、通いやすい場所や時間帯、教室や稽古場の雰囲気分かるようであれば習いたいと考えている者がいることから、教室や稽古場を開いている指導者や教授者が、稽古の日時や調整が可能かどうかを告知したり、教室等を見学できる機会を設けたりするなど、無理のない範囲で工夫を行うことで、習いに行きたい人に広く機会を提供できる可能性があることが分かる。

上記の結果から、香道の経験者や参加体験者を増やしていくことを想定した場合、学校や香舗等での体験機会はもちろんのこと、香道を体験できるイベントなどを広く行うと共に、これらの体験機会自体を、新聞や雑誌あるいはインターネット等のメディアも扱いながら、広く周知する工夫を行うことで、香道そのものの一般への認知を高めつつ、経験者や参加体験者を増やす可能性を上げることができるものと考えられる。また、習うことができる場所の周知をはじめ、習う内容や時間帯など、習いたいと考えている者に適切に情報を伝えていくことも有効な取組として考えられる。

2-3 海外からの評価と国際発信

海外から捉えた香道

外国人が香道をどのように捉えていたか、外国語の文献から推察することが可能である。

永禄7年(1564)に来日した宣教師ルイス・フロイスが記した“*Historia de Japam*”(邦題『日本史』)には、豊臣秀吉が沈香を好み、自らを誇示するものとして用いたとの記載がある²⁵。また、同じく宣教師で言語学者でもあるジョアン・ロドリゲスは著書“*Histoire Ecclésiastique des Isles et Royaumes du Japon*”(邦題『日本教会史』)の中で、「日本人はまた、香料や芳香を有する物、特に伽羅と沈香の等級と純度を識別するのに、とろ火を使い巧みな技術で、同じ種類の中の様々な相違と等級を判定する技能をわがものとしている」と述べている²⁶。

江戸時代には、蒔絵漆器の香道具が量産されるようになり、海外にも輸出されるようになった。既に、16世紀後半には訪日した宣教師や商人達によって発注・製作された平蒔絵と螺鈿を組み合わせた漆器(南蛮漆器)がヨーロッパにもたらされた。17世紀以降になると黒漆地に高蒔絵を施した漆器、いわゆる「紅毛漆器」が海外へ輸出されるようになった。例えば、マリー・アントワネットの漆器のコレクションにある重香合や香簞筒、デンマーク王室には香炉が伝来しているように、ヨーロッパの王侯貴族たちの中で広まった東洋趣味の高まりもあり、本来の目的とは異なる形で、香道具が収集されていたことが分かる²⁷。

近代になると、多くの外国人が訪日するに従い、日本に関する書籍が外国人に広く読まれるようになる。その一つが、明治6年(1873)に英語教師として訪日したバジル・ホール・チェンバレンの“*Things Japanese*”(邦題『日本事物誌』)であり、この中で「^{きまこう}聞香」(Insense Parties)の項目が立てられている。冒頭、「『聞香』(香をかぐこと)という複雑な儀式があり、これは西暦一五〇〇年以来愛好され、今も風雅な人びとの間に愛好者がいる」と述べた上で、源氏香について紹介をしている。チェンバレンは、香道は日本人の中でも趣味を大事にする人にとって、茶道に次ぐものとして尊重されているとともに、学問的でありなおかつ貴族的な遊戯であると捉えていることを示す一方で、香道ははじめ茶道や華道に日本人が傾ける知性に驚きを感じている²⁸。

香道の国際発信について

香道の国際発信については、国主導の国際発信が行われていることをはじめ、香道流派や香舗等の団体により独自に取り組まれている場合や、横断的団体による発信が行われる場合がある。

国主導の国際発信が行われている例としては、大使館や在外公館で実施される日本文化紹介の一環として香道が紹介されている例があり、在リトアニア日本国大使館が日本とリトアニアの外交25周年記念事業として平成28年(2016)に公益財団法人お香の会を招いて香道の実演及び体験が実

25 ルイス・フロイス『日本史』豊臣秀吉篇一 中央公論社 昭和56年 p.254

26 ジョアン・ロドリゲス『日本教会史』上 大航海時代叢書第9 岩波書店、昭和42年 p.619

27 永島朋子「海を渡った香道具」(荒川浩和監修『香道具 典雅と精緻』淡交社、平成17年 p.206-213)

28 バジル・ホール・チェンバレン著、高梨健吉訳『日本事物誌1』平凡社、昭和44年 p.305-306

施されている²⁹。令和元年にはボストン総領事館において京都ボストン姉妹都市 60 周年記念イベントの中で聞香席の実施や香道具の紹介が行われている³⁰。

文化庁においては日本文化への理解の深化や、外国の文化人とのネットワークの形成・強化につながる活動を趣旨として文化人や芸術家などを海外に派遣する文化庁文化交流使事業を行っており、平成 21 年度に志野流香道若宗匠の蜂谷宗苾^{そうひつ}を文化交流使として指名し、フランス、中国、イタリア、ドイツ、アメリカ、ルクセンブルク、フィンランドで香道を広める活動を実施している。

香道流派が行う国際発信の例としては、志野流の場合、ボストン・パリ・北京・上海に教場を有しており、それらを拠点としながら香道の発信を独自に行っている³¹。また志野流、御家流、安藤家御家流などの流派では、海外での日本文化の紹介イベント等に講師を派遣して、聞香席の実施や解説などを行っている例が確認できる。このほか、香舗による主催で、香道流派などに協力を仰ぎ国際発信を行っている例も見受けられる³²。

横断的団体の取組としては、公益財団法人お香の会が、国際交流事業として、海外での香席体験を毎年実施している。

こうした実演や実践の場の提供のほかにも、知識としての香道の発信事例も見られる。*Morita Kiyoko*, “*The Book of Incense: Enjoying the Traditional Art of Japanese Scents*” (邦題:『お香の本—日本の伝統的な香りの芸術を楽しむ—』講談社 USA, 2015 年) は、北海道出身でアメリカ在住の森田喜代子氏による、香道を含む日本の香り文化を紹介した本である。初版は 1992 年、講談社インターナショナルから刊行され、1999 年ペーパーバック版・2006 年大型ペーパーバック版、2015 年に KODANSHA USA, INC 版が刊行されており、ロングセラーとなっている。

David Pybus “*Kodo: The Way of Incense*” (Periplus Editions, 2001 / Diane Pub Co, 2004) は、香水の歴史に詳しい著者が、香道の歴史と発展、その影響を調べ、香道について一般に紹介する内容となっている。

また、海外向け日本文化紹介番組では、香道及び日本の香文化の特集が放送されている。

29 在リトアニア日本国大使館 HP (URL:https://www.lt.emb-japan.go.jp/itpr_ja/eventreport20160829.html)

最終確認日：令和 6 年 2 月 15 日

30 『京都・ボストン姉妹都市提携 60 周年記念アルバム』

(URL:<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/cmsfiles/contents/0000265/265403/kanreki.pdf>) 最終確認日：令和 6 年 2 月 15 日

31 「志野流公開教場一覧」(HP: <http://www.shinoryushoinkai.net/school/>) には、ボストンに「ボストンスタディグループ」があり、定期的に活動が行われていることが確認できる。最終確認日：令和 6 年 2 月 15 日

32 日本香堂 HP (「日本香堂と香文化」)

(URL:<https://www.nipponkodo.co.jp/iyashi/culture/culture.php>) 最終確認日：令和 6 年 2 月 15 日

2章 香道団体・香道教室の活動について

1. 本章の主旨

本章では、令和5年度に香道団体、香道教室に対して実施したアンケート調査の結果を中心に、香道の文化継承の担い手である団体及び香道教室の活動について現状を分析する。

2. 令和元年度調査の概要

香道の団体については、「令和元年度生活文化調査研究事業」において、7団体について調査を実施している。その結果を見ると、まず規模面では、全体の57.1%団体が支部がないと回答するなど、多くの団体が支部を有していない。また、5団体が個人を中心とした会員制度を持っている。事業予算の額は、「500万円未満」が57.1%と最も多く、次いで「500万～2,500万円」の14.3%となっている。

事業活動としては、7団体中4団体が資格制度を、1団体が団体内顕彰制度を有していると回答している。香道の振興活動としては、地域の文化協会や文化団体の主催する催事や大学における催事や講座が実施されており、1団体では一般の人が参加可能な香席を実施している。現状の課題としては香木の不足が指摘されている。また、継承については、全ての団体が日本の伝統的な「芸道」としての香道を大事にし、次世代に引き継ごうとしている。

今回のアンケートでは、こうした令和元年度の調査の実績を踏まえ、さらに詳細な実態把握を行っていくものとする。

1 節 香道団体の活動について

1-1 香道団体へのアンケート調査の実施概要

香道の活動の詳細な実態を把握することを目的として、香道の普及啓発や継承等を掲げて活動を行っている香道の横断的団体（流派・家元）を対象とし、各団体の活動内容や、その現状と課題、香道のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのか等を知ることが目的としたアンケートを実施した。

なお、調査年度（令和5年度）においてははまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

| | |
|------|--|
| 調査方法 | 郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答 |
| 調査対象 | 23 団体・流派（配布先は巻末参考資料を参照） |
| 調査期間 | 令和5年（2023）11月29日（水）～令和5年（2023）12月25日（月） |
| 回収数 | 13 団体・流派（回収率：56.5%） |
| 設問項目 | <p>Q1：団体・流派について（概要、主な目的・定款等、沿革）</p> <p>Q2：団体・流派の活動（直近3年）について</p> <p>①「香会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>②「会員向け研修会、講習会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>④「機関誌の発行」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑤「広報活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑥「その他活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>Q3：香道の継承について</p> <p>①「香道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由</p> <p>②①で選択した要素に関して、香道団体・流派としての現状及び守っていく上で必要な取組</p> <p>③香道を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例</p> <p>Q4：新型コロナウイルス感染症の影響について</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響の程度</p> <p>②具体的な影響</p> <p>③実施した対応策</p> <p>④復旧の程度</p> |

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

1-2 香道団体・流派へのアンケート調査の結果概要

(1) 香道団体・流派の活動(直近3年)について

① 「香会」の実施について

○活動概要

(活動の種類や内容)

アンケートに回答のあった13団体全てで香会を実施している。実施されている香会を主催毎に分けると、横断的団体や流派等が主催している例が最も多く、地方自治体や文化施設が主催する催事において香席を設けていると言った例も確認できる。

香会の内容としては、正月など季節の折節や御忌の際に催される例があるほか、門人や会員の稽古や研修を目的として行われる例、一般向けの香道体験を目的として行われている例も確認できる。

(開催頻度及び参加人数)

香会の開催頻度については、流派等が主催している香会の場合は年間に3～5回程度、また、自治体等が主催する催事において香席を設けている場合は年に2回程度が平均となっている。

次に参加人数については、香会の規模感によって異なっており、流派等が主催している香会の場合は、平均で20～30人程度、最も多い例では120人程度が参加しているとの回答も見られる。一方、自治体や文化団体が主催する催事に設けられた香席の場合は、平均40人程度、多い例では80人が参加していると報告されている。

(活動の成果)

活動の成果については、門人や会員の稽古を目的として香会を開催している例では、門人や会員が重ねてきた稽古の成果を披露する場となっているとの回答が見られる。

○現状と課題

回答の中で課題として多く挙げられているのは、門人や会員数の減少である。一例として、高齢化にともない会員が辞めてしまい、香会や香席を開く際に必要な人員が不足気味になっているとの回答が見られるほか、香道を部活動として行っている団体からは、部活動維持のための会員確保を課題として挙げている。また、香席を開く場所の問題を挙げている回答もあり、香席を開くことができる座敷を借りることが難しく、借りることが出来たとして火気使用の制限のために香炭団を使えないと言った課題があるので、きちんとした形で香会を開けないといった点も課題として見受けられる。

○今後の展望等

前述の課題を踏まえた今後の展望については、門人や会員数の減少を課題として挙げている団体からは、まずは新規に会員を募集し続け会員への稽古や講習会を行えるようにしていきたいといった展望や、既に団体のHPを設けて会員を募集していると言った回答が見られる。

このほか、展望とは異なるが、香会を開くことが出来る座敷が少ない上に、香木や香道具の価格が高騰していることから、香道という日本文化に気軽に触れることが出来なくなるといった危

機感について記述している回答も確認できる。

② 「会員向け研修会、講習会」の実施について

○活動概要

（研修会等の種類）

アンケート回答のあった 13 団体のうち、回答未記入だった 5 団体を除く 8 団体（61.5%）が会員向けの研修会や講習会を実施していると回答している。

まず、研修会や講習会の種類に関しては、実施団体の性格によって内容が大きく異なる。横断的団体では、団体を構成している流派が実施している香道教室の開催への支援を行っている。次に、香道流派では所属する門人や会員向けの講習会を開き、家元による手前の講習や講話等を実施している。香道流派に所属するいわゆる社中組織の場合は、流派の門人・会員が参加できる香会や催事について回答しているほか、社中において手前等の講習や伝書の講読を行っている場合や、外部講師を呼んで勉強会を実施しているとの回答もある。この他、香道の部活動では、所属部員が先生等から定期的に指導を受けており、年に数回、成果発表も兼ねた香会を行っている。

（開催の頻度・規模）

研修会及び講習会の頻度や規模については、実施団体の規模によって異なる。香道流派が実施している研修会の場合は、全国から各地の門人等が参加して年 1 回実施されている。また、社中組織が外部から講師を招く形式で実施する勉強会も年 1 回との回答であった。

そのほか、香道部の場合は週 1 回稽古を実施し、年に数回程度香会も開催している。なお、研修会等の規模については、香道流派が実施している研修会では、25～35 人程度との回答があった。

（活動の成果）

活動の成果については、香道流派が実施している研修会では、家元が直接指導や講話を行うことで流派の考え方や理念等が門人・会員の中で共有されるとともに、参加者同士の交流の場として機能していると回答している。その他、香道部からの回答では、普段行っている稽古の成果発表として香会を実施している点を成果として挙げている。

（免許制度の活用）

免許制度の活用については、香道流派から回答があり、家元から師範の免状を発行する制度や家元が師範を任命する方式がとられている。

○現状と課題

研修会等を実施していく上での課題は、それぞれの団体で異なる。全国の門人を対象とした研修会を実施している香道流派の場合は、研修会自体は順当に成果を挙げているが、師範免状のシステムについて運用面の課題があると回答している。また別の流派からの回答には、師範をはじめとして人材の確保が必要であるとともに、香道の稽古が作法の習得だけで終わらないように、伝統文化を伝え日常生活の中で活用できるように伝えていく工夫が必要である点を課題として挙げている。

また、社中組織からは、研修自体を行う頻度を上げていきたいという意見や、各分野の専門家を外部講師として招き勉強会を開いているので、香道が様々な伝統文化や文学等にも深いかわりを持っていることを体験・経験して香道に活かしていきたいといった意見も見られる。香道部については、施設等の事情もあり、稽古が出来る場所の確保が難しく、部員が全員集まって稽古できる時間が短くなってしまっている点を課題として回答している。

○今後の展望等

師範免状の運用について課題を挙げた香道流派の回答では、免状システムの特徴や利点に関して門人等に理解を深めてもらうことを検討している。また、人材確保や香道の日常生活での活用等を課題として挙げた別の流派の場合は、課題の改善を行っていきながら、国内や海外に向けて香道を広めてきたいと回答している。

研修会実施の頻度を上げてきたいと回答した社中組織の場合は、手前や作法等の習得状況に応じた研修会を展開していきたいと回答している。一方、外部講師を招いた勉強会を行っている社中組織は、勉強会での成果を踏まえつつ若い世代に香道を伝えてきたいとの展望を回答している。香道部については、部員の稽古をしっかりと行っていくためにも会場の確保や使用について施設へ要望を出しながら状況の改善を行っていききたいと回答している。

③ 「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施について

○活動概要

（講演会等の種類や内容）

アンケート回答のあった 13 団体のうち、未記入の 6 団体を除く 7 団体（53.8%）が一般や学校向けの講演会や講師派遣を実施している。

実施内容については、広く一般向けに香道体験を行っている場合と、学校で香道体験を行っている場合に大別できる。一般向けの香道体験については、横断的団体や流派、社中組織、いずれの団体も実施しており、公民館をはじめとする文化施設等からの依頼を受けて香道体験を実施している例が多い。また、横断的団体の場合は、伝統文化親子教室事業を活用した普及活動や、国民文化祭においてイベントを実施、関係流派の協力で体験教室を全国で実施していると回答している。

一方、学校での香道体験については、学校からの依頼を受ける形で香道体験や講演等が行われているほか、授業の一環として香道を教えている例も確認できる。

（開催頻度及び参加人数）

開催頻度については、一般向けの香道体験の場合、依頼があれば随時開催しているとの回答が多い。なお、横断的団体が実施している香道体験は全国 11 の会場で毎年開催されている。一方、学校での香道については年に 1 回程度実施との回答が多い。授業内で実施している例の場合は、年間で 20 コマ授業を行っている。

次に参加人数については、一般向けの香道体験は 10～20 人程度が平均で、多い例で 30～40 人が出席している。学校での香道体験についても、10～20 人が参加している。

（活動の成果）

活動の成果については、香道体験に参加した方からおおむね好評を得ているとの回答が見られ、継続的に体験活動が行われていることが分かる。また、一般向けの香道体験が、広く香道を知ってもらうきっかけとなっている、学校での香道体験は若年層に香道だけではなく古典文学等への興味を喚起する機会となっているとの回答も見られた。この他、訪日外国人を対象として香道体験を実施したとの回答も見られる。

○現状と課題

各団体によって課題は異なり、一般向けの香道体験を行っている社中組織は、香道自体が高尚なイメージがあり、その上、和歌の知識が必要になる部分で敬遠されがちな点を課題として挙げており、課題への対応として初心者向けの体験機会には和歌とは異なる題材を用いる等して興味を持ってもらう工夫をしている。別の社中組織は、香炭団を使える施設が少ない点を課題として挙げている。

また、学校での香道体験を行っている流派組織は、学校での取り組みが流派師範のボランティア精神によって成り立ってしまっている点とともに、香道体験により広く香道を知ってもらう機会を創出出来ているが、本格的に教室で習おうという所まで繋がっていない点を課題としている。

○今後の展望等

今後の展望等については、前向きな展望が見られる。一般向けや学校向けに香道体験を行っていると回答があったいずれの団体も、香道体験の実施を前向きにとらえており、総合的に芸道を学ぶために茶道や華道、能楽などとのコラボレーションを検討している社中組織や、学校で若い世代へ香道体験の機会を設けることは香道の継承につながるとして積極的に実施したいと回答している団体も見られる。

④ 「機関誌の発行」の実施について

○活動概要

（機関誌等の内容及び目的）

アンケート回答のあった 13 団体のうち、未記入の 8 団体及び実施していないと回答のあった 1 団体を除く 4 団体（30.8%）が機関紙や会誌などの発行と配布を行っている。

機関誌等の内容については、各団体が実施している催事や教室での活動状況等、香道に関する伝書や知識等の掲載が主で、門人・会員への情報提供を目的に記事内容が構成されている。

（発行回数及び部数）

次に発行回数や部数については、年間で 2～3 回程度発行を行っている場合が多く、一部組織では不定期に発行を行っている。次に発行部数については組織の規模にもよるが多いところで 150～200 部、少ない場合は 70 部ほどである。

○現状と課題

課題点としては、機関誌を配布する際の郵送費を挙げている例や、機関誌に掲載する原稿を手書きではなく編集可能な電子媒体で収集したい、という点を挙げている例もある。

○今後の展望等

今後の展望等については、紙媒体の機関誌の郵送費用を課題として挙げていた団体からは、機関誌をメールマガジン化することを検討していると回答があった。

⑤ 「広報活動」の実施について

○活動概要

(広報媒体等)

アンケート回答のあった 13 団体のうち、未記入の 5 団体及び実施していないと回答のあった 1 団体を除く 7 団体 (53, 8%) が広報活動を行っている。

広報活動を行っているという回答のあった中で、横断的団体や流派、社中組織等の 5 団体はホームページを開設して、催事の案内や活動報告、教室や稽古場の案内等の発信を行っており、このうち 2 団体は SNS を併用している。一方、社中組織と部活動の 2 団体は、SNS 単体で広報活動を行っており、催事の案内や活動報告を発信している。このほか、1 団体についてはホームページの運用も行いながら、新聞紙面への広告や折込チラシ等を使って広報を行っている。

なお、広報活動を実施していないと回答のあった団体については、若い世代、若い方へ香道を伝えていきたいと考え、WEB サイトや SNS の発信を行うことを検討している。

(広報活動の目的・効果)

広報活動の目的としては、ホームページや SNS 等に催事の案内や活動状況の報告について掲載しており、団体に所属する人や関係者への状況共有も行うことに加えて、広く一般に香道という文化そのものを知ってもらう目的で広報活動が行われている。ホームページを運用している団体は、広報の効果としてホームページに教室の開催日時や曜日等を掲載することで、若年層が教室に参加してくれた等の効果を報告している。また、新聞紙面への広告掲載を行っている団体は、カルチャーセンターの講座案内でも効果があると回答している。

○現状と課題

広報活動についての課題点として、ホームページで広報活動を行っている団体の 1 つは、伝統文化を愛好している人の中にはインターネットと伝統文化との適合性に違和感を持つ方もいると、発信の受け手側が WEB コンテンツと馴染まない場合もある点を指摘している。また、SNS で広報活動を行っている団体からは、活動内容を発信しているがどの程度の効果があるのか分からない点を挙げている。

WEB サイトや SNS での広報活動を検討している団体の場合は、WEB サイト等に不慣れと言った意見を回答している。

○今後の展望等

今後の展望等については、すでにホームページや SNS での発信を行っている団体の回答の多くは、広報活動に前向きであり、適切な広報活動の仕方を検討するとともに、より効果的に香道の発信ができるようにしていきたいとの展望を持っている。

⑥ 「その他活動」の実施について

○活動概要

①～⑤に含まれない活動については、横断的団体が流派団体への支援や香道に関する古文書や香道具、香木等の収集や保存、また、貴重な香道具の修理などを行っている。流派団体の1つでは、手前や作法等を正確に伝えるとともに、各地で活動する師範の負担を減らすことも目的として教本の出版を行っている。

○活動における課題及び展望

教本を出版している流派は、教本は師範や生徒からも好評で稽古を行う際に有用であり、今後とも積極的に使用していくと回答している。

(2) 香道の継承について

① 継承すべき要素

今日までの香道の継承において、何が守り伝えられてきたのかを具体的に特定していくために、香道の団体向けのアンケート調査において、「香道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、団体において特に大事だと思われる要素を3点選んでもらった。

1. 流派等で継承されてきた手前や所作
2. 香席や香会の実践(「香り」を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること)
3. 香を焚く・聞く、香会を愉しむために大事にされてきた考え方や精神性
4. 和歌や古典文学などに関する知識
5. 香炉や棚、盤物などの多様な香道具
6. 香木そのもの
7. 伝統的な和の空間
8. 季節感や自然観を重視すること

上記はいずれも香道の構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、香道の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、香道団体・流派が大事だと思われる要素に対して、どのような取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った上で、(1)「香道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、(2)(1)で選択した要素に対して、香道団体としての現状及び守っていく上で必要な取組、(3)香道を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。

その結果、(1) についての香道団体の選択は次のグラフ(図1)のとおりであった。

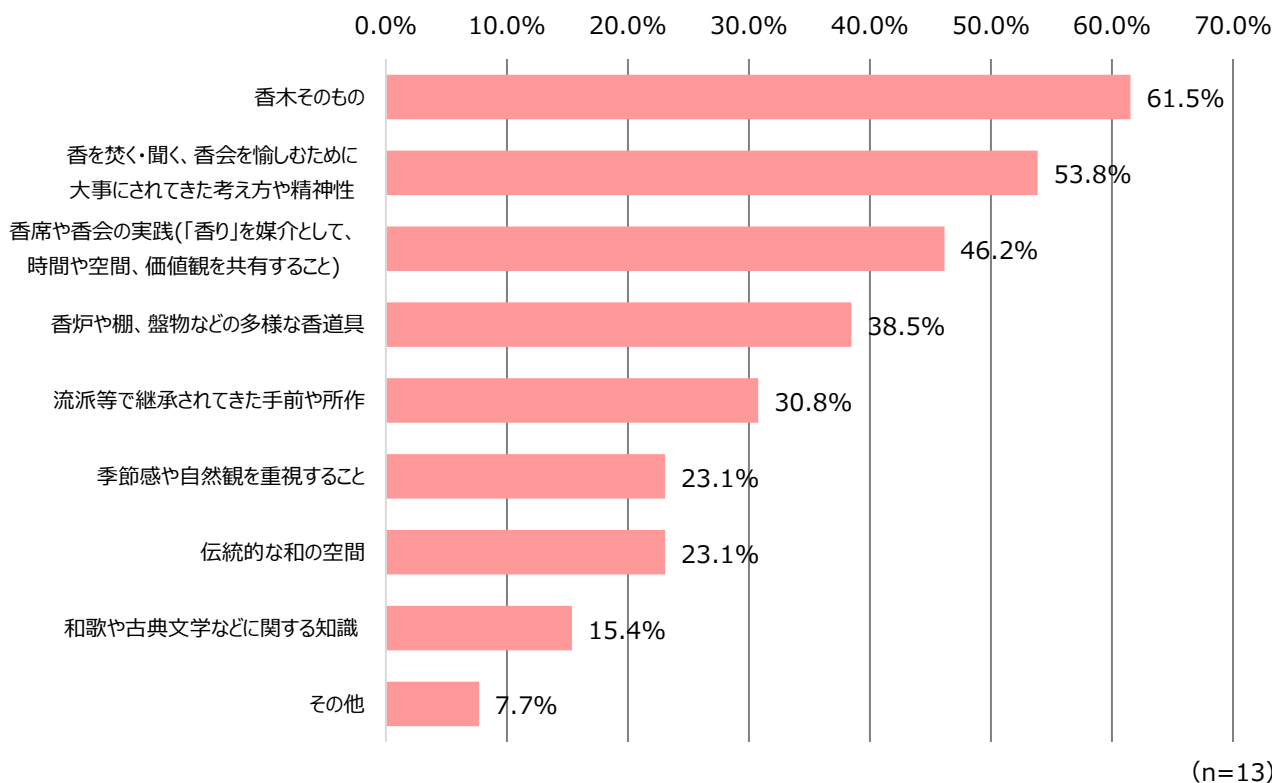


図1 「香道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素

図1の通り、8団体(61.5%)が「6. 香木そのもの」を選択しており、次いで「3. 香を炷く・聞く、香会を愉しむために大事にされてきた考え方や精神性」7団体(53.8%)、「2. 香席や香会の実践(「香り」を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること)」6団体(46.2%)、「5. 香炉や棚、盤物などの多様な香道具」5団体(38.5%)、「1. 流派等で継承されてきた手前や所作」4団体(30.8%)と続いている。

なお、「その他」を選んだ1団体からは、「初心者向けの入り口整備」として香道人口拡大を意図した普及への取組を重視した回答が見られる。

各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答記述をまとめると、下記のようなになる。

「1. 流派等で継承されてきた手前や所作」 4 団体 (30.8%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 香を聞くための手前・所作は、香道の精神性にに基づき形成されてきたものであり、各流派においては基礎であるとともに、深い意味が込められたものとされる。
- ・ 長年にわたり創意工夫が重ねられ今日まで継承されてきた手前・所作は、次世代へと継承すべきものである。

【現状】

- ・ 各流派において継承されてきた手前や所作を継承するための課題として、流派それぞれに指導者の育成と確保が必要であるとの指摘がある。
- ・ 上記に加えて、若い世代に香道そのものに興味関心を持ってもらうことも課題として挙げられている。

【必要な取組】

- ・ 指導者の育成と確保については各流派における取組が必要であり、また、若者へ香道に興味関心を持ってもらうような機会を作っていくことも必要であると指摘している。

「2. 香席や香会の実践(「香り」を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること)」 6 団体 (46.2%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 香道を継承していくにあたり、まずは香会という香木の香りを聞く機会そのものが大事である。
- ・ 香会や香席に参加することで初めて香道がどのような文化であるかを知ることが出来るため、広く定期的に香会等を開催していく必要があるという意見が多い。

【現状】

- ・ 香を聞く機会は、香会や香席をはじめ稽古場やカルチャーセンター等での体験機会と言った形で実施されている。
- ・ 香会等を行う際に、宣伝や告知がしっかりとできれば、興味関心をもって参加する人は多いと言った回答が見られる。その一方で、香会等を開くための会場の確保が難しい、催事を行うには運営に参加する門人や会員が不足気味である点を課題として挙げている。

【必要な取組】

- ・ 香会等の香りを聞く機会を設けている各団体においては、継続的に機会を創出していくことが重視されている。その上で、会場の確保を課題として挙げた団体は、伝統的な日本の建築や和の空間が減少しているために、意識的に創出していく必要があるとの指摘とともに、床の間や障子、掛軸のような和の空間に関する学問的な要素についても広く伝えていく必要があるとしている。
- ・ 門人や会員の不足を課題として挙げた団体は、会員を増やし、稽古をしっかりと行って手前や所作を身に付けていくことが必要であるとしている。

「3. 香を炷く・聞く、香会を愉しむために大事にされてきた考え方や精神性」 7 団体 (53.8%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・香会や香席の在り方や方式は時代や環境によって少しずつ変化している部分もあるが、自然界の希少な産物である香木を聞き、その香を愉しむために培われてきた精神性や考え方は、香道の基礎として変わらないものである。
- ・日常で香を聞くことは稀であり、出来る限り多くの人々に体験してもらうことも大事である。その為の気軽さや、楽しみ方の工夫も大事であるが、精神性や考え方は変わることが無いように次の世代へと継承していきたいという意見が見られる。

【現状】

- ・各団体ともに、香道にまつわる精神性や考え方の伝承や周知に努めているが、現状としては、香会や香席を開くことが出来る人が少ないこともあり、香道に触れ、香道を愉しむような機会とともに精神性や考え方について発信できる機会も少ない状況にある。加えて、香会における所作や作法についての理解が乏しくなっている点が課題として挙げられている。
- ・香道部は部員の日程調整が難しく活動日数が少なくなりがちである等、活動状況に関する課題点について指摘されている。

【必要な取組】

- ・香会や香席を開く機会が少ない点を課題として挙げた団体は、各流派において指導者を育成・増員することで香会等を開く機会を少しでも多くするような取組の必要性を意見として述べている。この他、所作や作法についての理解を課題点として挙げた団体は、基本的な所作や作法を丁寧に教える必要があるとしている。

「4. 和歌や古典文学などに関する知識」 2 団体 (15.4%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・香道における表現の基盤として和歌等の古典文学があり、香会や香席において様々な表現を理解し愉しみ連衆と共有するためには、古典文学等への知識と理解が重要である。

【現状】

- ・社中組織は、古典文学に関する知識理解をさらに深めていく必要がある点を課題として挙げている。一方、流派団体は、門人や会員に古典文学の知識を深めてもらうための方策として、稽古で用いるテキストに和歌の解説を付しており、指導者側・生徒側も古典文学を学びやすくするための工夫を行っていると回答している。

【必要な取組】

- ・社中組織は、香道を学び稽古をする者として、古典文学についての深い知識と理解を身に付け、香会等において連衆や初心者の方にはしっかりと伝えていけるように学んでいくようにする必要があると回答している。この他、流派団体は、古典文学への造詣を深めてもらうためにも、稽古場や教室等でテキストを積極的に活用してもらうようにしていきたいと回答している。

「5. 香炉や棚、盤物などの多様な香道具」5団体 (38.5%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・香炉や棚、盤物等の香道具は、それぞれの時代の美的感覚に応じて作成されてきたもので、香会を行う上で大事であることに加えて美術品として希少な物も多くある。
- ・流派においては「好みもの」として作成された香道具もあり、流派の歴史を示すものでもある。また、香道具の中には、現在の技術では作成が困難なものもあり、発見次第、適宜保存と修復を行い次世代に継承していく必要がある。

【現状】

- ・香道具の中でも盤立物のような道具については、普段の稽古で使用する事は無いので、香道の伝書を読むなどして道具そのものの特徴や使い方等を把握することも必要であるとの意見がある。なお、古い香道具を伝承してきた流派は、現在もそれらの道具を使用するとともに適切に保存を行っているという回答している。

【必要な取組】

- ・盤立物のような普段の稽古に用いないような香道具については、その存在自体を知ってもらうためにも、伝書等の翻刻や資料を作成して、香道の稽古をしている人に知ってもらうような取組が必要であるとの意見がある。

「6. 香木そのもの」8団体 (61.5%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・香木は日本では産出されない貴重なもので、香道はその香木の希少な香りと味に心を傾けて聞く文化であり、香木があつての香道であるため、次世代に継承する上で欠くことが出来ないものである。
- ・また、いわゆる名香と呼ばれる香木の由緒や味、伝来も大事な要素であり、歴史的变化の中で培われてきた古典文学等との関係も重要である。

【現状】

- ・いずれの団体からも、良質な香木は減少しており価格も高騰している等、入手が困難な状況である点が指摘されている。また、香木の供給状況を踏まえ、将来的な香木の不足を考え、香木の植林等の取組に協力したいという回答も見られる。
- ・香木の入手状況以外には、「名香」に名付けられた香名を新しい香木に付けるようなことが見られ、香木の持つ香りのイメージを大事にして香名録と重ならないように名前を付けてほしいと言った意見も見られる。

【必要な取組】

- ・現在、各団体において伝えられてきた香木を大事に扱っていく点は共通しており、その上で、植林が必要であるという意見や、国が主導して伝統文化を守る観点から香木を入手できるようにしてほしいと言った意見が見られた。

「7. 伝統的な和の空間」3団体 (23.1%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・和室をはじめ庭園等も含めた日本の伝統的な和の空間は、香道はもちろんのこと伝統文化の継承において欠かせないものである。和の空間において伝統的に継承されてきた仕来りや立ち居振る舞い、香道の手前や所作を一体的に学ぶことが香道の継承にもつながるため重要である。

【現状】

- ・住宅や公共施設においても、和室をはじめとする和の空間が減少している点について指摘されている。流派団体では、流派が所有している施設にある和室を利用しており、他の施設でも和の空間づくりを行っているとの回答が見られる。
- ・一方、別の団体からは、公共施設で和室等を利用できたとしても、施設内に1つしかない等の理由から使用時間が制限されているとの現状が述べられている。

【必要な取組】

- ・公共施設等に和室が少ないため、出来るだけ気軽に利用することが出来る和室等を増やして行く必要がある、という意見や、伝統文化に関する教育を義務教育の中に出来るだけ取り入れ日本文化を学ぶ機会を増やして行くような根本的な取り組みが必要、という意見も見られた。なお、流派団体については伝統的な和の空間の補修と維持管理に今後も取り組み、和の空間の維持に取り組んでいくと回答している。

「8. 季節感や自然観を重視すること」3団体 (23.1%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・香道は日本の四季、季節感とともに愉しむ伝統文化であり、四季の変化に応じて育まれきた風習や自然そのものの変化を愉しむことが重要である。

【現状】

- ・香会等において組香等で季節感や自然感を愉しむことが出来るものの、建物そのものが西洋化しているため風景の変化が乏しくなりつつある点や、香会等を開くことが出来る場所が必ずしも伝統的な建造物の中ではない点などが現状として取り上げられている。

【必要な取組】

- ・香会等を開く際には、室礼等にも気を配り季節感を味わうことが出来るように心掛けていくといった回答のほか、公共施設等に和室や庭園、池等、季節の変化を感じることが出来るような和の空間を再現する必要があるといった意見も見られた。

「9. その他」 1 団体 (7.7%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 1～8以外の大事な要素として、香道を知ってもらうために初心者向けに体験する機会を整備していくことが重要であるという回答が見られる。

【現状】

- ・ 現状では、香道を知らない人や初心者の方が参加しにくいイメージがあることや、香道が何を表現しようとしているのか、分かりにくい部分があり、その点を説明する機会が不足していることを指摘をしている。

【必要な取組】

- ・ 取組として初心者向けのより分かりやすい教材等の開発等が必要であると指摘しているほか、初心者向けに特化した講座をすでに実施しているとの回答があった。

② 香道を次世代に伝えていく上で、課題だと感じていること

「香道を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、アンケート回答のあった 13 団体のうち 12 団体から回答が得られた。回答は、「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」という回答が 8 団体 (66.7%) で最も多く、次いで「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」の 6 団体 (50.0%)、「課題はない (解決した場合を含む)」の 5 団体 (41.7%) となった。

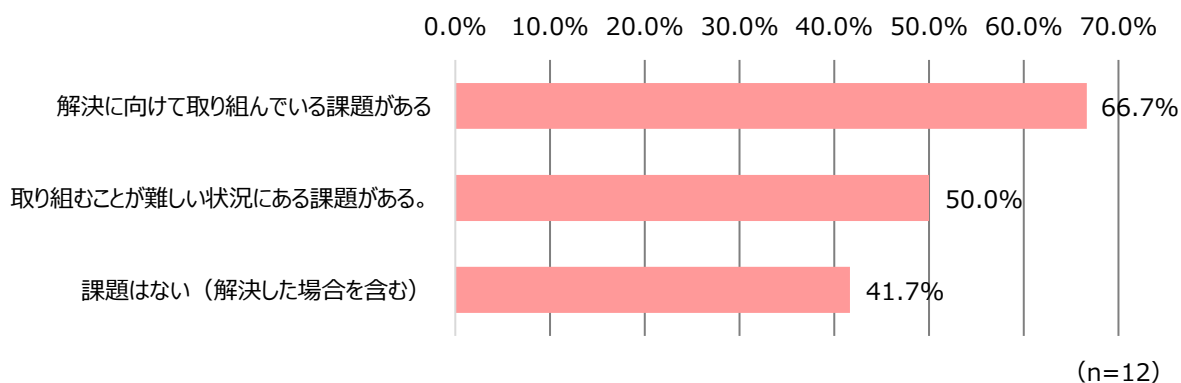


図2 香道を次世代に伝えていく上で、課題だと感じていること

上記を選択した団体が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容もしくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」8団体 (66.7%)

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

・会員の確保、指導者の育成

会員が少ない、若年層に普及できていない、指導者が少ないといった香道の愛好者の減少や指導者育成についての課題が挙げられている。これらの課題については、WEB等を活用して積極的に広報を行い周知を図るほか、学生をはじめとした初心者向けの体験機会を行う等の取組が行われている。また、指導者育成を目的とした講習会も実施されている。

・体験機会が少ない

会員の確保等と関連して、香道を体験できる機会が少ない点が課題として挙がっている。これについては、伝統文化親子教室事業等を活用した子供向けの体験教室を開催する等の取組や、幅広い世代を対象とした体験イベントが各地で実施されている。

・時代にあった香道の在り方について

現代の社会に応じた香道のあり方を課題として挙げている。取組としては、伝統的に継承されてきたものを継承していくことを前提としながら、現代的な価値観と両立させていくように取り組んでいるとの回答があった。

・稽古の内容について

稽古を行う中で、組香の部分だけが対象となりがちになってしまう点を課題として挙げている。取組としては、稽古の折には灰手前等も練習して実践を試みるようにしたり、香会の一連の流れや一炷聞の手前なども学んだりするなど、組香以外の部分についても稽古を行うように取り組んでいるとの回答があった。

「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」6団体 (50.0%)

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

・香木の確保や供給について

取り組むことが難しい課題として、香道に欠かせないとされる香木の確保や供給について挙げている。香木そのものが希少である上に、輸入される量も少ないことから、香木の値段が高騰している現状にあり、出来るだけ確保するように努めていると回答している団体があるほか、原産国での植林の必要性を考えながらも具体的にどのように進めた方が良いのか分からない状況にあるとの回答が見られる。

・会場の問題

香会等を行う際に使用する会場の規定について課題として挙げている。公共施設等で畳敷きの部屋があることが少ないため借りることが非常に難しい状況にある上、香炭団などの火気の使用が出来ない場合は借りることが出来ても施設から断られてしまうケースもあると回答している。

・高齢者の引退

会員の中でも高齢の方が辞めてしまうという点が課題の一つとして挙がっている。これは、正座が困難となってしまう香道を続けられなくなってしまったために辞めてしまうと

いう背景があるため、対策に取り組むことが難しいとの回答がある。

・指導者の育成

香道の指導者育成が課題として挙がっており、今日まで伝承されてきた手前や作法、所作などを次世代へと継承するために、責任を持って香道を指導する人を育成したいと考えているが、指導者として相応しい知識や能力等を総合的に判断することが難しいと回答している。また、取り組みとして手前や作法、所作等を映像に記録することも検討されている。

「3. 課題はない（解決した場合を含む）」5団体（41.7%）

【工夫した事例】

香会において正座をしなくてはいけないという課題点を挙げており、立礼式で手前をしてもらうような形にすることで、正座が出来ない人でも参加できるようにしたとの回答が見られる。

（3）新型コロナウイルス感染症の影響について

① 影響の程度

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、アンケート回答のあった13団体全てから回答が得られた。回答としては、「3. ある程度影響があった」8団体（61.5%）が最も回答比率が高く、次いで、「2. 大きな影響はあったが、団体の存続にまでの影響ではなかった」の4団体（30.8%）、「4. あまり／ほとんど影響はなかった」1団体（7.7%）と続く。「1. 極めて大きく団体・流派の存続にまで影響があった」という回答は無かった。

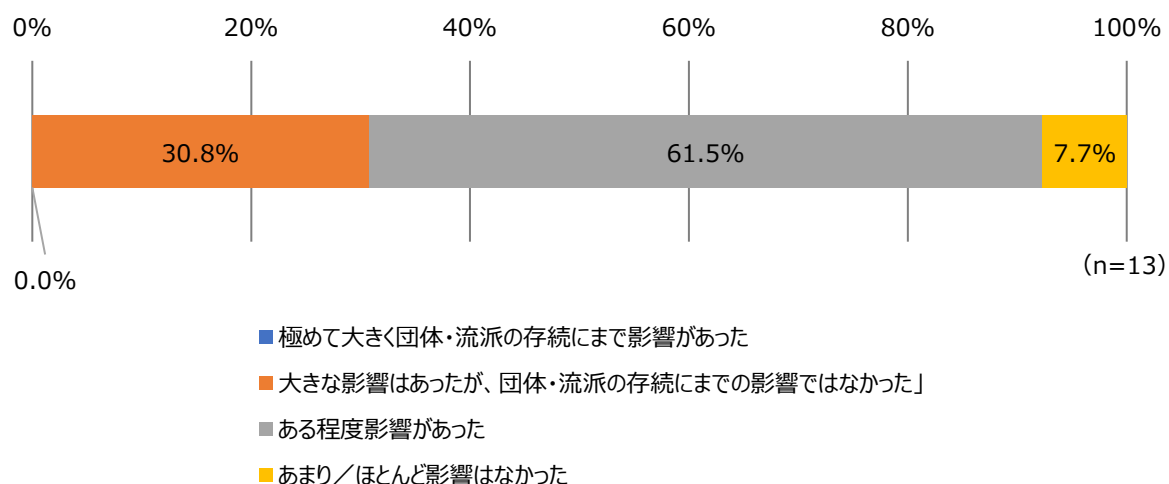


図3 新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか

② 具体的な影響

- ・アンケート回答のあった 13 団体のうち、9 団体（69.2%）が香会等の催事や稽古、研修会を中止したと回答している。
- ・2 団体（15.4%）は、コロナ禍を機に門人・会員が辞めてしまったと回答している。運営していた講習会や教室が解散してしまったとの回答や、稽古や催事を再開したがコロナ禍以前と比べて参加者数が減少してしまった等の回答も見られ、横断的団体や流派、各団体の活動に少なからぬ影響を及ぼしていることがわかる。

③ 実施した対応策

- ・コロナ禍が落ち着いたころから、香会等の催事や稽古、講習会を再開したとの回答が多く見られる。実施の際には、マスクの着用、消毒液の設置、会場の換気を徹底、連衆同士のソーシャルディスタンスの確保等の対策を徹底したとの回答の他に、聞香を行う際には連衆に聞香炉を廻すことを考えて、香元に香炉が戻った際には消毒をする等の対応を取り、細かな感染症対策を行っていたことが分かる。
- ・現在でも、消毒液の設置や香道具類の消毒、マスク着用を行いながら稽古や講習を行っているとの回答もあった。

④ 復旧の程度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた団体に対し、現状（令和5年末）における復旧の程度を聞いたところ、回答未記入であった1団体を除く12団体からの回答は、「ある程度影響は残っている」が8団体（66.7%）で最も多く、次いで「影響は概ね払拭されている」の4団体（33.3%）となっており、「いまだに大きな影響が残っている」と回答した団体は無かった。いまだに新型コロナウイルス感染症の影響が様々な形で残っている、という結果になった。

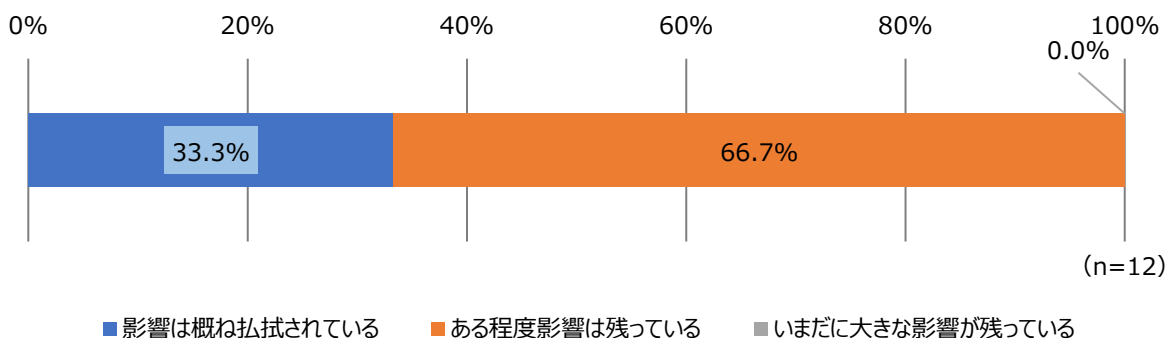


図4 復旧の程度について

1-3 まとめ

団体の活動内容

今回の香道に係る横断的団体及び流派等を対象として実施したアンケート調査の結果、様々な活動が行われていることが回答からうかがえる。

まず、香道に係るすべての団体が香会を実施しており、団体主催で単独で実施しているものから、地方公共団体や文化施設が主催する催事において香席を設ける等、様々な形式で行われている。

次に、多くの団体が門人や会員を対象とした研修会や講習会が開催されており、門人や会員のみが参加可能な香会が開催されているほか、家元による手前の指導や講話を行うような形式をとる場合、また、外部講師を呼んで講義を聴くような形式もある。また、流派団体によっては免状制度があり、家元の許しを得て師範資格の免状を発行する制度が取られている。

門人や会員向け以外にも、一般向け・学校向けに講演会や講師の派遣を実施している団体もあり、主に一般向けや子供向けに香道体験に関する事業を行ったり、学校に講師を派遣して香道に関する座学と体験機会の提供を行ったりしている。

また、体験機会の創出とともに、機関誌等の発行や広報活動も各団体において実施されている。門人や会員、団体の関係者向けの情報提供を主な目的とした機関誌や広報誌等を発行している団体が多く、主に団体が行う催事の周知や活動報告、香道に関する学問的な知識が掲載内容となっている。一方、団体活動はもとより香道そのものを周知していくことを目的として広報活動が行われており、広報を行っている団体の多くはホームページを運営しているほか、SNS のみで広報を行っている。

各団体がこれらの活動を行っていくにあたり、様々な課題が取り上げられている。香会等の実施にあたっては、門人や会員減少による人員不足と、畳がある会場や香炭団が使えるような施設の確保が課題として挙げられている。施設確保の問題は、一般向けや学校向けの事業を行う場合にも課題として挙げられており、このほか、一般の人が抱く香道に対するイメージが高尚なものである点も課題の一つになっている。

香道の継承

「香道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、「香木そのもの」、「香を焚く・聞く、香会を愉しむために大事にされてきた考え方や精神性」、「香席や香会の実践（「香り」を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること）」、「香炉や棚、盤物などの多様な香道具」、「流派等で継承されてきた手前や所作」、「季節感や自然観を重視すること」、「伝統的な和の空間」、「和歌や古典文学などに関する知識」の順で回答の割合が高い。

各要素について、大切であると考え理由についてはおよその以下の通りであった。

- ・香木そのものについては、香道は希少な香木の香りに心を傾けて聞く文化であるため、香木は次世代へ香道を伝えていく上で欠かせないものである。元々、香木自体が日本で産出されない希少なものであることに加えて、現在香木の値段が高騰していることもあり、香木自体を如何に確保し伝えていくかが重要となっている。また、香木そのものを守っていく観点から、原産国での植林等について検討している団体もある。
- ・香を焚く・聞く、香会を愉しむために大事にされてきた考え方や精神性については、自然の中で産出される希少な香木の香りを愉しむために長い歴史の中で培われてきた精神性や考え方を、香道の基礎として守り続けていく必要がある。また、基礎としての考え方は変わらないが、香会や香席の在り方や方式、愉しみ方の工夫等は、時代や環境によって少しずつ変化している部分もあるという指摘もされている。現状、香道に触れる機会そのものが少ない状況にある、香道の精神性や考え方を知ってもらう機会も少なく、精神性等に基づく作法や所作への理解も乏しくなりがちになっている点が課題となっており、課題解決に取り組むべく、団体等の門人や会員を増やし育成していくことで香会を開く機会を増やす等の取組が進められている。
- ・香席や香会の実践（「香り」を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること）については、香道を次世代へと伝えていく上で、まず香木の香りを聞く機会そのものが重要であるうえ、香道がどのような文化であるかを一般に知ってもらう機会としても重要である。香会や香席が開催されることをしっかり宣伝や周知すれば関心をもって参加する人は多く、各団体ともに継続的に香会等の催事を開催していくことを重視している。その一方で、香会等を開くための人手が不足しがちになっている点や、適切な会場が確保しにくい等の課題もある。
- ・香炉や棚、盤物などの多様な香道具については、時代時代の美的感覚や伝統的な技術を用いて作成されてきた香道具は、美術品としての価値も希少である上、現在の技術では作成が困難なものもあるため、適宜修復を行いながら保存していく必要がある。また、流派によっては「好みもの」の香道具もあり、流派の歴史や考え方等が反映されているものもある。とりわけ、香道具の中でも香盤立のようなものは、普段の稽古や香会でも使う機会が少ないため、伝書などを精読して使用方法や特徴について把握しておく必要もある。
- ・流派等で継承されてきた手前や所作については、香木の香りに心を傾け聞くための手前や所作は、香道の精神性や考え方に基づく形で長い歴史の中で創意工夫を重ねることで形作られてきたものであり、それぞれの流派において継承されてきた手前・所作は大事なものである。これらの手前・所作を次世代へ受け継いでいくためには、流派それぞれにおいて流儀の手前・所作を指導できる人を育成・確保していく必要がある。またその点に関連して、若い世

代に香道に興味関心を持ってもらうこと自体も必要となっている。

- ・季節感や自然観を重視することについては、香道自体が、四季の変化を愉しむ文化であり、四季の変化に応じて培われてきた風習や自然そのものの変化を愉しむ観点が重要である。よって、現在でも香会等を開く場合は、席の室礼に季節の変化などを織り込む等して気を配るようにしているが、会場によっては伝統的な建造物ではない場合もあり四季の変化を感じる事が難しいといった課題がある。
- ・伝統的な和の空間について、和室や庭園といった伝統的な和の空間は、香道は勿論のこと伝統文化を次世代へと伝える上で欠かせないものである。香道での所作や作法、立ち居振る舞いと和の空間は密接に結びついており、一体的に学ぶ必要があるため重要である。しかし、現在は住宅や公共施設においても和室や和の空間自体が減少しており、和の空間そのものを維持するあるいは増やして行くような取り組みが必要であるという意見も見られる。
- ・和歌や古典文学などに関する知識については、香道に関する表現等に和歌をはじめとした古典文学が大きく関わりを持っており、香道を理解し連衆とともに香会を愉しむためには大事な要素である。すでに香道を学んでいる人は勿論のこと、香道の初心者についても、古典文学についての知識と理解は必要であり、初心者向けに古典文学を理解する手助けとなるテキスト等を作成する等して、理解を深めてもらう取組をしている団体もある。

これらの要素を次世代に守り伝えていく必要がある中で、解決に取り組んでいる課題としては、流派団体や社中組織に所属している高齢の門人や会員の引退に加えて、門人や会員の確保が追いついていない状況等が挙げられている。また、高齢の門人や会員の引退により、指導できる者や香会や香席を開く場合の人員の不足にも繋がっており、その結果として、香道を体験する機会の提供をしにくくなるなどの課題も生まれている。

これらの課題を解決するために、WEB を活用した周知による門人や会員の募集と合わせて、団体内において指導者育成のための講習会を開催する等、各団体が指導者の確保に取り組んでいる。

次に取り組むことが難しい課題としては、香木の確保が挙げられており、元々が希少なものである上に価格の高騰もあり、確保出来るように各団体ともに努めているものの、課題の解決策が見いだせていない状況である。また、香会を行うための会場の確保も課題として挙げられており、和室、畳のあるような部屋が少なく借りることが難しい上、火気の使用が制限されている場合も多くあり、団体に取り組んでも解決できない課題として認識されている。

新型コロナウイルス感染症の影響

アンケート回答では、新型コロナウイルス感染症の影響について6割強の団体が、活動等に大きな影響はあったが、団体・流派の存続にまでの影響ではなかったと回答している。また、具体的な

影響としては、香会や香席の中止、稽古や講習会の中止をせざるを得なかったとの回答が多く見られる。一部の団体では、活動を長期にわたって休止した影響もあり、門人や会員が辞めてしまったと回答している。なお、コロナ禍以降の団体活動等への影響については、6割以上の団体でいまだに影響を拭き切れていない状況にある。

2 節 香道教室の活動について

2-1 香道教室へのアンケート調査の実施概要

香道の活動の詳細な実態を把握するため、香道の教室を対象とし、各教室の具体的な活動状況や、指導内容とその成果、教室の運営、教室外との関わりについての概況把握を目的としたアンケートを実施した。

また、調査年度（令和5年度）においてははまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

| | |
|------|---|
| 調査方法 | 郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答 |
| 調査対象 | 197 教室 |
| 調査期間 | 令和5年（2023）12月4日（月）～令和5年（2023）12月25日（月） |
| 回収数 | 47 教室（回収率：23.9%） |
| 設問項目 | <p>Q 1：教室の概要</p> <p>Q 2：教室の活動状況について</p> <p>①教室の開催場所</p> <p>②座礼または立礼</p> <p>③香木等の使用について</p> <p>④炭の使用について</p> <p>⑤講師の人数</p> <p>⑥講師の属性</p> <p>⑦教室で指導を受けている生徒の人数</p> <p>⑧教室で指導を受けている生徒の属性（性別・人数）</p> <p>⑨教室で指導を受けている生徒の平均受講回数</p> <p>⑩教室で指導を受けている生徒の平均受講金額</p> <p>Q 3：教室での指導について</p> <p>①指導内容</p> <p>②香道とあわせて指導している内容</p> <p>③教材等の利用</p> <p>④香道の教育や指導の目的</p> <p>⑤④の目的達成のために実施している教育や指導、工夫している点</p> <p>⑥⑤による効果や成果</p> <p>Q 4：教室の運営について</p> <p>①生徒の募集方法</p> <p>②教室見学や体験する機会の提供等</p> <p>③②の具体的な取組内容</p> <p>④教室運営上の課題、解決のために行っている対策</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症の影響と実施した対策</p> <p>Q 5：教室外との関わりについて</p> <p>①教室の外で行う活動内容</p> <p>②連携している団体や組織</p> <p>③教室所在地の地域コミュニティとの連携</p> |

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

2-2 香道教室へのアンケート調査の結果概要

(1) 教室の活動状況について

① 教室の開催場所

教室の開催場所については、未回答1教室を除く46団体のうち、「カルチャーセンターの講座として教室を開催している」との回答が21教室(45.7%)で最も多く、次いで「自宅以外に稽古場を借りている」19教室(41.3%)、「自宅を稽古場としている」7教室(15.2%)、「自宅以外に稽古場を所有している」4教室(8.7%)、「オンラインで講座を開いている」1教室(2.2%)となっている。「その他」と回答した教室は7教室(15.2%)である。

「その他」の回答として、寺院や神社や香舗を会場としているとの回答のほか、自身が運営する会社の茶室を会場としている例も見られる。

なお、10教室(21.7%)は複数の場所において教室を開いている。

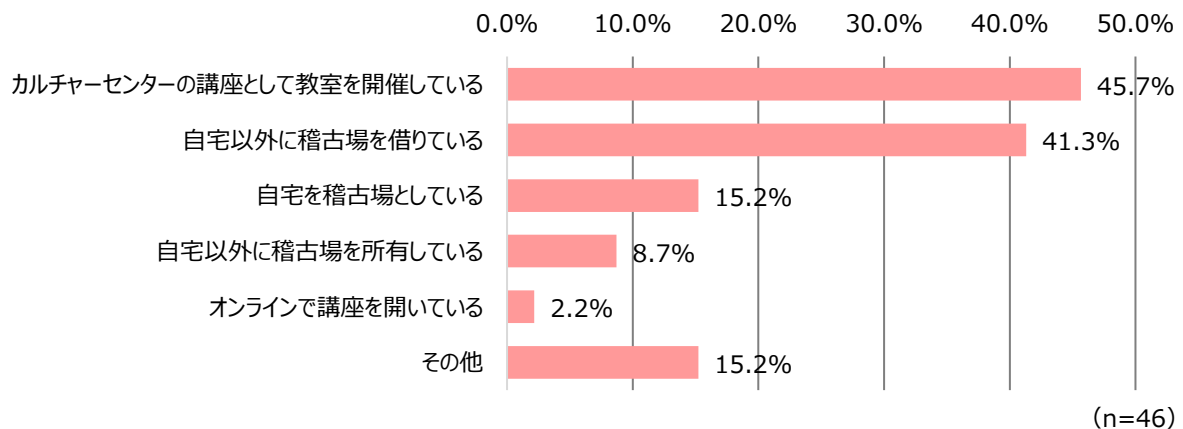


図5 教室の開催場所

② 座礼または立礼

未回答1教室を除く46教室のうち、「座礼(畳・和室)を中心に指導・稽古をしている」教室が37教室(80.4%)、「立礼(机・洋室)を中心に指導・稽古をしている」教室が17教室(37.0%)、「その他」が3教室(6.5%)という回答結果となった。

なお、座礼・立礼どちらの選択肢にも回答している教室は、9教室(19.6%)あることに加え、「その他」の回答においても座礼と立礼どちらの指導も行っているとの回答が2教室(4.3%)ある。

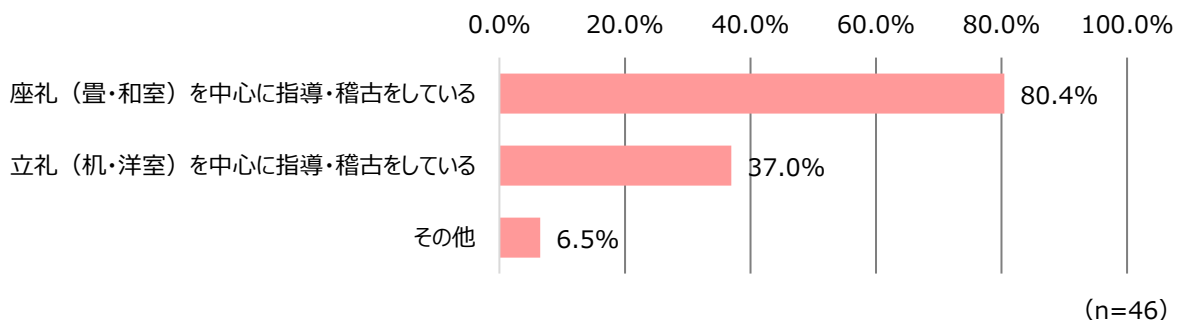


図6 座礼・立礼の実施状況

③ 香木等の使用について

香木等の使用については、アンケートに回答のあった 47 教室全てで「沈香」を使用しているほか、24 教室 (51.1%) では、白檀も使用されている。なお、「その他」としては「和木 (ひのき、杉、桜など)」や「香水」と言った例の他、練香を作成する場合、他の香料も使っているといった回答も見られる。

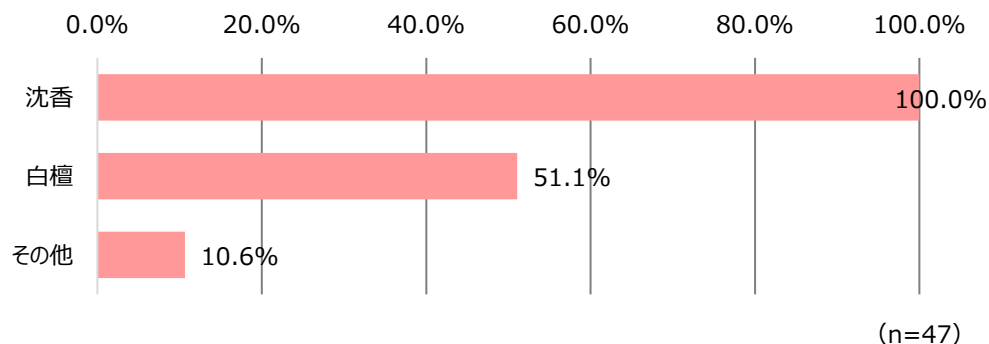


図7 香木などの使用状況

④ 香炭団の使用

香炭団の使用については、アンケート回答のあった 47 教室全てで用いられている。

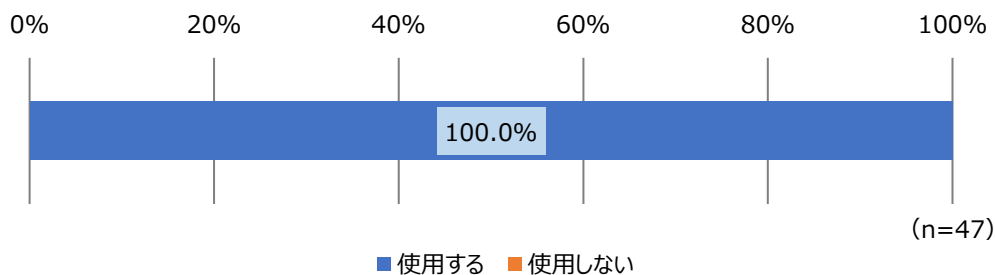


図8 香炭団の使用状況

⑤ 指導者の人数

教室での指導者の人数については、設問に未回答であった 2 教室を除く 45 教室のうち、30 教室 (66.7%) が指導者は 1 人であると回答しており、2 人以上で指導を行っている教室が多くないことが分かる。

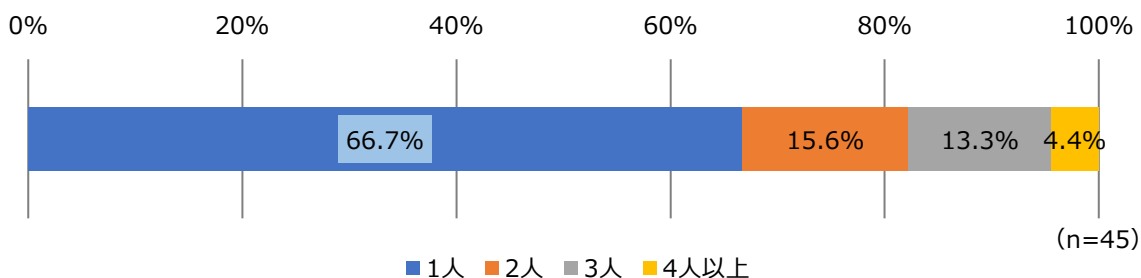


図9 指導者の人数分布

⑥ 指導者の属性

教室で指導を行っている者の属性については、全体の93.3%が香道に関する免状等を有していることが分かる。「その他」の回答としては、会社役員や僧侶、自営業と言う回答が見られた。

また、免状の有無を問わない場合の属性については、図にあるように「専業主婦・主夫」が28.9%と比較的多く、次いで「会社員」の11.1%、「パート・アルバイト」の6.7%となっている。

なお、指導者が免状を所有していると回答している中には、「専業主婦・主夫」(26.2%)や「会社員」(11.9%)を合わせて選択している例もある。

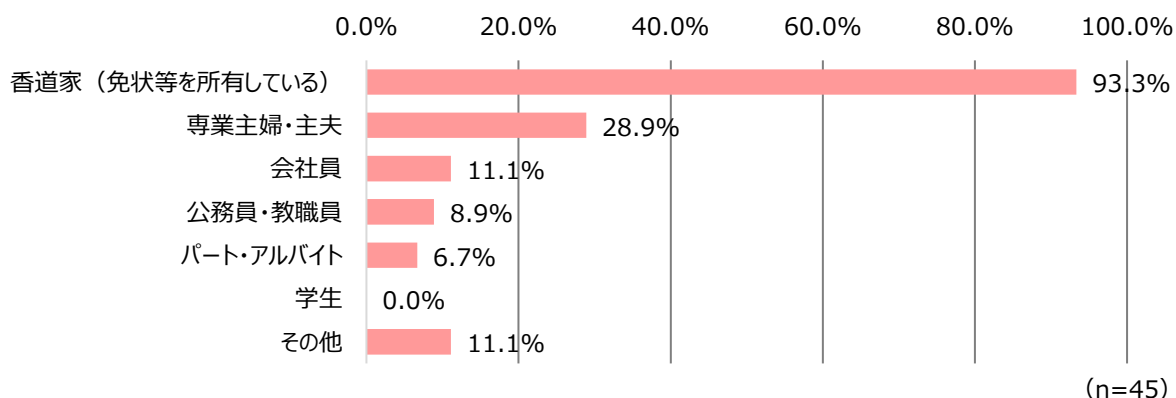


図10 指導者の属性

⑦ 教室で指導を受けている生徒の人数

教室で指導を受けている生徒の人数としては、5～9人の回答が26.7%、10～14人の回答22.2%、1～4人が20.2%と続いており、生徒数14人以下の教室が68.9%と、半数以上を占めている。

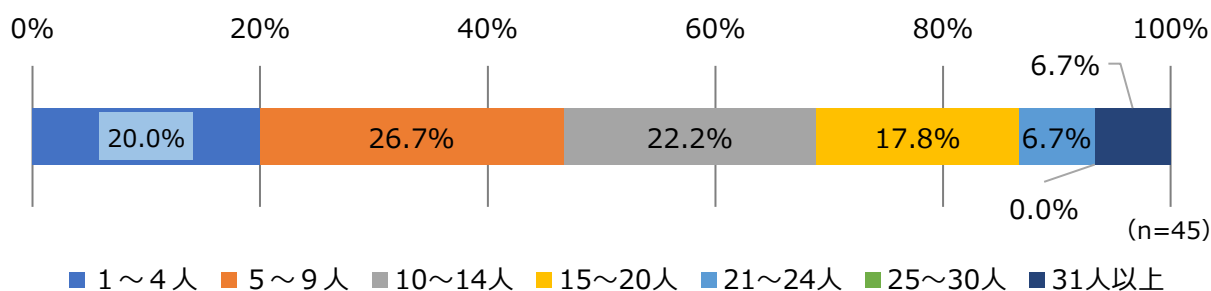


図11 生徒の人数分布

⑧ 教室で指導を受けている生徒の属性 (年代)

生徒の年齢で最も多いのは60代の25.0%で、次いで70代の22.7%、50代の19.6%となっており、50歳以上の生徒が全体の67.3%を占めている。一方、10代・20代が全体に占める割合は5.1%と非常に少ないことが回答結果から分かる。

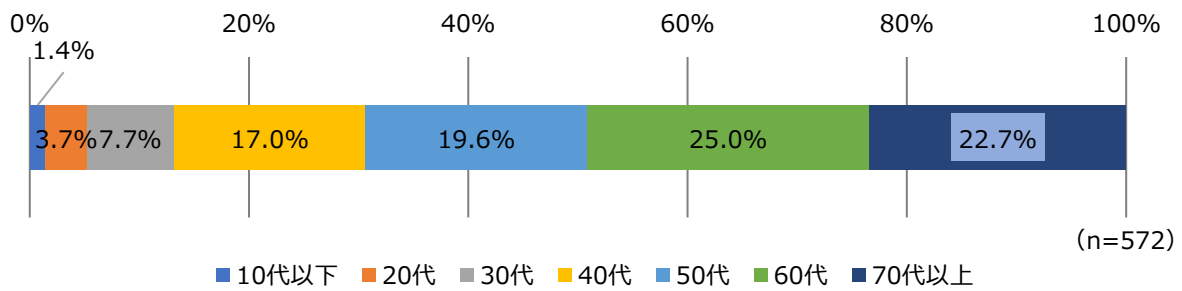


図 12 生徒の年代分布

⑨ 教室で指導を受けている生徒の属性（性別）

生徒の9割強が女性で、男性の生徒の割合は1割に満たない結果となった。

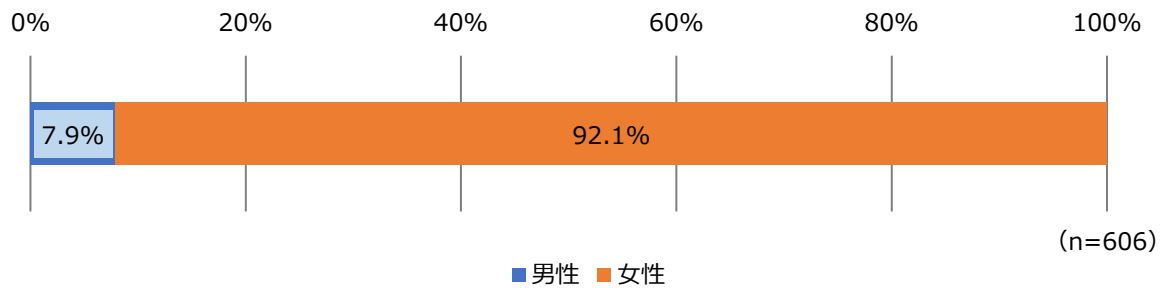


図 13 生徒の性別分布

⑩ 教室で指導を受けている生徒の平均受講回数

教室のひと月当たりの平均受講回数は、「1～4回」との回答が全体の95.7%となっており、ほとんどを占めている。

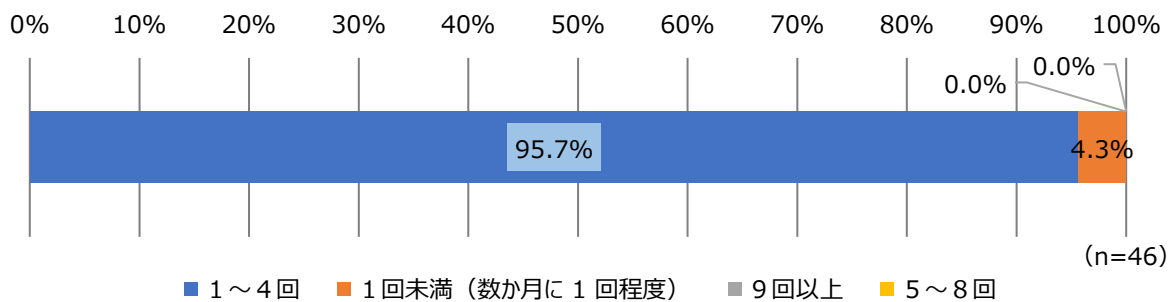


図 14 平均受講回数の分布

⑪ 教室で指導を受けている生徒の平均受講金額

ひと月当たりの平均受講金額は、「5,000円未満」の56.5%、「5,000～1万円未満」の28.3%、と続き、平均受講金額1万円未満の教室が84.8%と、ほとんどを占めている。

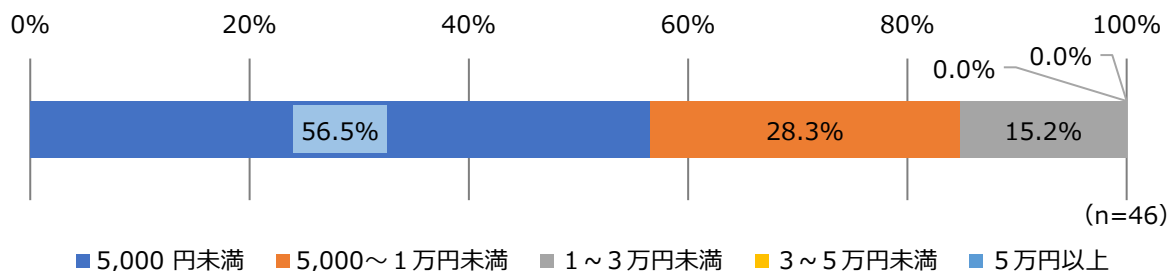


図 15 平均受講金額の分布

(2) 教室での指導について

① 指導内容

教室において行われている指導内容については、未回答 2 教室を除く 45 教室全てで「手前や所作、作法（香の聞き方）」の指導が行われている。この他、「香席や組香の流れ」、「香道具の取扱い方」、「季節感や自然観」、「和歌や古典文学などに関する知識」はそれぞれ 90%を越えており、「香道の歴史や大事にされてきた精神」のみ 80%台に留まっている。

「その他」としては、香木の分類や知識、流派の歴史について指導が行われている。

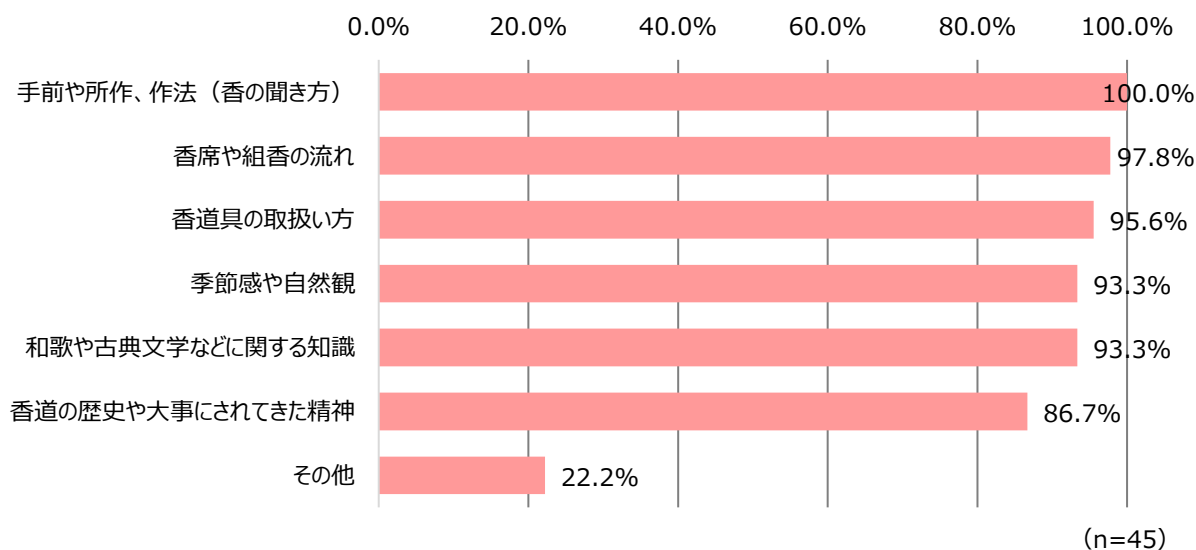


図 16 指導している内容

② 教材等の利用

教材等の利用については、未回答 2 教室を除く 45 教室のうち、28 教室（62.2%）が教材を利用しているとの回答結果であった。

具体的には流派団体が発行した書籍あるいはテキストを利用している場合をはじめ、社中組織や指導者個人が作成したテキストを用いている例が多く見られる。また、伝書等の古文書なども教材として用いられている。

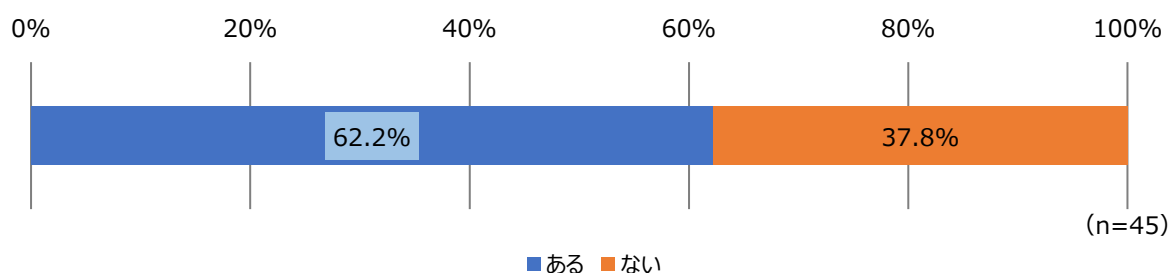


図 17 教材の利用状況

③ 香道の教育や指導の目的

香道の教育や指導の目的についての自由記述を分類したところ、未回答4教室を除く43教室のうち、28教室(65.1%)が「香道の楽しさ、香を鑑賞する楽しさを知ってもらうこと」と言った目的を掲げており最も多い。次いで「作法や所作や香道具の扱い方が上達すること」14教室(32.6%)、「香道にまつわる歴史や古典、有職等、文化的な背景を知ってもらうこと」13教室(30.2%)と続く。

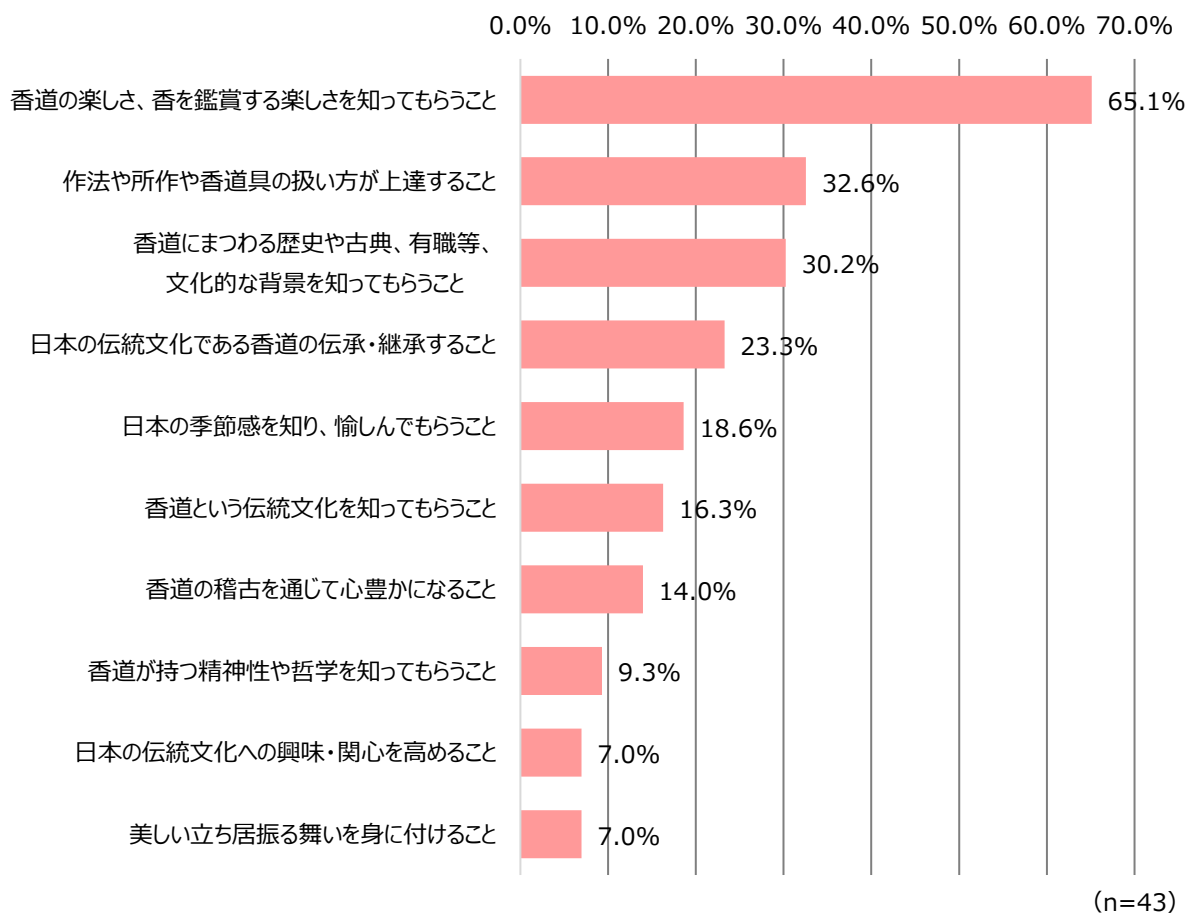


図 18 教育や指導の目的

④ ③の目的達成のために実施している教育や指導、工夫している点

上記の目的を達成するための教育や指導、工夫している点の自由記述を分類したところ、未回答7教室を除く40教室のうち15教室(37.5%)が「受講者の学習状況に応じて指導内容に工夫を加えている」と言った主旨の回答をしている。次いで「歴史や古典文学、有職故実等への理解を深めるために、稽古の中で詳細な説明をするように工夫している」の11教室(27.5%)、「受講者へ稽古内容の復習の時間を設けたり、自主的に練習を行うように勧めている」の8教室(20.0%)となっており、個々人の学習状況に応じた指導への工夫や、香道への理解を深めるための工夫が行われていることが分かる。

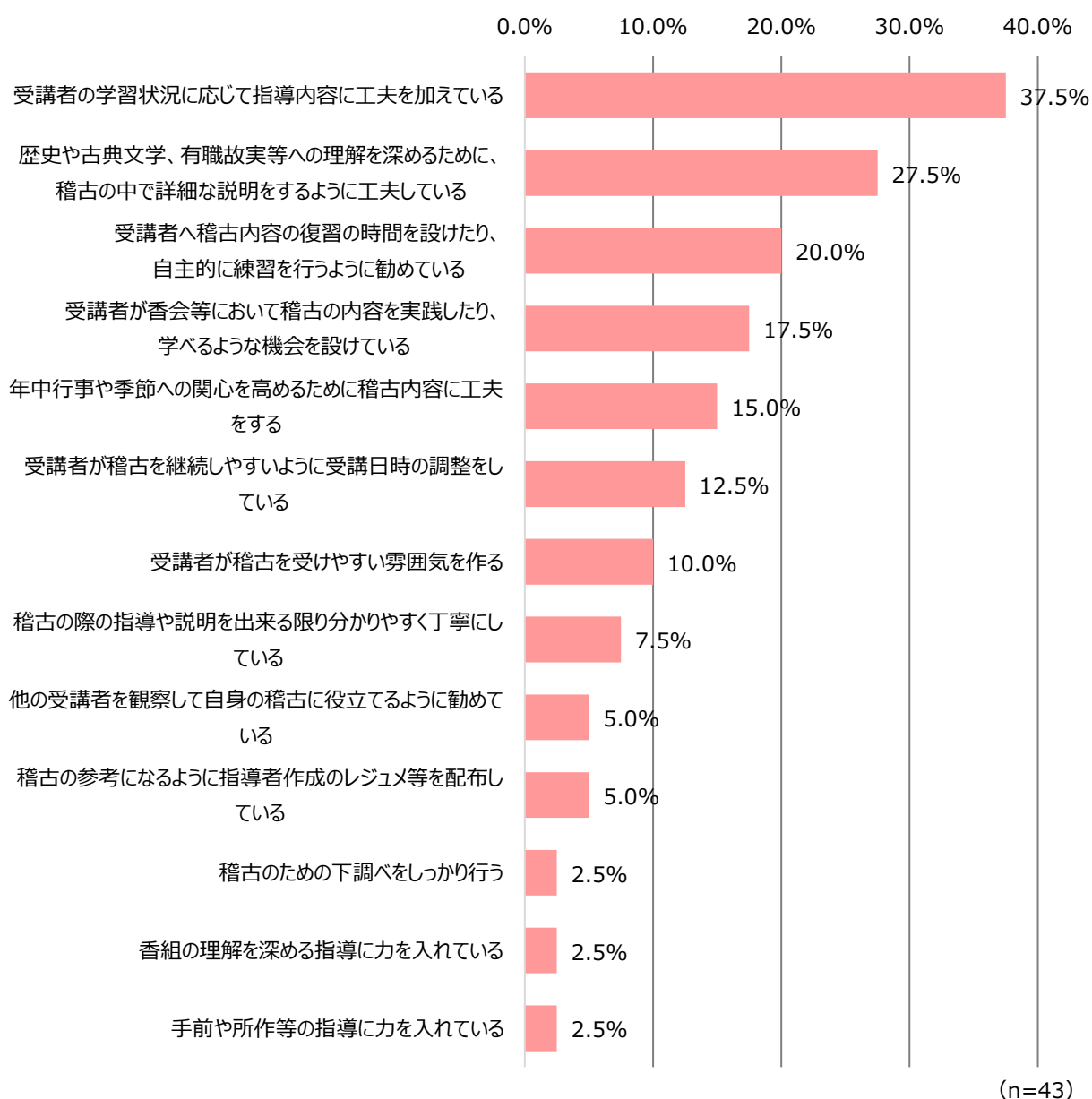


図 19 教育や指導、工夫している点

⑤ ④による効果や成果

成果について述べた自由記述を分類したところ、未回答8教室を除く39教室のうち、「古典文学や茶道、華道等の伝統文化に対する興味・関心が高まった」という主旨の回答が28教室(71.8%)と非常に多い結果となった。次に「香道への興味・関心が高まった、楽しんでもらえるようになった」の16教室(41.0%)、「立ち居振る舞いや礼儀作法等が身に付いた」の6教室(17.9%)と続き、指導目的として掲げられていた内容と成果に一定の関連性が見られる。

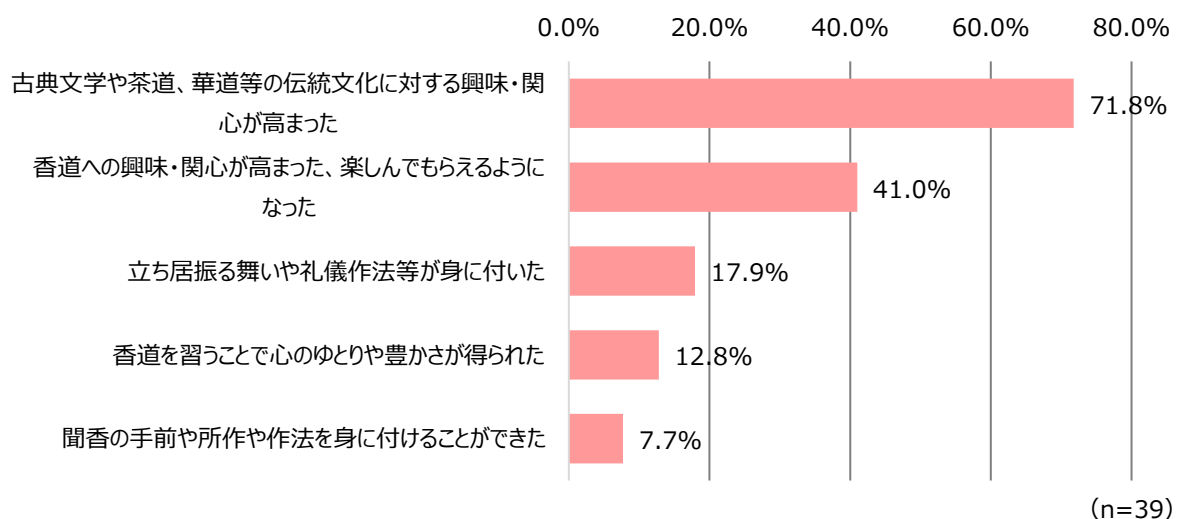


図 20 効果や成果

(3) 教室の運営について

① 生徒の募集方法

未回答2教室を除く45教室のうち、生徒の募集方法で最も回答が多かったのは、「受講者からの紹介」の34教室(75.6%)で、次いで「連携している団体・学校・企業・カルチャーセンターなどを通じて募集している」の20教室(44.4%)、「所属する香道団体のホームページを利用している」16教室(35.6%)、「教室のホームページを開設している」8教室(17.8%)と続く。「その他」の回答として、新聞広告を出した例や、自治体の広報誌に記事を載せてもらう、流派本部からの紹介といった回答が見られる。

なお、最も回答が多かった「受講者からの紹介」による生徒募集を行っている34教室のうち、「連携している団体・学校・企業・カルチャーセンターなどを通じて募集している」も回答している教室が12教室(35.3%)、「所属する香道団体のホームページを利用している」と回答している教室が11教室(32.4%)と、複数の方法で生徒募集に取り組んでいる教室も少なくないことが確認できる。

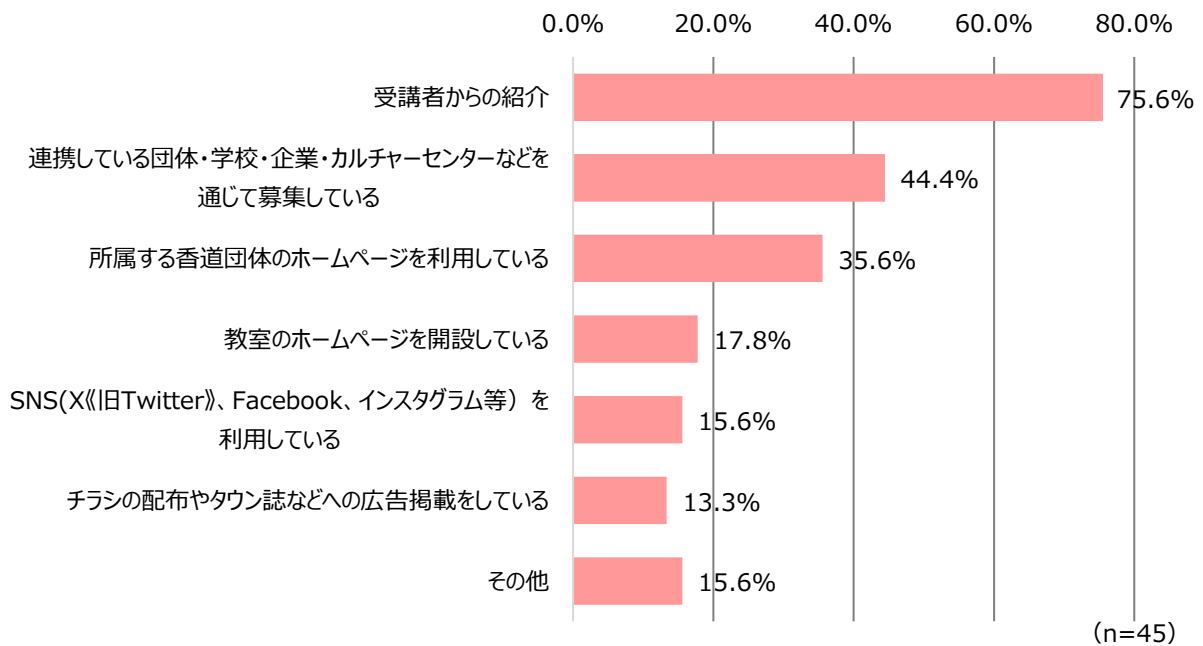


図 21 生徒の募集方法

② 教室見学や体験する機会の提供等

回答のあった 47 教室のうち、44 教室 (93.6%) で教室見学や体験機会を提供している。実施している内容としては、体験希望者があった場合は随時、体験会を実施している場合が多い。

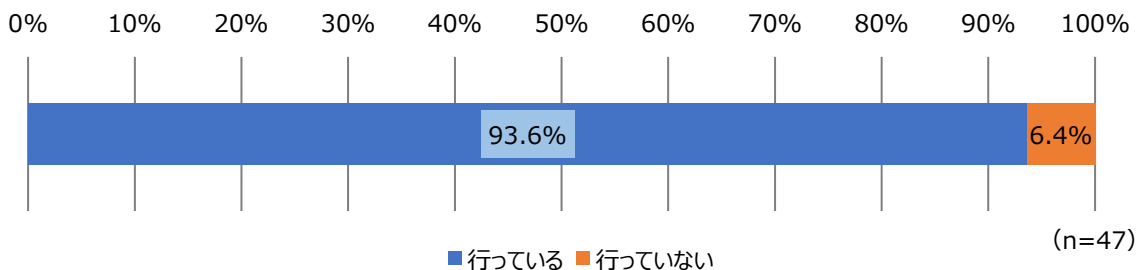


図 22 見学・体験の提供比率

③ 教室運営上の課題、解決のために行っている対策

教室運営における課題としては、未回答 8 教室を除く 39 教室のうち、教室に通う受講者が減少していることを課題として挙げている教室が 11 教室 (28.2%) と多い。回答としては、募集を行っても若年層の受講者や入門者がいない点について多く挙げられている。このような課題に対しては、募集を継続的に実施する以外に、SNS による発信を行い受講者を募る取組のほか、受講しやすいように立礼席や座礼席での座椅子の使用を認めるといった風に、受講者が感じるハードルを出来るだけ下げよう工夫を行っている教室もある。

次に回答として多く挙がっていた課題として、7 教室から貸し教室に関する課題が挙げられている。

特に、会場として借りている場所の時間制限の問題があり、道具等の搬出作業にかかる時間を出来る限り短縮するような工夫が行われている。また、稽古内容についても、受講者の熟練度が違う点も考慮に入れながら限られた時間の中で稽古を行う工夫が行われている。

④ 新型コロナウイルス感染症の影響と実施した対策

未回答4教室を除く43教室のうち、18教室(41.9%)が新型コロナウイルス感染症の影響により稽古や催事等を中止したと回答している。また、8教室(18.6%)からは人数を制限することで稽古を継続したとの回答も見られる。この他、6教室(14.0%)からは生徒や受講者が辞めてしまったとの回答もあり、稽古を行えない受講者が辞めてしまう等して教室運営そのものが困難になったため、現在も教室を休止しているとの回答も見られ、教室の運営に大きな影響があったことが確認できる。

次に稽古を行う際の感染症対策として、マスクの着用、手指や道具類の消毒、稽古場の換気を行うほか、受講者同士のソーシャルディスタンスを保つ等の対策が行われており、現在でも同様の対策を行っている教室が多い。また、受講者同士のソーシャルディスタンスを保つために、小間で行っていた稽古を大広間にするなどの対応を行ったり、香炉の回し聞きはしないようにしたりと言った対応も行われている。この他、オンラインを活用して所作や灰作り等といった特定の技法等について稽古を行っていた教室も見られる。

(4) 教室外との関わりについて

① 教室の外で行う活動内容

未回答5教室を除く42教室のうち、教室の外で行う活動としては、「流派の研修会や講習会への参加」が32教室(76.2%)と最も多く、次いで「教室外での香席の開催(教室が主催・共催するもの)」28教室(66.7%)、「流派機関誌への香会記の投稿」11教室(26.2%)、と続く。

「その他」の回答としては、流派が開催する香席への参加や、WEB講座を開催しているといった回答が見られた。

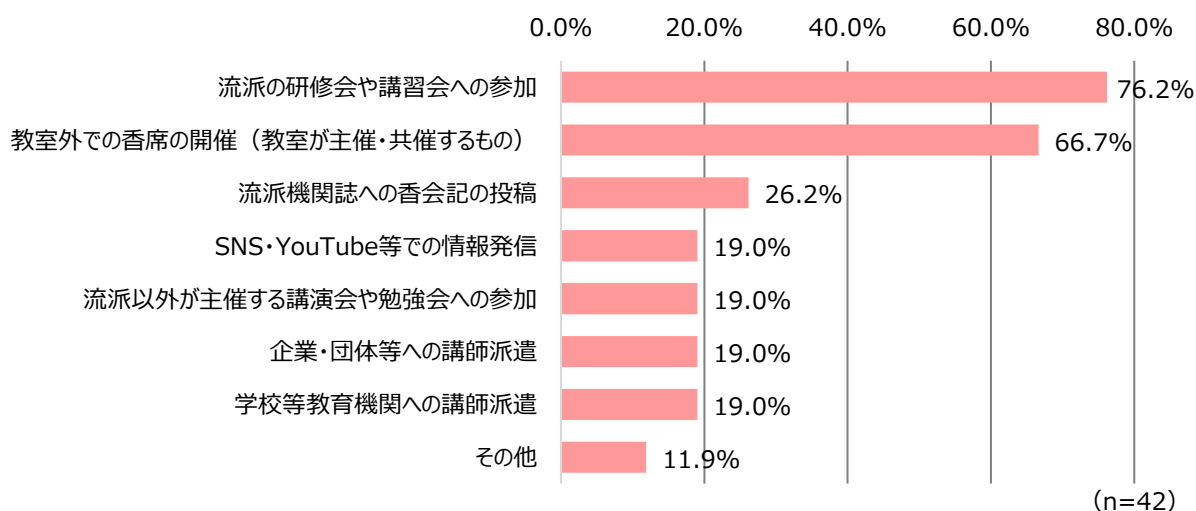


図 23 教室の外で行っている活動内容

② 連携している団体や組織

未回答3教室を除く44教室のうち、連携している団体や組織としては「所属している流派の団体、教室」が40教室（90.9%）と最も多く、次いで「香道以外の伝統的な生活文化の組織（茶道、華道、書道、香道、礼法など）」の13教室（29.5%）、「神社・仏閣」の9教室（20.5%）と続く。

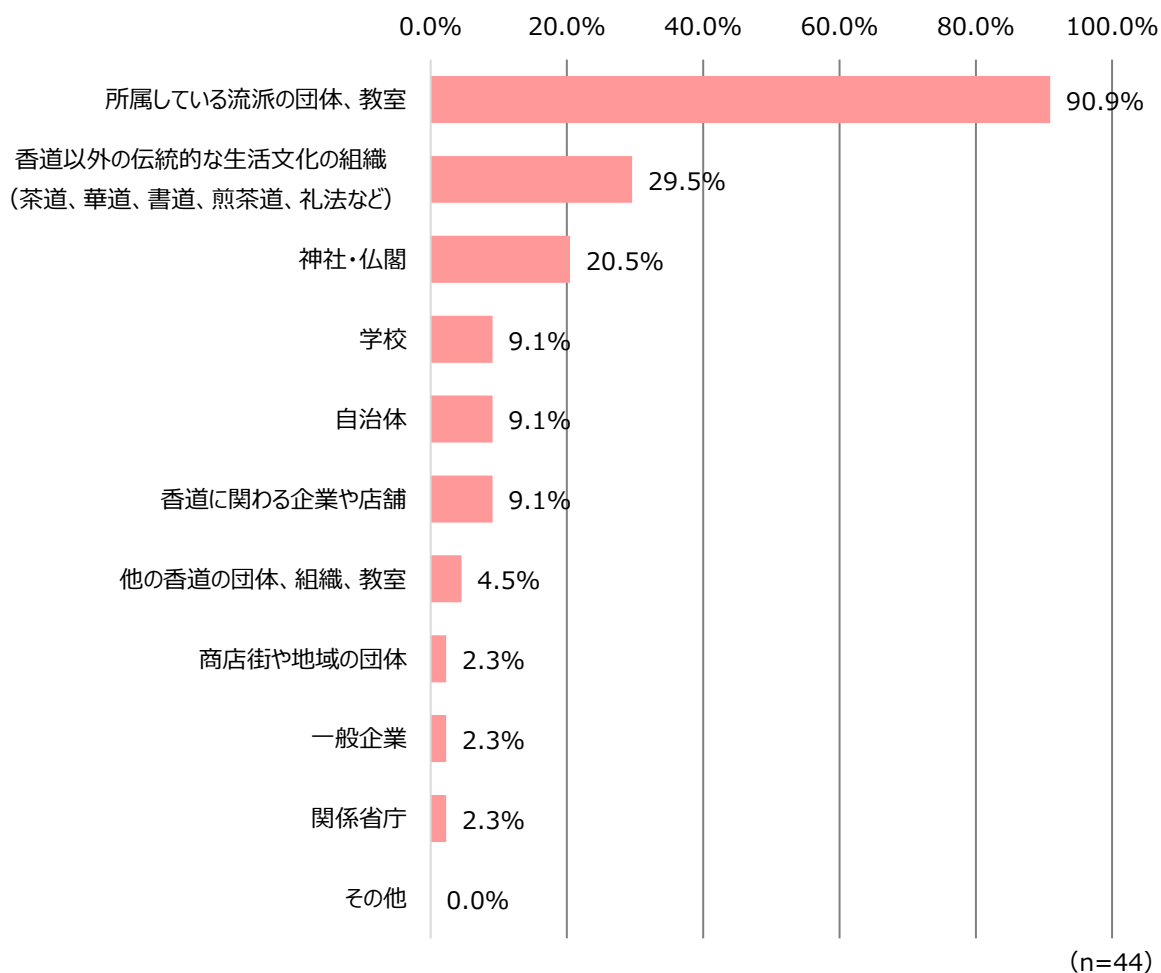


図 24 連携している団体や組織

③ 教室所在地の地域コミュニティとの連携

アンケートに回答した47教室中、11教室（23.4%）から、何らかの形で地域コミュニティとの連携を図っているとの回答があった。

連携の内容としては、地域の文化施設や文化協会、自治体及び教育委員会等が実施する催事等への参画し、香道の体験機会の提供を行っている例が多い。また、催事において香席を設けている場合もある。

2-3 まとめ

教室の活動内容

香道の教室や稽古場等を開いている場所について、「カルチャーセンターの講座として教室を開催している」との回答が最も多く、次いで「自宅以外に稽古場を借りている」、「自宅を稽古場としている」と続いている。なお、複数の場所において教室を開いている例も確認できる。稽古を行う場合の形式については、座礼を中心とした稽古の実施率が高い結果となったが、少なくない教室において、状況に応じて座礼・立礼どちらでも稽古を実施していることが確認できる。稽古における香木等の使用については、47 教室全てで沈香を使用しており、半数近い教室では白檀も使用しているほか、一部の教室ではひのきや杉などを用いている例もある。香炭団は全ての教室において用いられている。

教室における指導者の数は回答のあった教室の6割以上が指導者1人で、2人以上指導者がいる教室は多くないことが確認できる。また、教室で指導を行う者の属性については、9割以上が免状を保有しており、また、免状保有者の2割以上は「専業主婦・主夫」の項目も選択している。

次に、教室で指導を受けている生徒に関しては、生徒数が14人未満の教室が約6割を占めており、その中でも生徒数が「5～9人」との回答数が多い傾向にある。稽古を受けている生徒の年代としては、50歳以上の生徒が全体の約6割を占め、特に60代の生徒が多い。なお、性別については女性が9割強と男性の生徒がかなり少ないことが確認できる。また、生徒のひと月当たりに受講する平均回数については、「1～4回」の回答が9割、受講金額については平均1万円未満の回答が8割を占めている。

教室の指導内容

指導内容としては、回答のあった45教室全てで「手前や所作、作法（香の聞き方）」の指導が行われているほか、「香道の歴史や大事にされてきた精神」以外の項目は90%を超える教室で指導が実施されている。特に、香会や香席において必要となる手前や所作、香道具の扱い、香会等の一連の流れについてはいずれも95%を超える教室で指導が行われており、それらの項目が教室での指導内容の中心となっていることが確認できる。

次に、指導における教材や用具の使用の有無については、約6割の教室が教材や用具を使用しており、特に流派で発行している書籍や指導者自身が作成したテキストが指導教材として用いられる場合が多い。

教室における指導の目的としては、「香道の楽しさ、香を鑑賞する楽しさを知ってもらうこと」と言った目的を掲げている教室がとりわけ多く、「作法や所作や香道具の扱い方が上達すること」、「香道にまつわる歴史や古典、有職等、文化的な背景を知ってもらうこと」と続き、いずれの回答を見ても、香道に関連する様々な文化、季節感等を知ることによって香道をより深く愉しめるようになることを目的として見据えている場合が多い。指導における工夫等については、「受講者の学習状況に応じて指導内容に工夫を加えている」と言った工夫を行っている教室が多く、次いで「歴史や古

典文学、有職故実等への理解を深めるために、稽古の中で詳細な説明をするように工夫している」、
「受講者へ稽古内容の復習の時間を設けたり、自主的に練習を行うように勧めている」が続き、受
講者の状況等を把握しつつ指導方法に工夫を加えているほか、より深く香道を学べるように指導内
容にも配慮や工夫を行っている教室が多い。

教育や指導の成果として最も多く挙がっていたのは「古典文学や茶道、華道等の伝統文化に対す
る興味・関心が高まった」という回答が最も多く、次に「香道への興味・関心が高まった、楽しん
でもらえるようになった」「立ち居振る舞いや礼儀作法等が身に付いた」、「香道を習うことで心の
ゆとりや豊かさが得られた」といった形で、教室が掲げている指導目的と成果の関連性が確認でき
る。

教室の運営

生徒の募集方法については、「受講者からの紹介」が7割以上を占め、また、受講者から紹介を
受けて生徒募集を行っている教室の7割以上は、「連携している団体・学校・企業・カルチャーセ
ンターなどを通じて募集している」、「所属する香道団体のホームページを利用している」等の募集
方法も並行して行っている。

教室が実施する見学や体験機会の提供については、9割強の教室が何らかの形で見学や体験機
会を設け、香道を知ってもらい、また、教室そのものの内容を知ってもらう機会を設けている。

次に、教室運営の課題については、受講者に関する課題、とりわけ受講者が減少している点を課
題として挙げている教室が多い傾向にある。生徒の募集を行っても新しく入る人がいない等、若い
人が入門しないといった課題があり、気軽に体験出来るイベントを行ったり、SNSで発信する等の
取組を行ったりすることで課題解決に取り組んでいる。また、稽古場や教室として借りている会場
の貸し時間の制限も課題として挙げられており、限られた時間の中で準備や片付けを行うような工
夫を行っているほか、受講者の練度も考慮しながら制限された時間の中で稽古内容を充実したもの
にするための工夫も行われている。

新型コロナウイルス感染症の影響については、約4割の教室で稽古や催事の中止等の影響があっ
たとの回答があり、教室によっては受講者が辞めてしまった例や、教室を休止にしたままにしてい
る等、教室運営に大きな影響があったことが確認できる。感染症対策としては、マスクや消毒、換
気、ソーシャルディスタンスの確保が行われ、現在も稽古を行う際にはこれらの対策を続けている
と回答している教室が多い。

次に、教室外の活動については、所属している流派の研修会・講習会へ参加しているとの回答が
最も多く、次いで教室主催や共催による香席の開催を実施している教室が多い。また、連携してい
る団体や組織については、所属流派との回答が9割を占めるほか、香道以外の茶道や華道等の生活
文化に関連する組織や、神社・仏閣と連携しているとの回答も見られる。

教室所在地の地域コミュニティとの連携状況については、全体の約2割が連携を行っており、地
域の文化施設や文化協会等によって実施されている催事で香道体験や香席を設けている場合が多い。

結 本調査研究事業のまとめ

1. 香道において継承されてきたこと

香道は、沈香等の香木や^{たきもの}薫を一定の作法に従って^た炷き、その香りを賞翫する文化である。

今日の香道においては、数種類の香木を組み合わせ構成し、その香りの相違を聞き分ける「組香」が、香会や香席において行われることが多い。この「組香」には、香りの違いを鑑賞し組み合わせ当てるという遊戯的・競争的な側面もあるが、香と古典文学等との融合によって表現される主題の鑑賞を行うことがその主眼となっている。

一方、「組香」とは異なり、一炷の香を聞く「一炷聞」では、一つの香木の香味を純粹に味わうことによってその香りの特徴や味の聞き定めが行われる。ここでいう「香味」とは、「六国五味」と呼ばれるうちの「五味（甘、酸、辛、苦、鹹）」のことであり、香りの特色として表現される。加えて、香味の表現が分類されるように香木そのものが「六国（伽羅、羅国、真南蛮、真那賀、佐曾羅、寸門多羅）」に分類されている。これら香木を聞く際には、火道具や聞香炉をはじめとした香道具を扱い、香木を炷くための手前や作法、所作等が存在しており、各流派それぞれの流儀が継承されている。

現在、我々が知る香道の様式が形成されはじめたのは15世紀頃であり、当時の史料からは、「一炷聞」をはじめとして、香り聞き当てる「十炷香」や「十炷薫」、二種類の香木を聞き比べる「名香合」のような聞き方も行われていたことが確認できる。16世紀頃になると、「源氏香」や「系図香」と言った記載が史料に見え、組香が行われるようになっていたことや、16世紀末には聞香炉の灰の押さえ方に流儀のようなものが生じていること等が確認できる。加えて、香木の種類と味を分類する考え方自体も16世紀半ばには生じており、これらが次第に整理されていき、17世紀半ば頃には現在の「六国五味」という分類が定まっていた。

また、江戸時代には香道に係る流派が次第に形成されていった。志野流を例に挙げれば、当時の門人帳が残っており、諸国に門人がいたことや幅広い層に香道が受け入れられていたことが分かる。加えて、香道に関する書籍類も刊行されるようになったほか、教養書には当時の女性が嗜む芸の一つとして香を聞くことが上げられているなど、広く一般にも香を聞く機会やその方法が広まっていた。明治以降においても、各流あるいは各家によって香道の流儀の継承が行われ、また、香道に係る振興や普及の活動が継続的に続けられてきたことで、香道は今日まで発展・継承されてきた。

流派及び横断的団体を対象として実施したアンケート調査からも明らかなように、香道の各流派は、香道の普及や振興に係る様々な取組を行いながら、先人達が育ててきた香木の香りを賞翫するため考え方や精神性を大事に受け継ぐとともに、香を聞くための手前や作法、所作といった型や技を大切に守り続け今日まで継承してきた。これらの型や技は、香会において心を静め香木の香りを賞翫し、あるいは主題の鑑賞を行うという、香道において大切にされてきた考え方や精神性を表現するものとして位置づけられるとともに、型や技の習得と香会の実践を通じて、守り伝えられてきた精神性や考え方も併せて継承されてきたと考えられる。

2. 香道に係る用具等の継承について

香道において特に重要なのが、沈香等の香木である。特に香木として珍重されている沈香は、ベトナムやタイ、インドネシア等の東南アジアにおいて産出され、日本へ輸入されている。

沈香そのものは、自然の産物であること、また日本国内においては産出されないものであるため、従来から希少性が高いものとして扱われてきたが、ワシントン条約に基づく輸入規制や日本以外における香木の需要拡大等の事情も相まって、その希少性がさらに高まっている状況にある。

良質な香木を入手しにくくなってしまったこと等もあり、原産国において香舗による植林事業等も行われているが、自然環境に大きく左右されることもあり、香木として用いることが出来る品質のものが産出できるかは未知数であると言う。

次に、香会や香席においては、聞香炉や香炭団、香炉灰、銀葉など香木の香りを聞くための道具をはじめ、道具を並べるための打敷（地敷・地敷紙）や、火道具、乱箱や重香合、棚や場合によっては盤物等の様々な香道具が用いられている。

これらの香道具の流通や製造状況としては、香舗において販売されているが、使用用途が限られているものが多く、また、オーダー品のような形で作成されているものもあるため、流通量そのものが少ない。香舗や家元が必要に応じて、指物師や金工作家等の職人に注文して香道具の作成を依頼する形がとられることが多い。香道具そのものの需要や道具作成の実情もあり、香道具を専門的に扱う職人は少なく茶道具等の作成を行う職人等が作成を手掛けている場合が多い。

また、香道具を作成できる技術を持つ職人も高齢化により減少している状態であり、例えば、盤物（盤立物）のような香道具を作成したり修理を行ったり出来る技術自体が途絶する可能性も危惧されている。

3. アンケート結果から見た今後の団体・教室活動の方向性と課題

国民意識調査の結果からは、香道を体験したことが無いという人が回答者2万人の91.9%、習ったことがある、あるいは指導する立場にあると回答した者は2.0%、体験したことがある者が6.1%と、総じて、香道を経験したことがある者は必ずしも多く無い傾向にあることが分かる。

まず、香道を習ったことがある、もしくは教える立場にあると回答した者については、親や兄弟姉妹、祖父母等が習っていたことをきっかけとして香道を習い始めたと回答する者が最も多く、次点で友人知人に勧められた、親や兄弟姉妹、祖父母が教えていたと続き、香道を知る触れるきっかけが回答者の身の回りにあったことが分かる。また、香道を習い始めた時の環境については、家族や知人等に習っていたと回答した者が最も多く、習うことが出来る環境自体も身近に存在していた者が多い傾向がうかがえる。

一方、香道を何らかのイベント等で体験したことがあると回答している者については、学校や香舗、文化施設で体験イベントが行われていたことをきっかけとして回答している者が最も多く、次点では友人や知人からの勧め、次に趣味や教養として香道に関心があったとの回答が多く、親や兄弟姉妹、祖父母と言った親族が習っていたり教えたりしていたことをきっかけとして香道を体験した者は少ない傾向にある。また、実際に香道を体験した場についての回答結果を見ると、文化施設

等で開催されたイベントで経験したと回答した者が最も多く、次点で学校や職場の部活動等での体験イベントで経験した、学校や職場の研修会で経験したとの回答が続いていることから、香道を知る体験するきっかけ作りとして香道の流派や団体あるいは教室を運営する指導者等が実施している催事がきっかけとなり、香道を体験する機会が創出されていることが確認できる。

しかし、香道を体験した者が香道を習っていない理由として、回答者の身の回りに通いやすい稽古場や教室が無かった、との理由が最も多く回答されており、体験する機会が創出され少なくない者が香道を体験しているものの、実際に香道を習おうとした場合、習うことが出来る環境が身近に無い状況にあったことが確認できる。また、香道を習いやすい状況についての設問では、通いやすい場所や費用の手頃さを条件として回答している者が多いことから、回答結果からは、体験している者の中でも香道に関心を持っており習おうと考えていた者がいること、また条件さえ整えば香道を習うような者が少なからずいることが確認できる。

香道を経験したことが無いと回答した者については、香道を体験したことが無い理由として、そもそも知らなかったという回答が約 30%と最も多く、10～40 代の回答率が高い。次に、自分の趣味とあわない、興味がない、の順で回答比率が高く、自分の趣味と合わないと回答した中では 18～20 代が特に多く、興味がないと回答した中では、70 代以上が特に回答数が多い傾向にあり、香道を知っていたとしても興味関心がなかったりする世代があることが確認できる。

香道への関心が高くない者がいる一方で、気軽に体験出来る機会や場所が無かったと回答している者や、体験出来る場所や機会を知らなかった、体験内容がわからなかったと言った回答もあり、40 代以降の世代からの回答率が高い。香道を知らない者が数多くいる一方、関心があって香道を体験したりする機会や場と巡り合えない者も確実にいることから、香道自体を知ってもらうような広報への取組が必要であることに加えて、体験出来る機会や場所を適切に周知することで、より充実した体験機会の創出につながる事が回答結果から見えてくる。

香道に係る横断的団体や流派を対象としたアンケート調査の結果からは、各団体が香会等の開催をはじめとして、一般向けの講演会や体験会等の実施、広報活動に取り組んでおり、これらの取組を通じた香道の普及・振興活動を行っている。また、門人や会員向けの研修会や講習会の実施を通じて、香木を焼き・聞くこと、香会や香席を愉しむための考え方や精神性、香会・香席に関する手前や作法、所作、香道具の扱い方等を教授し、香道に係る伝統的な文化の継承に取り組むとともに、香道を教える者の育成も行っていることが確認できる。

このような取組を行っている中で、横断的団体や流派が抱えている課題や、その課題解決のための取組や工夫を行っていることがアンケートの回答結果から分かる。流派や社中組織が抱える課題としては、高齢となった門人や会員が引退してしまう一方、新たに門人や会員となる者が減少していることもあり、従来、流派や社中組織等で実施していた香会等の催事の運営に支障を来すようになっていること、また、高齢の門人や会員は教授者としても活動している場合が多く、教授者自体も減少している点にある。これらの課題に対して、流派や社中組織では、門人や会員の確保を目的とした募集活動の強化を行い、WEB などを活用した周知に取り組んでいる。その他、教授者の育成を目的として、門人や会員向けの講習会や研修会の実施に積極的取り組んでいる団体もある。上記

の課題とは別に、香道に欠かすことのできない香木の確保も課題の1つとして挙がっており、流通する香木の減少や価格高騰など、団体等の取組のみでは解決が難しい課題と認識されている。

香道の教室や稽古場を対象として実施したアンケート調査の結果からは、カルチャーセンターで教室を開講しているか、もしくは稽古場を借りる形で教室等を開いている場合が多く、回答のあった教室の多くは免許状を有する指導者が大半で、一人で稽古の指導を行っている。一方、教室や稽古場に通う生徒については、1教室あたりの受講者の人数は14人未満の教室が大半を占めており、特に5～9人未満の教室が多い。受講者の年齢層は、50歳以上が6割以上を占めており若年層の受講者は非常に少なく、その多くは女性であることが確認できる。月平均の受講回数としては1～4回との回答が9割以上で、受講料としては、8割以上が1万円未満と回答しており、5割以上は5,000円未満の受講料で稽古を受けている。

教室の指導内容としては、香道に関する伝統的な手前や所作、作法をはじめ、香会等の流れや次第、季節感や自然観、和歌等の古典文学等を指導している教室が9割以上であり、香道に関する精神性や考え方といった面を指導内容として含んでいる教室も8割を越えている。教室や稽古場においては、これらの指導内容について、6割以上が流派団体で発行されているテキストや書籍を教材として利用しており、指導者が独自にテキストを作成している場合もある。指導においては、香道そして香を聞くことの楽しさを知ってもらうことを指導目的として掲げる教室が6割以上を占めており、手前や作法、所作の上達や香道の歴史や古典等を知ってもらうことを目的としている教室も3割ほどある。それらの目的を達成するために、約4割の教室では、受講者の学習状況に応じた指導を心がける等の工夫が行われているほか、香道に係る歴史や古典文学等について丁寧に説明したり、稽古を受けた内容をより深く学ぶために復習時間などを設けたりする等の指導の工夫を心がけている教室が多い。そのような取組もあり、多くの教室からは、香道への関心が高まったとの回答以上に、香道に関連した古典文学や茶道、華道への関心が高まったとの回答が多く見られる。

このように、様々な工夫を行いながら多くの人に香道を教授している教室や稽古場においても、流派や社中組織と同じような課題を抱えており、教室や稽古場に通う受講者が減少しており、SNSによる情報発信等を行うとともに、特に若い人が継続的に通えるような工夫として、立礼席での稽古や座礼での座椅子の使用を認めるような工夫を行っている教室もある。また、カルチャーセンターでの開講や、稽古場を借りている教室が多いことから、貸し会場の時間制限を課題として挙げている教室も見られ、限られた時間の中で、稽古を開き、受講者の受講状況に応じた指導内容を実施するなどの工夫を行いながら、課題に対処している。

以上のように、香道に係る団体や教室等が抱える課題として、減少している門人や会員、また、教室や稽古場の生徒と言った香道を愛好する者を如何に増やして行くか、また、香道を一般の方に知ってもらうとともに、体験機会への参加や教室等での受講へとつなげるために、香道に係る文化をどのように発信していくか、という点が課題点として共通している。

既に、横断的団体や流派、社中、そして教室や稽古場等それぞれの立場において、香道を知ってもらうための体験機会の創出を行っているが、国民意識調査の結果からも推察されるように、そも

そも香道を知らない者が多い状況にあり、体験機会等が行われていることを知るきっかけが無かった等、香道自体が広く知られていないことや、体験機会の情報が香道に興味関心のある者へと届いていない状況にあると考えられる。横断的団体や流派団体、教室や稽古場も SNS での発信など、情報発信の手段を増やすことで、香道自体の発信や体験機会の周知の工夫を行っており、今後一層の取組の進展が期待される。また、香道を体験したことが無い者について、関心がある体験内容としては、普段の生活で香をどのように楽しむことが出来るかを教えてもらいたい、と言った回答が多く見られることから、聞香の作法や所作の体験は勿論のこと、普段の生活と香道の接点を体験する側に伝えるか等の体験内容や魅力の伝え方を工夫することで、香道への興味関心を高めることが出来ると考えられる。

4. 香道を次世代に継承するために

香道は、家元や宗家によって組織される流派が中心となって、香道に係る様々な有形・無形の文化的所産を今日まで継承してきた。それぞれの流派においては、先人から継承されてきた香道具や、稽古と香会・香席の実践を通じて、様々な手前や作法、所作、香席のしつらい等の型や技とともに、先人の人々によって育まれてきた香木を焚きその香りを愉しむための考え方や精神性もあわせて継承されてきたと言える。また、流派では流儀の継承だけではなく、一般向けの香席や香会等の催事、講習会や体験機会等の創出にも取り組むなど、香道に係る様々な文化の振興や普及に関する活動にも長年取り組んできた。

加えて、各流派の門人や会員となって流儀を学んだ者が香道の教授者となって教室や稽古場を開くことで、一般の人でも関心があれば香道を学び、自身の生活の中の文化として取り入れる機会の創出も行われてきた。また、戦後結成された横断的団体による香道の普及・振興に関する様々な取組も行われることで広く香道を知る機会、体験する機会の創出が行われている。このような形で、各流派や横断的団体によって香道の普及や振興に係る取組が国内を中心に組み込まれるのみならず海外への香道に関する発信も行われており、香道の普及に尽力した者の顕彰も行われている。

以上のように、香道の様々な文化は、流派や横断的団体、そして香道を愛好する者等の日ごろの取組によって、文化の継承と振興・普及に関する活動が継続されてきた。しかしながら、今回実施した横断的団体や流派等を対象としたアンケートや教室や稽古場を対象としたアンケート調査の結果からは、香道を愛好する者の高齢化に伴う引退や門人や会員が新たに入っていない等の理由から、愛好者が減少しており、また、高齢の教授者も引退してしまい、香道を発信する立場にある者が減少してしまうことで、次の教授者の育成が追い付いていない状況にあることが回答結果からうかがえる。

前述のとおり、横断的団体や流派、教室や稽古場では、香道を一般の人に知ってもらい、また、体験してもらう機会の創出に取り組み続けており、継続的な周知や体験機会の創出が必要となっている。加えて、流派や教室等では、教授者の育成に関する取組にも力を入れている。特に、香道に関する様々な文化についての周知や体験機会の創出に関する活動については、香道を長年にわたり継承してきた流派団体にとっても重要な取組と考えられており、香道の振興や普及に資する取組で

もあることから、それらの取組や活動に対する適切な支援について検討をする必要があると考えられる。

また、各流派において行われる香道の継承に係る自主的な活動を妨げぬように配慮しつつ、香道の無形文化財としての登録や保護の在り方、という点についても検討する余地があると考えられる。各流派において継承されてきた香道に係る手前や所作、香席のしつらい等の無形の文化的所産は、各流儀の歴史性や精神性を示すものとして重要であり、香道を次世代へと継承していく上で欠くことが出来ない要素であると言える。各流派における香道への考え方や精神性、活動の仕方等を尊重することを前提とした上で、流派それぞれの無形の文化的所産の特色等についてさらなる把握を進めながら、流派を横断した形での適切な保護と支援が可能であるか否かについて検討を行うことも、香道の次世代への継承を考える上で必要な点かと考えられる。

香道は、日本における香りに係る文化の一つの形であり、室内において香りを愉しむ芸能として発展し、今日においては一般の人でも学び嗜むことが出来る日本の伝統的な生活文化の一つである。香道を次世代に継承していくには、一般の人々の香道に対する認知度を上げることや、体験機会等の実施を継続的に行い、香道に興味関心を持つ者、愛好する者を増やして行くような取組が必要となっている。横断的団体や流派の自主的な活動を尊重していきながら、国や地方公共団体においても当該分野に関する活動について、適時適切な支援の在り方について検討を図っていく必要がある。

参考資料 有識者(香道)及び有識者会議検討経過

1. 有識者

本調査研究事業は、香道に関する豊富な識見を有する者を有識者(香道)として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。(令和3・4年は「文化創造アナリスト(香道)」として委嘱)

【名簿】 ※50音順、敬称略、令和6年1月31日現在

宮崎 涼子 京都芸術大学 非常勤講師

矢野 環 同志社大学 名誉教授、埼玉大学 名誉教授

2. 有識者会議の経過

令和3年度

第1回

●開催日・開催方法

令和3年12月27日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(香道)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

第2回

●開催日・開催方法

令和4年2月22日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(香道)」報告書素案について
- ・今後の予定について

令和4年度

第1回

●開催日・開催方法

令和4年8月1日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(香道)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

第2回

●開催日・開催方法

令和4年11月30日 リモート会議

●主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

第3回

●開催日・開催方法

令和5年1月25日 リモート会議

●主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

令和5年度

第1回

●開催日・開催方法

令和5年9月27日 リモート会議

●主な内容

- ・団体及び教室アンケート案について
- ・アンケート送付方法及び送付先について
- ・用具及び原材料についての調査状況について
- ・今後のスケジュールについて

第2回

●開催日・開催方法

令和6年1月15日 リモート会議

●主な内容

- ・アンケート調査実施状況
- ・用具及び原材料調査原稿案について
- ・報告書の構成について
- ・今後のスケジュールについて

第3回

●開催日・開催方法

令和6年2月13日 リモート会議

●主な内容

- ・令和5年度「生活文化調査研究事業（香道）」報告書案について

3. 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・香道の原材料・用具に関する文献等の調査、ヒアリング等
- ・香道団体・流派及び香道教室アンケートの作成、発送、集計、分析
- ・有識者会議等の調整、運営などの業務

参考資料 用具及び原材料の状況について

(1) 概要

香道で用いられる主な用具・原材料は以下のとおりである。流派によって呼び名や用途が異なるものがあり、ここでは主なものを挙げた¹⁾。この調査では、これら用具・原材料の流通に関すること、香木の状況等について、香舗へのヒアリング調査を基に記すこととする。

| 名称 | 概要 |
|---------------|--|
| 聞香炉 | 香を聞くための基本となる道具。飾りのないすっきりとした筒型で、脚は三つ、手の中にすっぽりと収まるのが基本的な条件とされるが、流派によって様々な大きさがある。青磁や染付が多い。 |
| 香炭団 | 直径2 cm弱の小さな筒形の炭団で、香木を加熱し、発薫させるために香炉の灰に埋めて用いる。 |
| 香炉灰 | 主に菱の草の実を原料とする菱灰、藤の木を原料とする藤灰などが使われる。 |
| 銀葉 | 雲母を素材とする。板状で、直に香木を炷くことのないよう、香木を載せる敷物として使用する。 |
| 打敷、地敷・地敷紙 | 道具を並べるときに下に敷くもの。御家流では、地敷を打敷の上に敷いて用いたり、そのものを打敷と呼んだりする。志野流では地敷紙と称する。 |
| 火道具 | 流派によって形状や材質、呼び名が違うものもある。聞香炉の灰を扱うのに使う「火箸」(主に志野流)「火筋」(主に御家流)、香炉で灰を押さえたりならしたりする「灰押」、銀葉を挟む「銀葉挟」、灰を落として香炉を清める「羽箒」、香木を挟む「香筋」(主に御家流)「木香箸」(主に志野流)、香木をすくって銀葉に載せる「香匙」、本香包を刺しておく「鶯」(香串ともいう)、の7つの道具がある。「香筋建・香匙建」は火道具を立てておくための筒で、流派によって納め方に決まりがある。*香匙の室町時代の呼び名は「きょうじ」 |
| 乱箱 | 香道具を運ぶために香道具一式を入れる箱のこと。流派により入れてある香道具の位置が異なる。漆黒塗、蒔絵などで作られている。 |
| 重香合 | 香木、銀葉を入れるのに使用する四角又は筒型の三段及び四段の箱。掌サイズで、蒔絵のものも多い。最下段内側に金属を張ってあるものが多く、使用後の熱い銀葉や、香を炷いたあとの炷空・末枯を入れる。 |
| 手記録紙、手記録盆、記紙差 | 手記録紙は組香の際に答えを記す回答用紙を指す。手記録紙を載せるのが手記録盆である。答えの示し方としてはほかに、香札を用いる場合などもある。志野流では回答用紙「記紙」を、料紙で金地彩色の記紙差で廻す。 |

1 香道文化研究会編『図解 香道の作法と組香』第五版 雄山閣、令和2年(初版は蜂谷宗由監修・長ゆき編で、昭和53年に雄山閣より刊行)、『淡交ムック 香道入門』淡交社、平成5年、三條西堯水監修『よくわかる香道歴史から作法まで 香りの世界を深める』メイツユニバーサルコンテンツ、令和4年を参照した。

(2) 香道用具の流通²

先に挙げた香道用具（香道具）は、香木やお香を扱う専門店（香舗）で販売されている。主に稽古の時に使用する道具、香会での使用を主な目的とする高級品や専門性の高い道具（古美術品を含む）、オーダーに応じて製作する道具に大きく分類できるが、いずれにしても流通する量が少ないことから、卸売業者は存在せず、香舗が必要に応じて、あるいは家元や宗家が直々に指物師や金工、漆工、陶工等の職人に用具の製作を依頼するかたちとなる。

香道人口は茶道ほどの規模ではなく、年間生産される道具の数は多いとはいえない。用具の種類が多さに比べ、1回に作るロット数が少ないこと、時と場合に応じて多量から少量まで、発注のレベルが様々であることから、職人にとって常時仕事が発生するというわけではない。香道具の製作だけで生活を成り立たせるのは難しく、職人の多くは兼業であり、茶道具や室内装飾品等を手掛けている。

(3) 香木の概要と流通

香木は良い香りのする木のことであり、ある種の樹の一部分をさす。沈水香と総称される伽羅・沈香は、樹内の繊維に樹脂が溜まった部分、白檀は樹の芯に精油が溜まった部分をいう³。主にベトナム、タイ、インドネシアなどの東南アジアで産出される。

伽羅・沈香の原木はともにジンチョウゲ科アキラリア属の樹木である。風雨や虫などの要因で樹木に傷がつくと、樹脂を分泌する。樹脂は樹木内に数十年以上をかけて蓄積し、それを上回る年月を経て熟成される⁴。

沈香樹は将来絶滅する可能性の高い植物であることから、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約、附属書Ⅱに記載）」によって原産国からの輸入等に関して規制が行われている（商業目的の国際取引は可能）。

現在の香木の輸入について、特に沈香については平成 11 年（1999）に HS コードの変更に伴い、沈香単独の輸入量については把握が困難となった。次ページの表は平成 10 年までの沈香の輸入量をまとめたものである。

2 株式会社松栄堂、株式会社山田松香木店、株式会社負野薫玉堂へのヒアリング（令和 5 年 12 月 6～8 日）による。

3 山田英夫『香木のきはん図鑑 種類と特徴がひと目でわかる』（世界文化社、令和 3 年）p. 4 を参照した。

4 山田松香木店『和の香りを楽しむ「お香」入門』（東京美術、令和元年）p. 36 を参照した。

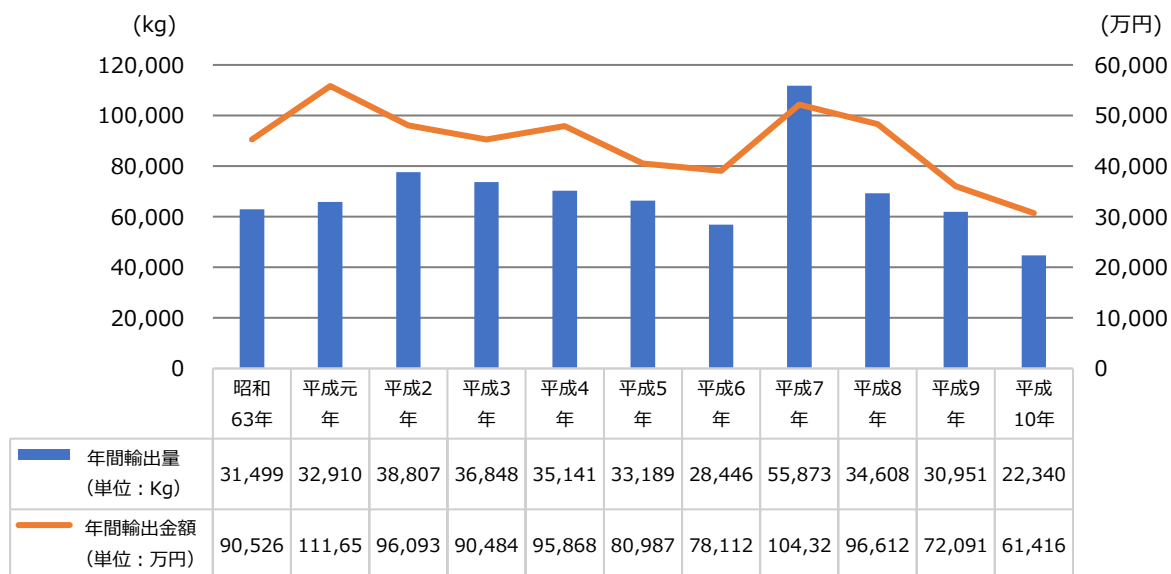


図1 沈香の輸入量（昭和63年～平成10年）

出典：昭和63年から平成10年までの貿易統計を「政府の統計窓口 e-Stat」
(URL: <https://www.e-stat.go.jp/>) を参照し受託事業者が作成した

香舗へのヒアリングによると⁵、香木は、東アジア、東南アジア、インド周辺、中近東諸国でよく使われ、第二次世界大戦前まで需要と供給のバランスは世界的に安定していた。戦後、高度経済成長を遂げた日本では、香木の需要が増え、中東諸国もまたオイルマネーで豊かとなり、香木の需要が拡大した。一方で、最上級の伽羅の産出国であるベトナムは、ベトナム戦争での枯葉剤等の被害もあり、資源の枯渇が懸念されるようになる。それに代わって供給地となったのがインドネシアであったが、無秩序な伐採や度重なる山火事の影響で、ここも資源が乏しくなっていた。

香木が採れなくなると、ベトナムで採取に関わっていた専門家集団が減少。中国に返還された香港は、香木取引に影響力のあった華僑社会が変容、また、地球温暖化による植物の成長環境の変化もあいまって、香木に適した、自然が生み出す良質な香木は市場に姿を見せなくなってしまった。また、偽物も出回るようになった。

1990年代半ばからは、日本の香舗が植林事業をスタートさせている。しかし、木を植えても樹脂が溜まる確率は低く、結果が伴うのにどのくらいの年月が必要になるのかは未知数であるという⁶。

(4) 課題

・香道用具

ヒアリングでは、職人はほとんどが一人、もしくは二人といった少人数で仕事を請け負っている場合が多く、近年では高齢化が進み、廃業する工房が増加、業界では後継者不足という課題を抱えている。そのため、新たな発注先の開拓に時間がかかっているということが指摘された。

5 株式会社山田松香木店、株式会社松栄堂へのヒアリング（令和5年12月6日・7日）による。

6 株式会社山田松香木店へのヒアリングによる。

例えば、和裁をする人の減少により、袋物を製作する工房が減少している。不定期であること、工賃が低いことも人手不足につながっている。そのため、これまで香道用品を手掛けたことのない工房に現物を持参し依頼するなど、発注先の開拓に苦慮しているという声があった。

原材料の不足も挙げられる。美しい木目と、硬く狂いが少ない材質が特徴で、乱箱や長盆、四方盆の原材料として使われている桑の木は手に入りにくくなっており、代用としてメクラ（女桑・雌桑、キハダとも）を使うようになっている。

そして、今後、職人の技術が途絶してしまうのではないかと最も懸念されているのが、盤物（盤立物、p.12 参照）である。聞き当てた香の結果を盤上の小道具を使って表すもので、江戸時代初期から中期にかけて盛んになり、贅沢な盤がつくられた。現在でも「競馬香」「名所香」「矢数香」の三種類の組香が行われ、これらがひとつの箱に納められたものを三種香盤と呼ぶ。矢や人形といった小道具の製作も含め、多数の職人の技が集結しなければ生み出すことのできないものであり、職人や技術をまとめるコーディネーターやプロデューサーの役割を持つ人材が求められている⁷。

茶道具の需要がある限り、並行して香道具も作られるという現在の環境がなくなるわけではないが、近年は茶道を習っている若い世代の中で、家族が道具を持っているために購入を控えるというケースがあり需要が減少していること、茶道においては一点ものの古美術品は需要がある一方、稽古道具が売れにくくなっている状況において、職人の高齢化・後継者不足もあり、減少は避けられない課題となっている。

職人の確保、技術の伝承、バックアップする仕組みづくりが望まれる中、香舗の中には、香道具を販売した売上の一部を、必ず次の香道具の生産や販売に使用する「香道具ファンド」を立ち上げたところもある⁸。これにより、火道具や指物職人の若手技術者への継承が実現している。

・香木

今後、香道に適した高品質の香木の産出は望めないため、現在、日本にある香木をどのように保存していくかが鍵となる。香舗の中には、財団を設立し、質の高い香木を寄付することで香木を確保、流通量が減少したときに必要な人に使ってもらえるようにする仕組みづくりに着手しているところもある⁹。

〈参考文献〉

- ・『淡交ムック 香道入門』淡交社、平成5年
- ・神保博行『香道の歴史事典』柏書房、平成15年
- ・野村朋弘編『伝統を読みなおす3 風月、庭園、香りとはなにか』京都造形芸術大学東北芸術工科大学出版局芸術学舎、平成26年
- ・荻須昭大『香の本 増補版』雄山閣、平成29年
- ・山田眞裕『香木三昧 大自然の叡智にあそぶ』淡交社、令和元年

7 株式会社松栄堂へのヒアリングによる。

8 麻布香雅堂「香道具ファンド」(URL:<https://note.com/kogado/m/md0fb75265d6d> 最終確認日：令和6年2月15日)を参照した。「ファンド」という名称であるが一般から投資を募るのではなく、香舗内で資金を調達し、「香道具を守る」試みがなされている。

9 株式会社山田松香木店へのヒアリングによる。

- ・香道文化研究会編『図解 香道の作法と組香』第五版 雄山閣、令和2年（初版は蜂谷宗由監修・長ゆき編で、昭和53年に雄山閣より刊行）
- ・山田英夫『香木のきほん図鑑 種類と特徴がひと目でわかる』世界文化社、令和3年
- ・三條西堯水監修『よくわかる香道 歴史から作法まで 香りの世界を深める』メイツユニバーサルコンテンツ、令和4年

参考資料 国民意識調査 調査票

(1) 属性

F 1 あなたの性別をお答えください。(1つ)

1. 男
2. 女
3. それ以外/答えたくない

F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つ)

1. 18歳未満
2. 18～19歳
3. 20代
4. 30代
5. 40代
6. 50代
7. 60代
8. 70代以上

F 3 あなたのお住まいの都道府県をお答えください。(1つ)

1. 北海道
2. 青森県
3. 岩手県
4. 宮城県
5. 秋田県
6. 山形県
7. 福島県
8. 茨城県
9. 栃木県
10. 群馬県
11. 埼玉県
12. 千葉県
13. 東京都
14. 神奈川県
15. 新潟県
16. 富山県
17. 石川県
18. 福井県
19. 山梨県
20. 長野県
21. 岐阜県
22. 静岡県
23. 愛知県
24. 三重県
25. 滋賀県
26. 京都府
27. 大阪府
28. 兵庫県
29. 奈良県
30. 和歌山県
31. 鳥取県
32. 島根県
33. 岡山県
34. 広島県
35. 山口県
36. 徳島県
37. 香川県
38. 愛媛県
39. 高知県
40. 福岡県
41. 佐賀県
42. 長崎県
43. 熊本県
44. 大分県
45. 宮崎県
46. 鹿児島県
47. 沖縄県

F 4 あなたの仕事をお答えください。(1つ)

1. 正規の職員・従業員(役員を含む)
2. 非正規の職員・従業員(期間従業員、契約社員、派遣社員を含む)
3. 自営業主・自由業(自分で、または共同で事業を営んでいる)
4. 家族従業者(家族が営んでいる事業を手伝っている)
5. 主婦・主夫
6. 学生
7. リタイア、無職
8. その他

F 5 あなたと同居している人の状況をお答えください。(1つ)

1. ひとり暮らし(同居している家族はいない)
2. 核家族(夫婦のみもしくは親と未婚の子どもの世帯)
3. 三世帯家族(親・子・孫の3世帯以上が同居)
4. 上記以外で同居している人がいる

F 6 昨年度の世帯全体の年収(税込み)は、おおよそどのくらいですか。(1つ)

1. 100万円未満
2. 100万円以上～200万円未満
3. 200万円以上～300万円未満
4. 300万円以上～400万円未満
5. 400万円以上～500万円未満
6. 500万円以上～600万円未満
7. 600万円以上～700万円未満
8. 700万円以上～800万円未満
9. 800万円以上～900万円未満
10. 900万円以上～1,000万円未満
11. 1,000万円以上
12. 分からない

F 7 あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(1つ)

1. 小学校
2. 中学校
3. 高校・旧制中学校
4. 短大・高専
5. 大学
6. 大学院
7. その他

F 8 あなたは、子供の頃に習い事をされていましたか。(いくつでも)

1. 楽器演奏(ピアノやバイオリンなど)や歌唱(コーラスや声楽など)
2. バレエやダンス(バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど)
3. 美術(絵画や版画、彫刻、工芸など)
4. 伝統芸能や茶道・華道等の芸事
5. 囲碁や将棋
6. 書道・習字・ペン字、そろばん
7. スポーツ・武道
8. その他(具体的に:)
9. していない

(2) フィルタリング・パート

F Q 1 煎茶道について

この調査の「煎茶道」とは、主人が客人を招き、一定の作法で淹れた煎茶や玉露等を振る舞い、書や絵画等の鑑賞を行いながら交流を図る、日本の伝統的な生活文化のことをいいます。

あなたは、これまでに、「煎茶道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある
3. 今まで経験したことはない

F Q 2 香道について

この調査の「香道」とは、沈香、白檀などの香木や、古典的な薫 (たきもの) を、一定の作法に従って焚 (炷) (た) き、その香りを鑑賞する (=「聞く」、日本の伝統的な生活文化のこと) をいいます。

あなたは、これまでに「香道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある
3. 今まで経験したことはない

F Q 3 和装について

この調査の「和装」とは、着物 (和服、浴衣も含む) の着付けのことをいいます。なお、作務衣・甚平のような着脱が簡易なものや、柔道着・剣道着等の特定競技用のものは含まないこととします。

あなたは、日常生活や行事等 (例えば結婚式、入学式、卒業式、成人式等) の折に、着物を着付けることはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 着物を自分で着付けている (いた)、あるいは人に着付けている (着付けたことがある)
2. 自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている (着たことがある)
3. 今まで着物を着たことはない

F Q 4 礼法について

この調査の「礼法」とは、作法や所作、しつらい等の一定の礼式に則ることによって相手への敬意を表す、日本の伝統的な礼儀作法のことをいいます。

あなたは、これまでに「礼法」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある
3. 今まで経験したことはない

F Q 5 盆栽について

この調査の「盆栽」とは、植木鉢等の盆器（ぼんき）等に樹木を植え付け、姿形に手を加えながら年数をかけて育てていくものをいいます。なお、小品盆栽やツツジ盆栽も含まれます。

あなたは、これまでに盆栽を育てたことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（1つ）

1. 盆栽を育てている（いた）、あるいは盆栽園を営んでいる（いた）
2. イベント等で盆栽体験をしたことはある
3. 盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことはない

F Q 6 錦鯉について

この調査の「錦鯉」とは、色や模様のある観賞用のコイのことをいいます。

あなたは、これまでに錦鯉を飼育したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（1つ）なお、飼育には、預かり飼育を含みます。

1. 錦鯉を飼育している（いた）、あるいは錦鯉の養鯉業を営んでいる（いた）
2. イベント等で錦鯉の飼育体験や観賞をしたことはある
3. 今まで錦鯉の飼育をしたことはない

（3）分野設問

①煎茶道

●煎茶道を習っている（習っていた）者に対する質問（F Q 1で1に回答）

煎茶道1 あなたが煎茶道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。

（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
7. 煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

煎茶道2 あなたが煎茶道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他(具体的に:)

煎茶道2補問 その方法を選んだ理由をお選びください。(いくつでも)

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他(具体的に:)
10. 特に理由はない、わからない

煎茶道3 現在、煎茶道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

煎茶道3補問1 あなたが煎茶道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 指導者や教授者として活動したい(している)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 煎茶や玉露等の淹れ方や、煎茶席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 煎茶席でいただく煎茶や玉露等がおいしい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

煎茶道3補問2 あなたが煎茶道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他(具体的に:)

煎茶道4 あなたが煎茶道を続けている(続けていた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

煎茶道5 あなたの現在の煎茶道の活動内容(かつて行っていた内容)について、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 教室や稽古場で習っている(いた)
2. カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)
4. 指導者や教授者として教えている(いた)
5. その他(具体的に:)

煎茶道6 あなたは煎茶道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています(いました)か。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度

5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

煎茶道7 あなたは煎茶道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

煎茶道8 あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で煎茶道を体験した人の質問（FQ1で2に回答）

煎茶道9 あなたが煎茶道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

6. 趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
7. 煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

煎茶道 10 あなたはどのような場で煎茶道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。
（いくつでも）

1. 教室や稽古場等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

煎茶道 11 あなたが今後、煎茶道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすい
と思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

煎茶道 12 もし煎茶道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中から
お選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満

9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

煎茶道 13 あなたがこれまでに、煎茶道を習っていない事情や理由として、あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に:)

煎茶道 14 あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 煎茶やお菓子を楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

煎茶道 15 あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流

6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●煎茶道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（F Q 1で3に回答）

煎茶道 16 もし、あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
2. 煎茶道の歴史や意義を教えてくれる
3. 煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

煎茶道 17 あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

煎茶道 18 あなたがこれまでに、煎茶道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
8. 自分の趣味と合わない

9. その他（具体的に： ）

煎茶道 19 あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶やお菓子を楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

煎茶道 20 煎茶道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、煎茶道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

②香道

●香道を習っている（習っていた）者に対する質問（FQ2で1に回答）

香道 1 あなたが香道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

6. 趣味や教養として、香道に興味関心があった
7. 香道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

香道2 あなたが香道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他（具体的に： ）

香道2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

香道3 現在、香道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

香道3 補問1 あなたが香道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 指導者や教授者として活動したい（している）
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 香席で聞く香木等の香りが心地よい

6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他（具体的に： ）
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

香道3 補問2 あなたが香道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他（具体的に： ）

香道4 あなたが香道を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

香道5 あなたの現在の香道の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場で習っている（いた）
2. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
4. 指導者や教授者として教えている（いた）
5. その他（具体的に： ）

香道6 あなたは香道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

香道7 あなたは香道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

香道8 あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等を焚きその香りを楽しめる
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で香道を体験した人の質問（FQ2で2に回答）

香道9 あなたが香道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、香や香木を扱う店（香舗）、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、香道に興味関心があった
7. 香道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

香道10 あなたはどのような場で香道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場、香や香木を扱う店（香舗）等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

香道11 あなたが今後、香道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

香道 12 もし香道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

香道 13 あなたがこれまでに、香道を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他（具体的に： ）

香道 14 あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等の香りが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない

9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

香道 15 あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等を焚きその香を楽しめる
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●香道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（FQ2で3に回答）

香道 16 もし、あなたが香道を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
2. 香道の歴史や意義を教えてくれる
3. 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

香道 17 あなたが香道を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

香道 18 あなたがこれまでに、香道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

香道 19 あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等の香りが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

香道 20 香道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、香道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等を焚きその香りを楽しむ
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

③和装

●着物の着付けができる人に対する質問（FQ3で1に回答）

和装1 あなたが着物の着付けを習おうと思ったきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
7. 和装に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

和装2 あなたが着付けを習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 着付け教室で習っていた
5. 着付けや美容の専門学校で習っていた
6. その他（具体的に： ）

和装2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

和装3 現在、着物の着付けを行っていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 現在も着付けを行っている
2. 現在は着付けを行っていない

<上記で1と回答した方に>

和装3 補問1 あなたが着付けを続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 指導者や教授者として活動したい(している)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

和装3 補問2 あなたが着付けをしなくなったきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 着物の相談等ができる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に着物を楽しむ仲間と疎遠になった
8. 着物を着ていくような場面や機会がなくなった
9. 着崩れする、動きにくい
10. 着付けに関する仕事を辞めた
11. その他(具体的に:)

和装4 あなたが着付けをしている(いた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満

5. 10～20 年未満
6. 20 年以上

和装5 あなたは現在、どのような機会に自分もしくは他者への着物の着付けをしますか（していましたか）。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 普段着として着物を着る時
2. 仕事着として着物を着る時
3. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
4. 初詣等の年中行事に参加する時
5. 観劇の際や茶会等の催事に参加する時
6. 仕事として、他者への着付けを依頼された時
7. 親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時
8. その他（具体的に： ）

和装5 補問 他の方に着付けをしてもらう機会がありますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 仕事着として着物を着る時
2. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
3. 初詣等の年中行事に参加する時
4. 観劇の際や茶会等の催事に参加する時
5. 着付けてもらうことはない
6. その他（具体的に： ）

和装6 あなたは着物に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

和装7 あなたは着物に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満

3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

和装 8 あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●着付けはできないが着物を着たことがある人への質問(FQ3で2に回答)

和装 9 あなたが着物を着た(着せてもらった)きっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
3. 家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた
4. 学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
7. 和装に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

和装 10 あなたはどのような場で着物を着ましたか(着せてもらい)ましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭

2. 初詣等の年中行事
3. 観劇の際や茶会等の催事
4. 旅行先の観光地
5. 学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント
6. 自宅
7. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
8. その他（具体的に： ）

和装11 あなたが今後、着物の着付けを習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 着物をはじめ必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

和装12 もし着物の着付けを習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

和装13 あなたがこれまでに、着物の着付けを習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった

2. 通いやすい場所に着付け教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 着付け教室等の雰囲気が分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他（具体的に： ）

和装 14 あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
2. 日本の伝統文化を体感できる
3. 伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
4. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
5. 着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
6. 着物を着ていくような場面がない
7. 動きにくい、動くと着崩れする
8. 着物等を揃えるとお金がかかる
9. 着付けを覚えるのに時間がかかる
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

和装 15 あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●着物を着ていない人への質問（F Q 3で3に回答）

和装 16 もし、あなたが着物を着たり、着付けを体験したりする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる
2. 基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる
3. 着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる
4. 着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる
5. 普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる
6. その他（具体的に： ）
7. 上記の中で当てはまるものはない

和装 17 あなたが着物を着たり、着付け方を体験する機会があったりした場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら
2. 旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

和装 18 あなたがこれまでに、着物を着たことがなかったり、着付けを体験したことがなかったりした事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他（具体的に： ）

和装 19 あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
2. 日本の伝統文化を体感できる
3. 伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
4. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
5. 着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
6. 着物を着ていくような場面がない
7. 動きにくい、動くと着崩れする
8. 着物等を揃えるとお金がかかる
9. 着付けを覚えるのに時間がかかる
10. その他(具体的に:)
11. 特に印象はない、わからない

和装 20 和装の魅力について、どのような説明や情報があるなら、着物を着たり、着付けを体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

④礼法

●礼法を習っている(習っていた)者に対する質問(FQ4で1に回答)

礼法 1 あなたが礼法を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、礼法に興味関心があった
7. 礼法に係る仕事や職業に興味関心があった

8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

礼法2 あなたが礼法を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他（具体的に： ）

礼法2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

礼法3 現在、礼法に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

礼法3 補問1 あなたが礼法に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 指導者や教授者として活動したい（している）
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった

7. その他（具体的に： ）
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

礼法3 補問2 あなたが礼法に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他（具体的に： ）

礼法4 あなたが礼法を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

礼法5 あなたの現在の礼法の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場で習っている（いた）
2. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
4. 指導者や教授者として教えている（いた）
5. その他（具体的に： ）

礼法6 あなたは礼法に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

礼法7 あなたは礼法に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

礼法8 あなたが礼法の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で礼法を体験した人に対する質問（F Q 4で2に回答）

礼法9 あなたが礼法を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、礼法に興味関心があった
7. 礼法に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

礼法10 あなたはどのような場で礼法を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

礼法11 あなたが今後、礼法を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

礼法12 もし礼法を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

礼法13 あなたがこれまでに、礼法を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に：)

礼法14 あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない

9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

礼法 15 あなたが礼法で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●礼法を経験したことがない者に対する質問（FQ4で3に回答）

礼法 16 もし、あなたが礼法を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加をしてみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる
2. 礼法の歴史や意義を教えてくれる
3. 礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

礼法 17 あなたが礼法を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

礼法 18 あなたが礼法を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

礼法 19 あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

礼法 20 礼法の魅力について、どのような説明や情報があるなら、礼法を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

⑤盆栽

●盆栽を経験した者に対する質問（F Q 5 で 1 に回答）

盆栽 1 あなたが盆栽を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
3. 友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた
4. 学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、盆栽に興味関心があった
7. 盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

盆栽 2 あなたが盆栽を始めた時、次のうちどのような方法で育て方や剪定の方法を学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
2. 盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 盆栽園で教えてもらっていた
5. 雑誌や専門書等を見て学んでいた
6. ウェブサイトやYouTube 等を見て学んでいた
7. その他（具体的に： ）

盆栽 2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
8. 本格的にやってみたかった
9. 手軽にやってみたかった
10. その他（具体的に： ）

11. 特に理由はない、わからない

盆栽3 現在、盆栽を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けていない

<上記で1と回答した方に>

盆栽3 補問1 あなたが盆栽を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽園を営みたい(営んでいる)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 盆栽に愛着が湧いた(盆栽を育てるのが純粋に楽しい)
6. 暮らし、生活の一部となった(盆栽を育てることが生きがいとなった)
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方>

盆栽3 補問2 あなたが盆栽から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった
3. 手入れ等の相談をできる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
8. 盆栽園を閉鎖した
9. その他(具体的に:)

盆栽4 あなたが盆栽を続けている(続けていた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満

4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

盆栽5 あなたの現在の盆栽に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）
2. 盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）
3. 盆栽を盆栽展に出品している（いた）
4. 盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）
5. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
6. 盆栽園を営んでいる（いた）
7. 講師として教室や体験会、講座を開いている（いた）
8. その他（具体的に： ）

盆栽6 あなたは盆栽に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

盆栽7 あなたは盆栽を育てるにあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満

11. 50,000 円以上

盆栽 8 あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で盆栽体験をしたことがある方への質問（F Q 5 で 2 に回答）

盆栽 9 あなたが盆栽体験をしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
3. 友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した
7. 盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

盆栽 10 あなたはどのような場で盆栽体験をしましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 文化施設等で行われた体験イベント
4. 自宅
5. 自分が行っている分野の趣味・習い事の中で体験
6. その他（具体的に： ）

盆栽11 あなたが今後、盆栽を育てる機会があった場合、どのような状況だと育てやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら
2. 知人、家族と一緒に育てることができたら
3. 通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 育て方や剪定の仕方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
7. その他(具体的に:)
8. わからない

盆栽12 もし盆栽を始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

盆栽13 あなたがこれまでに盆栽を育てていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった
3. 始めるための費用が確保できなかった
4. 盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった
5. 一緒にやってくれる人がいない
6. 盆栽の育て方等の相談をできる人が身近にいなかった
7. 植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う
8. 盆栽を育てて管理できる場所がない
9. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
10. 自分の趣味と合わない

11. その他（具体的に： ）

盆栽 14 あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 剪定や育成等が難しい
5. 盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
6. 植物を扱うのは容易ではない
7. 道具等にお金がかかる
8. 育て始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

盆栽 15 あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●盆栽体験をしていない方への質問（FQ5で3に回答）

盆栽 16 もし、あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる
2. 盆栽の歴史や意義を教えてくれる
3. 盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

盆栽17 あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他(具体的に:)
10. わからない

盆栽18 あなたがこれまでに盆栽体験をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

盆栽19 あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 剪定や育成等が難しい
5. 盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
6. 植物を扱うのは容易ではない
7. 道具等にお金がかかる
8. 育て始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他(具体的に:)

11. 特に印象はない、わからない

盆栽 20 盆栽の魅力について、どのような説明や情報があるなら、盆栽を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

⑥錦鯉

●錦鯉の飼育を経験した者に対する質問（FQ 6 で 1 に回答）

錦鯉 1 あなたが錦鯉の飼育を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
3. 友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった
7. 錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

錦鯉 2 あなたが錦鯉の飼育を始めた時、次のうちどのような方法で設備や飼育の仕方について学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
2. 錦鯉の愛好者団体に教えてもらっていた
3. 養鯉場で教えてもらっていた
4. 雑誌や専門書等を見て学んでいた
5. ウェブサイトやYouTube 等を見て学んでいた
6. その他（具体的に： ）

錦鯉2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。(いくつでも)

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 通いやすい時間帯だった
5. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
6. 雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
7. 本格的にやってみたかった
8. 手軽にやってみたかった
9. その他(具体的に:)
10. 特に理由はない、わからない

錦鯉3 現在、錦鯉の飼育を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けていない

<上記で1と回答した方に>

錦鯉3 補問1 あなたが錦鯉を飼育し続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 養鯉場を営みたい(営んでいる)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 錦鯉の飼育や選別など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 錦鯉に愛着が湧いた(飼育が純粋に楽しい)
6. 暮らし、生活の一部となった(飼育や観賞をすることが生きがいとなった)
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方>

錦鯉3 補問2 あなたが錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった
3. 飼育等の相談をできる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった

6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
8. 養鯉場を閉鎖した
9. その他（具体的に： ）

錦鯉4 あなたが錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。

（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

錦鯉5 あなたの現在の錦鯉に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 自宅等の池で飼育している（いた）
2. 自宅等の水槽で飼育している（いた）
3. 養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）
4. 錦鯉の品評会に出品している（いた）
5. 錦鯉の養鯉場を営んでいる（いた）
6. その他（具体的に： ）

錦鯉6 あなたは錦鯉の飼育に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

錦鯉7 あなたは錦鯉の飼育にあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1万円未満
2. 1万円以上～5万円未満

3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～50万円未満
5. 50万円以上～100万円未満
6. 100万円以上

錦鯉8 あなたが錦鯉の飼育に関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様
4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で錦鯉の体験や観賞を経験した方への質問(FQ6で2に回答)

錦鯉9 あなたが錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
3. 友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として錦鯉に興味関心があり、品評会等で観賞した
7. 錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

錦鯉10 あなたはどのような場で錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会
2. 学校や職場で飼育されていた
3. 公園や庭園、文化施設等でのイベント
4. 自宅
5. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験

6. その他（具体的に： ）

錦鯉 11 あなたが今後、錦鯉を飼育する機会があった場合、どのような状況だと飼育をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら
2. 知人、家族と一緒に飼育できたら
3. 通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら
4. 飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
5. その他（具体的に： ）
6. わからない

錦鯉 12 もし錦鯉を飼育し始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1万円未満
2. 1万円以上～5万円未満
3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～50万円未満
5. 50万円以上～100万円未満
6. 100万円以上

錦鯉 13 あなたがこれまでに錦鯉の飼育をしていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に、錦鯉の飼育方法等の相談に乗ってくれる場所がなかった
3. 始めるための費用が確保できなかった
4. 錦鯉を飼育するための十分な時間が取れそうになかった
5. 一緒にやってくれる人がいない
6. 錦鯉の飼育方法等の相談をできる人が身近にいなかった
7. 生物の扱いが難しいと思う
8. 錦鯉を飼育できる場所や設備がない
9. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
10. 自分の趣味と合わない
11. その他（具体的に： ）

錦鯉 14 あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の飼育や観賞が楽しめる

2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 飼育の方法等が難しい
5. 錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
6. 生物を扱うのは容易ではない
7. 設備等にお金がかかる
8. 飼育し始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

錦鯉 15 あなたが錦鯉の飼育に関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様
4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●錦鯉の飼育を経験していない方への質問（F Q 6で3に回答）

錦鯉 16 もし、あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる
2. 錦鯉の歴史や意義を教えてくれる
3. 錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

錦鯉 17 あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 錦鯉の品評会や即売会が身近で行われていれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら

4. 公園や庭園、文化施設等で観賞できたら
5. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. その他（具体的に： ）
8. わからない

錦鯉 18 あなたがこれまでに錦鯉の観賞体験等をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他（具体的に： ）

錦鯉 19 あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の飼育や観賞が楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 飼育の方法等が難しい
5. 錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
6. 生物を扱うのは容易ではない
7. 設備等にお金がかかる
8. 飼育し始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

錦鯉 20 錦鯉の魅力について、どのような説明や情報があるなら、錦鯉の飼育や観賞を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様

4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

（４）共通設問

共通 1 あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。あてはまるもの全てにチェックをお願いします。（いくつでも）

スポーツ（観戦除く）

| | | |
|-----------------------------|----------------------|-------------------|
| 1. ジョギング・マラソン | 2. ウォーキング | 3. 体操（器具を使わないもの） |
| 4. トレーニング | 5. エアロビクス、ジャズダンス | 6. 卓球 |
| 7. バトミントン | 8. キャッチボール・野球 | 9. ソフトボール |
| 10. サイクリング・サイクルスポーツ | 11. アイススケート | 12. ボウリング |
| 13. サッカー | 14. フットサル | 15. バレーボール |
| 16. バスケットボール | 17. 水泳（プールでの） | 18. 柔道・剣道・空手などの武道 |
| 19. ゲートボール | 20. ゴルフ（コース） | 21. ゴルフ（練習場） |
| 22. パークゴルフ・グラウンドゴルフなどの簡易ゴルフ | 23. テニス | 24. 乗馬 |
| 25. スキー | 26. スノーボード | 27. 釣り |
| 28. スキンダイビング・スキューバダイビング | 29. サーフィン・ウィンドサーフィン | 30. ヨット・モーターボート |
| 31. カヌー・ラフティング | 32. ハンググライダー・パラグライダー | |

趣味・創作

| | | |
|-------------------------------|--------------------|-----------------|
| 33. 文芸の創作（小説、詩、和歌、俳句など） | 34. 写真の制作 | 35. 動画の制作・編集 |
| 36. 動画鑑賞（レンタル、配信を含む） | 37. コーラス | 38. 洋楽器の演奏 |
| 39. 邦楽、民謡 | 40. 絵を描く、彫刻をする | 41. 陶芸 |
| 42. 趣味工芸（組ひも、ペーパークラフト、革細工など） | 43. 模型づくり | 44. 日曜大工 |
| 45. 園芸、庭いじり | 46. 編物、織物、手芸 | 47. 洋裁、和裁 |
| 48. 料理（日常的なものは除く） | 49. スポーツ観戦（テレビは除く） | 50. 映画（テレビは除く） |
| 51. 観劇（テレビは除く） | 52. 演芸鑑賞（テレビは除く） | 53. 音楽会、コンサートなど |
| 54. 音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど） | 55. 美術鑑賞（テレビは除く） | 56. 書道 |
| 57. お茶 | 58. お花 | 59. おどり（日舞など） |

| | | |
|---------------------|-------------|--------------------------|
| 60. 洋舞、社交ダンス | 61. 学習・調べもの | 62. 読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての） |
| 63. ファッション（楽しみとしての） | | |

娯楽

| | | |
|-------------------------|--------------------|-------------------------------|
| 64. 囲碁 | 65. 将棋 | 66. トランプ、オセロ、カルタ、花札など |
| 67. カラオケ | 68. テレビゲーム（家庭での） | 69. ゲームセンター、ゲームコーナー |
| 70. ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム | 71. 麻雀 | 72. ビリヤード |
| 73. パチンコ | 74. 宝くじ | 75. サッカーくじ (toto) |
| 76. 中央競馬 | 77. 地方競馬 | 78. 競輪 |
| 79. ボートレース（競艇） | 80. オートレース | 81. 外食（日常的なものは除く） |
| 82. バーベキュー | 83. バー、スナック、パブ、飲み屋 | 84. クラブ、キャバレー |
| 85. ディスコ | 86. サウナ | 87. 温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等） |

観光・行楽

| | | |
|----------|------------------------|----------------------|
| 88. 遊園地 | 89. ドライブ | 90. ピクニック・ハイキング・野外散歩 |
| 91. 登山 | 92. オートキャンプ | 93. フィールドアスレチック |
| 94. 海水浴 | 95. 動物園、植物園、水族館、博物館 | 96. 催し物、博覧会 |
| 97. 帰省旅行 | 98. 国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など） | 99. 海外旅行 |

その他

| | | |
|-----------------------------|--------------------------------|--------------------|
| 100. 複合ショッピングセンター、アウトレットモール | 101. ウィンドウショッピング | 102. クルージング（客船による） |
| 103. エステティック、ホームエステ | 104. ペット（遊ぶ、世話をする） | 105. 農園（市民農園など） |
| 106. ボランティア活動 | 107. SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション | 108. ヨガ、ピラティス |
| 109. 自由記述（具体的に：） | 110. 特に何もしていない | |

※上記の選択肢は『レジャー白書 2021』の調査種目を参照し作成したものである。なお、一部分野については『レジャー白書 2021』で「その他」に分類されていた部門から異なる部門への分類を行っている。

共通2 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。

(1つ)

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 5,000円未満 | 2. 5,000円以上～10,000円未満 |
| 3. 10,000円以上～15,000円未満 | 4. 15,000円以上～20,000円未満 |
| 5. 20,000円以上～25,000円未満 | 6. 25,000円以上～30,000円未満 |
| 7. 30,000円以上～35,000円未満 | 8. 35,000円以上～40,000円未満 |
| 9. 40,000円以上～45,000円未満 | 10. 45,000円以上～50,000円未満 |
| 11. 50,000円以上 | |

共通3 あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。(いくつでも)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 平日午前 | 2. 平日午後 | 3. 平日夕方 | 4. 平日夜間 |
| 5. 休日午前 | 6. 休日午後 | 7. 休日夕方 | 8. 休日夜間 |

共通4 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。

(1つ)

- | | | |
|------------------|----------------|----------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上～2時間未満 | 3. 2時間以上～3時間未満 |
| 4. 3時間以上～4時間未満 | 5. 4時間以上～5時間未満 | 6. 5時間以上～6時間未満 |
| 7. 6時間以上～7時間未満 | 8. 7時間以上～8時間未満 | 9. 8時間以上～9時間未満 |
| 10. 9時間以上～10時間未満 | 11. 10時間以上 | |

共通5 下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。(いくつでも)

1. 自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい
2. 周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい
3. チャンスと感じたら逃したくない
4. リスクはできるだけ避けたい
5. 家族や友人・知人の役に立ちたい
6. 環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい
7. 困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい
8. 周りの人から注目されたい
9. 集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ
10. その時・その場でしか得られない体験をしたい
11. 流行りのものは試してみたい
12. 流行っていないけど、自分が面白いと思ったものは試してみたい
13. 買ったものや、気持ちを発信したい
14. 自分が発信したものに反応が欲しい
15. 上記であてはまるものはない

※上記の選択肢は令和3年度実施の消費者庁「消費者意識基本調査」の調査票問6の選択肢を引用したものである。

共通6 下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(いくつでも)

1. テレビ(民放の地上波・BS)
2. テレビ(NHKの地上波・BS)
3. CATVや衛星放送のチャンネル
4. ラジオ(インターネット経由を除く)
5. 新聞(電子版含む)
6. 雑誌・タウン誌(インターネット経由を除く)
7. インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど(アプリ経由を含む)
8. 動画投稿サイト(YouTube、TikTokなど)
9. SNS(Twitter、LINE、Instagram、Facebook、noteなど)
10. 紙の書籍
11. 電子書籍
12. 紙のマンガ/マンガ雑誌
13. 電子版のマンガ
14. 有料動画サイト(Amazon Prime Video、Netflix、Huluなど)
15. 上記のメディアはあまり見ていない

参考資料 香道団体・流派調査アンケート配布先

| No. | 団体名 |
|-----|------------------|
| 1 | 志野流 松隠会 |
| 2 | 御家流宗家 |
| 3 | 日本香道協会 |
| 4 | 一般社団法人御家流香道桂雪会 |
| 5 | 公益財団法人お香の会 |
| 6 | 安藤家御家流 |
| 7 | 泉山御流 |
| 8 | 一般財団法人香道翠風流 |
| 9 | 香道直心流 |
| 10 | 香道三品大枝流 |
| 11 | 香道教林坊流 |
| 12 | 御家流香道 柳水会 |
| 13 | 御家流香道 和草会 |
| 14 | 御家流香道 芸和会 |
| 15 | 御家流香道 瑳々会 |
| 16 | 御家流香道 公香会 |
| 17 | 御家流香道 霞水会 |
| 18 | 御家流香道 霞月会 |
| 19 | 香道御家流霞月派 妙香会 |
| 20 | 御家流霽月会 |
| 21 | 御家流香道 淡艸庵 |
| 22 | 実践女子大学（短期大学部）香道部 |
| 23 | 共立女子大学香道部 |

令和5年度「生活文化調査研究事業（香道）」報告書

発行日 令和6年5月31日

修正版発行日 令和8年2月28日

発行 文化庁 参事官（生活文化創造担当）

〒602-8959

京都府京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町 85-4

〈受託事業者〉

株式会社 文化科学研究所

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-43-7 光ビル 4F
